



Salesforce.com: Winter '14

Salesforce.com Winter '14 リリースノート



最終更新日: 2013/11/11

目次

Winter '14 へようこそ.....	1
リリースノートについて.....	1
HTML 版のリリースノート — ベータ.....	1
フィードバックについて.....	2
機能の概要およびユーザへの影響.....	3
全般的な機能強化.....	3
モバイル.....	4
Chatter.....	4
コミュニティ.....	7
Sales Cloud.....	8
サービス.....	9
分析.....	13
Site.com.....	14
Force.com のカスタマイズ.....	14
Force.com の開発.....	20
全般的な機能強化.....	26
ブラウザ.....	26
Performance Edition の概要.....	28
翻訳された用語への更新.....	29
高度なルックアップ検索でのより詳細な検索オプション.....	29
国際化ドメイン名のサポート.....	29
モバイル.....	31
Salesforce1.....	31
SalesforceA.....	62
Salesforce1 にアップグレードされた Salesforce Touch.....	66
Chatter Mobile.....	68
Salesforce Mobile が Salesforce Classic にブランド変更.....	72
モバイルのパッケージ化.....	72
Chatter.....	73
Chatter グループ.....	73
新しい Chatter プロファイルページ — 正式リリース.....	79
パブリッシャーアクション.....	83
トピック.....	90
Chatter フィード.....	93
メール通知.....	98
コミュニティ.....	99

コミュニティモデレーション.....	99
コミュニティへのセルフ登録のデフォルトプロフィール.....	104
大規模コミュニティユーザの共有グループ.....	105
コミュニティのグループダイジェストメールの設定.....	107
オフラインのコミュニティを [コミュニティ] ドロップダウンメニューで非表示に.....	108
「グローバルヘッダーを参照」権限はデフォルトで無効に.....	108
[設定] にコミュニティの最大数をリスト.....	109
コミュニティでのケースの表示.....	109
コミュニティの API サポートの改善.....	109
Site.com によるコミュニティの機能強化.....	109
Sales Cloud.....	113
Salesforce Console for Sales の概要.....	113
商談とコラボレーション売上予測.....	118
価格表.....	120
Salesforce for Outlook.....	122
ソーシャル取引先と取引先責任者.....	127
Sales Cloud のその他の機能強化.....	128
パートナーユーザ.....	129
Salesforce to Salesforce のセキュリティの改善.....	130
Data.com.....	131
サービス.....	132
ケースフィード.....	133
Chatter アンサー.....	136
エンタイトルメント管理.....	144
アイデア.....	149
ナレッジ.....	152
Live Agent.....	160
Open CTI.....	172
Salesforce Console for Service.....	173
[コンソール] タブ.....	180
カスタマーユーザ.....	181
分析.....	182
履歴トレンドレポート.....	183
埋め込みの分析.....	187
分析 API.....	191
レポートのロール階層の表示または非表示.....	194
ユーザ共有でサポートされるレポートタイプ.....	195
リストビューの作成の制限.....	196
デフォルトでオンになる分析フォルダ共有.....	197

レポートおよびダッシュボードフォルダリストのサイズ変更.....	197
メタデータ API のページレイアウトからのレポートグラフ.....	198
SOAP API のレポートオブジェクトの形式.....	198
Site.com.....	199
マルチ言語のサイトのサポート — 正式リリース.....	200
ウィジェットのカスタムプロパティ.....	201
Site.com での Sandbox の有効化.....	202
HTML のインポート.....	203
新しい破損リンクファインダー.....	203
新しいコンテンツ編集のライブモード.....	203
インラインエディタ.....	204
デフォルトドックタイプの HTML5 への変更.....	205
Site.com での承認プロセス対応 — パイロット.....	205
Site.com での外部参照チェック対応.....	206
Site.com Studio への追加更新.....	206
ドメイン名に必要な組織 ID.....	207
新しい社内コミュニティライセンス.....	208
新しい社内コミュニティ権限セットライセンス.....	208
Force.com のカスタマイズ.....	209
システム管理者向け SalesforceA モバイルアプリケーション.....	210
User オブジェクトのワークフロー — ベータ.....	210
[設定] での検索 — ベータ.....	211
ユーザアカウントの停止.....	212
全般的な管理.....	212
データ.....	215
ビジネスロジックおよびプロセスの自動化.....	216
セキュリティ.....	217
共有.....	230
グローバリゼーション.....	243
重要な更新.....	244
その他のカスタマイズ.....	245
Force.com 開発.....	248
リリースの監視の改善.....	249
変更された [メモと添付ファイル] 関連リストのリレーション名.....	249
管理パッケージのコンポーネントの削除 — パイロット.....	250
Sandbox.....	251
変更セットとリリース.....	252
開発者コンソール.....	253
Visualforce.....	257

Force.com Canvas.....	269
Apex コード.....	273
API.....	306
ISVforce.....	346
その他の salesforce.com 製品.....	360
ヘルプ & トレーニング.....	361

Winter '14 へようこそ

Winter '14 では、従来とはまったく異なる販売、サービス、マーケティング、および革新を提供します。まったく新しい方法で顧客にアクセスできる新しいモバイル機能を使用することで、外出先でも生産性が高まります。

すばやく概要を把握するのに必要なすべてのリソースをご用意しております。

- リリースノート – リリースの包括的ガイドとしてこの資料を活用してください。
- [Success-Release Readiness Community](#) – 今すぐ参加して、Winter '14 の詳細情報を取得してください (英語のみ)。
- [リリースデモ](#) – このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。

Winter '14 へようこそ

[リリースノートについて](#)

[HTML 版のリリースノート – ベータ](#)

[フィードバックについて](#)

リリースノートについて

リリースノートでは、新しい重要な機能強化について次の情報を提供します。

- 機能に関する簡潔で詳細な説明
- 設定と管理の開始にあたって役に立つ実装のヒント
- メリットを最大限に引き出すのに役立つベストプラクティス
- 詳細な説明

新しいリリースについて計画できるように、既存の機能に対する小規模な変更も説明します。強化機能の簡単なリストしか含まれていない従来のリリースノートとは異なり、これらのリリースノートには、最新リリースの新機能や強化機能、そしてそれらをすぐに活用するために必要なすべての情報が含まれています。

[salesforce.com](#) の最新リリースを使いこなすためのガイドとして、リリースノートをお役立てください。

HTML 版のリリースノート – ベータ

[Salesforce.com リリースノート](#) は、HTML 形式で利用できるようになりました。新しい形式およびユーザーインターフェースにより、次の作業を簡単に行うことができます。

- 大きな Adobe® PDF ファイルをダウンロードすることなく最新リリースに関する情報にすばやくアクセスする
- 任意のモバイルデバイスからリリースノートを参照する (応答性の高い設計により実現)
- 関心のあるセクションのみを検索する (優れたナビゲーションと検索により実現)
- 一意の URL を使用して、特定のトピックをブックマークおよび共有する
- 検索エンジンでより的確な結果を得る (検索インデックスの向上により実現)

HTML 版のリリースノートは現在、ベータ機能として使用可能です。どのようにすれば改善できるのか、どのような改善が求められているのかを把握したいと考えております。そのためには、フィードバックをご提供いただくことが不可欠です。IdeaExchange のこの[アイデア](#)にご意見やご提案を投稿してください。



メモ: HTML 版のリリースノートの内容は、PDF 版のリリースノートと同じです。「ベータ」は、HTML 版の配信形式にのみ適用され、内容には適用されません。

フィードバックについて

Salesforce で貴社が成功を収めるには、リリースノート、オンラインヘルプ、およびドキュメントがいかに重要であるかを認識しています。提供するコンテンツの継続的な向上のために、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。情報のご提供をお待ちしております。

- フィードバックフォーム — オンラインヘルプと [Developer Force](#) の開発者ガイドの各 HTML ドキュメントページに、ドキュメントに関する提案、修正、およびフィードバックを送信するためのフィードバックフォームがあります。ご意見をお寄せください。
- IdeaExchange — こちらでもアイデアを承っています。Winter '14 では、上位のアイデアをいくつか採用しています。Winter '14 に導入されているアイデアについての詳細は、「[IdeaExchange](#)」を参照してください。

新しいドキュメントを公開したときや、既存のドキュメントに重要な更新を行ったときにお知らせいたしますか?

Twitter でのフォロー: [@salesforcedocs](#)

機能の概要およびユーザへの影響

Winter '14 には、リリース後にすべてのユーザにすぐに影響を与える機能が含まれています。その変更に対して準備ができるようにリリース前にユーザに通知してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

Winter '14 の変更をご利用のインスタンスでいつから確認できるかを知るための 最適な方法は、trust.salesforce.com/trust/maintenance/ にある Salesforce の Trust サイトで、「メジャーリリース予定」セクションを確認することです。

これらのリリースノートには、このリリースで利用できる新機能や変更された機能が記載されています。salesforce.com の既知の問題を確認するには、「[既知の問題](#)」のサイトを参照してください。

次の表には、Winter '14 の機能とユーザへの影響がまとめられています。ご使用の Salesforce のエディションに関連する機能の詳細を確認してください。

全般的な機能強化

モバイル

Chatter

コミュニティ

Sales Cloud

サービス

分析

Site.com

Force.com のカスタマイズ

Force.com の開発

全般的な機能強化

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
ブラウザ	✓			
Performance Edition の概要				✓
翻訳された用語への更新	✓			
国際化ドメイン名のサポート	✓			
検索				
高度なルックアップ検索でのより詳細な検索オプション	✓			

モバイル

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
Salesforce1				
Salesforce1 アプリケーションの概要	✓			
Salesforce1 の機能	✓			
Salesforce1 を使用する組織の設定			✓	
Salesforce1 プラットフォームの概要			✓	
SalesforceA				
SalesforceA			✓	
Salesforce Touch				
Salesforce1 にアップグレードされた Salesforce Touch			✓	
Chatter Mobile for BlackBerry				
接続アプリケーションとなった Chatter Mobile for BlackBerry			✓	
Salesforce Classic				
Salesforce Mobile が Salesforce Classic にブランド変更		✓		
追加のモバイルサポート				
モバイルのパッケージ化				✓

Chatter

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
グループ				

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
アーカイブ済みの Chatter グループ	✓			
Chatter グループでのパブリッシャーアクションの使用	✓			
Chatter グループの @メンション	✓			
メールを使用した Chatter グループへの投稿 — パイロット				✓
プロフィール				
新しい Chatter プロファイルページ (プロフィールタブ)	✓			
Chatter ユーザプロフィールページのカスタマイズの有効化		✓		
サブタブアプリケーション(プロフィール上のアプリケーション) の導入		✓		
Salesforce ファイル — パイロット				✓
パブリッシャーアクション				
デフォルトのパブリッシャーアクションの使用可能化		✓		
モバイルスマートアクションの使用可能化		✓		
グループおよびトピックページでのパブリッシャーアクションの使用可能化	✓			
新しいパブリッシャーアクションタイプ		✓		
パブリッシャーアクションの定義済み項目値での参照関係項目と主従関係項目のサポート		✓		
パブリッシャーアクションでのリッチテキストエリア項目のサポート		✓		
トピック				

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
トピックのフィード追跡の自動的な有効化 (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)		✓		
トピックのフォロー (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)	✓			
新しいトピックユーザ権限 (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)			✓	
トピック名の編集	✓			
同じ名前を持つトピックのマージ (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)	✓			
フィード				
Chatter の感謝			✓	
投稿およびコメントサイズの増加	✓			
条件および並び替えオプションの統合	✓			
新しいプレビューリンク	✓			
フィード検索の移動	✓			
[すべての会社] フィードのレコード更新	✓			
Chatter とメール				
メール通知の新しいデザイン	✓			
API の機能強化				
Chatter REST API	✓			
Chatter in Apex	✓			

コミュニティ

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
コミュニティモデレーション			✓	
コミュニティへのセルフ登録のデフォルトプロフィール		✓		
大規模コミュニティユーザの共有グループ			✓	
オフラインのコミュニティを[コミュニティ] ドロップダウンメニューで非表示に	✓			
「グローバルヘッダーを参照」権限はデフォルトで無効に	✓			
[設定] にコミュニティの最大数をリスト		✓		
コミュニティでのケースの表示	✓			
コミュニティの API サポートの改善	✓			
標準タブの代わりに Site.com ページを使用	✓			
Site.com ページの Salesforce ヘッダーとフッターを使用	✓			
Site.com ページをタブとしてコミュニティに追加	✓			
コミュニティの新しいウィジェット	✓			

Sales Cloud

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
Salesforce コンソール				
Salesforce Console for Sales の概要				✓
商談とコラボレーション売上予測				
売上予測の商談分割の参照			✓	
商品ファミリを売上予測に統合			✓	
価格表				
参照関係の作成			✓	
検索レイアウトのカスタマイズ			✓	
Salesforce for Outlook				
メールの送信と追加	✓			
行動の関連付けのある Salesforce レコードに行動を追加	✓			
より多くの Salesforce レコードの表示と操作	✓			
ソーシャル取引先と取引先責任者				
取引先責任者、取引先、およびリードのプロファイル画像の表示	✓			
リストビューで利用できるソーシャルネットワーク項目	✓			
取引先				
取引先階層リンクの非表示		✓		
メールテンプレート				
メールテンプレートへのアクセス	✓			
パートナーポータル				
シングルサインオンを使用するパートナーユーザの [私のパスワード変更] ボタンの削除	✓			

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
パートナーユーザの「ユーザ名」項目の編集に関する変更	✓			
Salesforce to Salesforce				
Salesforce to Salesforce のセキュリティの改善	✓			

サービス

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
ケースフィード				
新規組織でのケースフィードの自動的な有効化	✓			
新しいパブリッシャー JavaScript API イベントによるカスタム Salesforce コンソールコンポーネントとケースフィードとのやりとり			✓	
ケースフィードのケースの詳細ページへの Visualforce ページの追加			✓	
ケースフィードのフィード項目の外観の更新	✓			
ケースフィードの条件と並び替えオプションの統合	✓			
ケースフィードのポータル関連ボタンの新しい表示ラベル	✓			
Chatter アンサー				
活動履歴			✓	
Chatter アンサーの返信でのリッチテキストおよび画像		✓		

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
質問のユーザインターフェースの更新			✓	
メールを使用した質問への返信			✓	
[私のドメイン] を有効化するとき 通知 URL に必要な更新			✓	
Visualforce コンポーネントを使用した Chatter アンサーのカスタマイズ		✓		
Chatter アンサーポータルユーザが取 引先を作成するときの操作性のカ スタマイズ	✓			
アプリケーションへの Chatter アン サー検索の組み込み	✓			
Chatter アンサー JavaScript API を使 用したコンポーネントイベントのカ スタマイズ — パイロット			✓	
エンタイトルメント管理				
繰り返しマイルストーンによるより柔 軟なエンタイトルメントプロセスの 作成		✓		
エンタイトルメントのバージョン設 定 — 正式リリース		✓		
マイルストーンフィード項目による ケース活動の監視		✓		
マイルストントラッカーによる[ケー スフィード] ページでのマイルスト ンの表示		✓		
マイルストンの目標に違反してから の経過時間の表示		✓		
エンタイトルメントに関連付けられ た取引先の変更	✓			
アイデア				
活動履歴			✓	
コメントに「いいね!」と言う	✓			

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
自分のアイデアユーザへのプロフィールの種別の設定		✓		
ナレッジ				
内部ユーザの Salesforce ナレッジへのアクセス権		✓		
統合検索のある Knowledge One	✓			
記事タイプの追加カスタム項目	✓			
記事を検索してスマート記事リンクを作成する	✓			
記事ツールバーで Chatter フィードが使用可能に	✓			
記事の承認アクションに対するメタデータ API のサポート	✓			
カスタム Visualforce ページを使用したプロバイダからのビデオ再生			✓	
Live Agent				
自動チャット招待 — 正式リリース			✓	
スーパーバイザ設定のカスタマイズ	✓			
カスタムエージェント名および自動挨拶に使用できる差し込み項目	✓			
エージェント名のカスタマイズ	✓			
Live Agent セッションレコードの作成、削除、および編集	✓			
未応答のチャットの待機時間経過アラート	✓			
スーパーバイザパネルのボタンおよび状況に基づくエージェントの条件検索	✓			
Live Agent の事前チャット API の有効化	✓			
待機中のチャットや終了したチャットのチャットタブアラート	✓			

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
チャット要求およびチャット転送のプレビュー	✓			
チャット転送メニューでエージェントの可能チャット数を参照	✓			
チャット要求リストのデザインの更新	✓			
エージェントチャットウィンドウのデザインの更新	✓			
[エージェント設定] から [Live Agent 設定] への設定表示ラベルの変更	✓			
Open CTI				
Open CTI 用の Force.com Canvas			✓	
新しい Open CTI メソッド: notifyInitializationComplete()			✓	
Salesforce コンソール				
Service Cloud コンソール名の変更	✓			
Salesforce コンソールの Microsoft® Internet Explorer 10® のサポート	✓			
Salesforce コンソールのルックアップコンポーネント		✓		
Salesforce コンソールの [ホーム] タブ		✓		
最近使用した項目		✓		
[キーボードショートカット] パネル	✓			
Salesforce コンソール用の Force.com Canvas			✓	
Salesforce コンソールインテグレーションツールキット: 新しいメソッド			✓	
カスタマーポータル				

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
シングルサインオンを使用するカスタマーユーザに表示されていた [私のパスワードの変更] ボタンの削除	✓			
カスタマーユーザの [ユーザ名] 項目に関する動作の変更	✓			

分析

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
履歴トレンドレポート			✓	
埋め込みの分析 (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)	✓			
分析 API (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)		✓		
レポートのロール階層の表示または非表示	✓			
ユーザ共有でサポートされるレポートタイプ	✓			
デフォルトでオンになる分析フォルダ共有	✓			
リストビューの作成の制限	✓			
レポートおよびダッシュボードフォルダリストのサイズ変更	✓			
メタデータ API のページレイアウトからのレポートグラフ		✓		
SOAP API のレポートオブジェクトの形式		✓		

Site.com

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
マルチ言語のサイトのサポート — 正式リリース	✓			
ウィジェットのカスタムプロパティ	✓			
Site.com での Sandbox の有効化	✓			
HTML のインポート	✓			
新しい破損リンクファインダ	✓			
新しいコンテンツ編集のライブモード	✓			
インラインエディタ	✓			
デフォルトドックタイプの HTML5 への変更	✓			
Site.com で有効になっている承認プロセス — パイロット				✓
Site.com での外部参照チェック対応	✓			
Site.com Studio への追加更新	✓			
ドメイン名に必要な組織 ID	✓			
新しい社内コミュニティライセンス				✓
新しい社内コミュニティ権限セットライセンス				✓

Force.com のカスタマイズ

全般的な管理

データ

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

セキュリティ

共有

グローバリゼーション

重要な更新

その他のカスタマイズ

全般的な管理

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
システム管理者向け SalesforceA モバイルアプリケーション			✓	
[設定] での検索 — ベータ			✓	
ユーザアカウントの停止		✓		
権限セットのライセンス			✓	
地理位置情報のパフォーマンス向上				✓
リッチテキストエリアエディタのコンテキストメニューの変更	✓			

データ

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
データインポートウィザード—ベータ	✓			
項目履歴データの保持				✓

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
Visual Workflow				
従来型のデスクトップ Flow Designer に対するサポートの終了		✓		
ワークフロー				
User オブジェクトのワークフロー — ベータ		✓		
承認				
Salesforce1 アプリケーションでの承認		✓		
すべての承認関連のメールアラートで使用可能になった [承認コメント] 差し込み項目		✓		
承認プロセスあたり 30 個の新しいステップ数制限		✓		

セキュリティ

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
重要な更新				
設定以外の Salesforce ページのクリックジャック保護		✓		
認証				
SAML が有効な接続アプリケーションとしてのサービスプロバイダの作成	✓			

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
RelayState パラメータのデフォルトの変更	✓			
すべての SAML アサーションが署名されるようになった	✓			
OpenID 接続認証プロバイダの使用			✓	
相互認証				✓
Frontdoor.jsp を使用した Salesforce へのログイン	✓			
ID				
ID ライセンス			✓	
ID 接続ライセンス			✓	
Salesforce アプリケーションの自動インストール	✓			
接続アプリケーションのカスタム属性	✓			
接続アプリケーションの OAuth 使用状況ページの更新	✓			
ログインページへの代替 ID プロバイダの追加		✓		
管理				
セッションおよび ID 確認の表示およびコントロール	✓			
セッションレベルセキュリティ		✓		
ユーザメールアドレスの制限				✓
2 要素認証ログイン要件の設定			✓	
時間ベースのトークンを使用した API へのアクセス			✓	
ID 確認用の時間ベースのトークンの使用	✓			
私のドメイン				
設定での私のドメインの新しい場所		✓		

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
新しい私のドメインでの ID プロバイダの自動有効化		✓		
ログインページでカスタマイズ可能なブランド設定		✓		

共有

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
ユーザ共有 — 正式リリース		✓		
共有ルールに関する新しい「説明」項目		✓		
マネージャグループとのレコードの共有				✓
外部組織の共有設定 — パイロット				✓
並列処理による組織の共有設定の更新 — パイロット				✓
共有ルールの非同期再適用 — パイロット				✓
並列再適用の監視		✓		
共有取引先の取引先責任者の表示	✓			

グローバル化セッション

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
カスタムの州選択リストと国選択リスト — 正式リリース			✓	
標準オブジェクトと項目の名前変更			✓	

重要な更新

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
設定以外の Salesforce ページのクリックジャック保護		✓		

その他のカスタマイズ

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
ページレイアウトエディタの [Chatter フィード] セクションの [パブリック シェアアクション] への変更	✓			
メールログの容量制限	✓			
単一送信メールの制限	✓			
Identity ライセンスユーザのアプリケーションランチャー			✓	

Force.com の開発

Sandbox

変更セットとリリース

開発者コンソール

Visualforce

Force.com Canvas

Apex コード

API

ISVForce

Sandbox

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
「設定のみ」の Sandbox の「Developer Pro」への名前変更		✓		
Sandbox サイズの増加		✓		
Sandbox サブドメイン名にハイフンが必要	✓			

変更セットとリリース

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
変更セットで使用可能な承認投稿テンプレート		✓		
変更セットで使用可能なコンパクトレイアウト		✓		
変更セットで使用可能なフレキシブルページ		✓		

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
変更セットのキューと処理の改善		✓		
リリースの監視の改善		✓		
変更セットのプロファイル設定のユーザ権限		✓		

開発者コンソール

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
コード検索	✓			
保存順序のデバッグビュー	✓			
SOSL 検索のサポートとクエリ履歴	✓			
静的リソースエディタ	✓			
クラスまたはトリガのログレベルの上書き	✓			
開発者コンソールでの Visualforce 開発の改善			✓	

Visualforce

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
HTML5 開発				
新しい <apex:input> コンポーネント		✓		

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
<code><apex:input></code> および <code><apex:inputField></code> の <code>type</code> 属性		✓		
入力コンポーネントの HTML5 <code><datalist></code> 要素		✓		
パススルー HTML 属性をサポートするコンポーネントの追加		✓		
Visualforce コンポーネントでのアクセシビリティの改善	✓			
<code><apex:includeScript></code> による JavaScript リソース読み込みの延期		✓		
その他の機能強化				
変更された[メモと添付ファイル]関連リストのリレーション名		✓		
Visualforce ページのページプレビューボタン		✓		
[Touch で利用可能] チェックボックスの名前変更		✓		
開発者コンソールでの Visualforce 開発の改善			✓	
<code><chatteranswers:registration></code> コンポーネントへの <code>registrationClassName</code> 属性の追加	✓			
<code>chatteranswers:allfeeds</code> <code>forceSecureCustomWebAddress</code> 属性の廃止	✓			
サーバ側のビューステート — パイロット				✓
<code>queryLocator</code> を使用して初期化された <code>StandardSetController</code> で SOQL の WHERE 句がリセットされる問題の解消		✓		

Force.com Canvas

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
API が有効なユーザ権限がなくなった	✓			
SDK オブジェクトおよび項目の変更	✓			
ストリーミング API に対する Force.com Canvas サポート	✓			

Apex コード

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
ステートメント制限の削除		✓		
クエリで利用できるスケジュール済みジョブの名前と種別		✓		
アップグレードされたスケジュール済み Apex ジョブの PreviousFireTime のリセット		✓		
Topic および TopicAssignment のトリガ		✓		
新しいクラス、メソッド、およびインターフェース		✓		
Chatter in Apex		✓		
Email Messaging メソッドのエラーの更新		✓		
User オブジェクトの DML 例外から返される異なる状況コード		✓		
開発者コンソールのみのコードカバー率情報		✓		

API

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.comに連絡してください。
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト	✓			
SOQL				
サブクエリでの OFFSET の使用 – パイロット	✓			
リレーション項目数の増加	✓			
SOSL				
複数のコミュニティをサポートする WITH NETWORK	✓			
REST API				
AppMenu リソース	✓			
FlexiPage リソース	✓			
CompactLayouts リソース	✓			
Get Deleted Objects リソース	✓			
Get Updated Objects リソース	✓			
Limit Info ヘッダー	✓			
QueryAll リソース	✓			
SObject Describe リソースによる If-Modified-Since ヘッダーのサポート	✓			
SObject Quick Actions リソース	✓			
Themes リソース	✓			
SOAP API				
新しいコールと更新されたコール	✓			
LimitInfoHeader	✓			
ストリーミング API				

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
Performance、Unlimited、および Enterprise Edition 組織の制限の緩和	✓			
登録の際の絞り込み条件の設定	✓			
削除イベントと復元イベントのサポート	✓			
汎用ストリーミング — パイロット				✓
PushTopic クエリで新しくサポートされるオブジェクト — パイロット	✓			
追加 API				
Chatter REST API	✓			
メタデータ API	✓			
Bulk API	✓			
Tooling API	✓			
分析 API (Winter '14 リリース後 24 時間以内にリリース)	✓			

ISVForce

機能	すべてのユーザに自動的に表示されます。設定は不要です。	すべての管理者に自動的に表示されます。設定は不要です。	自動的に表示されません。機能は有効化されていますが、いくつかの設定が必要です。	この機能を有効にするには、salesforce.com に連絡してください。
環境ハブ				✓
サインアップ API の機能強化			✓	
管理パッケージのコンポーネントの削除 — パイロット				✓
パッケージで使用可能なフレキシブルページ		✓		
パッケージで使用可能なコンパクトレイアウト		✓		

全般的な機能強化

全般的な機能強化は多数のユーザに影響を及ぼします。

ブラウザ

Performance Edition の概要

2013 年 11 月から、CRM、Force.com プラットフォーム、Data.com、Work.com、Identity、Live Agent、Salesforce ナレッジ、および追加の Sandbox 機能を組み合わせた新しいエディションを提供します。

翻訳された用語への更新

高度なルックアップ検索でのより詳細な検索オプション

国際化ドメイン名のサポート

メール項目で国際化ドメイン名 (IDN) を使用したメールアドレスを使用できます。

ブラウザ

このリリースでサポートされるブラウザを確認します。

Salesforce コンソールの Microsoft® Internet Explorer 10® のサポート

Salesforce コンソールは、Microsoft の Internet Explorer® 10 ブラウザで使用できます。

サポートされるブラウザ

Salesforce でサポートされるブラウザについて説明します。

Salesforce コンソールの Microsoft® Internet Explorer 10® のサポート

Salesforce コンソールは、Microsoft の Internet Explorer® 10 ブラウザで使用できます。

サポートされるブラウザ

Salesforce でサポートされるブラウザについて説明します。



重要: Summer '15 以降、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは停止されます。これらのバージョンでは、このリリース日以降一部の機能が動作しなくなる可能性があります。このリリース日以降、Salesforce.com カスタマーサポートでは Internet Explorer 7 および 8 に関する問題の調査は行いません。

ブラウザ	コメント
Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7、8、9、10	<p>Internet Explorer を使用する場合は、最新バージョンを使用することをお勧めします。すべての Microsoft ソフトウェア更新を適用してください。次の制限があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Internet Explorer の互換表示機能はサポートされません。 Internet Explorer 10 の Metro バージョンはサポートされません。 Internet Explorer 7 および 8 は、開発者コンソールではサポートされていません。 Internet Explorer 7 は、Open CTI ではサポートされていません。 Internet Explorer 7 は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。 Internet Explorer 7 は、Force.com Canvas ではサポートされていません。 <p>設定の推奨事項については、「Internet Explorer の設定」を参照してください。</p>
Mozilla® Firefox® の最新の安定バージョン	Salesforce.com は Firefox の最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。設定の推奨事項については、「Firefox の設定」を参照してください。
Google Chrome™ の最新の安定バージョン	Google Chrome は自動的に更新を適用するため、salesforce.com は最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。Chrome の設定に関する推奨事項はありません。Chrome は、[コンソール] タブまたは [Google ドキュメントを Salesforce に追加] ブラウザボタンではサポートされていません。
Microsoft® Internet Explorer® 6 および 7 用 Google Chrome Frame™ プラグイン	Internet Explorer 6 および 7 用プラグインのみサポートされています。Google Chrome Frame は自動的に更新を適用するため、Salesforce は最新バージョンのみをサポートします。設定の推奨事項については、「Microsoft® Internet Explorer® 用 Google Chrome Frame™ プラグインのインストール」を参照してください。Chrome Frame プラグインは、Salesforce コンソールまたは売上予測ではサポートされていません。
Mac OS X での Apple® Safari® バージョン 5.x および 6.x	<p>Safari の設定に関する推奨事項はありません。Apple Safari は iOS ではサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> Safari は、Salesforce コンソールではサポートされていません。 Safari は、バージョン 4.0 より前の CTI Toolkit をを使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。

すべてのブラウザに関する推奨事項と要件

- すべてのブラウザに対して、JavaScript、Cookie、SSL 3.0 を有効にする必要があります。
- Salesforce.com では、ユーザの操作性を最大限に高めるために、少なくとも 1024x768 の画面解像度を使用することをお勧めします。画面解像度が 1024x768 未満である場合、レポートビルダーやページレイアウトエディタなどの Salesforce 機能が表示されない可能性があります。

- 一部のサードパーティ Web ブラウザプラグインと拡張は、Chatter の機能に干渉する可能性があります。Chatter が正常に機能しなかったり、整合性のない動作をする場合は、すべての Web ブラウザのプラグインと拡張を無効にしてから、もう一度試してみてください。

Salesforce の特定の機能には、一部のデスクトップクライアント、ツールキット、およびアダプタと同様に、独自のブラウザ要件があります。次に例を示します。

- Internet Explorer は、次の機能を唯一サポートしているブラウザです。
 - 標準の差し込み印刷 (差し込み印刷に必要な ActiveX コントロールは Internet Explorer でのみサポートされているため、Internet Explorer 用の Google Chrome Frame™ プラグインはサポートされません)。
 - Windows Mobile デバイスへの Salesforce Classic のインストール
 - Connect Offline
- 高度なページレイアウトエディタには、Firefox をお勧めします。
- Chatter で複数のファイルをアップロードする場合には、ブラウザ要件も適用されます。

停止されたサポートまたは制限付きのブラウザサポート

Summer '12 の時点で、salesforce.com は Microsoft® Internet Explorer® 6 に対するサポートを停止しました。このブラウザで以前に機能していた既存の機能は、2014 年まで継続して動作する予定です。次のサポート制限があります。

- Internet Explorer 6 は、以下ではサポートされていません。
 - Chatter
 - グローバル検索
 - アンサー
 - Cloud Scheduler
 - 新しいユーザインターフェースのテーマ
 - 見積テンプレートエディタ
 - Salesforce コンソール
 - Salesforce ナレッジ
 - Live Agent
 - 売上予測
 - Chatter アンサー
 - 拡張プロファイルユーザインターフェース
 - Site.com
 - スキーマビルダー
 - 結合レポート
 - 拡張されたダッシュボードグラフオプション

Internet Explorer 7 は、Site.com および Chatter Messenger ではサポートされていません。Microsoft Windows XP が実行されているシステムでは、最新のセキュリティパッチが適用された Internet Explorer バージョン 7 および 8 が Chatter アンサーでサポートされています。

Performance Edition の概要

2013 年 11 月から、CRM、Force.com プラットフォーム、Data.com、Work.com、Identity、Live Agent、Salesforce ナレッジ、および追加の Sandbox 機能を組み合わせた新しいエディションを提供します。

Performance Edition は、驚異的な成長を推進し、新たなレベルの顧客満足度を達成し、ソーシャルおよびモバイル分野での営業とサービスの成果を最大限に活かす必要があるお客様向けに設計されています。Performance Edition には、Unlimited Edition の全機能に加え、Data.com のクリーンで対象を絞ったリードと顧客のデータ、Work.com のコーチングおよびフィードバックツール、Identity の信頼できる ID サービスなどが含まれています。日本、シンガポール、および韓国のお客様には、Data.com 以外のすべての Performance Edition 機能が含まれた Performance Edition Limited を提供しています。

2013 年 11 月の時点で、Unlimited Edition は購入できなくなります。Unlimited Edition を使用する顧客は、各自のエディションを継続して保持および更新することも、Performance Edition にアップグレードすることもできます。

翻訳された用語への更新

一部の用語 (フィンランド語、ロシア語、タイ語、繁体字中国語、チェコ語、ハンガリー語、ルーマニア語、およびトルコ語ユーザ向けのタブおよび項目名など) を更新しました。各用語について、英語バージョンおよび対応する以前の翻訳と新しい翻訳を提供しています。用語の変更についての完全なリストは、salesforce.com カスタマーサポートサイト (URL:

https://help.salesforce.com/apex/HTViewSolution?urlname=Winter-14-Updates-to-Translated-Terminology&language=en_US) にあるナレッジの記事番号 000181874 を参照してください。

これらの用語の変更は、すべての組織に適用されます。現在のタブおよび項目の表示ラベルを維持する場合、システム管理者が [タブと表示ラベルの名称変更] 機能を使用して名前を元に戻すことができます。詳細は、Salesforce ヘルプの「タブと項目の表示ラベルの名称変更」および「タブと項目の表示ラベルの名称変更に関する考慮事項」を参照するか、カスタマーサポートにお問い合わせください。

サポートされる言語についての詳細は、オンラインヘルプの Salesforce ヘルプの「Salesforce がサポートする言語は?」を参照してください。

高度なルックアップ検索でのより詳細な検索オプション

高度なルックアップ検索を使用してレコードを検索する場合、より多くの項目を検索できる新しいオプションを使用できます。デフォルトで、高度なルックアップ検索では、各オブジェクトに対して [名前] 項目と呼ばれる制限された項目のセットが照会されます。広く使用されている名前の取引先責任者の検索など、一致するレコードを多数返すレコードを検索する場合、検索可能なすべての項目を照会して、検索結果を絞り込むこともできます。高度なルックアップ検索ダイアログで使用可能な場合は、[すべての項目] を選択し、取引先責任者のメールアドレスなど、レコードに固有の他の検索語を入力します。現在、このオプションは取引先、取引先責任者、およびカスタムオブジェクトに対して使用できます。ユーザオブジェクトに使用することはできません。

名前項目と検索可能な項目についての詳細は、Salesforce ヘルプの「ルックアップ検索で検索可能な項目」および「オブジェクトで検索可能な項目」を参照してください。

国際化ドメイン名のサポート

メール項目で国際化ドメイン名 (IDN) を使用したメールアドレスを使用できます。

使用可能なエディション: すべてのエディション。

非常に多数のメール転送エージェント (MTA) が Unicode に準拠していないため、Salesforce は ASCII との互換性を持つ文字コード (ACE) バージョンに IDN を変換します。これにより、IDN を含むメールアドレスを MTA が処理できる可能性が高まりました。メールが送信されると、メールアドレスは ACE バージョンに変換されます。

IDN を含むメールアドレスとその ACE の例

- IDN を含むメール: `example@föö.com`
- 変換された ACE バージョン: `example@xn--f-1gaa.com`

受信者のメールクライアントによっては、IDN を含む元のメールアドレスではなく、ACE バージョンのメールアドレスが表示される場合があります。メールアドレスを処理するすべてのカスタムコードは、IDN をサポートするように変更する必要が生じることがあります。

モバイル

Salesforce Mobile アプリケーションがあれば、外出先でも高い生産性を維持できます。

Salesforce1

Salesforce1 アプリケーションにより、どこにいても、特に重要なレコード、活動、会話、ダッシュボードの最新情報が得られます。

SalesforceA

モバイルデバイスからユーザを管理し、Salesforce 組織の情報を参照できます。

Salesforce1 にアップグレードされた Salesforce Touch

Salesforce Touch は、新しい Salesforce1 環境に対応するようにアップグレードされます。新しいアプリケーションでは、使い慣れた Salesforce Touch 機能をそのまま使用でき、更新されたインターフェースで必要なものを簡単に見つけて、作業をより迅速に行えます。さらに、Salesforce1 では、多数の新しい拡張機能を使用してさらに多くの操作を実行できます。

Chatter Mobile

Chatter Mobile for Android および Chatter Mobile for iPhone and iPad アプリケーションは Salesforce1 v5.0 にアップグレードされました。Chatter Mobile for BlackBerry は、Winter '14 の期間はアップグレードされません。

Salesforce Mobile が Salesforce Classic にブランド変更

従来の Salesforce CRM モバイルアプリケーションである Salesforce Mobile が、Android™、BlackBerry®、iPhone® デバイス向けの Salesforce Classic になりました。

モバイルのパッケージ化

モバイルのパッケージ化により、接続アプリケーションを通してモバイルアプリケーションをシームレスに定義して分類し、組織にリリースできます。モバイルのパッケージ化は、現在パイロットプログラムで使用可能です。

Salesforce1

Salesforce1 アプリケーションにより、どこにいても、特に重要なレコード、活動、会話、ダッシュボードの最新情報が得られます。

Salesforce1 アプリケーションの概要

Salesforce1 アプリケーションは、外出先で使用できる Salesforce です。これらのエンタープライズクラスのモバイルアプリケーションを使用すると、オフィスで表示するのと同じ情報にリアルタイムでアクセスできますが、情報は外出先での作業用に整理されて表示されるため、顧客とのミーティングの合間、飛行機の待ち時間、コーヒーを待っているわずかな時間でも迅速に作業できます。

Salesforce1 の機能

新しい Salesforce1 アプリケーションには、ユーザが場所を問わず接続と生産性を維持できるように設計された幅広い特長と機能が組み込まれています。これらの機能は、Salesforce の操作性に基づいており、モバイルデバイス向けに最適化されています。

Salesforce1 を使用するための要件

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションおよびモバイルブラウザアプリケーションを使用するための要件と、サポートされる環境を以下に示します。

Salesforce1 でサポートされるデータ

Salesforce1 アプリケーションでは、組織の Salesforce エディション、ユーザライセンスの種類、および割り当てられたユーザプロファイルと権限セットを使用して、各ユーザが使用できるデータが決定されます。ほとんどの場合、ユーザには、Salesforce フルサイトで作業している場合と同じオブジェクト、レコードタイプ、項目、およびページレイアウトが表示されます。ただし、一部の Salesforce データはこのリリースではサポートされていません。

Salesforce1 アプリケーションへのアクセス

ユーザが Salesforce1 にアクセスする方法は、組織の設定内容によって異なります。

Salesforce1 の使用方法について

Salesforce1 アプリケーションにはモバイルアプリケーションの使用方法を確認する場合に使用する [ヘルプ] リンクがあります。

Salesforce1 を使用する組織の設定

組織に合わせて Salesforce1 アプリケーションをカスタマイズし、ユーザが外出先で効率的に作業できるようにするいくつかの方法があります。

Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い

Salesforce1 アプリケーションには Salesforce フルサイトのすべての機能はありません。また、フルサイトでは使用できない機能がいくつかあります。

Salesforce1 アプリケーションの概要

Salesforce1 アプリケーションは、外出先で使用できる Salesforce です。これらのエンタープライズクラスのモバイルアプリケーションを使用すると、オフィスで表示するのと同じ情報にリアルタイムでアクセスできますが、情報は外出先での作業用に整理されて表示されるため、顧客とのミーティングの合間、飛行機の待ち時間、コーヒーを待っているわずかな時間でも迅速に作業できます。

タッチスクリーンでのナビゲーションとデータ操作を容易にするために最適化された直感的なインターフェースにより、レコードをスクロール、タップ、スワイプして、すばやく必要な情報を見つけることができます。また、Salesforce1 には組織の Salesforce カスタマイズが多く含まれており、モバイルの操作性が必要に応じて特定のビジネスニーズに合わせてカスタマイズされています。

Salesforce1 は、次のように異なる方法で取得できます。

- ダウンロード可能アプリケーション。App Store および Google Play™ から入手でき、Apple® および Android™ モバイルデバイス上に直接インストールされます。Chatter for iPhone and iPad v5.0 および Chatter for Android v5.0 は、正式リリースされています。
- モバイルブラウザアプリケーション。Apple および Android モバイルブラウザでサポートされるモバイルブラウザで実行されます。

**メモ:**

Salesforce1 のこのリリースに Salesforce フルサイトのすべての機能が搭載されているわけではありません。Salesforce1 でサポートされていないデータを表示したり、アクションを実行したりする場合は、フルサイトを使用してください。

Salesforce1 の機能

新しい Salesforce1 アプリケーションには、ユーザが場所を問わず接続と生産性を維持できるように設計された幅広い特長と機能が組み込まれています。これらの機能は、Salesforce の操作性に基づいており、モバイルデバイス向けに最適化されています。

Salesforce1 が提供する機能の概要を次に示します。

外出先でのコラボレーション

場所を問わず、Chatter フィード、グループ、人、およびファイルにアクセスして同僚や顧客との接続を維持したり、フォローしているレコードを管理したり、ファイルを共有したりすることができます。

より迅速な作業

フィードで、直接、活動の記録、ミーティングメモの追加、レコードの作成および更新などの操作を実行できます。

顧客情報を最新の状態に保つ

Salesforce レコードから直接、取引先および取引先責任者に連絡したり、通話やメール送信を行った後にそれを記録したり、顧客に関する最新情報を確認したりできます。

CRM データの完全な把握

モバイルデバイスから直接、セールスレコード、サービスレコード、マーケティングレコード、およびカスタムオブジェクトレコードを作成して、編集できます。デスクに戻ったときにレコードを更新できるように、顧客とのミーティング後にメモ用紙に記録する必要がありません。

必要な情報の検索

数回タップするだけで必要なデータを迅速かつ容易に検索します。リストビュー、最近アクセスしたレコードのリスト、およびグローバル検索またはレコード検索を使用します。

自分のスケジュールの管理

Today を使用して、ミーティングを準備したり、タップしてカンファレンスコールに参加したり、次の予定の場所への道順を取得したりできます。

自分の活動の追跡

現場での時間管理を効率的に行います。リストを使用して ToDo を追跡および管理したり、1 回のタップで ToDo を閉じたり、再び開いたり、ToDo や行動をその場で作成したり、既存の Salesforce の行動を表示したりできます。

進行状況の測定

どこにいても、ダッシュボードを監視して測定内容の最新情報を把握できます。

最新情報の把握

承認申請に関するアプリケーション内通知または Chatter で他のユーザが自分をメンションした場合のアプリケーション内通知を受信します。

Salesforce1 の操作のカスタマイズ

モバイル向けに最適化された Visualforce ページやカスタムのパブリッシャーアクションを作成および統合して、カスタムツール、機能、およびユーザインターフェースを簡単に設定できます。

カスタムアプリケーションおよびサードパーティアプリケーションの使用

Salesforce1 プラットフォームおよびサードパーティアプリケーションに組み込まれているカスタムアプリケーションを統合することにより、会社の固有のニーズに合わせて Salesforce1 を容易にカスタマイズできます。

権限の管理

Salesforce へのアクセス方法に関わらず、ロールおよびプロファイルベースの権限および共有を使用して、適切なユーザが適切なデータにアクセスできるようにします。

安全の確保

Salesforce1 では、Salesforce フルサイトと同レベルの ID およびセキュリティを使用しています。つまり、モバイルデバイスで作業している場合でも、デスクトップで作業している場合と同様にデータは安全です。

各アプリケーションで使用可能な機能

ほとんどの場合、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションおよびモバイルアプリケーションには同じ機能が組み込まれています。ただし、これらのアプリケーションではいくつかの相違点があります。

機能	モバイルブラウザアプリケーション	iOS および Android のダウンロード可能アプリケーション
転送通知の受信		✓
アプリケーション内通知の受信	✓	✓
パブリッシャーおよびパブリッシャーアクションの使用 (Chatter が必要)	✓	✓
Chatter フィード、人、およびグループの使用	✓	✓
投稿またはコメントへの写真またはファイルの添付、またはパブリッシャーアクションを使用した写真またはファイルの投稿		✓
Chatter 投稿の共有		✓
フィードに投稿されたファイルのレビューの表示		✓

機能	モバイルブラウザアプリケーション	iOS および Android のダウンロード可能アプリケーション
ダブルタップによる Chatter 投稿のブックマークの追加または削除		✓
Chatter が無効の場合のアプリケーションの使用	✓	✓
Salesforce レコードの検索	✓	✓
ファイルの検索		✓
リストビューの使用	✓	✓
電話をかける、活動を記録する、メールを送信する、場所をマップに表示する、およびニュースまたは Web サイトを表示するためのレコードのアクションの使用 (通話は、Android 端末および iPhone デバイスのみでサポートされています)。	✓	✓
新規レコードの追加および既存のレコードの更新	✓	✓
Today の使用 (この機能は Android 端末および iPhone デバイスのみでサポートされています)。		✓
ToDo を追跡する、閉じる、または再度開く	✓	✓
Salesforce の行動の作成および表示	✓	✓
ダッシュボードおよびダッシュボードコンポーネントの詳細の表示	✓	✓
Salesforce ファイルの使用 (Chatter が必要)		✓
Salesforce メール通知からの Salesforce1 の起動		✓
Visualforce ページの表示	✓	✓
ナビゲーションメニューまたはパブリッシャーからのカスタムアプリケーションおよびサードパーティアプリケーションへのアクセス	✓	✓

機能	モバイルブラウザアプリケーション	iOS および Android のダウンロード可能アプリケーション
アプリケーション設定の使用		✓
複数のインスタンスへの接続の設定		✓
セキュリティ PIN を使用したアプリケーションへのアクセスの制御		✓

Salesforce1 を使用するための要件

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションおよびモバイルブラウザアプリケーションを使用するための要件と、サポートされる環境を以下に示します。

サポートされるデバイス

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションおよびモバイルブラウザアプリケーションは次のモバイルデバイスで実行できます。

- iOS 7 以降を搭載した Apple モバイルデバイス
 - ◇ iPhone® 4 以降のモデル
 - ◇ iPad® 2 以降のモデル (iPad mini を含む)

- Android 4.1 以降を搭載している Android 端末

サポートされるブラウザ

次のいずれかのモバイルブラウザで Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを実行できます。

- iOS デバイス:
 - ◇ デフォルトの Apple ブラウザ、Safari®
- Android デバイス:
 - ◇ Android デバイス向けの Chrome™
 - ◇ メーカー提供の Android ストックブラウザ

最良の結果を得るには、Safari のプライベートブラウジングまたは Chrome のシークレットモードをオフにする必要があります。

Salesforce のエディションおよびライセンス

次の Salesforce エディションでは、Salesforce1 を使用できます。

- Contact Manager Edition
- Developer Edition
- Enterprise Edition
- Group Edition
- Performance Edition
- Personal Edition

- Professional Edition
- Unlimited Edition

Database.com Edition はサポートされていません。

Salesforce1 にアクセスできるユーザライセンスの種類は次のとおりです。

- Salesforce ユーザ
- Salesforce プラットフォームおよび Force.com ユーザ
- Chatter Plus ユーザ、Chatter Free ユーザ、および Chatter 顧客

すべてのコミュニティおよびポータルユーザ、Database.com ユーザ、Sites および Site.com ユーザ、Data.com ユーザ、および Work.com ユーザのユーザライセンスの種類はサポートされていません。



メモ: 組織の Salesforce エディション、ユーザライセンスの種類、および割り当てられたユーザプロファイルおよび権限セットによって決まる、フルサイトで使用できるデータや機能と同じデータや機能にアクセスできます。

ワイヤレス接続

Salesforce と通信するには、Wi-Fi® または携帯電話のネットワーク接続が必要です。最適なパフォーマンスを得るには、Wi-Fi の使用をお勧めします。

ただし、Chatter が有効になっている場合、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでは、モバイルデバイスがオフラインのときの Files 表示機能がサポートされています。

ロケールおよび言語

Salesforce1 は、Salesforce でサポートされるロケール、完全サポートされる言語、エンドユーザ言語のほとんどすべてで動作します (サポートされるロケールと言語の完全なリストは、Salesforce ヘルプを参照してください)。このリリースでは、アラビア語とヘブライ語を含む、右から左に読み取られる言語はサポートされていません。

Salesforce1 にはマルチ通貨サポートが含まれますが、高度な通貨管理は使用できません。

アクセシビリティ

Salesforce1 はアクセシビリティを念頭に置いて設計されており、スクリーンリーダーを使用するユーザを含む、すべてのユーザが十分に利用できるモバイルの操作性を提供します。Salesforce フルサイトとは異なり、Salesforce1 ではアクセシビリティモードを使用しなくても、支援デバイスを使用して作業するユーザに、十分に利用できる操作性を提供できます。

スクリーンリーダーの使用方法の詳細については、ご使用のモバイルデバイスの資料を参照してください。

Salesforce1 でサポートされるデータ

Salesforce1 アプリケーションでは、組織の Salesforce エディション、ユーザライセンスの種類、および割り当てられたユーザプロファイルと権限セットを使用して、各ユーザが使用できるデータが決定されます。ほとんどの場合、ユーザには、Salesforce フルサイトで作業している場合と同じオブジェクト、レコードタイプ、項目、およびページレイアウトが表示されます。ただし、一部の Salesforce データはこのリリースではサポートされていません。

次のオブジェクトのレコードを参照、編集、または作成できます。

- [取引先] および [個人取引先]

- キャンペーン
- ケース
- 取引先責任者
- 契約
- ダッシュボード (参照のみ)
- リード
- Live Chat トランスクリプト (参照のみ)
- 商談
- ToDo
- ユーザ
- Salesforce アプリケーションに含まれているカスタムオブジェクト

Salesforce 行動は、[活動予定] および [活動履歴] 関連リストからアクセスできます。また、Android 端末または iPhone デバイスでダウンロード可能アプリケーションを使用することで、Today 機能によって、ユーザがミーティングを準備したり、顧客と連絡を取ったり、カンファレンスコールにすばやく参加したり、1日のスケジュールを総合的に管理したりできるようになります。

一部の例外を除いて、すべての標準項目とカスタム項目はサポートされるレコードで使用できます。これは、サポートされるオブジェクトの大部分の関連リストについても当てはまります。

Chatter が有効になっている場合、ユーザはフィード、人、およびグループにアクセスできます。また、ダウンロード可能アプリケーションでは Files を使用できます。

Salesforce1 のグローバル検索では、ToDo と行動を除き、モバイルアプリケーションで使用可能なすべてのオブジェクトに対して結果が返されます。Chatter の人、グループ、およびファイルも検索できます。

Salesforce1 アプリケーションへのアクセス

ユーザが Salesforce1 にアクセスする方法は、組織の設定内容によって異なります。

ダウンロード可能アプリケーション

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションは、Android 端末と iPad および iPhone デバイスで使用できます。ユーザは Google Play または App Store からアプリケーションをダウンロードしてインストールし、デバイスのホーム画面からアプリケーションを起動して Salesforce アカウントにログインします。

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションは接続アプリケーションです。デフォルトでは、組織のすべてのユーザがアプリケーションを使用できます。ただし、ダウンロード可能アプリケーションへのログインを許可するユーザを設定することもできます。さらに、ユーザがアプリケーションを使用する場合にセキュリティ PIN の入力を必須とするなど、他のセキュリティポリシーを制御することもできます。詳細は、「[Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの設定](#)」を参照してください。


モバイルブラウザアプリケーション

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションはサポートされるモバイルブラウザで実行され、Android 端末と iPad デバイスおよび iPhone デバイスで使用できます。このモバイルブラウザアプリケーションは、組織の方針で会社支給のデバイスにダウンロード可能アプリケーションをインストールできない場合に役立つオプションです。

デフォルトでは、モバイルブラウザアプリケーションは組織で有効になっており、すべてのユーザがアプリケーションにアクセスできます。サポートされるモバイルブラウザからのログインセッションは、自動的にアプリケーションにリダイレクトされます。モバイルブラウザアプリケーションを無効にすると、すべてのユーザに対して無効になります。詳細は、「[Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの有効化](#)」を参照してください。

Salesforce1 の使用方法について

Salesforce1 アプリケーションにはモバイルアプリケーションの使用方法を確認する場合に使用する [ヘルプ] リンクがあります。

[ヘルプ] リンクは、ナビゲーション  メニューにあります。このリンクから Salesforce1 ヘルプを表示することもできます。確認が必要なモバイルの操作に関するリンクを選択します。

- [携帯端末の Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション](#)
- [タブレットの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション](#)
- [Salesforce1 for iPhone](#)
- [Salesforce1 for iPad](#)
- [Salesforce1 for Android Phones](#)

Salesforce1 を使用する組織の設定

組織に合わせて Salesforce1 アプリケーションをカスタマイズし、ユーザが外出先で効率的に作業できるようにするいくつかの方法があります。

すべての Salesforce ページの右上にある [設定] リンクからアクセスできる [設定] メニューを使用して、次を行うことができます。

- Salesforce1 アプリケーションにアクセスできるユーザを定義する。
 - ◇ ダウンロード可能アプリケーションの場合、[アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックし、設定するアプリケーションを選択します。(「[Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの設定](#)」を参照してください)。
 - ◇ モバイルブラウザアプリケーションの場合、[モバイル管理] > [Salesforce1] をクリックします。(「[Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの有効化](#)」を参照してください)。
- Salesforce1 アプリケーションでのデータの表示方法をカスタマイズする。
 - ◇ モバイルデバイスで適切に表示されるように、ページレイアウトを最適化します。ページレイアウトを最適化するには、既存のページレイアウトを変更するか、モバイルで使用しやすい新しいページレイアウトを最初から作成します。

標準オブジェクトの場合、[カスタマイズ] > *Object* > [ページレイアウト] をクリックします。カスタムオブジェクトの場合、[作成] > [オブジェクト] をクリックし、オブジェクトの名前をクリックしてから、[ページレイアウト] 関連リストで [新規] をクリックします。(Salesforce ヘルプの「[ページレイアウトのカスタマイズ](#)」を参照してください)。
 - ◇ 拡張ルックアップまたは Visualforce ページをページレイアウトの [モバイルカード] セクションに追加して、Salesforce1 でモバイルカードとして表示します。(「[高度なページレイアウトエディタの新しいモバイルカードセクション](#)」を参照してください)。

- ◇ Visualforce ページが Salesforce1 で使用できるようになっており、アプリケーションにそれらのページが表示されていることを確認します。[開発] > [ページ] をクリックし、ページ名の横にある [編集] をクリックしてから、[Salesforce モバイルアプリケーションで利用可能] を選択します。(「[Salesforce1 アプリケーションでの Visualforce ページの使用の有効化](#)」を参照してください)。
- ◇ カスタムコンパクトレイアウトを作成して、オブジェクトのレコードの[特長]領域とレコードのプレビューカードに表示される項目を定義します。

標準オブジェクトの場合、[カスタマイズ] > *Object* > [コンパクトレイアウト] をクリックします。カスタムオブジェクトの場合、[作成] > [オブジェクト] をクリックし、カスタムオブジェクト名をクリックしてから、[コンパクトレイアウト] 関連リストで[新規] をクリックします。(「[コンパクトレイアウトの概要](#)」を参照してください)。
- ◇ 既存の検索レイアウトによって、Salesforce1 検索結果に必要な項目が取り込まれていることを確認します。[カスタマイズ] > *Object* > [検索レイアウト] をクリックします。(「[Salesforce1 の検索レイアウト](#)」を参照してください)。
- 特定の事業内容と使用事例に合わせて調整されたパブリッシャーアクションを作成することで、項目で簡単かつ効率的に作業できるようにする。パブリッシャーアクションは、Chatter が有効な場合に使用できます(「[Salesforce1 アプリケーションのパブリッシャーアクション](#)」を参照してください)。
 - ◇ パブリッシャーアクションが組織で有効になっていることを確認します。[カスタマイズ] > [Chatter] > [設定] をクリックします。

パブリッシャーアクションを作成するオブジェクトで、フィード追跡が有効になっていることを確認します。[カスタマイズ] > [Chatter] > [フィード追跡] をクリックします。
 - ◇ グローバルアクションを作成し、ユーザが自動関係を使用しなくても新しいオブジェクトレコードを他のレコードに追加できるようにします。[作成] > [グローバルアクション] をクリックします。パブリッシャーアクションによって使用される項目をカスタマイズするには、[グローバルアクション] ページの [レイアウト] をクリックします。

次に、新しいアクションをグローバルパブリッシャーレイアウトに追加して、Salesforce1 アプリケーションで表示されるようにします。[カスタマイズ] > [Chatter] > [パブリッシャーレイアウト] をクリックします。
 - ◇ オブジェクト特有のアクションを作成して、ユーザが既存のレコードで新しいレコードを追加したり、データを更新したりできるようにします。[カスタマイズ] > *Object* > [ボタン、リンク、およびアクション] をクリックします。パブリッシャーアクションによって使用される項目をカスタマイズするには、ボタン、リンク、およびアクションのページで [レイアウト] をクリックします。

次に新しいアクションを該当するオブジェクトページレイアウトに追加して、Salesforce1 アプリケーションでできるようにします。[カスタマイズ] > *Object* > [ページレイアウト] をクリックします。
- Salesforce1 ナビゲーションメニューで使用可能なオプションと、項目が表示される順番をカスタマイズする。[モバイル管理] > [モバイルナビゲーション] をクリックします。(「[Salesforce1 ナビゲーションメニューのカスタマイズ](#)」を参照してください)。
- ヘルプを使用して、Salesforce1 ユーザがアプリケーション内の転送通知を有効にし、重要な Salesforce 活動を常に認識できるようにする。[モバイル管理] > [通知] > [設定] を選択します。(「[Salesforce1 通知](#)」を参照してください)。
- 組織にリリースされたフレキシブルページの [フレキシブルページ] タブを追加することで、サードパーティアプリケーションを Salesforce1 ナビゲーションメニューに追加する。[フレキシブルページ] タブの関連リス

トで [作成] > [タブ] をクリックしてから、[新規] をクリックします。(「[\[フレキシブルページ\] タブの作成](#)」を参照してください)。

『[Salesforce1 App Admin Guide](#)』を参照することもできます。このガイドには、[設定] で Salesforce1 宣言型ツールを使用し、組織が Salesforce1 のモバイル操作性を活用できる環境を整える手順が段階的に記載されています。

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの設定

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションは接続アプリケーションです。結果として、アプリケーションおよびその他のセキュリティポリシーへのアクセス権を持つユーザを制御できます。デフォルトでは、組織のすべてのユーザが Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションにログインできます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの設定を 「アプリケーションのカスタマイズ」 編集する
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの設定を 「設定・定義を参照する」 表示する

管理 Salesforce 接続アプリケーションパッケージからインストールされる設定コンポーネントを使用して各 Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのセキュリティポリシーおよびアクセスポリシーを制御できます。次のコンポーネントが Salesforce にインストールされている必要があります。

- Salesforce1 for Android
- Salesforce1 for iOS

ユーザの 1 人がモバイルデバイスに App Store または Google Play から Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションをインストールして、モバイルアプリケーションにログインして組織に認証されると、これらのコンポーネントが自動的にインストールされます。

または、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションをユーザにロールアウトする前に、デフォルトのセキュリティ設定およびアクセス設定を確認して変更できるように、[Salesforce 接続アプリケーションパッケージ](#)を手動でインストールできます。

Salesforce1 接続アプリケーションコンポーネントがインストールされると、[設定] > [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] で接続アプリケーションに追加されます。ここでは、プロファイル、権限、IP 範囲制限へのユーザアクセスの制御を含む、各アプリケーションの設定を表示および編集できます。制限されているユーザが Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションにログインしようとすると、エラーメッセージが表示されます。

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの転送通知は、[接続アプリケーション] ページからは管理されません。これらの設定を管理するには、[設定] > [モバイル管理] > [通知] > [設定] にアクセスしてください。

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの有効化

モバイルブラウザから Salesforce にログインするときに Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションにアクセスできるかどうかを制御できます。デフォルトで、組織のモバイルブラウザアプリケーションは有効になっています。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの設定を表示する	「設定・定義を参照する」
Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの設定を変更する	「アプリケーションのカスタマイズ」 「すべてのデータの編集」

1. [設定] から、[モバイル管理] > [Salesforce1] をクリックします。
2. [Salesforce1 ブラウザアプリケーションを有効化] を選択すると、組織のすべてのユーザがアプリケーションにアクセスできます。アプリケーションへのアクセスを無効にするには、このオプションを選択解除します。
3. [保存] をクリックします。

このオプションがオンになっていると、サポートされているモバイルブラウザから Salesforce にログインしたユーザは、常に Salesforce1 インターフェースに自動的に転送されます。ユーザがモバイルブラウザから Salesforce フルサイトにアクセスするようにしたい場合は、このオプションをオフにします。



メモ:

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションへの自動リダイレクトは、サポートされているモバイルブラウザでのみ使用可能です。サポートされていないモバイルブラウザからログインすると、Salesforce フルサイトが読み込まれます。

モバイルブラウザアプリケーションが有効になっている場合、個人ユーザは、次のいずれかの方法で自分の Salesforce1 リダイレクトを無効にできます。

- ・ モバイルブラウザアプリケーションのナビゲーションメニューから、[フルサイト] をタップする。
- ・ フルサイトで、[私の設定] > [個人用] > [高度なユーザの詳細] または [設定] > [私の個人情報] > [個人情報] の [Salesforce1 ユーザ] チェックボックスをオフにする。

あるいは、SOAP API を使用して、ユーザに対するモバイルブラウザアプリケーションの自動リダイレクトをオフ (またはオン) にすることもできます。モバイルブラウザアプリケーションが有効になっている場合、UserPreferencesHideS1BrowserUI 項目がユーザオブジェクトに追加されます。デフォルトで、この項目は false に設定されています。この場合、すべてのユーザレコードについてモバイルブラウザアプリケーションへの自動アクセスが有効になります。この項目を true に変更すると、指定ユーザに対してリダイレクトが無効になります。詳細は、『SOAP API 開発者ガイド』の「User」セクションを参照してください。

高度なページレイアウトエディタの新しいモバイルカードセクション

高度なページレイアウトエディタの新しいモバイルカードセクションに、拡張ルックアップおよびモバイル対応 Visualforce ページを追加できます。このセクションに含めた要素は、レコードビューの関連情報ページで、Salesforce1 アプリケーションのモバイルカードとして表示されます。モバイルカードセクションの要素は、Salesforce フルサイトのレコード詳細ページには表示されません。

高度なページレイアウトエディタの拡張ルックアップカテゴリには、参照関係のある項目が含まれます。モバイルカードセクションに追加されるときに、これらの項目はレコードの関連ルックアップカードとして表示されます。1つのページレイアウトには、最大 20 個の拡張ルックアップを含めることができます。

[モバイルカード] セクションでは、Salesforce モバイルアプリケーションで有効になっている Visualforce ページのみが Salesforce1 で表示されます。モバイル対応の Visualforce ページでは、パレットにモバイル非対応のページとは若干異なる色の要素が表示されます。また、パレットで Visualforce ページ要素にマウスを置くと、モバイル対応であるかどうかが表示されます。

一部の標準オブジェクトには、デフォルトでモバイルカードが追加されています。ページレイアウトをカスタマイズして、そのカードを削除したり他のカードを追加したりできます。

Salesforce1 アプリケーションでの Visualforce ページの使用の有効化

Visualforce を使用して Salesforce1 アプリケーションを拡張し、外出中にモバイルユーザが必要な機能を提供できます。Visualforce ページを Salesforce1 に追加する前に、ページをモバイルで使用できるか、あるいはモバイルアプリケーションでは使用できないかを確認します。

使用可能なエディション: **Contact Manager Edition**、**Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
Salesforce1 で Visualforce の表示を有効にする	「アプリケーションのカスタマイズ」
	「Apex 開発」



ヒント:

既存の Visualforce ページを Salesforce1 アプリケーションに公開する前に、携帯端末やタブレットでそれらがどのように表示され、機能するかを確認します。多くの場合、モバイルフォーム要素専用設計された新しいページを作成する必要があります。

Visualforce ページが Salesforce1 ユーザーインターフェースの以下の領域に表示されるようにするには、それらのページがモバイルで使用できるようになっている必要があります。

- Visualforce タブを介したナビゲーションメニュー
- カスタムアクションを介したパブリッシャー
- レコードの関連情報ページ上のモバイルカード
- 上書きされた標準ボタン、またはカスタムボタンおよびカスタムリンク



メモ: インラインの Visualforce ページをレコード詳細ページレイアウトに追加することもできます。この方法で追加されたページはモバイルで使えるようにする必要はありませんが、ページがモバイルデバイスに表示された場合にどのように表示されるかを確認してください。通常、Visualforce をページレイアウトに追加すると、参照のみになっている場合は一目で情報を把握でき、機能が最も高まります。

Salesforce1 で Visualforce ページを有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[開発] > [ページ] をクリックします。
2. 目的の Visualforce ページの [編集] をクリックします。
3. [Salesforce モバイルアプリケーションでの使用が可能] を選択し、[保存] をクリックします。

Salesforce1 アプリケーションでの Visualforce のサポートに関して、次の点に注意してください。

- Visualforce ページによって上書きされた標準タブ、カスタムオブジェクトタブ、およびリストビューは、Salesforce1 ではサポートされません。Visualforce ページはフルサイトのユーザに表示されますが、Salesforce1 ユーザには、代わりにオブジェクトのデフォルトの Salesforce1 ページが表示されます。この制限は、オブジェクトに対する Salesforce1 の操作性を維持するために設定されています。
- メタデータ API を使用して ApexPage オブジェクトの `isAvailableInTouch` 項目を編集することによって、Salesforce1 の Visualforce ページを有効にすることもできます。
- Visualforce タブ設定ページの [モバイル準備完了] チェックボックスは、Salesforce Classic 専用であり、Salesforce1 アプリケーションの Visualforce ページには適用されません。

コンパクトレイアウトの概要

コンパクトレイアウトは、レコードの重要な項目を一目で確認できるよう表示するために Chatter Mobile で使用されます。コンパクトレイアウトは、スペースが限られていて、レコードをすばやく認識することが重要なタッチスクリーンモバイルデバイスでレコードを表示するために設計されています。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

Salesforce フルサイトでは、コンパクトレイアウトによって、ユーザがパブリッシャーアクションを使用してレコードを作成した後に表示される Chatter フィード項目に表示される項目が決まります。

Chatter Mobile では、コンパクトレイアウトによって、以下に表示される項目が決まります。

- オブジェクトのレコードの [特長] 領域
- オブジェクトのレコードプレビューカード (検索結果に表示されるカード以外)
- レコードの関連情報ページの高度なルックアップカード



メモ: コンパクトレイアウトは、Salesforce Classic、Chatter Mobile for BlackBerry、Salesforce Touch、または Dashboards for iPad といったモバイルアプリケーションでは使用できません。

カスタムコンパクトレイアウトを作成しない場合、参照のみの定義済みシステムデフォルトコンパクトレイアウトを使用してレコードが表示されます。カスタムコンパクトレイアウトを作成したら、オブジェクトのプライマリコンパクトレイアウトとして設定できます。オブジェクトに関連付けられているレコードタイプがある場合、プライマリコンパクトレイアウトの割り当てを上書きして、特定のコンパクトレイアウトを各種レコードタイプに割り当てることができます。

コンパクトレイアウトでは、次を除くすべての項目種別がサポートされています。

- テキストエリア
- ロングテキストエリア
- リッチテキストエリア
- 複数選択リスト

コンパクトレイアウトは、その詳細ページからコピーできます。

コンパクトレイアウトの作成

コンパクトレイアウトを作成して、Chatter Mobile で参照するときのオブジェクトレコードの表示項目をカスタマイズできます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
コンパクトレイアウトをカスタマイズする	「アプリケーションのカスタマイズ」
コンパクトレイアウトを表示する	「設定を参照」

コンパクトレイアウトに割り当てる最初の4つの項目が、Chatter Mobile の各レコードビューの上部にあるレコードの [特長] セクションに入力されます。

1. 標準オブジェクトの場合は、[設定] から [カスタマイズ] をクリックし、オブジェクトを選択して、[コンパクトレイアウト] をクリックします。カスタムオブジェクトの場合は、[設定] から [作成] > [オブジェクト] をクリックし、カスタムオブジェクトの名前をクリックして、[コンパクトレイアウト] 関連リストから [新規] をクリックします。
2. [新規] をクリックして、新しいコンパクトレイアウトを作成します。
3. コンパクトレイアウトの表示ラベルを入力します。
4. コンパクトレイアウトに表示する項目を 10 個まで選択し、[追加] をクリックします。
5. 項目を選択し、[上へ] または [下へ] をクリックして並び替えます。
項目に割り当てる順序によって、モバイルデバイスでレコードを参照するときの表示順序や、レコード作成アクションで生成される Chatter フィード項目での表示順序が決まります。
6. [保存] をクリックします。

レコードタイプへのコンパクトレイアウトの割り当て

カスタムコンパクトレイアウトを作成しない場合、参照のみの定義済みシステムデフォルトコンパクトレイアウトを使用してレコードが表示されます。カスタムコンパクトレイアウトを作成したら、オブジェクトのプライマリコンパクトレイアウトとして設定できます。オブジェクトに関連付けられているレコードタイプがある場合、プライマリコンパクトレイアウトの割り当てを上書きして、特定のコンパクトレイアウトを各種レコードタイプに割り当てることができます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
コンパクトレイアウトをカスタマイズする	「アプリケーションのカスタマイズ」
コンパクトレイアウトを表示する	「設定を参照」

1. 標準オブジェクトの場合、[設定]から[カスタマイズ]>*Object*>[コンパクトレイアウト]をクリックします。カスタムオブジェクトの場合、[設定]から[作成]>[オブジェクト]をクリックし、カスタムオブジェクトの名前をクリックして、[コンパクトレイアウト]関連リストまでスクロールダウンします。
2. [コンパクトレイアウトの割り当て]をクリックします。
3. このオブジェクトのプライマリコンパクトレイアウトとして使用するコンパクトレイアウトを選択します。
4. [レコードタイプの上書き]セクションで、コンパクトレイアウトを割り当てる1つ以上のレコードタイプを選択します。

オブジェクトにレコードタイプが設定されていない場合、このセクションは表示されません。デフォルトでは、レコードタイプの上書きを設定しないと、すべてのレコードタイプでオブジェクトのプライマリコンパクトレイアウトが使用されます。範囲内に隣接するセルを選択するには、Shift キーを押しながらクリックするか、クリックしてドラッグします。隣接していない個々のセルを選択するには、Ctrl キーを押しながらクリックします。

無効なレコードタイプがリストに含まれている場合もあります。無効なレコードタイプでもコンパクトレイアウトを割り当てることができます。

5. [使用するコンパクトレイアウト]ドロップダウンリストから、選択したセルに割り当てるコンパクトレイアウトを選択します。
6. [保存]をクリックします。

コンパクトレイアウトに関する注意事項

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

- 各レコードタイプに割り当てることができるコンパクトレイアウトは1つのみです。ただし、コンパクトレイアウトを複数のレコードタイプに関連付けることはできます。
- Salesforce の特定の項目へのアクセス権がない場合、コンパクトレイアウトにその項目は表示されません。
- コンパクトレイアウトには、1つ以上の項目が必要です。
- コンパクトレイアウトには、そのオブジェクトの項目のみを含めることができます。これには、別のオブジェクトへのクロスオブジェクト参照がある数式項目も含まれます。
- ページレイアウトから項目を削除しても、オブジェクトのコンパクトレイアウトからは削除されません。2つのレイアウトタイプは独立しています。
- コンパクトレイアウトの項目をサポートされていないタイプに変更した場合、その項目はコンパクトレイアウトから削除されます。
- オブジェクトのプライマリコンパクトレイアウトとして設定されているコンパクトレイアウトを削除するには、まずそのコンパクトレイアウトに置き換わる別のコンパクトレイアウトを選択する必要があります。
- Salesforce1 では、ToDo に自動的に状況および期日が表示されます。ToDo のコンパクトレイアウトをカスタマイズする場合、これらの項目を[選択済みの項目]リストに追加する必要はありません。

Salesforce1 の検索レイアウト

Salesforce1 アプリケーションでは、組織の検索結果検索レイアウトを使用して、検索結果に表示される項目が決定されます。

検索レイアウトには最大10個の項目を指定できますが、Salesforce1 検索結果にはオブジェクトの検索結果レイアウトから最初の4つの項目しか表示されません。組織の検索結果レイアウトの一部またはすべてで項目の順番を変更し、最も重要なデータがモバイルユーザに表示されるようにすることもできます。

iOS デバイス向けの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでは、レコード検索ページにリストされている最近の各レコードに、そのオブジェクトの検索結果レイアウトにあるレコードの名前と2番目の項目の値が表示されます。ユーザがレコード検索ボックスに検索語を入力すると、レイアウトの2番目の項目と「名前」項目での一致に基づいて、最近のレコードリストが絞り込まれます。これにより、ユーザは単純に名前が一致したものだけでなく、異なるオブジェクトまたはデータ値に関連付けられたレコードを表示できます。たとえば、取引先責任者オブジェクトの検索レイアウトにある2番目の項目が「取引先名」である場合、取引先責任者検索ページの検索ボックスに Acme を入力すると、Acme 取引先に関連付けられ、最近アクセスされた取引先責任者が表示されます。ただし、検索を実行すると、検索結果ページにはオブジェクトのいずれかの検索可能項目と一致するレコードが表示されます。

Salesforce1 アプリケーションのパブリッシャーアクション

パブリッシャーアクション機能を使用し、アクションを作成してそれらをパブリッシャーに追加することで、Salesforce1 のフィードおよびレコードビューに表示できます。[投稿]、[リンク]、および [アンケート] など、標準 Chatter アクションがパブリッシャーに表示される順番をカスタマイズできます。また、アクションレイアウトを使用して、各アクション内に含まれる項目と、それらの順序を指定することもできます。

Winter '14 には Salesforce1 用のモバイルスマートアクションが含まれており、これを使用して非常に簡単にモバイルユーザがパブリッシャーアクションを使用できるように設定できます。モバイルスマートアクションには、取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談の各ページ上、およびグローバルパブリッシャーレイアウト上の Salesforce1 パブリッシャーに追加されるアクションのセットが含まれています。これらには、関連オブジェクトに関して組織に必要なすべての項目が自動的に取り込まれます。Winter '14 には、モバイルデバイスで便利な、いくつかの新しい種類のパブリッシャーアクションも含まれています。

- 活動の記録アクションを使用すると、通話やその他の顧客とのやりとりの詳細を記録できます。
- 更新アクションを使用すると、レコードフィードからレコードを変更できます。
- カスタムキャンバスアクションを使用すると、パブリッシャーから直接キャンバスアプリケーションにアクセスできます。

詳細については、「[パブリッシャーアクション](#)」および「[モバイルスマートアクションの使用可能化](#)」を参照してください。

デフォルトアクションのほかに、ビジネスニーズに合わせて調整された固有のグローバルまたはオブジェクト固有パブリッシャーアクションを作成できます。Salesforce ヘルプの「[パブリッシャーアクションの設定](#)」を参照してください。

Salesforce1 ナビゲーションメニューのカスタマイズ

アプリケーション、標準メニュー項目、Visualforce ページ、またはフレキシブルページを選択して Salesforce1 ナビゲーションメニューを表示することで、モバイルでの Salesforce の操作性をカスタマイズします。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
Salesforce1 ナビゲーションをカスタマイズする	「アプリケーションのカスタマイズ」

Visualforce ページまたは フレキシブルページを Salesforce1 に組み込むには、[設定] で [作成] > [タブ] をクリックし、それらのためのタブを作成しておく必要があります。

組織の設定によって、Salesforce1 ナビゲーションメニューには次が含まれる場合があります。

- ダッシュボード — エディションおよびユーザ権限によって使用可能かどうかが決まります。
- フィード — Chatter を有効にしている組織に表示されます。
- フレキシブルページ — カスタム Salesforce1 アプリケーションホームページ。
- グループ — Chatter を有効にしている組織に表示されます。これがメニュー内の個別ノードとして組み込まれていない場合、スマート検索項目のセットに自動的に組み込まれます。
- 人 — Chatter を有効にしている組織に表示されます。これがメニュー内の個別ノードとして組み込まれていない場合、スマート検索項目のセットに自動的に組み込まれます。
- スマート検索項目 — 最近検索したオブジェクトのセットを表します。この項目によって、メニューの [最近] セクションのコンテンツが決まります。Salesforce フルサイトで実行された検索のみがこの要素のオブジェクトの順番に影響し、[最近] セクションには検索可能なオブジェクトのみが表示されます。Salesforce の [検索結果] 画面でユーザがオブジェクトを固定すると、それらのオブジェクトは [最近] セクションの上部に固定されます。
- ToDo — ユーザの未完了の ToDo、完了した ToDo、および代理 ToDo のリストです。
- Today — Salesforce の ToDo、取引先責任者、および個人取引先を使用して、モバイルデバイスから行動を統合するアプリケーションで、スケジュールの計画や管理に役立ちます。Salesforce1 for iPhone と Salesforce1 for Android Phones のダウンロード可能アプリケーションでのみ使用できます。
- Visualforce ページ



メモ: Salesforce モバイルアプリケーションで使用可能な Visualforce ページのみを Salesforce1 ナビゲーションメニューに追加できます。

1. [設定] から、[モバイル管理] > [モバイルナビゲーション] をクリックします。
2. [選択可能] リストで項目を選択し、[追加] をクリックします。
3. 項目を選択し、[上へ] または [下へ] をクリックして並び替えます。

[選択済み] リストに項目が配置される順番と同じ順番で、ナビゲーションメニューにそれらの項目が表示されます。



メモ: [選択済み] リストの最初の項目が、Salesforce1 のランディングページに表示されます。

4. [保存] をクリックします。

保存すると、ナビゲーションメニュー項目とそれらの順番が Salesforce1 に反映されます。変更を表示するために、更新する必要がある場合があります。




ヒント: メニュー項目を編成するときは、ユーザが最も必要になる項目を上部に配置します。スマート検索項目の要素は Mobile Experience で 8 つ以上のメニュー項目から成る 1 つのセットに拡張できます。また、メニューの上部付近にそれを配置すると、他の要素がスクロールポイントの下に押し下げられます。スマート検索項目の要素の下に配置したものはすべて、ナビゲーションメニューの [アプリケーション] セクションに表示されます。

Salesforce1 通知

Salesforce1 の通知を使用して、Salesforce で特定のイベントが発生した場合 (承認申請を受信した場合やメンションされた場合など) にユーザに知らせることができます。

Salesforce1 ユーザには次の 2 種類の通知が表示されます。

アプリケーション内通知は、ユーザが Salesforce1 を使用しているときに関連活動を常にユーザに知らせます。 アイコンをタップすると、最新の 20 件の通知にアクセスできます。

転送通知とは、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを使用していないときに、モバイルデバイスに表示されるアラートです。転送通知は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションではサポートされていません。これらのアラートは、デバイスの種類に応じて、テキスト、アイコン、音で構成されます。転送通知を受信するかどうかは選択できますが、システム管理者が転送通知を無効にしている場合は、ユーザが有効にすることはできません。



メモ: 一部の通知には、Salesforce でユーザが入力したテキストが含まれます。サードパーティサービスを通じて機密情報が配信されないようにするため、iOS デバイスへの転送通知にはユーザ名に関連する情報のみが含まれます。

たとえば、アプリケーション内通知が「Allison Wheeler さんがあなたにメンションしました: @John Smith さん、Acme 取引先を新しい納入先住所で更新してください。」であるとしします。iOS デバイスでのこの転送通知は、「Allison Wheeler さんがあなたにメンションしました」となります。

すべての通知を転送通知として受信できるわけではありません。

通知種別	アプリケーション内通知	転送通知
承認申請を受信した	✓	✓
誰かがあなたにメンションした	✓	✓
誰かがあなたのプロフィールに投稿した	✓	
誰かがあなたの投稿にコメントした	✓	

通知の有効化

組織のすべてのユーザが Salesforce のイベント (承認申請を受信した場合やメンションされた場合など) に関する Salesforce1 通知を受信できるようにします。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
通知設定を参照する	「設定・定義を参照する」
通知設定を変更する	「アプリケーションのカスタマイズ」

1. [設定] から、[モバイル管理] > [通知] > [設定] をクリックします。
2. Salesforce1 ユーザが受信する通知を選択します。
3. [保存] をクリックします。

ユーザはメール通知として承認申請を受信している場合にのみ、Salesforce1 通知で承認申請を受信できます。自分と自分のユーザは「承認申請メールを受信」ユーザ項目を変更して、この設定を指定できます。

[フレキシブルページ] タブの作成

Salesforce1 ナビゲーションメニューにフレキシブルページを含めるには、フレキシブルページのカスタムタブを作成する必要があります。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
カスタムタブを作成、編集する	「アプリケーションのカスタマイズ」



メモ:[フレキシブルページ] タブは、他のカスタムタブと同様には機能しません。作成後、現在のタブの右側に表示されるプラスアイコン(+)をクリックしても[すべてのタブ]ページに表示されません。また、[フレキシブルページ] タブでは、アプリケーションのタブをカスタマイズするときでも、[選択可能なタブ] リストが表示されません。

[フレキシブルページ] タブセクションを表示するには、組織に少なくとも 1 つのフレキシブルページが必要です。

1. [設定] で、[作成] > [タブ] をクリックします。
2. [フレキシブルページ] タブ関連リストで、[新規] をクリックします。
3. タブの [フレキシブルページ] を選択します。
4. 表示ラベルを入力します。

このテキストは、Salesforce1 ナビゲーションメニューのフレキシブルページの表示名です。

5. [タブスタイル] ルックアップアイコンをクリックして、[タブスタイルの選択] を表示します。

タブスタイルがすでに使用されている場合は、タブスタイル名の横に角括弧 [] で囲まれた数字が表示されます。スタイル名上にマウスポインタを置き、そのスタイルを使用しているタブを参照します。タブで未使用のスタイルのみを表示するには、[他のタブで使用されているスタイルを非表示] をクリックします。

6. タブスタイルをクリックして、[フレキシブルページ] タブの配色とアイコンを選択します。

ここで選択したアイコンは、Salesforce1 ナビゲーションメニューのフレキシブルページのラベルの左側に表示されるアイコンです。

カスタムタブスタイルを作成したい場合に、組織に [ドキュメント] タブへのアクセス権があれば、必要に応じて、[タブスタイルの選択] ダイアログにある [独自のスタイルを作成] を選択します。自分専用のタブスタイルを作成する手順は、次のとおりです。

- a. [色] ルックアップアイコンをクリックして色選択ダイアログを表示し、色をクリックして選択します。
- b. [画像の挿入] をクリックしてドキュメントフォルダを選択し、使用する画像を選択します。

または、[ドキュメント検索] をクリックして検索語を入力し、[Go!] をクリックすると、検索語を含むドキュメントファイル名が表示されます。



メモ: このダイアログでは、20 KB 以下で、かつ、ドキュメントプロパティ設定で [外部参照可] チェックボックスがオンになっているドキュメントフォルダに含まれるファイルのみが表示されます。アイコンに使用されているドキュメントが削除されると、Salesforce によってデフォルトの多色のブロックアイコン (📁) に置き換えられます。

- c. ファイルを選択し、[OK] をクリックします。新規カスタムタブウィザードが表示されます。

7. 必要に応じてタブの説明を入力し、[次へ] をクリックします。

8. 新規カスタムタブを使用できるユーザプロファイルを選択する手順は、次のとおりです。

- [1つのタブ表示をすべてのプロファイルに適用する] を選択し、ドロップダウンリストから [デフォルトで表示]、[デフォルトで非表示]、または [タブを隠す] を選択します。
- または、[プロファイルごとに異なるタブ表示を適用する] を選択し、各プロファイルのドロップダウンリストから [デフォルトで表示]、[デフォルトで非表示]、または [タブを隠す] を選択します。



メモ: フレキシブルページの [デフォルトで表示] オプションおよび [デフォルトで非表示] オプションは、他のタブの場合と同様には機能しません。[デフォルトで表示] または [デフォルトで非表示] のどちらを選択しても、Salesforce1 で選択したプロファイルの [フレキシブルページ] メニュー項目が表示されます。[タブを隠す] オプションを選択すると、Salesforce1 で選択したプロファイルの [フレキシブルページ] メニュー項目が非表示になります。

9. [保存] をクリックします。

Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い

Salesforce1 アプリケーションには Salesforce フルサイトのすべての機能はありません。また、フルサイトでは使用できない機能がいくつかあります。

違いは、次の領域にあります。

- サポートされる Salesforce データ
- Chatter フィード、グループ、およびプロファイル
- 情報の検索
- レコードの作成と編集
- ToDo と行動
- 承認申請

- ・ [通知](#)
- ・ [新しい Today 機能](#)
- ・ [サポートされる Salesforce のカスタマイズ](#)

Salesforce データの操作の違い

現在、Salesforce1 では次の機能をサポートしています。

- ・ [「Salesforce1 でサポートされているデータ」](#)に記載されているオブジェクト以外のオブジェクト
- ・ 標準またはカスタム Salesforce アプリケーション (代わりに、ナビゲーションメニューでは、Salesforce1 でサポートされている標準オブジェクトおよび Salesforce アプリケーションの 1 つに含まれているすべてのカスタムオブジェクトを含む、モバイルアプリケーションでユーザが使用できるすべてのオブジェクトに対するユーザアクセス権を付与されます)。
- ・ 取引先、取引先責任者、キャンペーン、ケース、グループ、およびカスタムオブジェクト以外のオブジェクトのリストビュー
- ・ 次のようなレコード項目
 - ◇ ディビジョン項目
 - ◇ リッチテキストエリア項目
 - ◇ テリトリーマニagment項目
- ・ 数式項目のリンク
- ・ [レコード詳細ページ] のデフォルトのカスタムリンク
- ・ Salesforce Communities。
- ・ Salesforce コンソール、エージェンツコンソール、またはケースおよび Live Chat トランスクリプト以外のその他の Service Cloud 機能
- ・ 高度な通貨管理

関連リスト

- ・ Salesforce1 アプリケーションの関連リストは参照のみです。新規関連レコードを作成する機能を含む関連リストのアクションボタンは使用できません。
- ・ 次を含む一部の関連リストはこのリリースでは使用できません。
 - ◇ コンテンツ配信
 - ◇ 外部共有
 - ◇ 関連コンテンツ

特定のオブジェクトで使用できない関連リストについては、次のセクションを参照してください。

- ・ レコードに添付されているファイル、メモ、添付ファイル、および Google ドキュメントは特定のレコードの関連リストに表示されます。子レコードのファイル、メモ、添付ファイル、および Google ドキュメントは親のレコードの関連リストには表示されません。レコードの関連リストにメモを追加することはできません。また、関連リストからファイル、メモ、添付ファイル、および Google ドキュメントを削除することはできません。

取引先と取引先責任者

- ・ ソーシャル取引先は使用できません。ただし、取引先がソーシャルネットワークプロフィールにリンクされている場合、選択されているプロフィールの画像が、Salesforce1 でその取引先を表示している場合に表示される可能性があります。LinkedIn にログインしたときに表示される LinkedIn のプロフィール画像、Facebook または Twitter の画像は、その時点でそれらのネットワークにログインしていない場合でも表示されます。Salesforce1 では他のプロフィール画像に切り替えることはできません。
- ・ [コピー]、[外部取引先の管理]、および [パートナーとして有効化] ボタンは使用できません。
- ・ 取引先階層を表示することはできません。
- ・ 取引先責任者をマージしたり、新規取引先責任者、商談、ケース、パートナー、メモと添付ファイル、または取引先ユーザを追加することはできません。
- ・ 取引先チーム、パートナー、およびケースチームを表示することはできますが、それらを編集することはできません。
- ・ レポートおよびツールは使用できません。

キャンペーン

- ・ [メンバーの管理] ボタンおよび [高度な設定] ボタンは使用できません。
- ・ キャンペーン階層は、関連リストとしてのみ使用できます。キャンペーン詳細ページのリンクから [階層の表示] へのオプションは使用できません。親キャンペーンを表示するとき、[キャンペーン階層] 関連リストには子キャンペーンのみが表示されます。一方、フルサイトには親と子の両方のキャンペーンが表示されます。

ケース

- ・ ケースフィードのレイアウトおよび、[メール]、[ポータル]、[ケースのメモ]、[ケース状況の変更]を含むケースフィード固有のボタンおよび [活動の記録] のケースフィードのバージョンは Salesforce1 アプリケーションではサポートされていません。Salesforce フルサイトのケースフィードのレイアウトに割り当てられているユーザには、モバイルアプリケーションの標準ケースレイアウトが表示されます。
- ・ [サービス契約] 関連リストおよび [契約品目] の関連リストの一部の項目は使用できません。
- ・ 次のケースの関連リストは使用できません。
 - ◇ 休日の営業時間リスト
 - ◇ ケース取引先責任者の役割
 - ◇ マイルストーンリスト
 - ◇ ソリューションリスト
 - ◇ チームメンバーリスト
 - ◇ チームのチームメンバーリスト
 - ◇ チームテンプレートメンバーリスト

取引先責任者

- ・ ☒ アイコンを使用して Salesforce1 アプリケーションからメールを送信する場合は活動ログは作成されません。
- ・ ソーシャル取引先責任者は使用できません。ただし、取引先責任者がソーシャルネットワークプロフィールにリンクされている場合、選択されているプロフィールの画像が、Salesforce1 でその取引先責任者を表示しているときに表示される可能性があります。LinkedIn にログインしたときに表示される LinkedIn のプロフィール画像、Facebook または Twitter の画像は、その時点でそれらのネットワークにログインしていない場合でも表示されます。Salesforce1 では他のプロフィール画像に切り替えることはできません。
- ・ [コピー] ボタン、[登録情報照会] ボタン、[外部ユーザの管理] ボタン、および [カスタマーユーザを有効化] ボタンは使用できません。

- ・ 商談、ケース、メモと添付ファイル、または取引先ユーザを取引先責任者に追加することはできません。
- ・ Data.com から取引先責任者を追加したり、Data.com クリーンアップを使用して取引先責任者をクリーンアップすることはできません。

契約

- ・ [コピー]、[有効化]、および [無効化] ボタンは使用できません。
- ・ 次の契約の関連リストは使用できません。
 - ◇ 契約履歴
 - ◇ 未承認申請

ダッシュボード

- ・ ダッシュボードは参照のみです。
- ・ 条件およびソースレポートは使用できません。
- ・ 動的ダッシュボードでは、ユーザは自分自身としてのみデータを表示できます。
- ・ ダッシュボードの Chatter フィードを使用することはできず、ダッシュボードまたはコンポーネントをフィードに投稿することもできません。

ファイル、添付ファイル、およびコンテンツ

- ・ 投稿またはコメントにファイルを追加することはできませんが、Salesforce フルサイトの更新に投稿されたファイルを表示することはできます。また、Salesforce1 のフィードで利用できるファイルのサムネールはありません。代わりに、可能な場合はファイルの種類のアイコンが表示されます(たとえば、PDFの添付ファイルには専用の PDF アイコンがあります)。
- ・ Salesforce CRM Content は使用できません。

リード

- ・ [取引の開始]、[重複の検索]、および [レコードのロック解除] ボタンは使用できません。
- ・ ソーシャルリードは使用できません。
- ・ [リード履歴] 関連リストは使用できません。
- ・ 新しいリードを追加する場合は、[キャンペーン] 項目および [有効な割り当てルールによりケースを割り当てる] チェックボックスを使用することはできません。Salesforce フルサイトでは次の項目に値を追加できます。

Live Chat のトランスクリプト

- ・ Live Chat のトランスクリプトは参照のみです。Salesforce1 ではリッチテキストエリアはサポートされていないため、トランスクリプトレコードで [内容] 項目を表示することはできません。

商談

- ・ [競合]、[見積]、および [商談チーム] ボタンは使用できません。
- ・ [商談の分割] 金額項目、[商品] 小計項目、および [フェーズの履歴] 接続項目は使用できません。
- ・ [類似商談] 関連リストは使用できません。
- ・ これらの関連リストは使用できます。ただし、これらのリストではレコードプレビューカードのみが表示されますが、リストレコードをタップして開くことはできません。
 - ◇ キャンペーンの影響
 - ◇ 競合

- ◇ 商談分割
- ◇ 商品
- ◇ フェーズの履歴
- 「確度」または「売上予測分類」項目は編集できません。ただし、レコードを保存するときに、項目値は（「商談フェーズ」項目の値に基づいて）自動的に入力されます。Salesforce フルサイトでは次の項目の値を手動で編集できます。

Chatter の使用の違い

Salesforce1 アプリケーションで Chatter を使用する場合、次を行うことはできません。

- プロファイル情報を作成または更新する、あるいはプロファイルの写真をアップロードする。
- カスタムプロファイルを使用する。
- フォローされている人、フォローしている人およびレコードを参照する（この機能は、iOS デバイスの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションで使用できます）。
- Chatter メッセージを送信または表示する。
- Chatter 活動統計または Chatter 影響度状況を表示する。
- Chatter のおすすめを受信する。
- トピックのトレンドを表示する。
- 同僚を Chatter へのサインアップに招待する。
- Files を介してアップロードされたファイル、またはコメントにアップロードされたファイルを表示またはダウンロードする。ただし、Chatter フィードの投稿に添付されているファイルは表示できます（Salesforce1 は、次のファイルの種類のみを表示できます。.doc、.docx、.pdf、.ppt、.pptx、.xls、.xlsx、および .gif、.jpg、.png 形式を含むすべての画像ファイル）。
- 公開投稿を共有する。
- Chatter のお気に入りを追加または表示する。
- レコードを絞り込む。
- Android 端末で Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションまたは Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの Chatter フィードを検索する。
- 新しいグループを作成する。
- グループファイルのリストを表示するか、グループのファイルを投稿する。
- 組織の少なくとも 1 名のユーザが Salesforce1 のグループを訪問するまでグループリストビューを表示する。
- Chatter 顧客を非公開グループに招待する。
- グループ所有者およびマネージャの次を含む機能を使用する。
 - ◇ グループ設定、情報、アクセスレベルを変更する
 - ◇ グループからメンバーを追加または削除する
 - ◇ グループをアーカイブする
 - ◇ アーカイブ済みグループを有効化する

情報検索における相違点

Salesforce を初めて使用し、最近使ったデータの履歴がまだない場合は、最初にナビゲーションメニューの [最近] セクションに次のオブジェクトが表示されます。

- 取引先
- ケース
- 取引先責任者
- ファイル (いずれかのダウンロード可能なアプリケーションを使用し、Chatter が有効になっている場合)
- グループ (ナビゲーションメニューに直接追加されていない場合)
- リード
- 商談
- ユーザ (ナビゲーションメニューに直接追加されていない場合)

Salesforce や Salesforce1 アプリケーションの使用時間が増えていくと、最も頻繁に使用するオブジェクトが [最近] セクションに表示されるようになります。

Salesforce1 で使用できるようにするには、ナビゲーションメニュー、検索の開始時に表示される最近アクセスしたレコードのリスト、または検索結果で、オブジェクトを標準またはカスタムの Salesforce アプリケーションに含める必要があります。これは、サポートされる標準オブジェクトと組織のカスタムオブジェクトについても当てはまります。

Salesforce1 で検索を行う場合、次の操作を行うことはできません。

- デビジョンでの検索★
- 進行中の検索のキャンセル
- 検索結果の並べ替えまたは絞り込み
- 頻繁に使用する項目の PIN
- Android 端末で Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションまたは Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの Chatter フィードを検索する。

また、リストビューはグローバル検索またはレコード検索による検索結果には含まれません。リストビューを検索するには、レコード検索ページを開いて、検索条件を入力します。入力すると、一致する項目のリストが展開され、最近アクセスしたもののみでなく、そのオブジェクトに対してアクセスできるリストビューが表示されます。

レコードの作成と編集における違い

新規レコードの追加または既存のデータの更新時には、Salesforce フルサイトと Salesforce1 アプリケーションでいくつかの相違点があります。

カテゴリ	問題	レコードの作成	レコードの編集
すべてのレコード	インライン編集は使用できません。	✓	✓
	レコードの所有者とそのレコードタイプは変更できません。		✓

カテゴリ	問題	レコード の作成	レコード の編集
	地理位置情報カスタム項目にはデータを入力できません。	✓	✓
	コンボボックス (選択リストとテキスト項目の組み合わせ) は使用できません。通常、テキスト項目は使用できますが、選択リストは使用できません。	✓	✓
	リッチテキストエリア項目にデータを入力することはできません。	✓	✓
	テリトリーマンを有効化している場合、レコードのテリトリールールを割り当てたり、変更したりすることはできません。	✓	✓
取引先と取引先責任者	[住所(請求先)を住所(納入先)へコピー] リンクおよび [住所(郵送先)を住所(その他)へコピー] リンクは使用できません。	✓	✓
	テリトリーマンが有効になっている場合、取引先レコードを編集するときに [保存時にこの取引先をテリトリールールに照らして評価します] オプションを使用できません。		✓
行動	行動所有者は、行動の招待者または関連するリードまたは取引先責任者を変更、追加または削除することはできません。		✓
	招待された行動を受諾または却下することはできません。		✓
	Shared Activities を使用して複数のオブジェクトを行動に関連付けることはできません。	✓	✓
リード	新しいリードを追加する場合は、[キャンペーン] 項目および [有効な割り当てルールによりケースを割り当てる] チェックボックスを使用することはできません。フルサイトでは次の項目に値を追加できます。	✓	
商談	[確度] または [売上予測分類] 項目は編集できません。ただし、レコードを保存するときに、これらの項目には値が ([フェーズ] 項目の値に基づいて) 自動的に追加されます。フルサイトでは次の項目の値を手動で編集できます。	✓	✓
ToDo	[件名] 項目に、すでに定義されている件名の選択リストは含まれません。	✓	✓
	[名前] 項目が [リード] に設定されている場合、[関連先] 項目が引き続き編集可能です。ただし、レコードを保存するときに [関連先] 項目にデータが含まれている場合はエラーが表示されます。	✓	✓
	関連付けられた取引先責任者の [メール] 項目および [電話] 項目は表示されません。	✓	✓
	Shared Activities を使用して複数のオブジェクトを ToDo に関連付けることはできません。	✓	✓
	定期的な ToDo を作成したり、定期的な ToDo の詳細を変更することはできません。	✓	✓
	[コメント] 項目のスペルチェックは使用できません。	✓	✓

カテゴリ	問題	レコード の作成	レコード の編集
	添付ファイルは追加できません。	✓	✓
	通知メールを送信することはできません。	✓	✓
	ToDo アラームを設定することはできません。	✓	✓
参照項目	拡張ルックアップはサポートされないため、ルックアップ検索にワイルドカードを使用できません。また、検索結果の並び替え、フィルタ、ページ操作はできません。	✓	✓
	連動ルックアップはサポートされません。	✓	✓
	ルックアップフィルタは考慮されないため、ルックアップ検索結果を絞り込む方法はありません。組織で有効ではない項目を選択することになり、レコードを保存するときにエラーメッセージが表示される可能性があります。	✓	✓
電話番号項目	電話番号項目にはキーパッドが表示されます。そのキーパッドで電話番号をタップします。キーパッドには括弧、ハイフン、またはピリオドは含まれていません。また、Salesforce1 では、レコードの保存時に電話番号形式が適用されません。特定の電話番号形式を適用するには、フルサイトでレコードを編集します。	✓	✓
選択リスト項目	制御と連動選択リストはサポートされますが、Salesforce1 ではこれらの項目の作成と編集のページにインジケータは表示されません。選択リスト項目が連動関係にあるかどうか、どの選択リスト項目がそれを制御しているかを判定するには、フルサイトに切り替えてください。	✓	✓

活動の追跡における違い


行動

- アーカイブされた行動は使用できません。また、Shared Activities を使用して複数のオブジェクトを行動に関連付けることはできません。
- 招待された行動を受諾または却下することはできません。
- [招待者] 関連リストの表示が Salesforce フルサイトのコンテンツとは少し異なります。フルサイトでは、[招待者] リストには行動所有者および、招待者ではない関連する取引先責任者およびリードが含まれています。Salesforce1 では、[招待者] 関連リストには招待者のみが含まれています。Salesforce1 のフルサイトの機能を複製するには、次のクエリを使用します。


```
select relation_id from CORE.activity_relation where
master_activity_id in (select master_activity_id from
CORE.activity_relation where child_activity_id='[EVENT_ID]')
```

ここで、`EVENT_ID` は下位行動の ID です。このクエリでは主要な行動のリレーションを取得し、特定の下位行動でのそれらのリレーションを表示します。WHERE 句を追加して、結果をさらに絞り込むことができます。

- 関連リストの各行動には、次の情報が表示されます。

- ◇ 項目を行動として識別する  アイコン
- ◇ 行動のタイトル
- ◇ 開始日時
- ◇ 組織の設定に応じて、最大 3 つの項目

ToDo

- ・ アーカイブされた ToDo はサポートされていません。また、Shared Activities を使用して複数の取引先責任者を ToDo に関連付けることはできません。
- ・ 新規 ToDo、編集された ToDo、および削除された ToDo はリストを更新するまで ToDo リストには表示されません。☐ アイコンをタップして ToDo を閉じると、リストが更新されるまで ToDo はチェックマークが付いた状態で表示されます。
- ・ ToDo リストでは、優先度の高い ToDo の並び替えは、優先度選択リストの項目の順序で決まります。
- ・ 表示する ToDo が多いほど、また、ToDo が持つ他のレコードへのリレーションが多いほど、Salesforce1 アプリケーションで ToDo を表示したり、その他の機能を使用するのにより時間がかかる可能性があります。
- ・ ToDo レイアウトには、ToDo の操作をより簡単にする独自の要素がいくつかあります。これらの要素はユーザが変更できないためコンパクトレイアウトには表示されませんが、次の要素は常に確認できます。
 - ◇ ☐ アイコンおよび ☒ アイコンでは、ToDo の編集権限のあるユーザに IsClosed 項目の状況を表します。
 - ◇  アイコンは、優先度高 (カスタムの優先度高を含む) とマークされている ToDo を表します。
 - ◇ すべての ToDo の件名が表示されます。
 - ◇ すべての ToDo の期日 (存在する場合) が表示されます。
 - ◇ ToDo には主取引先責任者および取引先、またはその他のレコード (それらが存在する場合) が含まれています。

組織の設定に応じて、各リストの項目が異なる場合があります。

新しいコンパクトレイアウト機能を使用して、ユーザが ToDo レコードのレイアウトおよび ToDo リストの ToDo を制御します。通常どおり、ページレイアウトエディタを使用してユーザが関連リストを制御します。件名項目または期日項目のどちらをレイアウトに追加しても、ToDo の表示は変更されません。これらの項目は 2 回表示されることはありません。

Salesforce1 では、ToDo の組み込み要素の下に最大 3 つの追加項目が表示されます。

- ◇ ToDo のデフォルトのコンパクトレイアウトでは、リードまたは取引先責任者の名前と、商談、取引先、または ToDo が関連付けられているその他のレコードという 2 つの項目が含まれます。
- ◇ [活動] 関連リストでは、ToDo の項目は表示しているレコードタイプ、およびそのオブジェクトのレイアウトの定義方法に応じて異なります。

詳細は、「[コンパクトレイアウトの概要](#)」を参照してください。

承認での違い

次の承認関連のオプションは Salesforce1 アプリケーションでは使用できません。

- ・ レコードの承認申請
- ・ 承認申請の取り消し
- ・ 承認申請の再割り当て

- ・ レコードビューからの承認申請へのアクセス。承認者は、代わりに、Salesforce1 通知をタップする必要があります。
- ・ 次の承認者の手動での選択 この手動での選択を必要とする承認申請では、承認者は Salesforce フルサイトにログインする必要があります。

その他に、次の操作を実行できます。

- ・ [承認履歴] 関連リストにコメントは表示されません。
- ・ [未承認申請] 関連リストは使用できません。
- ・ Salesforce1 での承認申請通知は、キューには送信されません。個人ユーザがモバイルアプリケーションで承認申請通知を受信できるように、キューを伴う各承認ステップで、割り当てられた承認者としてそれらの個人ユーザを追加することをお勧めします。割り当てられた承認者としてキューと個人ユーザの両方を設定するには、承認ステップで [自動的にキューに割り当てる] の代わりに [自動的に承認者に割り当てる] を選択します。
- ・ 承認申請の Salesforce1 通知は、承認対象のレコードへのアクセス権を持つユーザのみに送信されます。レコードアクセス権のない割り当て先にも承認通知メールが引き続き送信される場合がありますが、他のユーザによってレコードアクセス権が付与されるまで、承認申請を完了することはできません。

Salesforce1 アプリケーションの通知

- ・ アプリケーションの通知リストには、最新の 20 個の通知が表示されます。
- ・ サードパーティサービスを通じて機密情報が配信されることがないようにするため、iOS デバイスへの転送通知に含まれる顧客データはユーザ名のみとなっています。
- ・ 通知には、[ストリーミング API の制限](#)が適用されます。

Today の使用

Today は、Android 端末や iPhone デバイス向けの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションで利用できる新機能です。これは、Salesforce フルサイトでは使用できません。

Today を使用する場合、次の点に留意してください。

- ・ モバイルデバイスの選択したカレンダーからローカルの行動を表示できますが、Salesforce の行動はこのリリースでは使用できません。
- ・ 一部またはすべてのカレンダーサーバーによってデータが自動的にデバイスに転送されない場合、カレンダーを更新して Today に最新情報を表示する必要があります。
- ・ 24 時間形式はサポートされていません。
- ・ 複数日の行動を表示すると、終了日時のみが [特長] 領域に表示されます。
- ・ 定期的な複数日の行動の場合、間違った日時が表示される場合があります。
- ・ リストが長すぎるためカレンダーに招待者の名前が表示されない場合、Today では行動カードに「招待者 1 人」というカウントが表示され、行動を開いても招待者は表示されません。
- ・ 行動に招待者が含まれておらず、メモもない場合、詳細ページのみが表示されます。
- ・ Today では、リンクで <http://>、<https://>、または www プロトコルが使用されている場合、行動ホームページのメモカードでリンクがサポートされます。ただし、行動詳細ページの [メモ] 項目ではリンクは無効になります。
- ・ ミーティング主催者の承諾状況は iPhone デバイスに表示されません。

- iCloud API はメールアドレスを返さないため、Today は iCloud 行動のミーティング主催者に対して一致する Salesforce レコードを検出できません。
- Android デバイスでは、ミーティング主催者の一致する Salesforce レコードがない場合、その主催者の名前が正しく表示されないことがあります。
- Android デバイスで、Microsoft Exchange® の行動のミーティング主催者が招待者でもある場合、その主催者がカードの招待者と招待の両方に表示されます。その主催者の承諾状況が複数の場所に表示され、情報が不正確になる可能性があります。また、主催者の一致する Salesforce レコードがあり、行動ページが正しく表示されない場合があります。
- Chatter Free ユーザと Chatter 顧客のユーザライセンスの種類には取引先責任者または個人取引先へのアクセス権がないため、それらのユーザは Today にアクセスできません。

Salesforce のカスタマイズのサポート


- カスタムホームページ
 - ◇ Salesforce1 では、Salesforce フルサイトが実行するような、Salesforce アプリケーションまたはカスタムホームタブへのログイン時のリダイレクトをサポートしていません。モバイルブラウザから Salesforce にログインするユーザがこのリダイレクト機能を引き続き利用する場合は、[Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション](#)をオフにしてください。この操作は、ユーザごとまたは組織全体に対して実行できます。
- Visualforce ページ
 - ◇ Visualforce ページによって上書きされた標準タブ、カスタムオブジェクトタブ、およびリストビューは、Salesforce1 ではサポートされません。Visualforce ページはフルサイトのユーザに表示されますが、Salesforce1 ユーザには、代わりにオブジェクトのデフォルトの Salesforce1 ページが表示されます。この制限は、オブジェクトに対する Salesforce1 の操作性を維持するために設定されています。
- フレキシブルページ
 - ◇ フレキシブルページには 25 個を超えるコンポーネントは追加できません。
 - ◇ 最近使ったデータコンポーネントでは、標準オブジェクトはサポートされていません。
- プログラムによるカスタマイズ
 - ◇ Web タブおよび Sコントロールの UI へのプログラムによるカスタマイズはサポートされていません。

フレキシブルページとは?

フレキシブルページはカスタムレイアウトの一種です。

フレキシブルページは、ページレイアウトと Visualforce ページの中間に位置します。ページレイアウトと同様、フレキシブルページではページにカスタム項目を追加できます。ただし、ページレイアウトとは構造が異なり、カスタム項目はすべてコンポーネントです。

フレキシブルページを使用して、サードパーティアプリケーションのホームページを作成し、そのホームページを Salesforce1 モバイルナビゲーションに直接追加できます。この処理により、Salesforce ユーザがモバイルホームページを使用して、そのアプリケーションで最も重要なオブジェクトと項目にすばやくアクセスできます。

さらに、フレキシブルページ XML でグローバルパブリッシャーアクションを指定することで、フレキシブルページにそれらのアクションを割り当てることもできます。ユーザがフレキシブルページで  をタップすると、パブリッシャーに割り当てたすべてのグローバルアクションが表示されます。

フレキシブルページについて

フレキシブルページは、*ComponentInstances* を含む、「main」という名前の単一範囲のリストで構成されます。*ComponentInstance* には、特定のコンポーネントのインスタンスのプロパティセット (インスタンスがどのコンポーネントを参照するかなど)、およびコンポーネントの属性のサブセットを表す名前/値のペアのセットが含まれます。

使用可能なコンポーネント

一部のコンポーネントは *ComponentInstance* で指定できません。コンポーネントが許可されている場合でも、そのすべての属性を指定できるとは限りません。現在、2つのコンポーネントがフレキシブルページで使用できます。

flexipage:filterListCard

リストビューを参照し、そのビューから最初の数レコードを表示します。

`flexipage:filterListCard` コンポーネントでは、次の項目のみがサポートされています。

- カスタムオブジェクト
- 取引先
- キャンペーン
- ケース
- コラボレーショングループ
- 取引先責任者
- 契約
- リード
- Live Chat のトランスクリプト
- 商談

flexipage:recentItems

指定されたプロパティに基づく、特定のカスタムオブジェクトのみの最近使用した項目のリストです。

フレキシブルページに含めることができる要素

フレキシブルページには、次を含めることができます。

- リストビューを表示するコンポーネント
- 最近使用した項目の範囲が指定されたリストを表示するコンポーネント
- グローバル Chatter パブリッシャーアクション

SalesforceA

モバイルデバイスからユーザを管理し、Salesforce 組織の情報を参照できます。

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、**Performance** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
SalesforceA を使用する	「ユーザの管理」

SalesforceA モバイルアプリケーションは、Salesforce システム管理者に高い柔軟性を提供します。SalesforceA では、ユーザの詳細の編集、パスワードのリセット、権限セットの割り当て、ユーザアカウントのロック解除、凍結、および無効化など、重要なユーザ管理タスクをすべてモバイルデバイスから実行できます。

SalesforceA のサポートデバイス

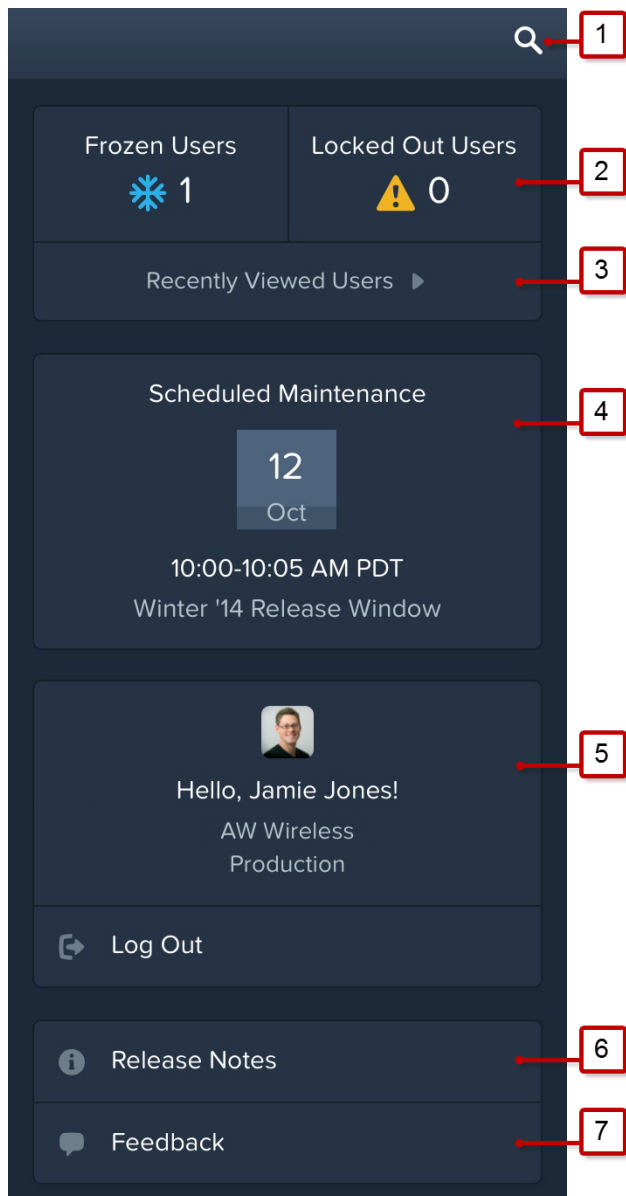
SalesforceA は無料で、次のデバイスで使用できます。


- OS 2.2 以上の Android 端末またはタブレット
- iOS 5.0 以上の Apple iPhone および Apple iPod Touch

www.salesforce.com/mobile/、Apple App Store、または Google Play から SalesforceA をダウンロードします。

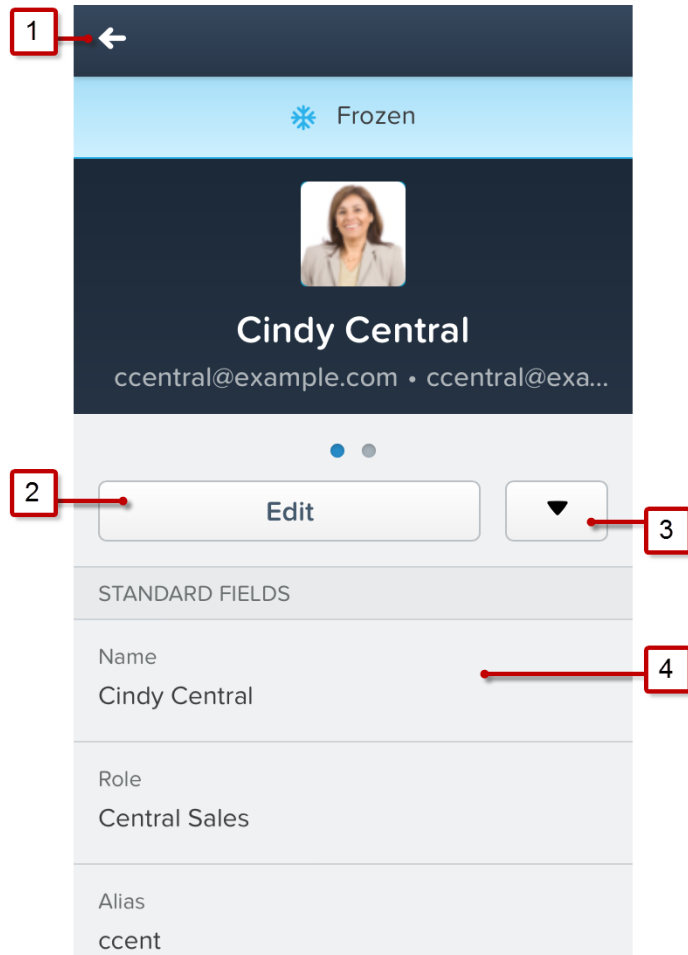
SalesforceA ナビゲーションの基本

ホーム画面には次の項目と実行できるタスクがあります。



1.  をタップして組織のユーザを検索できます。検索ボックスにユーザ名の数文字を入力し、表示されたリストからユーザを選択します。
2. [凍結されたユーザ] または [ロックアウトされたユーザ] をタップすると、凍結またはロックされたユーザアカウントのリストが開きます。そのリスト内のユーザをタップして、ユーザの詳細を参照したり編集したりできます。
3. [最近参照したユーザ] をタップすると、最近参照したユーザのリストが開きます。
4. 次回の定期メンテナンスの日付、時間、および種別が表示されます。
5. ログインしているユーザ名、組織名、組織の種別が表示されます。アカウントからログアウトするには、[ログアウト] をタップします。
6. [リリースノート] をタップすると、最新のリリースノートが HTML 形式で表示されます (HTML 形式のリリースノートは現在ベータ版です)。
7. [フィードバック] をタップすると、簡単な調査が表示されます。

ユーザ画面には次の項目と実行できるタスクがあります。



1. をタップすると、ホーム画面に戻ります。
2. [編集] をタップしてユーザの詳細を更新できます。
3. 下向き矢印をタップして、ユーザのパスワードのリセット、権限セットの割り当て、またはユーザアカウントのロック解除 (ロックされている場合)、凍結、無効化を実行できます。
4. ボタンの下の任意の場所で左にスワイプすると、割り当てられた権限セットとログイン履歴が表示されます。右にスワイプすると、ユーザの詳細に戻ります。

他のインスタンスに接続する


デフォルトでは、SalesforceA は本番環境に接続するように設定されます。SalesforceA を Sandbox 環境またはカスタムホストに接続するように設定できます。

iPhone または iPod Touch から接続する手順は、次のとおりです。

1. ホーム画面から、[設定] をタップします。
2. 下へスクロールして [SalesforceA] をタップします。
3. [接続] で [ログインホスト] をタップしてから、ホストを選択します。

4. [カスタムホスト]を選択した場合、SalesforceA をタップして [SalesforceA] の [設定] ページに戻り、[カスタムホスト] 項目にホスト名を入力します。
5. [設定] をタップして [設定] ページに戻ります。

Android 端末から接続する手順は、次のとおりです。

1. SalesforceA アプリケーションをタップして開きます。
2.  をタップしてから、[サーバを変更] をタップします。
3. ホストを選択します。

必要に応じてホストを追加する場合は、[接続を追加] をタップし、ホスト名と URL を入力してから、[適用] をタップします。URL は `https://` で始まる必要があります。

SalesforceA の制限事項

SalesforceA のユーザ画面は、Salesforce フルサイトのユーザの詳細ページとは次の点で異なります。

- ・ ユーザ画面には、フルサイトのユーザの詳細ページに表示される次の項目が表示されません。

- ◇ ユーザライセンス
- ◇ コールセンター
- ◇ 代理承認者

- ・ 日本 (日本語) ロケールのユーザの場合、住所は次の形式で表示されます。

Street
City, State/Province Zip/Postal Code Country

- ・ ユーザ画面には、フルサイトのユーザの詳細ページには表示されない、参照のみの「ユーザ種別」項目が表示されます。「ユーザ種別」はユーザライセンスのカテゴリです。

Salesforce1 にアップグレードされた Salesforce Touch

Salesforce Touch は、新しい Salesforce1 環境に対応するようにアップグレードされます。新しいアプリケーションでは、使い慣れた Salesforce Touch 機能をそのまま使用でき、更新されたインターフェースで必要なものを簡単に見つけて、作業をより迅速に行えます。さらに、Salesforce1 では、多数の新しい拡張機能を使用してさらに多くの操作を実行できます。

- ・ リンクの投稿、アンケートの投稿および投票、フィードの並び替え、投稿のブックマークなどの、拡張された Chatter 機能。Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションには、Salesforce Files へのアクセス権も含まれています。
- ・ ビジネスニーズに沿ったカスタムアクションを追加するための、デフォルトのパブリッシャーアクションのセットとオプションが含まれた Chatter パブリッシャー。
- ・ リストビュー、拡張グローバル検索、およびオブジェクト固有の検索。
- ・ 新しい Today 機能。これを使用して、ミーティングを準備したり、カンファレンスコールにすばやく参加したり、ミーティング場所への道順を取得したりできます。

- さまざまな種類の ToDo リストと、ToDo をクローズおよび再オープンする機能が備わった、改善された ToDo。
- 新しいアプリケーション内通知と転送通知。
- カスタムアプリケーションとサードパーティアプリケーションをナビゲーションメニューまたはパブリッシャーに統合する機能。
- Android 端末、および iPad デバイスや iPhone デバイスのサポート。



メモ: Salesforce1 には Salesforce Communities がまもなく導入されます。組織で Salesforce Touch を使用して Communities にアクセスしている場合、Salesforce Touch モバイルブラウザアプリケーションは Salesforce1 が Communities をサポートしている限り使用できます。

新しい Salesforce モバイル環境と、ユーザに合わせて Salesforce1 アプリケーションの最適化を開始する方法の詳細については、「[Salesforce1](#)」を参照してください。

Salesforce1 への移行は、組織での Salesforce Touch の使用状況に応じて異なります。

- モバイルブラウザアプリケーションユーザの場合、移行はシームレスに行われます。2013 年 11 月 18 日に Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションは組織で自動的に有効になり、サポートされているモバイルブラウザから Salesforce にログインするユーザは新しい Salesforce1 インターフェースに自動的にリダイレクトされます。

新しいモバイル環境のための準備時間が必要な場合は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを無効にして、Salesforce Touch を使用するように戻すことができます。詳細は、「[Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションへの Salesforce Touch ユーザの移行](#)」を参照してください。

- ダウンロード可能アプリケーションのユーザは、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションをダウンロードしてインストールするように促すアプリケーション内通知を受け取ります。

Salesforce1 へのアップグレードは Spring '14 リリースで完了し、その時点で Salesforce Touch インターフェースは無効になります。

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションへの Salesforce Touch ユーザの移行

2013 年 11 月 18 日に、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションは組織で自動的に有効になります。



メモ: 組織で Salesforce Touch を使用して Salesforce Communities にアクセスしている場合、2013 年 11 月 18 日に Salesforce1 へのアップグレードは行われません。Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで Communities のサポートを使用できる限り、Salesforce Touch のアクセスは変更されません。

組織の Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションへのアクセスを制御する新しい Salesforce1 設定があります。この設定が有効 (デフォルト) になっていると、次のようになります。

- Salesforce Touch モバイルブラウザが現在有効になっていても、組織の Salesforce Touch 設定が上書きされます。
- [Touch ユーザ] チェックボックスが、[私の設定] > [個人用] > [高度なユーザの詳細] または [設定] > [私の個人情報] > [個人情報] ページで [Salesforce1 ユーザ] チェックボックスに置き換えられます。すべてのユーザに対して、[Salesforce1 ユーザ] チェックボックスがオンになります。

Salesforce1 組織の設定とユーザ設定の両方が有効になっている場合、サポートされているモバイルブラウザから Salesforce にログインするユーザは、Salesforce Touch ではなく、新しい Salesforce1 のインターフェースに自動的にリダイレクトされます。

新しい Salesforce モバイル環境への移行に必要な場合は、[Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを無効にして](#)、組織の Salesforce Touch 設定を復元できます。Spring '14 リリースまで、ユーザは Salesforce Touch の使用を続行できます。

Salesforce Touch と Salesforce1 の設定がどのように相互作用するかについて、次に簡単にまとめます。

Salesforce Touch モバイルブラウザのアクセス	[Touch ユーザ] の設定	Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのアクセス	[Salesforce1 ユーザ] の設定	モバイルブラウザからユーザが Salesforce にログインするとリダイレクトされる
有効または無効	オンまたはオフ	有効	オン	Salesforce1
有効または無効	オンまたはオフ	有効	オフ	Salesforce フルサイト
有効	オン	無効	なし	Salesforce Touch
有効	オフ	無効	なし	Salesforce フルサイト
無効	なし	無効	なし	Salesforce フルサイト



メモ: Salesforce Touch 設定を使用して、モバイルブラウザアプリケーションにアクセスできるデバイスの種類を指定できます。Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションが有効になっている場合、ユーザは選択したサポートされるモバイルデバイスからアプリケーションにアクセスできますが、サポートされるモバイルブラウザを使用する必要もあります。サポートされていないブラウザからログインすると、モバイル環境ではなく、Salesforce フルサイトにリダイレクトされます。

Chatter Mobile

Chatter Mobile for Android および Chatter Mobile for iPhone and iPad アプリケーションは Salesforce1 v5.0 にアップグレードされました。Chatter Mobile for BlackBerry は、Winter '14 の期間はアップグレードされません。

Salesforce1 アプリケーションの詳細については、「[Salesforce1](#)」を参照してください。

ユーザー向けの Chatter Mobile for BlackBerry 接続済みアプリケーションの設定方法を確認するには、次のトピックを参照してください。

接続アプリケーションとなった Chatter Mobile for BlackBerry

Chatter Mobile for BlackBerry アプリケーションは接続アプリケーションになりました。この変更によって、Chatter Mobile for BlackBerry の設定は [設定] メニューの接続アプリケーション領域に移動しました。

接続アプリケーションとなった Chatter Mobile for BlackBerry

Chatter Mobile for BlackBerry アプリケーションは接続アプリケーションになりました。この変更によって、Chatter Mobile for BlackBerry の設定は [設定] メニューの接続アプリケーション領域に移動しました。

接続アプリケーションとは、API を使用して Salesforce と統合するアプリケーションです。Chatter Mobile for BlackBerry アプリケーションを接続アプリケーションに移行することで、アプリケーションにアクセスできるユーザや、ユーザに適用される IP 制限、セッションが有効状態である時間などの効率的な管理をはじめとする、接続アプリケーションのあらゆるメリットがシステム管理者にもたらされます。

システム管理者は、Chatter Mobile for BlackBerry の設定を、他の接続アプリケーション設定と同じ要領で参照および管理できます。[設定] で [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックし、Chatter Mobile for BlackBerry アプリケーションの [編集] をクリックします。Chatter Mobile 接続アプリケーションの詳細を表示するには、アプリケーションの名前をクリックします。

Chatter Mobile for BlackBerry は、次のいずれかのイベントが発生したときに、管理対象の Salesforce 接続アプリケーションパッケージの一部として自動的にインストールされます。

- 組織のユーザが Chatter Mobile for BlackBerry モバイルアプリケーションをダウンロードして、モバイルアプリケーションにログインして組織の認証を行う。
- 既存の Chatter Mobile ユーザのセッションが更新される。



メモ: セッションは、ユーザがアプリケーションを使用中、組織に対して設定されたセッション [タイムアウト値] に基づいて 15 分～12 時間の範囲の間隔で自動的に更新されます。ユーザがこの設定に気付いていないことがよくあります。

または、管理者が **パッケージ** を手動でインストールして、パッケージが自動的にインストールされる前に設定を参照および管理することも可能です。

接続アプリケーションパッケージには、BlackBerry モバイルデバイスの種類に固有の接続アプリケーションが含まれます。



重要: システム管理者がパッケージを手動でインストールした場合を除き、組織内の誰かがモバイルアプリケーションを有効化するまで、または既存のユーザのセッションが更新されるまで、Chatter Mobile for BlackBerry 接続アプリケーションは表示されません。

組織で以前に Chatter Mobile を使用していて、その後接続アプリケーションに切り替えた場合、元の設定が接続アプリケーション設定に移行されます。

Chatter Mobile for BlackBerry の設定の変更

Chatter Mobile for BlackBerry の元の設定では、接続アプリケーション設定とは異なる表示ラベルが付けられています。

下表で、Chatter Mobile 元の設定がどのように接続アプリケーション設定に対応付けられているかを確認してください。接続アプリケーション設定を参照するには、[設定] > [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックします。

従来の Chatter Mobile 設定	新しい Chatter Mobile 接続アプリケーション設定	既存の組織の変更	新規組織のデフォルト設定
Chatter Mobile を有効化	なし	接続アプリケーションパッケージがインストールされたら、Chatter Mobile for BlackBerry はデフォルトで	接続アプリケーションとして、Chatter Mobile for BlackBerry がデフォルトで有効になります。組織内の

従来の Chatter Mobile 設定	新しい Chatter Mobile 接続アプリケーション設定	既存の組織の変更	新規組織のデフォルト設定
		「管理者が承認したユーザは事前承認済み」に設定されます。	すべてのユーザがこのアプリケーションをダウンロードできます。
承認済みデバイス	OAuth ポリシーの「許可されているユーザ」	Chatter Mobile for BlackBerry を以前に選択解除している場合は、「管理者が承認したユーザは事前承認済み」に設定されます。	すべてのユーザは自己承認可能
セッションタイムアウト	モバイルインテグレーションの「セッションタイムアウト」	設定が保持されます。	無期限
	モバイルインテグレーションの「PIN の文字数」	この接続アプリケーション ⁴ 設定は、Chatter Mobile for BlackBerry の新しい設定です。	
IP が制限されているユーザ	OAuth ポリシーの「IP 制限」	制限されているユーザは、引き続き制限の対象です。	IP 制限を適用

ユーザとデバイス

組織の Chatter Mobile for BlackBerry の活動 (各ユーザが接続アプリケーションへの移行後にそのアプリケーションを有効化または使用した日付など) を参照する場合や、特定のデバイスのアプリケーションへのアクセス権をリモートで取り消す場合 (デバイスを紛失した場合や盗難にあった場合など)、ユーザのアプリケーションへのアクセスをブロックする場合は、[設定] から [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーションの OAuth の利用状況] をクリックします。

Chatter Mobile for BlackBerry 接続済みアプリケーションの設定の編集

システム管理者は、Chatter Mobile for BlackBerry の設定を、他の接続アプリケーション設定と同じ要領で参照および管理できます。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

必要なユーザ権限	
Chatter Mobile for BlackBerry の設定を編集する	「アプリケーションのカスタマイズ」
Chatter Mobile for BlackBerry の設定を表示する	「設定・定義を参照する」

1. [設定] で、[アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックします。
2. 変更するアプリケーション名の横にある [編集] をクリックします (接続アプリケーションの詳細ページのアプリケーションに関する情報を確認するには、アプリケーション名をクリックします)。

- OAuth ポリシーは、すべての接続アプリケーションに使用できます。
 - ◇ 「許可されているユーザ」により、アプリケーションを実行できるユーザが決まります。
 - すべてのユーザは自己承認可能: デフォルト。組織内のすべてのユーザがアプリケーションを自己認証できます。つまり、各ユーザはアプリケーションに初めてアクセスするときに、アプリケーションを承認する必要があります。
 - 管理者が承認したユーザは事前承認済み: 指定したプロファイルまたは権限セットのあるユーザにアクセスが制限されますが、これらのユーザはアクセスする前にアプリケーションを承認する必要がありません。各プロファイルの [接続アプリケーションへのアクセス] リストを編集して、アプリケーションのプロファイルを管理します。各権限セットの [割り当てられた接続アプリケーション] リストを編集して、アプリケーションの権限セットを管理します。



メモ: 「すべてのユーザは自己承認可能」から「管理者が承認したユーザは事前承認済み」に切り替えると、アプリケーションに対して指定した権限セットまたはプロファイルに属するユーザを除き、現在そのアプリケーションを使用しているユーザのアクセスが失われます。

- ◇ 「IP 制限」は、この接続アプリケーションのユーザに適用される IP 制限を指します。システム管理者は、次のいずれかのオプションを選択して、これらの制限を強制またはスキップすることができます。
 - IP 制限を適用: デフォルト。このアプリケーションを実行しているユーザには、ユーザのプロファイルで設定された IP 範囲など、組織の IP 制限が適用されます。
 - IP 制限を 2 次要素で緩和: このアプリケーションを実行しているユーザは、次のいずれかの条件を満たす場合に、組織の IP 制限を迂回します。
 - ホワइटリストに登録された IP 範囲がアプリケーションに存在し、Web サーバの OAuth 認証フローを使用している。ホワइटリストに登録された IP からの要求のみが許可されます。
 - アプリケーションに IP 範囲のホワइटリストがなく、Web サーバまたはユーザエージェントの OAuth 認証フローを使用しており、ユーザが ID 確認を正常に完了する。
 - IP 制限の緩和: この接続アプリケーションを実行しているユーザには、IP 制限が適用されません。
- ◇ 「ユーザのログインが必要」は、クライアントアプリケーションで必要となる権限を維持するために、ユーザが接続アプリケーションからログインする必要のある頻度を指定します。アプリケーションを初めて使用するときにのみログインする、毎回使用するたびにログインする、非活動状態が一定時間続いた後にログインする、または一定時間の経過後にログインする、などを指定できます。
- ◇ 接続アプリケーションの現在の権限もここにリストされます。
- すべての接続アプリケーションにセッションレベルポリシーを利用できます。アプリケーションにアクセスするためのログイン時に、時間ベースのトークンの入力をユーザに要求する必要がある [高保証] セッションを選択します。
- Chatter Mobile for BlackBerry に、モバイルアプリケーション設定を使用できます。
 - ◇ 「セッションタイムアウト」は、アプリケーションがアイドル状態になってから、アプリケーションがロックされるまでの時間を指定します。ロックされた場合、続行するには PIN の入力が必要になります。使用できる値は、なし (ロックなし)、1、5、10、および 30 分です。
 - ◇ 「PIN の文字数」は、認証確認用に送信される識別番号の長さを設定します。4～8 桁 (両端を含む) の長さが有効です。

Salesforce Mobile が Salesforce Classic にブランド変更

従来の Salesforce CRM モバイルアプリケーションである Salesforce Mobile が、Android™、BlackBerry®、iPhone® デバイス向けの Salesforce Classic になりました。

Salesforce Classic を使用すると、チームのユーザが、時間、場所を問わず必要なときに、最新の Salesforce データを入手できます。Salesforce Classic へのブランド変更が、[モバイルユーザ] のシステム管理者設定に影響を与える場合があります。

Mobile Lite

Salesforce Classic の無料バージョンである Mobile Lite ユーザ権限は、デフォルトで無効になっています。Salesforce Classic の無料バージョンを有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[モバイル管理] > [Salesforce Classic] > [設定] をクリックします。
2. [編集] をクリックします。
3. [Mobile Lite を有効化] を選択します。
4. [保存] をクリックします。

Unlimited Edition のモバイルユーザ権限

新しい Unlimited Edition ユーザの場合、[モバイルユーザ] チェックボックスはデフォルトで無効になっています。

モバイルのパッケージ化

モバイルのパッケージ化により、接続アプリケーションを通してモバイルアプリケーションをシームレスに定義して分類し、組織にリリースできます。モバイルのパッケージ化は、現在パイロットプログラムで使用可能です。

組織でのモバイルのパッケージ化の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

Chatter

Chatter を使用すると組織内の全員が常につながりを維持できます。

Chatter グループ

Chatter グループを使用すると、ユーザ同士のやりとりが容易になります。

新しい Chatter プロファイルページ 正式リリース

Chatter プロファイルページを使用すると、他の Chatter ユーザについて詳細に知ることができます。

パブリッシャーアクション

アクションにより、フィードで直接レコードを作成したり、活動を記録するなど、Chatter でユーザができることの幅が広がります。

トピック

トピックを使用すると、投稿を整理し、他のユーザが話している話題を確認できます。

Chatter フィード

Chatter フィードを使用すると、コラボレーションが容易になります。

メール通知

Chatter ではメールを使用できるため、ユーザに投稿に関する通知を簡単に送ることができます。

Chatter グループ

Chatter グループを使用すると、ユーザ同士のやりとりが容易になります。

アーカイブ済みの Chatter グループ

フィード活動がほとんどまたはまったくない Chatter グループをアーカイブして、組織のより有効なグループに焦点を移します。

Chatter グループでのパブリッシャーアクションの使用

システム管理者がパブリッシャーアクションを有効化および設定した場合、権限があるグループメンバーは、標準の Chatter 投稿に加え、グループでレコードを作成できます。

Chatter グループの @メンション

投稿やコメントで、個々のユーザだけでなくグループにメンションできるようになりました。

メールを使用した Chatter グループへの投稿 — パイロット

グループメンバーは、メールを送信して Chatter グループに投稿できます。

アーカイブ済みの Chatter グループ

フィード活動がほとんどまたはまったくない Chatter グループをアーカイブして、組織のより有効なグループに焦点を移します。

Chatter のアーカイブ済みグループについて

Chatter グループをアーカイブすると、新しい投稿を作成したりグループでファイルを共有したりする機能はサスペンドされますが、グループのフィードとファイルは今後の参照用に保持されます。グループへの参加または脱退、既存の投稿へのコメント、ユーザのメンション、フィードの検索、グローバル検索を使用した検索、レポートなどの他のグループ機能およびフィード機能は引き続き使用できます。

Chatter のアーカイブされるグループに対する準備

Chatter グループアーカイブの導入に伴い、過去 90 日間に新しいフィード投稿またはコメントのないグループは、*Winter '14* リリース後の最初の火曜日に自動的にアーカイブされます。システム管理者は、組織が円滑に移行できるように、アーカイブされるグループに対して前もって計画することをお勧めします。

Chatter グループのアーカイブの有効化/無効化

Chatter グループのアーカイブはデフォルトで有効になっています。

Chatter グループのアーカイブ

デフォルトでは、新しいフィード投稿またはコメントが 90 日間にわたりまったく行われない場合に、グループが自動的にアーカイブされるよう設定されます。グループにフィード活動があるかどうかを確認され、週単位に自動的にアーカイブされます。「すべてのデータの編集」権限を持つグループ所有者、グループマネージャ、ユーザは、グループを手動でアーカイブしたり、グループの自動アーカイブ設定を編集したりできます。

アーカイブ済み Chatter グループの有効化

「すべてのデータの編集」権限を持つグループ所有者、グループマネージャ、ユーザは、グループ詳細ページからアーカイブ済み Chatter グループを有効化できます。

Chatter のアーカイブ済みグループについて

Chatter グループをアーカイブすると、新しい投稿を作成したりグループでファイルを共有したりする機能はサスペンドされますが、グループのフィードとファイルは今後の参照用に保持されます。グループへの参加または脱退、既存の投稿へのコメント、ユーザのメンション、フィードの検索、グローバル検索を使用した検索、レポートなどの他のグループ機能およびフィード機能は引き続き使用できます。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition

デフォルトでは、新しいフィード投稿またはコメントが 90 日間にわたりまったく行われない場合に、グループが自動的にアーカイブされるよう設定されます。グループにフィード活動があるかどうかを確認され、週単位に自動的にアーカイブされます。「すべてのデータの編集」権限を持つグループ所有者、グループマネージャ、ユーザは、手動によるグループのアーカイブと有効化や、グループの自動アーカイブの有効化/無効化をいつでも行うことができます。

グループのアーカイブには、いくつかの利点があります。アーカイブ済みグループは、[グループ] タブの [有効なグループ] リストから削除されて [アーカイブ済みの私のグループ] リストに移動されるため、ユーザは組織のより多くの有効なグループに焦点を絞ることができます。アーカイブ済みグループは、グループと共有するファイルまたはフィード投稿の検索では表示されません。アーカイブ済みグループでは新規投稿が制限されるため、Chatter のフィード活動が合理化され、有効なグループディスカッションに焦点が絞られます。アーカイブ済み

グループおよび関連コンテンツはグローバル検索でいつでも検索でき、アーカイブ済みグループはグループ登録の制限にカウントされます。

フィード活動がごくわずかしかなかったり存在しなくても、保持したい有益な情報がグループに含まれる場合は、アーカイブすることをお勧めします。例には、次のものが含まれます。

- ・ 商談の交渉中に営業チームが作成したグループに顧客に関する重要な情報が含まれている場合、リードの取引開始後にそのグループをアーカイブする。
- ・ 組織イベントを計画するグループをイベント後にアーカイブして、ベンダ情報や計画時の議論を再利用する。
- ・ 顧客の主要リリースのサポートを目的とするグループを問題の解決後にアーカイブして、顧客サポートの今後のトラブルシューティングにその情報を参照する。
- ・ 従来のグループを、同じ目的またはより広い目的を持つ新しいグループに置き換えた場合に、従来のグループをアーカイブしてトラフィックを新しいグループにリダイレクトする。
- ・ チームの分割後またはチームメンバーの退社後にチームグループをアーカイブすると、新しいチームメンバーが以前のグループの情報を参照できます。

反対に、情報を共有するために頻繁に使用したり、予測不可能なスケジュールでお知らせを行うメンバーグループの場合は、自動アーカイブを無効にすることを検討してください。これにより、フィード活動が 90 日以上なくともグループがアーカイブされなくなります。

Chatter のアーカイブされるグループに対する準備

Chatter グループアーカイブの導入に伴い、過去 90 日間に新しいフィード投稿またはコメントのないグループは、*Winter '14* リリース後の最初の火曜日に自動的にアーカイブされます。システム管理者は、組織が円滑に移行できるように、アーカイブされるグループに対して前もって計画することをお勧めします。

- ・ Chatter グループのアーカイブについて組織のグループ所有者とマネージャに連絡します。
- ・ グループ所有者および管理者と一緒に組織のグループを確認します。組織内に動きのないグループはありますか。その中に、フィードの活動に関係なく有効にしておく必要があるグループはありますか。新しい投稿を作成したり、既存の投稿にコメントしたりすることは、その後 90 日間の間アーカイブされるのを防止する 1 つの方法です。
- ・ 準備にもっと時間が必要な場合は、[Chatter グループのアーカイブを無効にします](#)。これは、*Winter '14* リリース後の最初の火曜日の午後 8 時 (米国太平洋標準時) までに行う必要があります。



メモ: アーカイブされたグループは、[グループ設定ページから個別に](#)、または Salesforce API を使用して一括して (該当する CollaborationGroup レコードの IsArchived を false に設定して)、いつでも有効化できます。

アーカイブには多くの利点があるため、組織のグループを確認したら、この機能を再び有効にすることをお勧めします。

Chatter グループのアーカイブの有効化/無効化

Chatter グループのアーカイブはデフォルトで有効になっています。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限

Chatter グループのアーカイブを無効化または再有効化 「アプリケーションのカスタマイズ」
する

Chatter グループのアーカイブを無効化または再有効化する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から [カスタマイズ] > [Chatter] > [設定] をクリックし、[編集] をクリックします。
2. [Chatter グループ設定] で [グループアーカイブを許可] を選択解除してグループのアーカイブを無効にするか、そのオプションを選択してこの機能を再度有効にします (該当する場合)。



メモ: アーカイブを無効にすると、グループの自動アーカイブと手動アーカイブが禁止されますが、以前にアーカイブされたグループは有効になりません。アーカイブが無効になっていても、「すべてのデータの編集」権限を持つグループ所有者、グループマネージャ、ユーザは必要に応じてグループを有効にすることができます。

3. [保存] をクリックします。

この機能が有効であると、次のようになります。

- ・ デフォルトでは、新しいフィード投稿またはコメントが 90 日間にわたりまったく行われない場合に、グループが自動的にアーカイブされるよう設定されます。グループにフィード活動があるかどうかを確認され、週単位に自動的にアーカイブされます。
- ・ グループの所有者およびマネージャは、このグループをアーカイブまたは有効化したり、このグループの自動アーカイブ設定を編集したりできます。「すべてのデータの編集」権限を持つユーザは、これらの操作をどのグループに対しても実行できます。
- ・ 自分が所有、管理、または属しているアーカイブ済みグループは、[グループ] タブの [アーカイブ済みの私のグループ] 検索条件に表示されます。組織の他のアーカイブ済みグループを検索するには、グローバル検索を使用するか、レポートを実行するか、Salesforce API を使用します (グループがアーカイブされていると、CollaborationGroup レコードの isArchived 項目が true に設定されます)。
- ・ 自動アーカイブ設定は、グループ設定ページで個別のグループレベルでのみ更新できます。複数のグループのアーカイブ設定を同時に変更するには、Salesforce API を使用します。

Chatter グループのアーカイブ

デフォルトでは、新しいフィード投稿またはコメントが 90 日間にわたりまったく行われない場合に、グループが自動的にアーカイブされるよう設定されます。グループにフィード活動があるかどうかを確認され、週単位に自動的にアーカイブされます。「すべてのデータの編集」権限を持つグループ所有者、グループマネージャ、ユーザは、グループを手動でアーカイブしたり、グループの自動アーカイブ設定を編集したりできます。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition

1. グループ詳細ページで [グループ設定] をクリックします。
2. グループのアーカイブは、次の 2 つのうちいずれかの方法で設定できます。
 - ・ [アーカイブ] をクリックして、グループをすぐにアーカイブする。

- ・ [投稿またはコメントが90日間ない場合に、このグループをアーカイブします]を選択し、[保存]をクリックして自動アーカイブを設定する。

グループをアーカイブするとパブリッシャーが非表示になり、メンバーは新しい投稿を作成したり、グループでファイルを共有したりできなくなります。また、アーカイブ済みグループは、[グループ] タブの [有効なグループ] 検索条件から削除されます。自分が所有、管理、または属しているアーカイブ済みグループを検索するには、[グループ] タブの [アーカイブ済みの私のグループ] 検索条件を使用します。また、グローバル検索を使用して、アーカイブ済みグループまたは関連コンテンツを検索することもできます。アーカイブ済みグループは、グループメンバー種別の制限にカウントされます。また、グローバル検索を使用するか、レポートを実行して、組織の他のアーカイブ済みグループを検索することもできます。

**メモ:**

- ・ グループメンバーが所有、管理、または属している Chatter グループがアーカイブまたは有効化されても、グループメンバーにはメール通知は送信されません。
- ・ システム管理者がグループのアーカイブを無効にした場合は、グループのアーカイブや自動アーカイブ設定の編集はできません。アーカイブ機能が無効になっていても、アーカイブ済みグループをいつでも有効にすることができます。

アーカイブ済み Chatter グループの有効化

「すべてのデータの編集」権限を持つグループ所有者、グループマネージャ、ユーザは、グループ詳細ページからアーカイブ済み Chatter グループを有効化できます。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition

1. 有効化するグループに移動します。

- ・ 自分が所有、管理、または属しているアーカイブ済みグループを検索するには、[グループ] タブの [アーカイブ済みの私のグループ] 検索条件を使用します。
- ・ 他のアーカイブ済みグループを検索するには、グローバル検索を使用するか、レポートを実行するか、システム管理者にお問い合わせください。

2. グループ詳細ページまたはグループ設定ページで、[有効化] をクリックします。

パブリッシャーが有効化されたグループ詳細ページが表示され、メンバーは新しい投稿を作成したり、グループでファイルを共有したりできます。

**メモ:**

- ・ グループメンバーが所有、管理、または属している Chatter グループがアーカイブまたは有効化されても、グループメンバーにはメール通知は送信されません。
- ・ 一度に有効化できるグループは1つのみです。複数のグループを同時に有効化するには、Salesforce APIを使用します。

Chatter グループでのパブリッシャーアクションの使用

システム管理者がパブリッシャーアクションを有効化および設定した場合、権限があるグループメンバーは、標準の Chatter 投稿に加え、グループでレコードを作成できます。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
Chatter グループでレコードを作成する	オブジェクトに対する「作成」

顧客グループを除くすべての Chatter グループでは、組織に定義されたグローバルパブリッシャーレイアウトを使用します。顧客グループのパブリッシャーには、標準アクション(投稿、ファイル、リンク、アンケート)のみが表示されます。

グループでパブリッシャーを使用して作成されたレコードについては、次の点に注意してください。

- グループで作成されたレコードは、グループのフィード投稿でリンクとして表示されます。類似したレコード作成のフィード投稿は、Chatter フィード、レコードを作成したユーザのプロファイルフィード、レコード詳細ページのレコードフィードにも表示されます。レコード作成の投稿を参照するには、フィード条件が「すべての更新を表示」に設定されている必要があります。
- グループで作成されたレコードの表示は、ユーザ権限および組織の共有アクセスルールによって決まります。Chatter Free ユーザなど、権限がないグループメンバーは、どのコンテキストでもレコードまたはレコードフィードを表示できません。
- 権限があるグループメンバーは、レコードおよびそれに関するコメントをどのコンテキスト(グループ、所有者のプロファイル、レコード、Chatter)からでも表示できます。
- グループフィードでは、レコード作成のフィード投稿に関するすべてのコメントが集約されます。これには、レコードフィードの参照権限を持つユーザによってグループ外で投稿されたコメントも含まれます。
- グループ内でレコードを作成しても、グループとレコードの関連付けは作成されません。



メモ: グループとレコードの関連付けの作成、グループ内のレコードフィードのフォロー、対象グループメンバーへのレコード共有アクセスの拡張を行う機能は、パイロットプログラムで使用可能です。組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

Chatter グループの @メンション

投稿やコメントで、個々のユーザだけでなくグループにメンションできるようになりました。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

投稿を作成するときに、@を入力し、続けてグループ名の最初の数文字を入力して、一致のリストからグループを選択します。このリストには、自分がフォローしていない人、公開グループ、自分がメンバーとなっている非

公開グループを含む、すべての一致する人が含まれます。アーカイブされたグループ、顧客グループ、自分がメンバーではない非公開グループにはメンションできません。

投稿またはコメントでグループにメンションすると、次の操作が行われます。

- 自分の更新が、グループフィードと各グループメンバーの [自分がフォローするもの] フィードに表示されます。
- グループの [すべての投稿にメールを送信] 設定を有効にしているグループメンバーには、メール通知が送信されます。

メールを使用した Chatter グループへの投稿 — パイロット

グループメンバーは、メールを送信して Chatter グループに投稿できます。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**



メモ: 現在、メールによる Chatter グループへの投稿は、パイロットプログラムで使用可能です。組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

1. 投稿するグループのメールアドレスをグループの説明の下にあるグループ詳細ページからコピーします。



ヒント: 後で簡単にアクセスできるように、グループのメールアドレスをメールクライアントまたはモバイルデバイスの連絡先として保存します。

2. Salesforce ユーザプロフィールに関連付けられているメールアカウントから、グループのメールアドレスに送信される新しいメールを作成します。
3. グループに投稿するメッセージをメール本文に入力し、メールを送信します。

メールの内容が投稿としてグループ詳細ページに表示されます。メール本文に含まれるハッシュタグ (#TeamExcellence など) は、投稿のトピックに変換されます。

メールを使用してグループに投稿する場合、次の制限事項が適用されます。

- メールを使用して作成された投稿には、Chatter 投稿の 5,000 文字の制限が適用されます。この文字制限を超えたメールのテキストは、投稿には含まれません。
- メール [件名] 項目は、投稿に含まれません。
- メールを使用して作成できるのは、テキスト投稿のみです。メールでグループに投稿する場合、ユーザへのメンション、ファイルの添付、またはアンケートの作成を行うことはできません。

新しい Chatter プロファイルページ — 正式リリース

Chatter プロファイルページを使用すると、他の Chatter ユーザについて詳細に知ることができます。

新しい Chatter プロファイルページ (プロフィールタブ)

新しい Chatter プロファイルページでは、以前と同じ機能すべてに、プロフィールタブも追加され、全体的にデザインが拡張されました。プロフィールタブを使用して、システム管理者は、プロフィールにカスタムコンテンツとアプリケーションを容易にリリースできるようになりました。ユーザにとっては、操作がよりパーソナライズされ、快適に作業できます。

Chatter ユーザプロフィールページのカスタマイズの有効化

[Chatter ユーザプロフィールページのカスタマイズを有効化] ユーザインターフェース設定を使用すると、システム管理者は Chatter ユーザプロフィールページのタブをカスタマイズできます。カスタムタブの追加やデフォルトタブの削除などが可能です。この機能は Winter '14 で自動的に有効になります。無効にすると、ユーザには [フィード] タブと [概要] タブのみが表示されます。

サブタブアプリケーション (プロフィール上のアプリケーション) の導入

プロフィールページに表示されるタブは、ユーザのコンテキストに応じて異なります。サブタブアプリケーションは、ユーザのプロフィールページに使用できるさまざまなタブのセットです。カスタムタブを作成してサブタブアプリケーション内に表示することで、システム管理者はプロフィールページに追加のコンテンツを表示できます。

サブタブアプリケーションの管理

ユーザのプロフィールページのサブタブアプリケーションを表示およびカスタマイズします。

サブタブアプリケーションの表示の制御

サブタブアプリケーションを設定したら、プロフィールページで特定のタブをどのユーザに表示するかを指定できます。

新しい Chatter プロファイルページ (プロフィールタブ)

新しい Chatter プロファイルページでは、以前と同じ機能すべてに、プロフィールタブも追加され、全体的にデザインが拡張されました。プロフィールタブを使用して、システム管理者は、プロフィールにカスタムコンテンツとアプリケーションを容易にリリースできるようになりました。ユーザにとっては、操作がよりパーソナライズされ、快適に作業できます。

ユーザ情報は、次のデフォルトタブに編成されます。

- [フィード] タブ — このタブには自分の Chatter フィードが表示されます。
- [概要] タブ — このタブには、グループ、フォローされている人、最近のトピック、[自己紹介] セクションなど、自分に関する情報と、コミュニティでの活動も表示されます。

タブはシステム管理者が設定し、必要に応じてカスタムタブを追加したり、デフォルトタブを削除したりします。カスタムタブの追加により、組織はプロフィールページ内のコンテンツとしてさらに情報を追加できます。

プロフィールページのその他の機能も再編成されました。

- ユーザにとって使用可能である場合、右上隅のドロップダウンボタン (▼) から [このページのヘルプ]、[プロフィールを編集]、[ユーザの詳細]、および [私の設定] にアクセスできます。
- 他のユーザのプロファイルを表示すると、ページ上部で [メッセージを送信] および [チャットを開始] を使用できます。
- [連絡先情報] は、左の列の [貢献度] の上に表示されます。

Chatter ユーザプロフィールページのカスタマイズの有効化

[Chatter ユーザプロフィールページのカスタマイズを有効化] ユーザインターフェース設定を使用すると、システム管理者は Chatter ユーザプロフィールページのタブをカスタマイズできます。カスタムタブの追加やデフォルトタブの削除などが可能です。この機能は Winter '14 で自動的に有効になります。無効にすると、ユーザには [フィード] タブと [概要] タブのみが表示されます。

1. [設定] から、[カスタマイズ] メニュー下部の [カスタマイズ] > [ユーザインターフェース] をクリックします。
2. [Chatter ユーザプロフィールページのカスタマイズを有効化] を選択します。
3. [保存] をクリックします。

サブタブアプリケーション (プロフィール上のアプリケーション) の導入

プロフィールページに表示されるタブは、ユーザのコンテキストに応じて異なります。サブタブアプリケーションは、ユーザのプロファイルページに使用できるさまざまなタブのセットです。カスタムタブを作成してサブタブアプリケーション内に表示することで、システム管理者はプロフィールページに追加のコンテンツを表示できます。

アプリケーションは、アプリケーション機能を提供するために1つの単位として機能するタブのグループです。同様に、サブタブアプリケーションは、Chatter プロファイルページに表示されるタブの集合です。サブタブアプリケーションには、デフォルトタブとカスタムタブの両方を含めることができます。

次のデフォルトサブタブアプリケーションは、ユーザのコンテキストに応じて表示されるタブを決定します。

サブタブアプリケーション	ユーザへの表示条件
プロフィール (他のユーザ)	ユーザが内部組織内の別のユーザを表示しているとき
プロフィール (自分)	ユーザが内部組織内の自分自身のプロフィールを表示しているとき
コミュニティのプロファイル (他のユーザ)	ユーザがコミュニティ内で別のユーザを表示しているとき。コミュニティが有効な場合にのみ表示されます。
コミュニティのプロファイル (自分)	ユーザがコミュニティ内で自分自身のプロフィールを表示しているとき。コミュニティが有効な場合にのみ表示されます。



メモ: エンドユーザは、サブタブアプリケーションの表示をカスタマイズできません。システム管理者は、[タブの設定] の [タブを隠す] オプションを使用して、サブタブアプリケーション内でタブを非表示にすることができます。ユーザには、[デフォルトで非表示] および [デフォルトで表示] に設定されたタブを表示できます。

サブタブアプリケーションの管理

ユーザのプロファイルページのサブタブアプリケーションを表示およびカスタマイズします。

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
アプリケーションを参照する	「設定・定義を参照する」
アプリケーションを管理する	「アプリケーションのカスタマイズ」

[設定] から [作成] > [アプリケーション] をクリックして、組織のサブタブアプリケーションを表示します。

次の操作を実行できます。

- サブタブアプリケーションの詳細を表示するには、[サブタブアプリケーション] セクションで名前をクリックします。これにより、アプリケーションで使用できるタブ (リリース前のものも含む) などのプロパティが表示されます。詳細を表示するには、[含まれるタブ] リストのカスタムタブをクリックします。
- サブタブアプリケーションのプロパティを変更するには、[編集] をクリックし、サブタブアプリケーションに含めるタブの選択、表示順序の変更、[デフォルトの表示タブ] の設定を行います。



メモ: システム管理者は、プロファイル設定を使用して、各タブへのユーザアクセスを制限できます。これにより、特定のタブの使用を一部のユーザには許可し、他のユーザには禁止することができます。

サブタブアプリケーションの表示の制御

サブタブアプリケーションを設定したら、プロファイルページで特定のタブをどのユーザに表示するかを指定できます。

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
アプリケーションを参照する	「設定・定義を参照する」
アプリケーションを管理する	「アプリケーションのカスタマイズ」

サブタブアプリケーション内でタブの表示を制御する手順は、次のとおりです。

- [設定] で、[ユーザの管理] > [プロファイル] をクリックします。
- 次のいずれかの操作を実行します。

- ・ 元のプロフィールユーザインターフェース — 変更するプロフィールの横にある [編集] をクリックし、[タブの設定] セクションまでスクロールします。
- ・ 拡張プロフィールユーザインターフェース — 変更するプロフィールをクリックし、[オブジェクト設定] をクリックします。編集するオブジェクトをクリックし、[編集] をクリックします。



メモ: Chatter 外部ユーザおよび Chatter Free ユーザには通常、サブタブアプリケーションの表示権限はありませんが、システム管理者はアクセス権を付与できます。

3. タブの設定を変更します。

エンドユーザは、サブタブアプリケーションの表示をカスタマイズできません。システム管理者は、[タブの設定] の [タブを隠す] オプションを使用して、サブタブアプリケーション内でタブを非表示にすることができます。ユーザには、[デフォルトで非表示] および [デフォルトで表示] に設定されたタブを表示できます。

- ### 4. (元のプロフィールユーザインターフェースのみ) ユーザのタブのカスタマイズを自分が指定するタブ表示設定にリセットするには、[各ユーザのマイディスプレイのカスタマイズに変更を反映させる] を選択します。
- ### 5. [保存] をクリックします。

パブリッシャーアクション

アクションにより、フィードで直接レコードを作成したり、活動を記録するなど、Chatter でユーザができることの幅が広がります。

デフォルトのパブリッシャーアクションの使用可能化

デフォルトアクションは、ユーザが新しいレコードを作成できる作成アクションであり、パブリッシャーアクションの設定プロセスを簡略化するように自動的に設定されています。

モバイルスマートアクションの使用可能化

モバイルスマートアクションは、Salesforce1 取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談ページ上、およびグローバルパブリッシャーレイアウト上のパブリッシャーに含まれるアクションのセットです。モバイルユーザ向けのパブリッシャーアクションをわずかな作業で設定できるように設計されています。

グループおよびトピックページでのパブリッシャーアクションの使用可能化

グループ内またはトピックページ上で作業するユーザは、グローバル Chatter レイアウトに追加したアクションを使用できるようになりました。これにより、フィードでレコードの作成やその他の作業をしやすくなります。

新しいパブリッシャーアクションタイプ

パブリッシャーアクションには、活動の記録とカスタムキャンバスという 2 つの新しいタイプがあります。

パブリッシャーアクションの定義済み項目値での参照関係項目と主従関係項目のサポート

パブリッシャーアクションレイアウトに含める項目に定義済み値を設定することで、一貫性が保たれ、それらのアクションをすばやく簡単に使用できます。参照関係項目と主従関係項目の値を事前に定義できるようになりました。

パブリッシャーアクションでのリッチテキストエリア項目のサポート

作成したパブリッシャーアクションにリッチテキストエリア項目を追加できるようになり、ユーザがテキストを書式設定できるようになりました。

デフォルトのパブリッシャーアクションの使用可能化

デフォルトアクションは、ユーザが新しいレコードを作成できる作成アクションであり、パブリッシャーアクションの設定プロセスを簡略化するように自動的に設定されています。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

Winter '14 以降に作成された組織では、これらのアクションは、次のオブジェクトでデフォルトのグローバルパブリッシャーレイアウトとパブリッシャーレイアウトに自動的に追加されます。

- 取引先
- ケース
- 取引先責任者
- リード
- 商談

Winter '14 より前に作成された組織では、これらのアクションは、これらのレイアウトのページレイアウトエディタのパレットで使用できますが、パブリッシャーレイアウトには自動的に追加されません。

各レイアウトで使用できるアクションは、次のとおりです。これらのアクションがパブリッシャーレイアウトに自動的に追加される組織では、示された順番でパブリッシャーに表示されます (斜体のアクションは標準 Chatter アクションであり、作成アクションではありません)。

Layout	デフォルトアクション
グローバルレイアウト (カスタムオブジェクトにも適用されます)	<ul style="list-style-type: none"> • 投稿 • ファイル • 新規 ToDo • 新規取引先責任者 • 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) • 新規商談 • 新規ケース • 新規リード • 感謝 • リンク • アンケート
取引先	<ul style="list-style-type: none"> • 投稿 • ファイル • 新規 ToDo • 新規取引先責任者 • 新規ケース

Layout	デフォルトアクション
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) ・ 新規メモ ・ 新規商談 ・ 感謝 ・ リンク ・ アンケート
ケース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投稿 ・ ファイル ・ 新規子ケース ・ 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) ・ 新規 ToDo ・ 新規行動 ・ 感謝 ・ リンク ・ アンケート
取引先責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投稿 ・ ファイル ・ 新規 ToDo ・ 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) ・ 新規ケース ・ 新規メモ ・ 新規行動 ・ 感謝 ・ リンク ・ アンケート
リード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投稿 ・ ファイル ・ 新規 ToDo ・ 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) ・ 新規ケース ・ 新規メモ ・ 新規行動 ・ 感謝 ・ リンク

Layout	デフォルトアクション
	<ul style="list-style-type: none"> アンケート
商談	<ul style="list-style-type: none"> 投稿 ファイル 新規 ToDo 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) 新規ケース 新規メモ 新規行動 感謝 リンク アンケート

グローバルレイアウトでの作成アクションは、グローバルアクションです。つまり、グローバルアクションを使用して作成されたレコードは、他のどのレコードにも関連付けられません。オブジェクトでパブリッシャーレイアウトに追加された作成アクションは、オブジェクト固有です。このアクションを使用して作成されたレコードは、関連レコードに自動的に関連付けられます。たとえば、Acme, Inc. という取引先のレコード詳細ページで、ユーザが新規取引先責任者アクションを使用して取引先責任者を作成すると、その取引先責任者は自動的に Acme に関連付けられます。

デフォルトの各作成アクションには、事前定義された一連の項目があります。アクションレイアウトエディタを使用すると、これらの項目やその順序を変更できます。また、ページレイアウトエディタを使用して、パブリッシャーでのアクションの表示順序を変更したり、不要なアクションを削除したりすることもできます。

モバイルスマートアクションの使用可能化

モバイルスマートアクションは、Salesforce1 取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談ページ上、およびグローバルパブリッシャーレイアウト上のパブリッシャーに含まれるアクションのセットです。モバイルユーザ向けのパブリッシャーアクションをわずかな作業で設定できるように設計されています。

モバイルスマートアクションはページレイアウトエディタに単一のアクション要素として表示されますが、Salesforce1 のパブリッシャーには異なる作成アクションとして表示され、このアクションを使用して直接フィードでレコードを作成できます。各サポート対象オブジェクトのモバイルスマートアクションは、次の項目を含めるために拡張できます (パブリッシャーレイアウトには、次の順序でアクションが表示されます)。

Layout	モバイルスマートアクションバンドルに含まれるアクション
グローバルレイアウト (カスタムオブジェクトにも適用されます)	<ul style="list-style-type: none"> 新規 ToDo 新規取引先責任者 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます)

Layout	モバイルスマートアクションバンドルに含まれるアクション
	<ul style="list-style-type: none"> 新規商談 新規ケース 新規リード
取引先	<ul style="list-style-type: none"> 新規 ToDo 新規取引先責任者 新規ケース 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) 新規メモ 新規商談
ケース	<ul style="list-style-type: none"> 新規子ケース 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) 新規 ToDo 新規行動
取引先責任者	<ul style="list-style-type: none"> 新規 ToDo 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) 新規ケース 新規メモ 新規行動
リード	<ul style="list-style-type: none"> 新規 ToDo 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) 新規ケース 新規メモ 新規行動
商談	<ul style="list-style-type: none"> 新規 ToDo 活動の記録 (記録された活動は、完了した ToDo として保存されます) 新規ケース 新規メモ 新規行動

モバイルスマートアクションには、存在する項目数に関係なく、関連オブジェクトで組織のすべての必須項目が自動的に取り込まれます。たとえば、モバイルスマートアクションバンドルの「新規ケース」アクションには、ケースの必須項目がすべて含まれます。モバイルスマートアクションの項目は編集できません。オブジェクトのどの項目が必須であるかを変更した場合にのみ、表示される項目が変わります。

[新規行動]の削除や、カスタムアクションの追加など、モバイルスマートアクションバンドルの一部として含まれるアクションの変更もできません。よりカスタマイズされたアクションのセットを作成するには、必要なアクションを作成して関連するページレイアウトに追加し、モバイルスマートアクションバンドルを削除します。

モバイルスマートアクションの表示方法は、組織によって異なります。

- 組織が Winter '14 より前から存在し、Winter '14 リリース時点でパブリッシャーアクションを有効化していなかった場合、モバイルスマートアクションは、取引先、ケース、取引先責任者、リード、および商談のすべてのページレイアウト上のパブリッシャーと、グローバルパブリッシャーレイアウトに自動的に追加されます。
 - ◇ パブリッシャーアクションを有効にしている場合、サポートされる各オブジェクトでモバイルスマートアクションが自動的にデフォルトアクションに置き換えられます。
- 組織が Winter '14 より後に作成されたか、Winter '14 リリース時点でパブリッシャーアクションを有効化していた既存の組織の場合、モバイルスマートアクションは、サポート対象オブジェクトのすべてのページレイアウトのページレイアウトエディタで使用できますが、パブリッシャーに自動的に追加されることはありません。



メモ: モバイルスマートアクションは、どのページレイアウトに追加するかに関係なく、Salesforce のフルサイトのページのパブリッシャーには表示されません。Salesforce1 のユーザにのみ表示されます。そのため、フルサイトにアクセスするよりもモバイルデバイスの Salesforce にアクセスすることが多いユーザがいる場合は、これらのユーザ用の特定のページレイアウトを作成し、こうしたレイアウトにのみモバイルスマートアクションを含めることもできます。

グループおよびトピックページでのパブリッシャーアクションの使用可能化

グループ内またはトピックページ上で作業するユーザは、グローバル Chatter レイアウトに追加したアクションを使用できるようになりました。これにより、フィードでレコードの作成やその他の作業をしやすくなります。

パブリッシャーアクションを使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、**Database.com Edition**、および **Developer Edition**

ユーザが作成アクションを使用してレコードをグループ内、またはトピックページ上に作成すると、レコードへのリンクが、そのグループまたはトピックページのフィード内に表示されます。また、メインの Chatter フィード内、新規レコードのフィード内(最初のエントリとして)、およびレコードを作成したユーザのユーザプロフィールフィード内にも表示されます。トピックページ上に作成されたレコードの場合、トピックは作成されたフィード項目に自動的に追加されます。

新しいパブリッシャーアクションタイプ

パブリッシャーアクションには、活動の記録とカスタムキャンバスという2つの新しいタイプがあります。

パブリッシャーアクションを使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、**Database.com Edition**、および **Developer Edition**

カスタムキャンバスを使用可能なエディション: **Professional Edition** (Force.com Canvas が有効な場合)、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**

- **活動の記録アクション**を使用すると、ユーザは通話やその他の顧客とのやりとりの詳細を記録できます。これらの活動ログは、完了した ToDo として保存されます。
- **更新アクション**では、ユーザがレコードのフィードからレコードを変更できます。
- **カスタムキャンバスアクション**を使用すると、ユーザはパブリッシャーから直接キャンバスアプリケーションにアクセスできます。パブリッシャーを場所として使用する任意のキャンバスアプリケーションをカスタムアクションとして使用できます。たとえば、経費レポートアプリケーションをカスタムアクションとして使用し、営業担当者が経費レポートをフィードから直接送信しやすくすることができます。ビデオ会議キャンバスアプリケーションなどのカスタムアクションは、サポートエージェントが顧客と視覚的にやりとりして技術的な問題をトラブルシューティングしやすくするのに役立つ可能性があります。



メモ: カスタムキャンバスアクションは現在、パイロットプログラムで利用できます。組織でカスタムキャンバスアクションを有効化する方法についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

活動の記録およびカスタムキャンバスアクションは、オブジェクト固有アクションまたはグローバルアクションのどちらにもできます。更新アクションはオブジェクト固有である必要があります。

詳細は、Salesforce ヘルプの「オブジェクト固有のアクションの作成」、「グローバルアクションの作成」、「Creating Custom Actions (カスタムアクションの作成)」、「Using Canvas Apps as Custom Actions (カスタムアクションとしてのキャンバスアプリケーションの使用)」を参照してください。

パブリッシャーアクションの定義済み項目値での参照関係項目と主従関係項目のサポート

パブリッシャーアクションレイアウトに含める項目に定義済みの値を設定することで、一貫性が保たれ、それらのアクションをすばやく簡単に使用できます。参照関係項目と主従関係項目の値を事前に定義できるようになりました。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、**Database.com Edition**、および **Developer Edition**

定義済み項目値の使用方法についての詳細は、Salesforce ヘルプの「パブリッシャーアクションの定義済み項目値の設定」と「パブリッシャーアクションの定義済み項目値に関するメモ」を参照してください。

パブリッシャーアクションでのリッチテキストエリア項目のサポート

作成したパブリッシャーアクションにリッチテキストエリア項目を追加できるようになり、ユーザがテキストを書式設定できるようになりました。

パブリッシャーアクションを使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、**Database.com Edition**、および **Developer Edition**

たとえば、商談作成アクションがある場合、Detailed Comments というリッチテキストエリア項目を追加して、営業担当者が箇条書き、太字、斜体などの書式を含むメモを作成できるようになります。



メモ: リッチテキストエリア項目は、1列のレイアウトに追加した場合、または2列レイアウトの両方の列にまたがる項目として追加した場合にのみサポートされます。リッチテキストエリア項目を2列のレイアウトの一方の列にのみ追加した場合、リッチテキストエディタ全体を表示できるだけの領域がないため、項目はプレーンテキストエリアとして表示されます。

リッチテキストエリア項目を含む項目をアクションに追加する方法についての詳細は、Salesforceヘルプの「アクションレイアウトエディタを使用したパブリッシャーアクションのカスタマイズ」を参照してください。

トピック

トピックを使用すると、投稿を整理し、他のユーザが話している話題を確認できます。

トピックのフィード追跡の自動的な有効化

リリースの直後から、システム管理者は、ユーザがトピックをフォローできるようにトピックのフィード追跡を有効化できます。システム管理者がリリース後24時間以内に手動でトピックのフィード追跡を有効にしない場合、スクリプトで自動的に有効化されます。

トピックのフォロー

トピックをフォローして、自分の Chatter フィードに更新を表示できるようにします。

新しいトピックユーザ権限

ユーザがトピックを割り当て、作成、削除、および編集できるようにするには、新しいトピック権限を使用します。

トピック名の編集

トピック名の大文字、小文字に加え、スペースを変更できるようになりました。

同じ名前を持つトピックのマージ

リリース後24時間以内に、同じ名前で大文字、小文字、スペースのみが異なるトピックは自動的にマージされます。

トピックのフィード追跡の自動的な有効化

リリースの直後から、システム管理者は、ユーザがトピックをフォローできるようにトピックのフィード追跡を有効化できます。システム管理者がリリース後 24 時間以内に手動でトピックのフィード追跡を有効にしない場合、スクリプトで自動的に有効化されます。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

必要なユーザ権限	
フィードの項目追跡をカスタマイズする	「アプリケーションのカスタマイズ」
項目追跡設定ページを参照する	「設定・定義を参照する」

トピックの「説明」項目は、追跡できる唯一の項目で、デフォルトで追跡されます。トピックのフィード追跡変更(トピックの説明に加えた変更)は、変更を加えたユーザのプロファイルページにのみ表示され、トピックをフォローしている場合でもトピックページまたはフィードには表示されません。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [Chatter] > [フィード追跡] をクリックします。
2. トピックを選択します。
3. [フィード追跡の有効化] を選択します。

このチェックボックスは、必要なユーザ権限を持つユーザにのみ表示されます。このオブジェクトに対するデフォルトのフィード追跡設定を復元するには、[デフォルト値に戻す] をクリックします。

4. 「説明」項目が選択されていることを確認します。
5. [保存] をクリックします。

トピックのフィード追跡を無効にすると、ユーザは新しいトピックをフォローできなくなりますが、フィード追跡が有効だったときにフォローしていたトピックは引き続きフォローできます。このようなトピックは、フォローできるユーザ、トピックおよびレコードの最大数に対してカウントされます。フィード追跡が無効になった後でトピックのフォローを停止するには、Chatter REST API を使用します。

トピックのフォロー


トピックをフォローして、自分の Chatter フィードに更新を表示できるようにします。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

トピックをフォローするには、次の場所で  [フォローする] をクリックします。

- ・ トピックの詳細ページ
- ・ トピックリスト

トピックのフィード追跡変更(トピックの説明に加えた変更)は、変更を加えたユーザのプロファイルページにのみ表示され、トピックをフォローしている場合でもトピックページまたはフィードには表示されません。合計で最大 500 の人、トピック、およびレコードをフォローできます。

トピックのフォローを停止するには、次の場所で [フォローする] の横にある  をクリックします。トピックのフォローを停止すると、それ以降 Chatter フィードにはトピックの更新は表示されません。

システム管理者がトピックのフィード追跡を無効にすると、新しいトピックをフォローできなくなりますが、フィード追跡が有効だったときにフォローしていたトピックは引き続きフォローできます。このようなトピックは、フォローできるユーザ、トピックおよびレコードの最大数に対してカウントされます。システム管理者がフィード追跡を無効にした後でトピックのフォローを停止するには、Chatter REST API を使用する必要があります。

新しいトピックユーザ権限

ユーザがトピックを割り当て、作成、削除、および編集できるようにするには、新しいトピック権限を使用します。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
システム権限を参照する	「設定・定義を参照する」
システム権限を編集する	「ユーザの管理」

Winter '14 では、新しいトピックユーザ権限を使用できます。

権限セットとプロファイルのユーザ権限を有効にできます。権限セットおよび拡張プロファイルユーザインターフェースでは、これらの権限は、[システム権限] ページに一覧表示されます。元のプロファイルユーザインターフェースでは、これらの権限は [一般ユーザ権限] ページに一覧表示されます。

トピックの割り当て

既存のトピックをフィード項目に割り当てます。トピックをフィード項目から削除します。

トピックの作成

トピックをフィード項目に割り当てることで、新しいトピックを作成します。

トピックの削除

トピックを削除し、すべてのトピックの割り当てをフィード項目から削除します。

削除アクセス権を付与する場合は、次の点を考慮してください。

- トピックは物理削除されます。ごみ箱には移動されません。
- 削除したトピックは、検索結果、トピックリスト、すべての投稿、最近話したトピック、関連トピック、およびユーザのお気に入りから削除されます。削除したトピックは、次の計算後にトピックのトレンドから削除されます。
- 削除したトピックはブラックリストには含まれません。ユーザは、削除後でもトピックを再度紹介できます。

トピックの編集

トピックの名前と説明を編集します。

権限セットを使用してトピック権限をユーザに付与する手順は、以下のとおりです。


1. [設定] で、[ユーザの管理] > [権限セット] をクリックします。
2. [新規] をクリックして、適切なトピック権限を含む権限セットを作成します。
3. [ユーザの管理] > [ユーザ] に移動して、権限セットを適切なユーザに割り当てます。

トピック名の編集

トピック名の大文字、小文字に加え、スペースを変更できるようになりました。

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
トピック名を編集する	「トピックの編集」

- ・ トピック詳細ページで [説明] の横にある  をクリックします。

同じ名前を持つトピックのマージ

リリース後 24 時間以内に、同じ名前で大文字、小文字、スペースのみが異なるトピックは自動的にマージされます。

似ているが異なる名前 (San Francisco、sanfrancisco、SanFrancisco など) が同じトピックに付けられていると混乱を招く場合があります。この種のバリエーションがある既存のトピックは、リリース後 24 時間以内にマージされます。最も活動の多い (話題数が最も多い) トピックが選択され、他のトピックの投稿とコメントが選択されたトピックのフィードにマージされます。説明を持つトピックが複数ある場合、説明は連結されます。トピックの説明、および選択されたトピックの大文字、小文字、スペースはいつでも変更できます。「[トピック名の編集](#)」を参照してください。

既存のトピックと大文字、小文字、またはスペースのみが異なるトピック名をユーザが入力し始めると、既存のトピックのみが選択可能になり、一貫性が維持されます。さらに、ハッシュタグでスペースおよび大文字と小文字が区別されなくなりました。[#sanfrancisco]、#SanFrancisco、[#San Francisco] のどれをクリックしても同じトピック詳細ページに移動します。

Chatter フィード

Chatter フィードを使用すると、コラボレーションが容易になります。

Chatter の感謝

[投稿およびコメントサイズの増加](#)

[条件および並び替えオプションの統合](#)
[新しいプレビューリンク](#)
[フィード検索の移動](#)
[\[すべての会社\] フィードのレコード更新](#)

Chatter の感謝

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

Chatter に感謝が追加されました。

Work.com 機能の感謝を、Chatter パブリッシャーから直接使用できるようになりました。感謝は、同僚を評価するために使用します。12 個のバッジのいずれかで投稿をカスタマイズできます。

管理者は、すべての組織の感謝を有効にする必要があります。



メモ:

- Work.com は、セールス組織のパフォーマンス促進を可能にする、セールスパフォーマンス管理製品のスイートです。
- **Enterprise Edition**、**Professional Edition**、および **Unlimited Edition** には、完全な Chatter の感謝およびバッジ機能はありません。これには、別途 Work.com ライセンスが必要です。**Performance Edition** の標準 Salesforce ライセンスには、完全な感謝およびバッジ機能が搭載された **Perform Work.com** ライセンスが含まれます。

次に、Work.com ライセンスが必要となるアクションの例を示します。

- カスタムバッジを変更、削除、または追加する
- [認識] タブでユーザからの感謝の気持ちを表示する
- Work.com の報奨を使用する

Chatter の感謝の有効化

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

1. [設定] で、[カスタマイズ] > **Work.com** > [設定] をクリックします。
2. [感謝設定] の下で [有効化] を選択し、[保存] をクリックします。

Work.com 機能を無効にするには、[設定] で、[カスタマイズ] > **Work.com** > [設定] をクリックして [有効化] を選択解除します。ユーザには、Chatter パブリッシャーの感謝アクションが表示されなくなります。ただし、それより前に作成された感謝投稿は引き続き表示されます。

Chatter パブリッシャーへの感謝の設定

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

感謝を有効にすると、システム管理者は Chatter パブリッシャー内の感謝の位置を変更したり、特定のプロフィールで非表示にしたりできます。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > **Chatter** > [設定] をクリックします。
2. [パブリッシャーアクション] セクションで [パブリッシャーアクションを有効化] が有効であることを確認します。
有効ではない場合、[パブリッシャーアクションを有効化] を選択して、[保存] をクリックします。
3. [設定] > [カスタマイズ] > [**Chatter**] > [パブリッシャーレイアウト] をクリックします。
4. [グローバルパブリッシャーレイアウト] ページで、[グローバルパブリッシャーレイアウト] の [アクション] 列の [編集] を選択します。
5. [パブリッシャーアクション] の下で、[感謝] ボタンをクリックして、目的の位置までドラッグします。

ユーザプロフィールに基づいて、パブリッシャーで感謝を非表示にすることもできます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプで「ユーザプロフィールへのグローバルパブリッシャーレイアウトの割り当て」を検索してください。

同僚への感謝

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

他のユーザがよい仕事をした場合や、業績を評価する場合は、感謝します。

1. Chatter パブリッシャーから、[感謝] をクリックします。
2. 感謝するユーザの名前を入力します。
現在、一度に感謝できるのは 1 人のみですが、投稿で他のユーザにメンションできます。
3. [バッジを変更] を選択して投稿に別のバッジを選択するか、またはデフォルトのバッジのままにします。
12 個の事前定義されたバッジから選択できます。バッジ画像を選択すると、そのバッジに関するその他の情報が表示されます。
4. 感謝する人へのメッセージを入力します。
5. 感謝を投稿する対象者を選択します。
 - ・ フォローされている人すべてに投稿する場合は、[私のフォローされている人] を選択します。
 - ・ 特定のグループに投稿するには、[グループ] を選択します。グループを検索して、リストからグループを選択します。非公開グループに投稿すると、グループのメンバーのみに投稿が表示されます。
6. [共有] をクリックします。

感謝投稿は、自分のフィードと、自分が感謝しているユーザのフィードに表示されます。公開グループまたはレコードページに投稿する場合、投稿はグループまたはレコードのフィードに表示されます。非公開グループに投稿すると、投稿は非公開グループのメンバーのみに表示されます。

投稿およびコメントサイズの増加

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**


投稿とコメントの長さを増やしました。投稿とコメントの長さ制限は、1000 文字ではなく、5000 文字になりました。

条件および並び替えオプションの統合

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

フィード条件と並び替えオプションが1つのドロップダウンメニューに統合されました。このメニューは次の場所で使用できます。

- 自分の Chatter ページ
- プロファイルページ
- グループページ
- レコード詳細ページ
- Chatter フィード検索結果ページ

フィードの上で、[表示] の横にある  をクリックし、条件または並び替え基準オプションを選択します。

条件または並び替えオプション	説明
すべての更新 (デフォルト)	自分がフォローする人とレコードからの投稿とコメントすべて、自分がメンバーであるグループからの投稿、システムで生成された投稿すべてが表示されます。
更新を減らす	<ul style="list-style-type: none"> • 自分がフォローする人とレコードからの投稿とコメントすべて、および自分がメンバーであるグループからの投稿とコメントすべてが表示されます。 • 誰もコメントしていないシステム生成されたレコード投稿は非表示になります。
人	自分がフォローしている人からの投稿とコメントのみが表示されます。
グループ	自分がメンバーであるグループの投稿のみが表示されます。

条件または並び替えオプション	説明
ファイル	次を含む投稿が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 自分がフォローしているファイル 自分がフォローしている他のユーザがコメントしたファイル投稿
投稿日	投稿が新しい順に並び替えられます。
最近の活動	投稿が、新規コメントのあるアンケートを含む、コメントの新しい順に並び替えられます。

たとえば、[自分がフォローするもの]フィードには、自分がフォローするすべての人およびレコード、および自分がメンバーであるグループからの投稿が表示されます。条件に[人]を選択した場合、フィードにはすべての投稿ではなく自分がフォローしている人からの投稿のみが表示されます。

新しいプレビューリンク

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

Winter '14 には、より多くのリンクコンテンツのプレビューが追加されています。

- bbc.com
- bbc.uk.com
- brightcove.com
- ft.com
- gawker.com
- gizmodo.com
- hulu.com
- linkedin.com
- plus.google.com
- theverge.com
- twitpic.com
- twitter.com
- ustream.tv
- vidyard.com
- vine.com

プレビューは Embed.ly によって動作するサードパーティサービスで、動画へのリンクのサムネール、説明、動画プレーヤーが含まれます。コンテンツ、ユーザ、組織、取引先データは Embed.ly と共有されません。共有されるのはドメインホワイトリストにある URL のみです。さらに、URL 要求はすべて Salesforce プロキシを通過します。つまり、Embed.ly がクライアントから直接コールを受け取ることはなく、URL 要求を行ったユーザに関する情報を知ることはありません。

フィード検索の移動

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Contact Manager Edition**、および **Developer Edition**

フィード検索アイコンの場所を移動しました (🔍)。このアイコンは、パブリッシャーの下にあるフィードの左側に表示されます。

ユーザプロファイル、レコード、グループ、Chatter タブ、および [ホーム] タブのフィードで情報を検索できます。コンテキストフィード検索は、特定のフィードで過去に話し合われた物事を検索する場合に役立ちます。

[すべての会社] フィードのレコード更新

[すべての会社] フィードには、システムが生成した、いいね! またはコメントのあるレコード投稿のみが含まれるようになりました。

たとえば、取引先マネージャが新規取引先を作成するか、既存取引先のフィード追跡項目を変更した場合、Salesforce では自動的に更新が生成されます。この種の投稿は、誰かが投稿に対していいね! と言うか、コメントしない限り、[すべての会社] フィードには表示されなくなります。

メール通知

Chatter ではメールを使用できるため、ユーザに投稿に関する通知を簡単に送ることができます。

メール通知の新しいデザイン

投稿、コメント、いいね! のメール通知の外観が新しくなり、コンテンツが更新されました。

メール通知の新しいデザイン

投稿、コメント、いいね! のメール通知の外観が新しくなり、コンテンツが更新されました。

設計とコンテンツには次のような変更があります。

- デスクトップとモバイルの両方に合うように最適化された新しいレイアウト
- 投稿、コメント、いいね! の著者を指定する、パーソナライズされた [差出人] 項目
- メール設定の変更を容易にする、組織と通知の種類を示すフッターテキスト
- HTML メールがいいね! 通知の場合、メール本文にはいいね! を受け取った投稿またはコメントが含まれます。

グループダイジェストやフォロー通知など、その他の通知に変更はありません。コミュニティのカスタムブランドは、引き続きサポートされます。

コミュニティ

コミュニティでは、企業が顧客やパートナーと情報を共有できます。

コミュニティモデレーション

コミュニティをモデレートして、最適なコンテンツややりとりを奨励します。

コミュニティへのセルフ登録のデフォルトプロフィール

セルフ登録を使用すると、ユーザが管理者のサポートなしにコミュニティに参加できます。

大規模コミュニティユーザの共有グループ

共有設定を有効にすると、大規模コミュニティユーザに、コミュニティ内の適切なオブジェクトへのアクセス権を簡単に付与できます。さらに、関連付けられた共有グループを作成して、内部および外部ユーザがこれらの大規模コミュニティユーザが作成したレコードにアクセスできるようにすることもできます。

コミュニティのグループダイジェストメールの設定

オフラインのコミュニティを[コミュニティ]ドロップダウンメニューで非表示に

「グローバルヘッダーを参照」権限はデフォルトで無効に

[設定]にコミュニティの最大数をリスト

組織で利用可能なコミュニティの数を簡単に確認できるようになりました。

コミュニティでのケースの表示

[新規ケースをポータルに公開]設定に関係なく、新しいケースがコミュニティで表示されるようになりました。

コミュニティのAPIサポートの改善

Winter '14 では、コミュニティの API サポートが改善されています。

Site.com によるコミュニティの機能強化

Site.com を使用して、コミュニティの高度なカスタマイズを実行します。

コミュニティモデレーション

コミュニティをモデレートして、最適なコンテンツややりとりを奨励します。

コミュニティモデレーションの概要

コミュニティモデレーションを使用すると、コンテンツの監視をメンバーに許可し、適切で関連性のあるコンテンツであることを確認できます。

コミュニティモデレータとは?

モデレータはコミュニティの確実な成功に役立ちます。

コミュニティでのモデレーションの有効化

コミュニティでモデレーションを有効にして、メンバーが不適切と判断した投稿およびコメントにフラグ付けできるようにします。

コミュニティモデレータの割り当て

コミュニティで1人以上のユーザをモデレータとして割り当てます。モデレータは、社員またはコミュニティメンバーである外部ユーザのどちらでもかまいません。

コミュニティでの投稿またはコメントのフラグ付け

コミュニティの別のメンバーが不適切な内容を投稿した場合、フラグ付けすることができます。

コミュニティのモデレート

コミュニティのモデレータは、コミュニティメンバーが不適切とフラグ付けした投稿およびコメントのリストを確認し、対応策を実行できます。グループの所有者またはマネージャは、自分のグループの項目に付けられたフラグを表示および削除できます。

コミュニティファイルのモデレート

コミュニティのモデレータは、コミュニティで表示されるべきでないファイルを削除できます。また、グループの所有者およびマネージャは、自分が所有および管理するグループのファイルを削除できます。

コミュニティモデレーションの概要

コミュニティモデレーションを使用すると、コンテンツの監視をメンバーに許可し、適切で関連性のあるコンテンツであることを確認できます。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

モデレーションはコミュニティの発展に不可欠です。コミュニティ内のメンバーとコンテンツが適切かつ有益であることを、積極的、継続的に確認するモデレータが必要です。また、不適切あるいは攻撃的とみなされる内容を見つけた場合に指摘することをメンバーに許可する必要があります。

コミュニティモデレーションでは、次のことができます。

- コミュニティを綿密に監視できるようにするため、特定のユーザをモデレータに指定する
- 不適切な投稿およびコメントのフラグ付けをすべてのメンバーに許可する
- フラグ付き項目の確認および対応 (投稿またはコメントの削除など) をモデレータに許可する
- ファイルの削除をモデレータに許可する
- グループの所有者およびマネージャに自分のグループ内でのモデレートを許可する

コミュニティモデレータとは?

モデレータはコミュニティの確実な成功に役立ちます。

成功しているコミュニティでは、メンバーの活動やメンバー間のやりとりが積極的に行われます。コミュニティモデレータは、コミュニティ内での情報の共有を促進することで、コミュニティへの参加から得られる利点や価値をメンバーにもたらしめます。また、コミュニティ内でのすべてのやりとりとコンテンツを確実に適切なものにするためにも役立ちます。

モデレータは、内部組織の従業員またはコミュニティの信頼できる外部メンバーのどちらでもかまいません。モデレータには、顧客との交流に慣れていること、Salesforce および Chatter の機能について十分に理解していること、コミュニティを定期的に監視する時間を確保できることが求められます。

モデレータは、次のことができます。

- コミュニティでフラグが付けられた投稿およびコメントのリストを管理する
- フラグを削除する
- 不適切な投稿、コメント、ファイルを削除する

また、他のさまざまな方法でもコミュニティの成功に貢献します。

- 関連性があり有益な情報をコミュニティの投稿で共有する
- 他のメンバーの投稿に関して、投稿およびコメントすることをメンバーに奨励する
- コミュニティ内での活動を通じて手本を示す
- 目的が明確で、スパムがなく、論争を招くことのないディスカッションを維持する
- 他のコミュニティメンバーが恩恵を得られる場合にメールの内容をコミュニティにリダイレクトする
- 信頼できる情報源および明瞭なディスカッションのフォーラムとしてのコミュニティを確立する

特に多数のメンバーが存在するコミュニティの場合などに、複数のモデレータをコミュニティに指定できます。



メモ: コミュニティモデレータと Chatter モデレータには一部の類似した機能がありますが、これらは異なるモデレータです。

コミュニティでのモデレーションの有効化

コミュニティでモデレーションを有効にして、メンバーが不適切と判断した投稿およびコメントにフラグ付けできるようにします。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限	
コミュニティでモデレーションを有効化する	「コミュニティの作成および管理」

コンテンツのフラグ付けをメンバーに許可するには、組織でコミュニティモデレーションが有効になっている必要があります。コンテンツのフラグ付けを許可するオプションが表示されない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

項目にフラグが付けられると、コミュニティモデレータはその項目を確認して対応できます。

1. [設定]から[カスタマイズ]>[コミュニティ]>[コミュニティを管理する]をクリックします。
2. モデレーションを有効化するコミュニティの横にある[編集]をクリックします。
3. [メンバー]をクリックして、[メンバーにコンテンツのフラグの設定を許可]を選択します。
4. [保存]をクリックします。

モデレーションが有効化されたコミュニティでは、次のようになります。

- メンバーは「不正フラグを設定」オプションを使用して、投稿およびコメントにフラグ付けできる

- ・ グループの所有者およびマネージャは、自分が所有または管理するグループをモデレートできる
- ・ 「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つユーザは、[フラグ付き]フィード条件を使用して、コミュニティでアクセス権のある項目をモデレートできる
- ・ 「コミュニティファイルのモデレート」権限を持つユーザは、コミュニティでアクセス権のあるファイルを削除できる

コミュニティモデレータの割り当て

コミュニティで1人以上のユーザをモデレータとして割り当てます。モデレータは、社員またはコミュニティメンバーである外部ユーザのどちらでもかまいません。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限	
権限セットを割り当てる	「ユーザの管理」

1つまたは両方のモデレーション権限を含む権限セットを作成することで、モデレータを割り当てることができます。

権限	説明
コミュニティフィードのモデレート	フラグ付きの投稿およびコメントを確認し、フラグの削除や投稿またはコメントの削除などの対応策を実行します。フラグ付き項目の管理に使用できる[フラグ付き]条件とリストビューが表示されます。
コミュニティファイルのモデレート	ファイルを削除します。

これらの権限はプロファイルにも追加できます。これらの権限は、ユーザがメンバーとなっているすべてのコミュニティに有効ですが、内部組織では適用されません。

1. [設定] から、[ユーザの管理] > [権限セット] をクリックした後、[新規] をクリックします。
2. 適切な権限を含む権限セットを作成します。
3. [設定] で、[ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。
4. コミュニティモデレータに指定するユーザを検索し、そのユーザの [権限セットの割り当て] 関連リストに権限セットを追加します。

これで、ユーザはメンバーとなっているすべてのコミュニティでアクセス権がある項目をモデレートできるようになります。また、[項目に不正フラグを付ける] メール通知を選択すると、投稿またはコメントにフラグ付けされたときに「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つモデレータはメール通知も受信できます。

コミュニティでの投稿またはコメントのフラグ付け

コミュニティの別のメンバーが不適切な内容を投稿した場合、フラグ付けすることができます。


使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition


コミュニティで「メンバーにコンテンツのフラグの設定を許可」が選択されていると、投稿またはコメントに不適切としてフラグ付けする機能が表示されます。

フラグ付けされた投稿およびコメントは、確認用にコミュニティモデレータに送信されます。コミュニティの他のメンバーには、フラグは表示されません。



メモ: コミュニティでのレコードフィードの項目のフラグ付けは、現在サポートされていません。

1. フラグ付けする投稿またはコメントの右上隅にある  をクリックして、ドロップダウンメニューを展開します。
2. [不正フラグを設定] をクリックします。
投稿またはコメントの日付の横にフラグアイコンが表示されます。

項目に誤ってフラグ付けした場合、またはフラグを削除する場合は、 をクリックして [フラグを削除] をクリックします。

次のような場合、投稿にフラグ付けします。

- ・ 会社の機密事項をメンバーが誤って公開グループに投稿した
- ・ メンバーの投稿またはコメントに不適切な表現が含まれている

コミュニティのモデレート

コミュニティのモデレータは、コミュニティメンバーが不適切とフラグ付けした投稿およびコメントのリストを確認し、対応策を実行できます。グループの所有者またはマネージャは、自分のグループの項目に付けられたフラグを表示および削除できます。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限	
フラグ付き項目の表示、フラグの削除、投稿またはコメントの削除を行う	「コミュニティフィードのモデレート」
ファイルを削除する	「コミュニティファイルのモデレート」

[フラグ付き] 条件は、コミュニティで「メンバーにコンテンツのフラグの設定を許可」が選択されている場合に表示されます。

フラグ付き項目には、投稿またはコメントの日付の横に小さいオレンジのフラグが表示されます。フラグの横にある数値は、項目にフラグ付けした人数を示します。モデレータは、リスト内の各項目を確認し、対応策を実行するかどうかを決定します。



メモ: モデレータが表示および操作できるのは、アクセス権のある項目のみです。

1. コミュニティの Chatter タブで、[フラグ付き] 条件をクリックし、フラグ付き項目を確認します。

2. 投稿またはコメントが不適切であり削除することに同意するか、投稿またはコメントに誤ってフラグが付けられたかに応じて、[削除] または [フラグを削除] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。



ヒント: コミュニティで項目にフラグが付けられるたびにメールを受信するには、[Chatter メール通知] ページの [項目に不正フラグを付ける] チェックボックスをオンにします。

コミュニティファイルのモデレート

コミュニティのモデレータは、コミュニティで表示されるべきでないファイルを削除できます。また、グループの所有者およびマネージャは、自分が所有および管理するグループのファイルを削除できます。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限

フラグ付き項目の表示、フラグの削除、投稿またはコメントの削除を行う 「コミュニティファイルのモデレート」

モデレータは、コミュニティで [メンバーにコンテンツのフラグの設定を許可] が選択されている場合にのみファイルを削除できます。

コミュニティメンバーは、機密情報が含まれているか内容が攻撃的であるため不適切なファイルを投稿する可能性があります。モデレータは、アクセス権のあるコミュニティでファイルを削除できます。

グループの所有者およびマネージャは、コミュニティモデレーションが有効であるかどうかに関係なく、自分が所有および管理するグループのファイルを削除できます。

1. コミュニティ内で、削除するファイルのファイル詳細にアクセスします。
2. [削除] をクリックします。
コミュニティからファイルが完全に削除されます。

コミュニティへのセルフ登録のデフォルトプロファイル

セルフ登録を使用すると、ユーザが管理者のサポートなしにコミュニティに参加できます。

コミュニティにセルフ登録するユーザに割り当てる、デフォルトプロファイルを選択できるようになりました。この値は、必要に応じて、引き続き `CommunitiesSelfRegController` に設定できます。プロファイルが両方の場所で設定されている場合は、`CommunitiesSelfRegController` の値がデフォルト値を上書きします。

セルフ登録を有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] から [カスタマイズ] > [コミュニティ] > [コミュニティを管理する] をクリックします。
2. コミュニティの横にある [編集] をクリックして、[ログインページ] をクリックします。
3. [外部ユーザにセルフ登録を許可] を選択して、コミュニティへのセルフ登録を有効にします。
4. 必要に応じて、セルフ登録するユーザに割り当てるプロファイルを選択します。値を選択しない場合は、`CommunitiesSelfRegController` に値を入力する必要があります。



メモ: コミュニティに関連付けられているポータルプロファイルしか選択できません。

プロファイルがセルフ登録するユーザのデフォルトとして選択されている場合に、そのプロファイルをコミュニティから削除すると、[セルフ登録するユーザのデフォルトプロファイル] が自動的に [なし] にリセットされます。

セルフ登録の設定を完了するには、デフォルトのコントローラで、セルフ登録プロセスでユーザに割り当てるアカウントを指定する必要があります。詳細は、[『Getting Started With Salesforce Communities』](#) を参照してください。

大規模コミュニティユーザの共有グループ

共有設定を有効にすると、大規模コミュニティユーザに、コミュニティ内の適切なオブジェクトへのアクセス権を簡単に付与できます。さらに、関連付けられた共有グループを作成して、内部および外部ユーザがこれらの大規模コミュニティユーザが作成したレコードにアクセスできるようにすることもできます。

大規模コミュニティユーザへのレコードアクセス権の付与

大規模コミュニティユーザにレコードへのアクセス権を付与する共有セットを作成できます。

大規模コミュニティユーザが所有するレコードの共有

共有グループを使用すると、大規模コミュニティユーザが所有するレコードを、コミュニティで内部ユーザおよび外部ユーザと共有できます。

大規模コミュニティユーザへのレコードアクセス権の付与

大規模コミュニティユーザにレコードへのアクセス権を付与する共有セットを作成できます。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限
大規模コミュニティユーザにレコードへのアクセス権 「アプリケーションのカスタマイズ」を付与する

共有セットは、大規模ユーザに対し、ユーザの取引先または取引先責任者と一致する取引先または取引先責任者への参照項目を持つすべてのレコードへのアクセスを許可します。共有セットは、大規模コミュニティユーザがメンバーとなってといるすべてのコミュニティに適用されます。

大規模コミュニティユーザは、カスタマーコミュニティユーザライセンスまたは大規模ポータルユーザライセンスのいずれかを持っています。

1. [カスタマイズ] > [コミュニティ] > [設定] をクリックします。
2. [大規模コミュニティユーザの共有設定] 関連リストで、[新規] をクリックして共有セットを作成するか、既存の共有セットの横にある [編集] をクリックします。
3. [共有セットの編集] ページで、名前と説明を入力します。
4. アクセス権を持たせるユーザのプロファイルを選択します。

5. アクセス権を与えるオブジェクトを選択します。

[利用可能なオブジェクト] リストに、次のオブジェクトは含まれません。

- ・ 組織の共有設定が「公開/参照・更新可能」になっているオブジェクト
- ・ 取引先または取引先責任者の参照項目を持たないカスタムオブジェクト

6. [アクセス権の設定] セクションで、オブジェクト名の横にある [設定] または [編集] をクリックし、選択したプロファイルに対するアクセス権を設定します。または、[削除] をクリックして、オブジェクトからアクセス権の設定を削除します。



メモ: [アクション] 列に [設定] があるオブジェクトは、大規模ユーザ用の設定になっていません。オブジェクトを設定するまで、大規模ユーザにはそのレコードに対するアクセスが制限されるか、アクセス権がありません。

7. 取引先または取引先責任者ルックアップに基づいてアクセスを許可します。

- ・ 「大規模コミュニティユーザのアカウントが次に一致するすべてのレコード」を選択して、大規模コミュニティユーザに、その取引先に関連するすべてのレコードへのアクセス権を与えます。たとえば、このオプションをケースに対して選択すると、その取引先に関連付けられているすべてのケースへのアクセス権をユーザに与えることになります。
- ・ 「大規模コミュニティユーザの連絡先が次に一致するレコードのみ」を選択して、大規模コミュニティユーザに、自分が所有する取引先責任者に関連付けられているレコードのみにアクセス権を与えます。たとえば、このオプションをケースに対して選択すると、自分でファイルしたケース、またはサポート担当者によってファイルされたケースのみへのアクセス権をユーザに与えることになります。



メモ: オブジェクトに関連する項目がない場合には、これらのオプションの1つは、使用できない場合があります。

8. 「参照のみ」または「参照・更新」のアクセスレベルを選択します。(オブジェクトの組織の共有設定が「公開/参照のみ」の場合、選択できるのは「参照・更新」のみです)。

9. [更新] をクリックし、[保存] をクリックします。

共有セットを作成したら、**共有グループを作成**して、大規模コミュニティユーザが作成したレコードへのアクセス権を他のユーザに付与します。

大規模コミュニティユーザが所有するレコードの共有

共有グループを使用すると、大規模コミュニティユーザが所有するレコードを、コミュニティで内部ユーザおよび外部ユーザと共有できます。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限

大規模コミュニティユーザが所有するレコードを他の「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザと共有する

大規模ユーザは、数千から数百万の外部ユーザを抱える組織を対象とする、アクセス制限されたユーザです。他の外部ユーザと異なり、大規模ユーザにはロールはありません。そのため、ロール階層の計算に関連するパフォーマンス上の問題がなくなります。Salesforce ユーザはロール階層内に存在するのに対し、大規模コミュニティユーザはロール階層内に存在しないため、共有グループを使用して、大規模コミュニティユーザが所有するレコードにアクセス可能な Salesforce の他の外部ユーザを指定できます。

共有グループは、コミュニティにまたがって適用されます。

コミュニティに共有グループを設定する手順は、次のとおりです。

1. [カスタマイズ] > [コミュニティ] > [設定] をクリックします。
2. [大規模コミュニティユーザの共有設定] 関連リストで、既存の共有セットの横にある [編集] をクリックします。
3. [共有グループ設定] タブをクリックします。
4. [有効化] をクリックして共有グループを有効にします。

共有グループの有効化には時間がかかる場合があります。処理が完了すると、メールが送信されます。



メモ: 共有グループを無効にすると、大規模コミュニティユーザが所有するレコードへの他のユーザのアクセス権がすべて削除されます。無効化プロセスが完了しても、メールは送信されません。

5. [編集] をクリックし、ユーザを共有グループに追加します。大規模ユーザと同じ親取引先を持つ外部ユーザだけでなく、組織の内部ユーザも追加できます。
 - a. [検索] ドロップダウンリストから、追加するメンバーの種別を選択します。
 - b. 追加するメンバーが見つからない場合は、検索ボックスにキーワードを入力し、[検索] をクリックします。
 - c. [共有可能なユーザ] ボックスからメンバーを選択し、[追加] をクリックすると、そのメンバーがグループに追加されます。
 - d. [保存] をクリックします。

コミュニティのグループダイジェストメールの設定

グループダイジェストメールを受信するには、管理者がコミュニティのメール通知を有効にする必要があります。

グループダイジェストでは、グループの最新の活動を確認できます。コミュニティでこの機能を使用できるようになりました。

1. グループの名前をクリックします。
2. [私宛てにメール送信...] をクリックし、日次または週次のダイジェストメールを受信するか、誰かが投稿するたびにメールを受信するかを選択します。

グループのメールの受信を停止するには、[グループのメールをオフにする] をクリックします。



メモ: コミュニティでは、グループのメンバーが 10,000 人を超えると、[各投稿のメール] オプションが無効になります。このオプションを選択しているすべてのメンバーが、自動的に [毎日のダイジェスト] に切り替えられます。

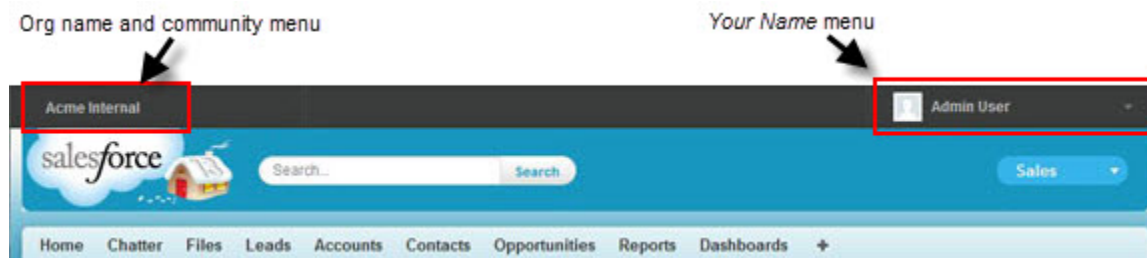
オフラインのコミュニティを[コミュニティ]ドロップ ダウンメニューで非表示に

Winter '14 以降、ドロップダウンメニューに、自分がメンバーになっている [公開] コミュニティのみが表示されます。[オフライン] コミュニティはリストされません。

「グローバルヘッダーを参照」権限はデフォルトで無効 に

Winter '14 以降、すべての標準プロファイルで「グローバルヘッダーを参照」権限がデフォルトで無効になりました。これまで、Salesforce Communities が有効のときは、組織のすべてのプロファイルに対してこの権限が自動的に有効になっていました。すでに Salesforce Communities を使用している組織の管理者は、標準プロファイルでこの権限を手動で無効にできます。

Salesforce Communities が有効の場合は、グローバルヘッダーでコミュニティと内部組織を簡単に切り替えることができます。



- 組織からコミュニティにアクセスするには、ドロップダウンの組織名の横にある▼をクリックし、切り替え先となるコミュニティを選択します。ドロップダウンに、自分がメンバーになっている [公開] コミュニティが表示されます。「コミュニティの作成および管理」権限がある場合は、自分がメンバーになっている [プレビュー] コミュニティも表示されます。
- 内部組織に戻るには、ドロップダウンのコミュニティ名の横にある▼をクリックして、自分の組織名を選択します。

コミュニティのメンバーではない内部ユーザには、会社名のみが表示されます。外部ユーザは、複数の公開コミュニティに属している場合にのみドロップダウンメニューが表示されます。

右側のあなたの名前メニューには、連絡先情報の編集とログアウトを行うためのリンクが含まれています。内部ユーザの場合には、[ヘルプ&トレーニング]へのリンクも含まれ、ユーザ権限および有効な機能に応じて[設定]および他のツールへのリンクが含まれる場合もあります。

権限セットを使用して、適切なユーザのグローバルヘッダーをオンにできます。

1. [設定] で、[ユーザの管理] > [権限セット] をクリックします。
2. [新規] をクリックして、システム権限「グローバルヘッダーを参照」を含む権限セットを作成します。
3. [ユーザの管理] > [ユーザ] に移動して、権限セットを適切なユーザに割り当てます。

この権限セットのあるユーザは、すべてのページの上部にグローバルヘッダーが表示されます。

[設定] にコミュニティの最大数をリスト

組織で利用可能なコミュニティの数を簡単に確認できるようになりました。

利用可能なコミュニティの数は、組織の購入数に基づきます。この数を確認するには、[カスタマイズ]>[コミュニティ]>[コミュニティを管理する]に移動します。[有効なコミュニティの最大数] 項目に、組織で設定可能な [公開] コミュニティと [プレビュー] コミュニティの合計数が表示されます。[オフライン] コミュニティは、合計数にカウントされません。

コミュニティでのケースの表示

[新規ケースをポータルに公開] 設定に関係なく、新しいケースがコミュニティで表示されるようになりました。

パートナーユーザまたはカスタマーユーザに新しいケースが表示されるかどうかは、組織のケースの [サポート設定] にある [新規ケースをポータルに公開] 項目によって制御されています。Winter '14 リリース以降、この設定はコミュニティのパートナーユーザとカスタマーユーザには適用されなくなります。コミュニティでのケースの表示は、共有ルールによって制御されるようになります。パートナーポータルとカスタマーポータルでは、この設定は引き続き適用されます。

コミュニティの API サポートの改善

Winter '14 では、コミュニティの API サポートが改善されています。

次のような点が更新されました。

- コミュニティのエンドポイント URL を介した SOAP または REST API へのアクセス。そのためには、API セッションが必要です。ログインはサポートされていません。
- AJAX Toolkit のサポート
- コミュニティ内でのストリーミング API のサポート
- コミュニティモデレーションの Chatter REST API サポート

その他の API の更新についての詳細は、「[API](#)」(ページ 306)を参照してください。

Site.com によるコミュニティの機能強化

Site.com を使用して、コミュニティの高度なカスタマイズを実行します。

標準タブの代わりに [Site.com](#) ページを使用

コミュニティの標準タブを上書きして、Site.com ページと置換できます。

[Site.com](#) ページの [Salesforce](#) ヘッダーとフッターを使用

Site.com に Salesforce ヘッダーとフッターを設定するかどうかを選択できます。

[Site.com](#) ページをタブとしてコミュニティに追加

Site.com ページを作成し、Web タブを使用してコミュニティに追加します。

コミュニティの新しいウィジェット

ウィジェットを使用すると、要素を Site.com ページに簡単に追加できます。

標準タブの代わりに Site.com ページを使用

コミュニティの標準タブを上書きして、Site.com ページと置換できます。

コミュニティの作成時に、表示するタブや、タブの代わりに Site.com ページを使用することを選択できます。Site.com を使用することを選択した場合は、コミュニティの関連付けられた Site.com サイトにページを作成する必要があります。外部ユーザがこのコミュニティにログインした場合や、内部ユーザが[コミュニティ]ドロップダウンメニューを使用してコミュニティにアクセスした場合は、全画面モードの Site.com ホームページにリダイレクトされます。つまり、コミュニティメンバーに標準の Salesforce のヘッダー、フッター、およびタブが表示されることはありません。

タブの代わりに Site.com ページを使用する手順は、次のとおりです。

1. [設定]から[カスタマイズ]>[コミュニティ]>[コミュニティを管理する]をクリックします。
2. コミュニティ名の横にある[編集]をクリックします。
3. [タブ & ページ]をクリックします。
4. [Site.com を使用してカスタムコミュニティページを作成]を選択します。

コミュニティのすべてのタブが表示されなくなります。この時点で Site.com に移動し、コミュニティのページを作成する必要があります。

Site.com ページの Salesforce ヘッダーとフッターを使用

Site.com に Salesforce ヘッダーとフッターを設定するかどうかを選択できます。

コミュニティで標準の Salesforce レイアウトやタブ機能を活用する場合は、Site.com ページのプロパティで有効にします。有効にした場合は、ページのタブ名を選択し、コミュニティ内のタブにそのページを開示できます。

この機能を有効にすると、Site.com ページを公開したときに、Salesforce の標準のヘッダー、フッター、およびタブが表示されます。

Salesforce ヘッダーとフッターを使用するには、そのページの[プロパティ]ペインで[Salesforce ヘッダーを表示]を選択します。

Site.com ページをタブとしてコミュニティに追加

Site.com ページを作成し、Web タブを使用してコミュニティに追加します。

必要なユーザ権限	
コミュニティのカスタムページを構築、編集、および管理する	「コミュニティの作成および管理」 または [Site.com Publisher ユーザ] 項目をユーザ詳細ページで有効化 および サイトレベルで割り当てられたサイト管理者またはデザイナロール

Site.com ページをコミュニティに簡単に開示できるようになりました。ページを Web タブに関連付け、そのタブをコミュニティに追加するだけです。

1. ページの [プロパティ] ペインで、[Salesforce ヘッダーを表示] を選択します。
このオプションを選択することで、コミュニティにタブが表示されます。
2. コミュニティのタブに表示されるタブ名を入力します。
作成する Web タブと同じ名前であればなりません。
3. ページの正しい URL を決定します。
URL は必ず `https://mydomain.force.com/mycommunity/s/<pagename>` の形式にします。この `pagename` は、ページの名前と一致させます。
4. [設定] で、[作成] > [タブ] をクリックします。
5. Web タブで、[新規] をクリックし、ページのプロパティの [タブ名] 項目に表示されるタブの名前を入力します。
6. ステップ 3 の画面で、作成した URL を [ボタンまたはリンクの URL] テキストボックスに貼り付けます。
7. [コミュニティを作成] ウィザードに戻り、新しいタブをコミュニティに追加します。

コミュニティの新しいウィジェット

ウィジェットを使用すると、要素を Site.com ページに簡単に追加できます。

ウィジェットとは、コミュニティの Site.com サイト全体で繰り返し使用できるページ要素です。Winter'14 から、コミュニティの Site.com サイト向けに 2 つの標準ウィジェットを導入しています。これらのウィジェットは、Chatter ニュースフィードやグループフィードを Site.com ページに追加する場合に使用します。たとえば、ニュースフィードウィジェットをページに追加すると、そのページがレンダリングされたときに Chatter フィードが表示されます。

コミュニティの Site.com ページへの Chatter ニュースフィードまたはグループフィードの追加

Chatter ニュースフィードを使用して、Chatter フィードをサイトページに表示したり、Chatter グループフィードを使用して、特定のグループのフィードを表示したりします。

コミュニティの Site.com ページへの Chatter ニュースフィードまたはグループフィードの追加

Chatter ニュースフィードを使用して、Chatter フィードをサイトにページに表示したり、Chatter グループフィードを使用して、特定のグループのフィードを表示したりします。

使用可能なエディション: Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Enterprise Edition

必要なユーザ権限	
コミュニティのカスタムページを構築、編集、および管理する	「コミュニティの作成および管理」 または [Site.com Publisher ユーザ] 項目をユーザ詳細ページで有効化 および サイトレベルで割り当てられたサイト管理者またはデザイナーロール

1. [ページ要素] ペインの [ウィジェット] セクションから [ニュースフィード] または [グループフィード] をページにドラッグします。
ウィジェットをページに追加すると、ウィジェットのコピーまたはインスタンスが作成されます。ウィジェットのコンテンツは編集できませんが、プロパティは編集できます。
2. グループフィードを追加する場合、[プロパティ] ペインにグループ ID を入力します。
このグループ ID によって、どのグループフィードがページに表示されるかが決まります。複数のグループのフィードを表示する場合は、1 つのページに複数のグループフィードを含めることができます。
3. ページをプレビューしてフィードをテストするか、[ライブモード] を使用して、さまざまなモバイルデバイスでフィードがどのように表示されるかを確認します。

コミュニティ Site.com サイトでニュースフィードまたはグループフィードを使用する場合は、次の制限を考慮してください。

- Chatter のニュースフィードとグループフィードは、ユーザがコミュニティにログインしている場合にのみ表示されます。匿名プレビューモードにしている場合や、ゲストユーザには表示されません。
- Chatter のニュースフィードとグループフィードでは、幅が 700px 未満のページは適切に表示されない可能性があります。すべてのコンテンツを表示するために、ページの幅は最低 700px にすることをお勧めします。また、白い背景を使用することをお勧めします。
- Chatter のニュースフィードとグループフィードは、一部のページブランド設定要素のみを継承します。

Sales Cloud

Salesforce は、セールスおよび CRM の世界第一位のアプリケーションです。最新機能により、営業担当者がより大きな商談をより効率的に成立させることができます。

Salesforce Console for Sales の概要

商談を成立させようとするときに、サイトをあちこちクリックする時間はありません。Salesforce Console for Sales では、セールスインテリジェンスに簡単にアクセスできるほか、すばやくリードに連絡し、企業を評価し、主要な取引先責任者を特定できます。このすべてがダッシュボード型のインターフェースで行われるため、より少ないクリックとスクロールでより多くのコンテキストデータの内容にアクセスできます。

商談とコラボレーション売上予測

すべての営業チームおよび商品品目の結果を正確に予測します。

価格表

価格表は、商談、見積、および契約などのレコードの商品データを整理するのに役立ちます。

Salesforce for Outlook

優れた機能をさらに改善しています。ユーザが Microsoft® Outlook® 2007、2010、および 2013 で直接 Salesforce レコードを表示および操作できる Salesforce for Outlook 機能、Salesforce サイドパネルについてはすでにご存知かと思います。ユーザの生産性をさらに高めるため、このサイドパネルに重要な改善が加えられています。

ソーシャル取引先と取引先責任者

[ソーシャル取引先と取引先責任者] では、取引先、取引先責任者、およびリードのソーシャルネットワークプロフィールやその他のソーシャル情報に、Salesforce から直接、簡単にアクセスできます。

Sales Cloud のその他の機能強化

メールテンプレートとメールアカウントがさらに機能強化されています。

パートナーユーザ

パートナーユーザは、作成されたパートナーポータルまたはコミュニティから Salesforce にアクセスできます。

Salesforce to Salesforce のセキュリティの改善

Salesforce Console for Sales の概要

商談を成立させようとするときに、サイトをあちこちクリックする時間はありません。Salesforce Console for Sales では、セールスインテリジェンスに簡単にアクセスできるほか、すばやくリードに連絡し、企業を評価し、主要な取引先責任者を特定できます。このすべてがダッシュボード型のインターフェースで行われるため、より少ないクリックとスクロールでより多くのコンテキストデータの内容にアクセスできます。

使用可能なエディション: Performance Edition、Developer Edition

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Unlimited Edition (有料オプション)

Salesforce コンソールは、[コンソール] タブのエージェントコンソールを改良したものです。これまで、Salesforce コンソールは、Service Cloud ユーザしか利用できませんでした。完全開発された Salesforce Console for Sales は、新たにセールス内で最適化され、特に必要性が高いレコードや機能を1か所にまとめることでセールスが合理化され、生産性が高まります。

- レコードの重要な項目がすぐに見つかります。
- レコードとその関連項目をタブとして1つの画面で参照できます。
- セールスインテリジェンスにすばやくアクセスして有益な情報を見つけ出せます。
- 各レコードのメモや相互関係ログをすばやく作成できます。
- ソフトフォンを使用してコールを管理し、重要なデータを残したままにすることがありません。

強力なカスタマイズオプションを備えた Salesforce コンソールにより、独自のビジネスニーズが満たされます。

- 極めて重要な情報や最優先のアクションをどのページやタブにも表示する、カスタムのコンソールコンポーネントを作成します。
- Salesforce コンソールインテグレーションツールキット API を使用して、プログラムによる高度な機能を開発します。



ヒント: 組織の Service Cloud が有効でない場合は、Salesforce Console for Sales で Live Agent を有効にすることはできません。コンソールで Live Agent を使用するには、[Salesforce Console for Service](#) を使用します。

The screenshot illustrates the Salesforce Console for Sales interface. It features a left sidebar (1) for navigating between different objects, a top navigation bar (2) for switching between tabs, and a main content area (3) where the selected record is displayed. The lead record for Ms. Rosa Abelin is shown in detail (4), including her contact information, lead quality score, and various attributes. The interface is designed to provide a comprehensive view of the lead and its associated data.

1. Salesforce コンソールのナビゲーションリストに表示するオブジェクトを選択します。たとえば、リードを表示する [リード] を選択します。管理者は、使用可能なオブジェクトを選択できます。
2. レコードはリストに表示され、画面の左側または上部にそのリストを固定することができます。主タブに表示する1つ以上のレコードを選択します。
3. 選択されたレコードが主タブに表示されます。同時に複数のタブを操作できます。

- オブジェクトごとに、レコードに関連する主な情報を主タブに示す強調表示パネルを設定できます。
- サブタブを2つ以上開くと、関連する複数のレコードをすばやく切り替えることができます。
- 詳細領域でサブタブのコンテンツを参照および操作します。

ユーザに対する Salesforce Console for Sales の有効化

コンソールアプリケーションを作成するためには、組織の Salesforce Console for Sales が有効で、対応する権限セットライセンスとユーザ権限が割り当てられている必要があります。

セールスコンソールユーザ権限セットライセンスの割り当て

Salesforce Console for Sales は、ユーザごとにライセンスが供与されます。

セールスコンソールのユーザ権限の有効化

ユーザに Salesforce Console for Sales のライセンスが供与されたら、[セールスコンソール] 権限を権限セットに追加します。

Salesforce Console for Sales アプリケーションの作成

Salesforce Console for Sales を、ユーザが Force.com アプリケーションメニューから選択するカスタムアプリケーションとして作成します。

ユーザに対する Salesforce Console for Sales の有効化

コンソールアプリケーションを作成するためには、組織の Salesforce Console for Sales が有効で、対応する権限セットライセンスとユーザ権限が割り当てられている必要があります。

使用可能なエディション: Performance Edition、Developer Edition

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Unlimited Edition (有料オプション)

必要なユーザ権限	
権限セットライセンスを割り当てる	「ユーザの管理」
Salesforce コンソールアプリケーションを作成する	「アプリケーションのカスタマイズ」
	および
	「セールスコンソール」

- salesforce.com に連絡して、組織の Salesforce Console for Sales を有効にしてください。
- [セールスコンソールユーザ] 権限セットライセンスをユーザに割り当てます。
- 権限セットで「セールスコンソール」権限を有効化します。
- ユーザを権限セットに割り当てます。

「セールスコンソール」権限を含む権限セットには、「セールスコンソールユーザ」権限セットライセンスのあるユーザのみを割り当てることができます。
- Salesforce コンソールアプリケーションを作成し、ユーザのプロファイルで使用できるようにします。

セールスコンソールユーザ権限セットライセンスの割り当て

Salesforce Console for Sales は、ユーザごとにライセンスが供与されます。

必要なユーザ権限	
権限セットライセンスを割り当てる	「ユーザの管理」

[セールスコンソールユーザ] 権限セットライセンスは、Salesforce Console for Sales のある組織で使用できます。権限セットライセンスについての詳細は、「[権限セットのライセンス](#)」(ページ 213)を参照してください。

1. [設定] で、[ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。
2. 権限セットライセンスを割り当てるユーザの名前をクリックします。
3. [権限セットライセンスの割り当て] 関連リストで、[割り当ての編集] をクリックします。
4. [セールスコンソールユーザ] 権限セットライセンスを選択して、[保存] をクリックします。

セールスコンソールのユーザ権限の有効化

ユーザに Salesforce Console for Sales のライセンスが供与されたら、[セールスコンソール] 権限を権限セットに追加します。

使用可能なエディション: Performance Edition、 Developer Edition
使用可能なエディション: Enterprise Edition、 Unlimited Edition (有料オプション)

必要なユーザ権限	
権限セットを作成する	「ユーザの管理」

1. [設定] で、[ユーザの管理] > [権限セット] に移動します。
2. 権限セットを作成します。
権限セットを作成するときに、ユーザライセンスの種類に「なし」を選択します (別の種類のライセンスが選択されている場合は、この権限セットに「セールスコンソール」ユーザ権限を追加できません)。
3. [権限セット] ページで、[アプリケーション権限] をクリックします。
4. 「セールスコンソール」権限を選択して、[保存] をクリックします。

Salesforce Console for Sales アプリケーションの作成

Salesforce Console for Sales を、ユーザが Force.com アプリケーションメニューから選択するカスタムアプリケーションとして作成します。

使用可能なエディション: Performance Edition、 Developer Edition
使用可能なエディション: Enterprise Edition、 Unlimited Edition (有料オプション)

必要なユーザ権限
Salesforce Console for Sales アプリケーションを作成する 「アプリケーションのカスタマイズ」 および 「セールスコンソール」

作成できる Salesforce コンソールアプリケーションの数は、カスタムアプリケーションの制限によって異なります。

1. [設定] で、[作成] > [アプリケーション] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. [コンソール] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. アプリケーションの表示ラベルを指定します。表示ラベルは、スペースを含めて最大 40 文字まで指定できます。この表示ラベルは、Force.com アプリケーションメニューに表示されるアプリケーションの名前です。
5. 必要に応じて、アプリケーションの説明を入力します。
6. [次へ] をクリックします。
7. 必要に応じて、アプリケーションのカスタムロゴを指定します。[画像の挿入] をクリックして、ドキュメントライブラリから画像ファイルを選択します。

ドキュメントライブラリからカスタムアプリケーションのロゴを選択する際には、次の要件に留意してください。

- ・ 画像は GIF または JPEG 形式で、サイズを 20 KB 以下にする必要があります。
- ・ 画像の幅が 300 ピクセル、高さが 55 ピクセルより大きい場合、適切なサイズに縮小されます。
- ・ 画面上にきれいに表示されるように、背景を透明にした画像を使用することをお勧めします。
- ・ 画像をユーザに表示するには、そのドキュメントのプロパティで [外部参照可] チェックボックスがオンになっている必要があります。

8. [次へ] をクリックします。
9. 移動タブに含める項目を選択します。たとえば、移動タブでユーザが取引先を選択できるようにするには、[取引先] を [選択可能な項目] から [選択済みの項目] に移動します。
 - ・ 左右の矢印ボタンをクリックして、項目を追加または削除します。
 - ・ 上下矢印ボタンをクリックして、移動タブをクリックしたときの、そのタブ上での項目の表示順を定義します。



メモ:

- ・ 売上予測、アイデア、アンサー、接続、ポータル、コンソール、活動 (ToDo と行動)、または組織をカスタマイズするボタンは、移動タブに追加できません。
- ・ タブ表示設定、および [各ユーザの「マイディスプレイのカスタマイズに変更を反映させる」設定は移動タブに適用されません。たとえば、ユーザプロフィールで [取引先] が [タブを隠す] になっている場合でも、移動タブから [取引先] にアクセスできます。

10. [次へ] をクリックします。
11. 主タブまたはサブタブから項目が選択されていない場合に、コンソールに項目をどう表示するか選択します。たとえば、ユーザがリストビューからケース、検索結果、または画面ポップを選択すると、ケースを主タブとして表示するか、親レコードのサブタブとして表示するかを選択できます。

オブジェクトの横で、次のように選択します。

- ・ [主タブとして] をクリックすると、オブジェクトのレコードは主タブとして表示されます。
- ・ [次のサブタブとして] をクリックすると、オブジェクトのレコードはサブタブとして表示されます。ドロップダウンリストから、サブタブを表示する親レコードを選択します。たとえば、取引先責任者を取引先のサブタブとして表示するには、[取引先責任者] 行で [取引先名] (取引先) を選択します。親レコードが適用されない場合は、サブタブが主タブとして表示されます。たとえば、キャンペーンをリードのサブタブとしても、リードがキャンペーンに属していない場合は、そのキャンペーンは主タブとして表示されます。

12. [次へ] をクリックします。

13. 組織の Service Cloud が有効になっている場合は、必要に応じて Live Agent を有効にし、[次へ] をクリックします。Service Cloud のない組織は、Live Agent を Salesforce コンソールアプリケーションに追加できません。

14. Salesforce コンソールをユーザプロファイルに割り当てます。

- a. アプリケーションを使用できるようにするユーザプロファイルを選択するには、[参照可能] チェックボックスをオンにします。
- b. アプリケーションをそのプロファイルのデフォルトアプリケーションとして設定するには、[デフォルト] ボックスをオンにします。つまり、そのプロファイルを持っている新規ユーザが初めてログインしたときに、このアプリケーションが表示されるということです。制限のあるプロファイルは、このリストには含まれません。

15. [保存] をクリックします。



ヒント: ブラウザの表示を更新して、Salesforce コンソールへの設定変更を確認します。

商談とコラボレーション売上予測

すべての営業チームおよび商品品目の結果を正確に予測します。

[売上予測の商談分割の参照](#)

[商品ファミリを売上予測に統合](#)

[売上予測設定のデータソースの変更](#)

[カスタムレポートタイプで利用できる商談分割および商談商品オブジェクト](#)

[Forecasting 1.0 \(Classic\) が Summer '14 で終了](#)

売上予測の商談分割の参照

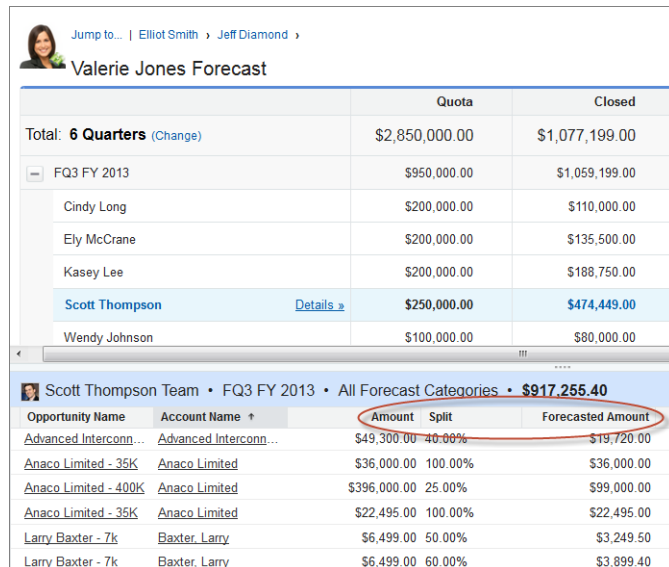
Summer '13 で、Salesforce は複数の商談チームメンバー間で営業クレジットを共有できる、商談分割をリリースしました。Winter '14 では、コラボレーション売上予測にこれらの分割が反映され、営業マネージャがビジネスの詳細を確認したり、チームの貢献度を把握したりできます。

これまでは、営業マネージャには部下が直接所有する商談の売上予測のみが表示されていました。ただし、営業担当がより大規模の商談チームのメンバーである場合、その営業担当は商談全体に対するパーセントを分割できます。コラボレーション売上予測では、マネージャは売上予測でそれらのパーセントも確認できるため、パフォーマンス全体をより明確に予測できます。

売上予測で商談分割を有効にする手順は、次のとおりです。

1. 商談分割および合計が100%になる分割タイプを有効にします。合計を任意のパーセントにできる分割タイプは、売上予測には表示されません。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「商談分割の有効化」を参照してください。
2. [設定] で、[カスタマイズ] > [売上予測] > [設定] をクリックします。
3. [データソース] で、[商談分割] を選択します。このデータソースでは収益を予測できますが、数量は予測できません。

これで、ユーザが[売上予測]にアクセスすると、ページの下半分にある商談リストに、予測された金額と分割率が自動的に表示されます。



		Quota	Closed
Total: 6 Quarters (Change)		\$2,850,000.00	\$1,077,199.00
FQ3 FY 2013		\$950,000.00	\$1,059,199.00
Cindy Long		\$200,000.00	\$110,000.00
Ely McCrane		\$200,000.00	\$135,500.00
Kasey Lee		\$200,000.00	\$188,750.00
Scott Thompson Details »		\$250,000.00	\$474,449.00
Wendy Johnson		\$100,000.00	\$80,000.00

Opportunity Name	Account Name	Amount	Split	Forecasted Amount
Advanced Interconn...	Advanced Interconn...	\$49,300.00	40.00%	\$19,720.00
Anaco Limited - 35K	Anaco Limited	\$36,000.00	100.00%	\$36,000.00
Anaco Limited - 400K	Anaco Limited	\$396,000.00	25.00%	\$99,000.00
Anaco Limited - 35K	Anaco Limited	\$22,495.00	100.00%	\$22,495.00
Larry Baxter - 7k	Baxter, Larry	\$6,499.00	50.00%	\$3,249.50
Larry Baxter - 7k	Baxter, Larry	\$6,499.00	60.00%	\$3,899.40



メモ: この機能は、コラボレーション売上予測でのみ使用できます。

商品ファミリを売上予測に統合

組織で独自の商品とサービスをファミリ(「ハードウェア」や「ソフトウェア」など)にグループ化すれば、商品ファミリの売上予測によって、収益と営業担当の目標達成率をより適切に予測できます。Winter '14のコラボレーション売上予測では、営業マネージャが商品ファミリごとの売上予測と関連商談を別々に表示できるだけでなく、ファミリごとの各営業担当の売上予測も表示できます。

商品ファミリの売上予測を有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [売上予測] > [設定] をクリックします。
2. [データソース] で、[商品ファミリ] を選択します。このデータソースでは収益、数量、またはその両方を予測できます。

営業マネージャは直属部下の売上予測を展開し、各ファミリの完了商談一覧、達成された商談、最善達成シナリオ、パイプラインを表示することで、どの商品ファミリが最大の収益をもたらしているかを確認できます。個々の商談金額は、[売上予測] ページの下半分に表示されます。

商品ファミリの売上予測では、次の点に留意してください。

- 組織で商談商品と商品ファミリを使用している必要があります。

- [商品ファミリー]項目は、商品レコードごとに入力する必要があります。この項目が空の場合、商品は[分類されていない商品]という売上予測行に表示されます。
- 営業担当の個々の商品ファミリーの売上予測を調整できますが、すべての商品ファミリーの合計売上予測を直接調整することはできません。

売上予測設定のデータソースの変更

Summer '13 では、売上予測が収益、数量、あるいはその両方のうち、どれに基づくかを売上予測データソースで管理していました。Winter '14 では、売上予測が商談、商談分割、商品ファミリーのどれに基づくのかをデータソースで管理します。

データソースを設定する手順は、次のとおりです。

- [設定] で、[カスタマイズ] > [売上予測] > [設定] をクリックし、[データソース] ドロップダウンメニューのオプションを選択します。

収益または数量に基づく売上予測を有効にするには、[売上予測の設定] ページの[データソース] 設定のすぐ下にある、[売上予測の対象] 設定を使用します。

カスタムレポートタイプで利用できる商談分割および商談商品オブジェクト

Summer '13 では、売上予測データオブジェクトに基づいてカスタムレポートタイプを作成するときに、関連オブジェクトとして選択できるのは商談のみになります。Winter '14 では、関連オブジェクトとして商談商品または商談分割も選択できます。

Forecasting 1.0 (Classic) が Summer '14 で終了

Summer '14 のリリースをもって Forecasting 1.0 (Classic) は正式に終了する予定です。詳細は、salesforce.com カスタマーサポートにお問い合わせください。

コラボレーション売上予測を使用して予測を管理することをお勧めします。開始する場合は、『[Forecasts Administrator's Workbook](#)』を参照してください。このドキュメントには、組織でコラボレーション売上予測を設定する段階的な手順が詳しく説明されています。



メモ: カスタマイズ可能な売上予測は、この発表の影響を受けません。終了するのは、Forecasting 1.0 (従来) のみです。

価格表

価格表は、商談、見積、および契約などのレコードの商品データを整理するのに役立ちます。

参照関係の作成

標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの参照関係で、価格表を使用できるようになりました。

検索レイアウトのカスタマイズ

価格表の検索レイアウトをカスタマイズして、検索結果、ルックアップダイアログ、ルックアップ電話ダイアログ、[価格表] タブでユーザに表示する項目を指定できるようになりました。

参照関係の作成

標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの参照関係で、価格表を使用できるようになりました。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
カスタム項目を作成または変更する	「アプリケーションのカスタマイズ」

以前は、オブジェクトのカスタム参照関係項目を作成するときに、価格表は選択できませんでした。

このリリースでは、参照関係を使用して2つのオブジェクトをリンクできるようになりました。たとえば、組織で各取引先を特定の価格表に関連付けることが必要な場合があります。価格表に参照関係を提供する取引先ページレイアウトのカスタム項目を使用して、関連付けられた取引先に合わせて商談および商談品目の価格表を自動的に取り込むトリガを作成できます。この自動化によって、営業担当が商談を作成するときに、どの価格表がどの取引先に対応するかを覚えておく必要がなくなります。

参照関係を作成する手順は、次のとおりです。

1. 価格表にリンクするオブジェクトの項目領域に移動します。
 - ・ 標準オブジェクトの場合、[設定] から [カスタマイズ] > オブジェクト > [項目] をクリックします。
 - ・ カスタムオブジェクトの場合は、[設定] から [作成] > [オブジェクト] をクリックして、該当するカスタムオブジェクトを選択します。
2. [カスタム項目 & リレーション] で、[新規] をクリックします。
3. [参照関係] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [価格表] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. 項目の表示ラベルを入力し、Tab キーを押して項目名を入力します。
6. この項目を必須にする場合は、[必須項目] チェックボックスをオンにします。
7. 取引先がリンクされている価格表が削除された場合の Salesforce での処理を指定し、[次へ] をクリックします。
8. Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition では、各プロファイルについて項目のアクセス設定を指定してから [次へ] をクリックします。
9. 項目を表示するページレイアウトを選択し、[次へ] をクリックします。
10. 必要に応じて、1 つ以上の価格表レイアウトにカスタム関連リストを追加します。
 - a. 関連リストの名前を入力します。
 - b. 関連リストの表示に使用する各レイアウトを選択します。
 - c. [保存] をクリックします。

検索レイアウトのカスタマイズ

価格表の検索レイアウトをカスタマイズして、検索結果、ルックアップダイアログ、ルックアップ電話ダイアログ、[価格表] タブでユーザに表示する項目を指定できるようになりました。

たとえば、ユーザがルックアップダイアログで価格表を選択するときに、価格表が有効であるか無効であるかを確認できるようにするには、選択済みの項目に [有効] を追加します。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [価格表] > [検索レイアウト] をクリックします。
2. カスタマイズするレイアウトの横にある [編集] をクリックします。
レイアウトごとに異なる項目のセットを表示するように指定できます。
3. [選択可能な項目] でレイアウトに表示する項目を選択し、[追加] をクリックします。
複数の項目を選択するには、Ctrl キーを押しながら各項目をクリックします。
4. 非表示にする項目が [選択済みの項目] に含まれている場合、その項目を選択して [削除] をクリックします。
5. 項目を並び替えるには、その項目を選択し、[上へ] または [下へ] をクリックします。

Salesforce for Outlook

優れた機能をさらに改善しています。ユーザが Microsoft® Outlook® 2007、2010、および 2013 で直接 Salesforce レコードを表示および操作できる Salesforce for Outlook 機能、Salesforce サイドパネルについてはすでにご存知かと思います。ユーザの生産性をさらに高めるため、このサイドパネルに重要な改善が加えられています。

組織内でまだ Connect for Outlook を使用しているユーザがいる場合は、Salesforce for Outlook にアップグレードする絶好の機会です。Salesforce for Outlook には、ユーザが熟知している Connect for Outlook に加えて、次の機能が含まれています。

- Office 365™ と連携する、Microsoft がホストするサービスである Microsoft Exchange Online のサポート。
- Salesforce サイドパネル
- 一部のみまたはすべての取引先責任者、行動、および ToDo を同期するオプション
- 自動的にスケジュールされた同期サイクル

Salesforce for Outlook およびサイドパネルに対する最新の拡張機能を確認してください。

Microsoft® Exchange Online のサポート

Exchange Online のサポートが開始されました。

メールの送信と追加

サイドパネルの外部で利用できる送信と追加機能をユーザが好んで使用していることは認識しています。また、サイドパネル内で送信と追加機能が利用できないことは、ユーザによるサイドパネルの採用の最大の妨げになっていたことも理解しています。このリリースのサイドパネルでは、いよいよ送信と追加機能が導入されました。

行動の関連付けのある Salesforce レコードに行動を追加

ユーザが Outlook カレンダーであるひとつの非定期的なイベントを選択した場合、メールを選択した場合と同様、関連する取引先責任者とリードがサイドパネルに表示されます。イベントに Salesforce との同期が設定されているかどうかに関わらず、ユーザが Outlook イベントを Salesforce レコードに追加した場合、サイドパネルではそのイベントの Salesforce カレンダーとの同期がトリガされます。

より多くの Salesforce レコードの表示と操作

サイドパネルには、ユーザが Outlook で選択したメールおよびイベント (今バージョンから) に対して、より多くの取引先責任者とリードが表示されるようになりました。ユーザの Outlook ウィンドウおよびモニタサイズに応じて、サイドパネルの利用可能な縦方向のスペース内に最大10人の関連する取引先責任者とリードが表示されます。そのため、同時により多くの Salesforce レコードにメールとイベントをすばやく簡単に追加できます。

Salesforce サイドパネルの非表示および無効化

ユーザが Salesforce サイドパネルを一時的に非表示および無効にするには、Outlook で直接その操作を行う必要があります。

Microsoft® Exchange Online のサポート

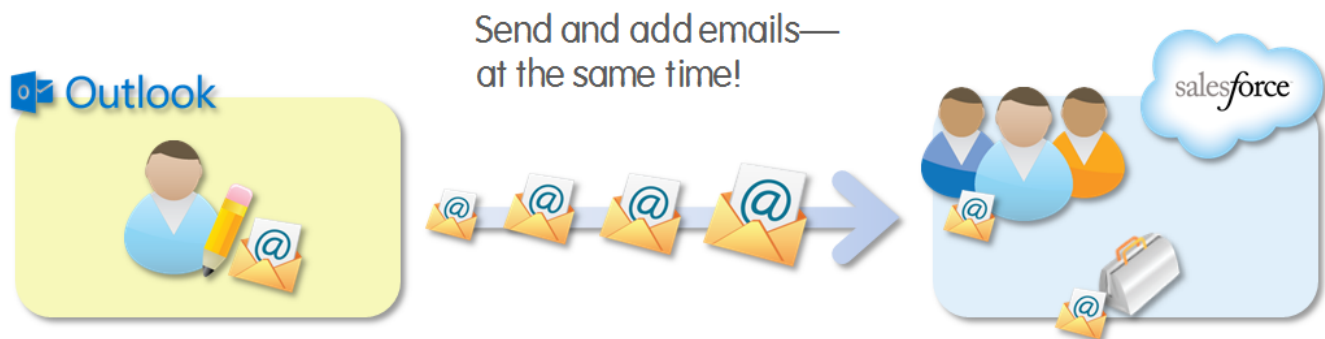
Exchange Online のサポートが開始されました。

Exchange Online を搭載したデスクトップバージョンの Microsoft Outlook 2007、2010、および 2013 の使用をサポートします。Exchange Online は、Office 365™ と連携する、Microsoft がホストするサービスです。

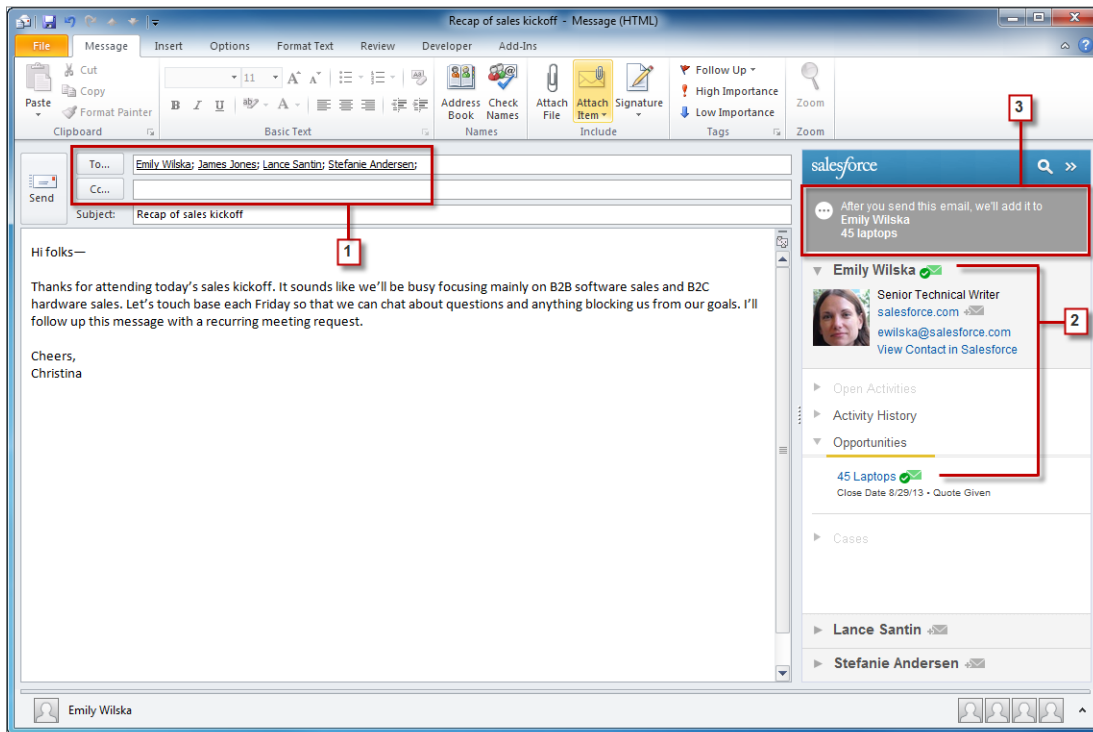
Salesforce for Outlook では、クリック実行 (Microsoft Office のストリーミングインストーラ) を使用してインストールされた Outlook はサポートされません。


メールの送信と追加

サイドパネルの外部で利用できる送信と追加機能をユーザが好んで使用していることは認識しています。また、サイドパネル内で送信と追加機能が利用できないことは、ユーザによるサイドパネルの採用の最大の妨げになっていたことも理解しています。このリリースのサイドパネルでは、いよいよ送信と追加機能が導入されました。



同時にメールの送信と追加を行う方法は、次のとおりです。



1. Outlook メールを作成し、「宛先」項目 (および必要に応じて Cc 項目) にメール受信者を入力します。サイドパネルに、関連する Salesforce レコードが表示されます。
2. 任意のレコードの横にある  をクリックして、メールを Salesforce レコードに追加します。
3. 新しいメールを追加するレコードを追跡します。メールを送信すると、そのメールが Salesforce レコードに追加されます。

行動の関連付けのある Salesforce レコードに行動を追加

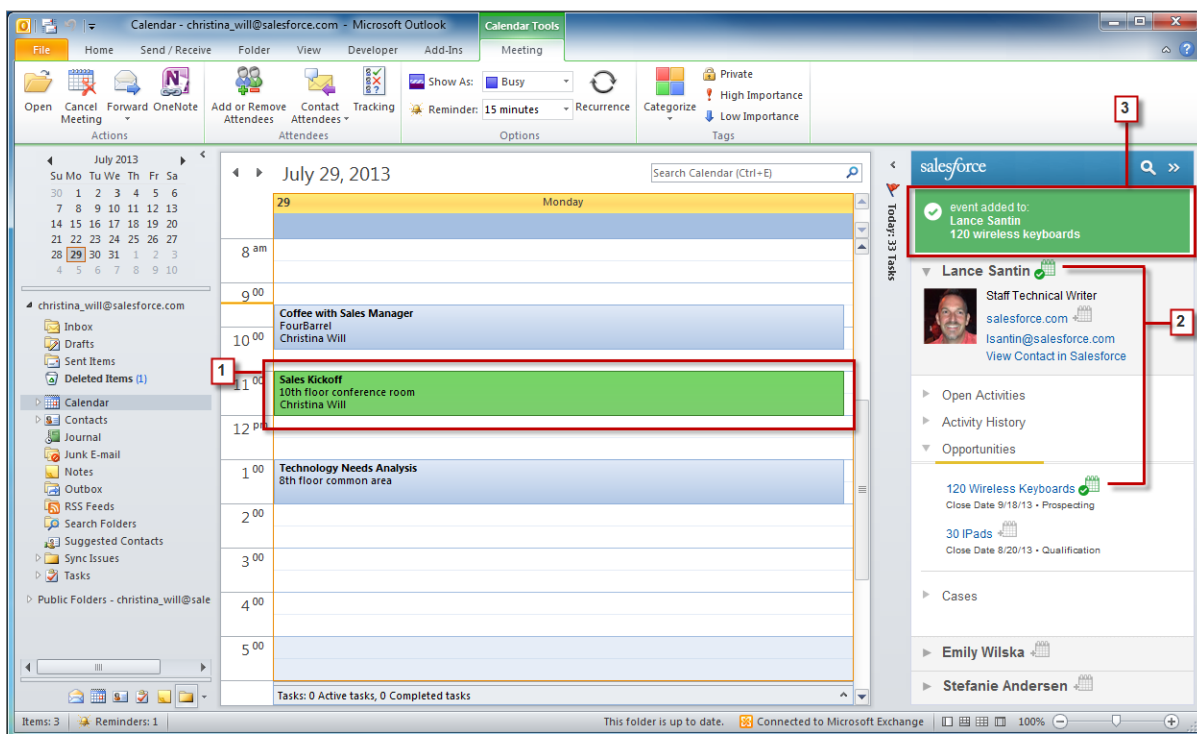
ユーザが Outlook カレンダーであるひとつの非定期的なイベントを選択した場合、メールを選択した場合と同様、関連する取引先責任者とリードがサイドパネルに表示されます。イベントに Salesforce との同期が設定されているかどうかに関わらず、ユーザが Outlook イベントを Salesforce レコードに追加した場合、サイドパネルではそのイベントの Salesforce カレンダーとの同期がトリガされます。


Add Outlook events to:

- Multiple contacts
- One other record that allows activities, like a case



イベントを Salesforce レコードに追加する手順は、次のとおりです。

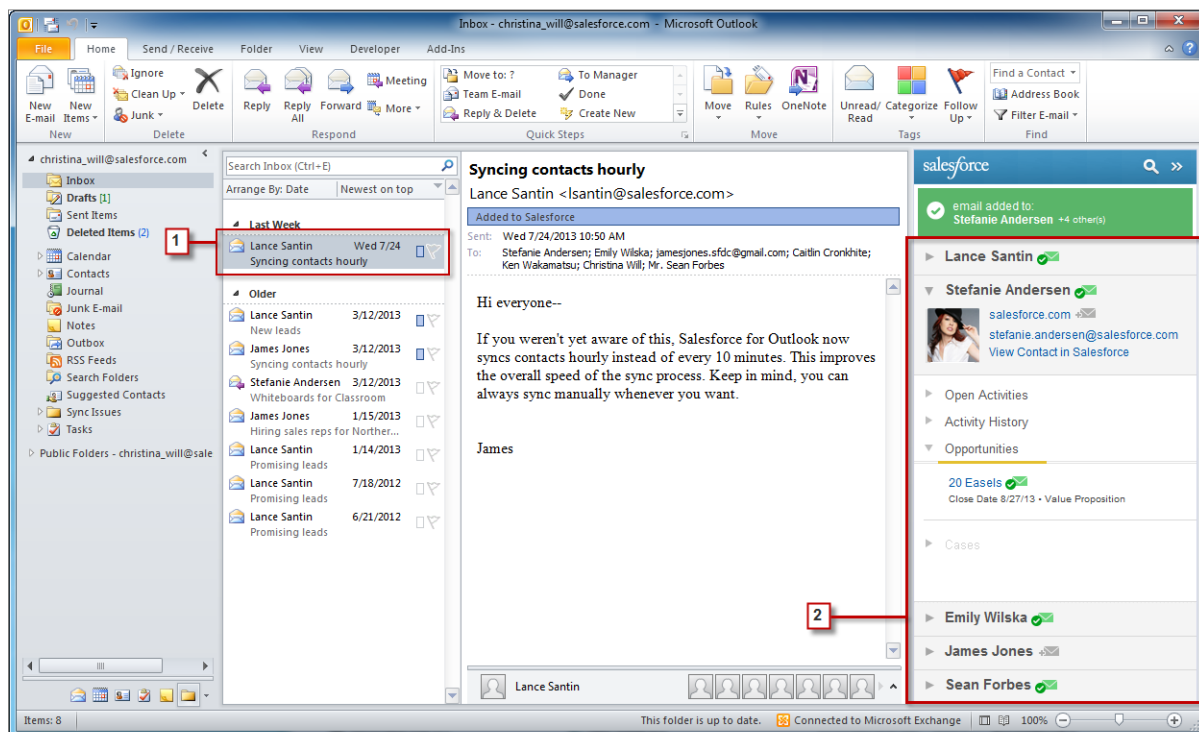


1. Outlook カレンダーで、イベントを選択します。サイドパネルに、関連する Salesforce レコードが表示されます。
2. 任意のレコードの横にある  をクリックして、イベントを Salesforce レコードに追加します。
3. イベントを追加したレコードを追跡します。

より多くの Salesforce レコードの表示と操作

サイドパネルには、ユーザが Outlook で選択したメールおよびイベント (今バージョンから) に対して、より多くの取引先責任者とリードが表示されるようになりました。ユーザの Outlook ウィンドウおよびモニタサイズに応じて、サイドパネルの利用可能な縦方向のスペース内に最大 10 人の関連する取引先責任者とリードが表示されます。そのため、同時により多くの Salesforce レコードにメールとイベントをすばやく簡単に追加できます。

手順は次のとおりです。

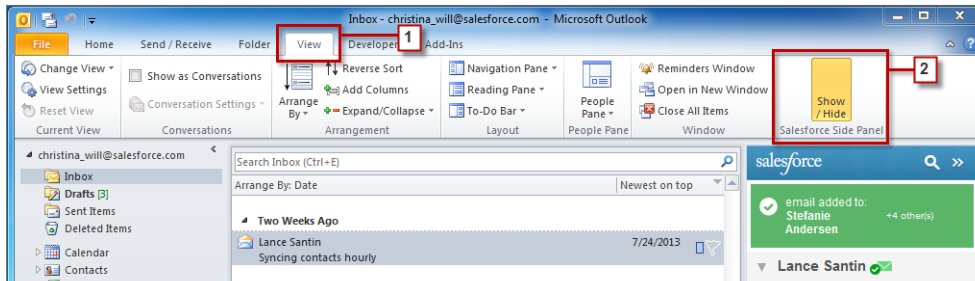


1. Outlook のメールまたはイベントを選択します。この例では、メール受信者は 7 人で、そのうち 5 人が Salesforce 取引先責任者としてすでに設定されています。
2. サイドパネルに、その 5 人の取引先責任者が表示されます。

Salesforce サイドパネルの非表示および無効化

ユーザが Salesforce サイドパネルを一時的に非表示および無効にするには、Outlook で直接その操作を行う必要があります。

Outlook 2010 および 2013 でこの操作を行う手順は、次のとおりです。



1. [表示] タブを選択します。
2. [表示/非表示] をクリックします。

Outlook 2007 の場合、[表示] > [Salesforce サイドパネル] > [表示/非表示] をクリックします。

ソーシャル取引先と取引先責任者

[ソーシャル取引先と取引先責任者] では、取引先、取引先責任者、およびリードのソーシャルネットワークプロフィールやその他のソーシャル情報に、Salesforce から直接、簡単にアクセスできます。

取引先責任者、取引先、およびリードのプロファイル画像の表示

取引先責任者、取引先、またはリードの Facebook または Twitter のプロファイル画像は、そのサービスにログインしていなくても表示できます。

リストビューで利用できるソーシャルネットワーク項目

取引先および取引先責任者のリストビューにソーシャルネットワーク項目を追加することで、ユーザが自分のレコードに接続されているソーシャルネットワーク全体を確認できます。

取引先責任者、取引先、およびリードのプロファイル画像の表示

取引先責任者、取引先、またはリードの Facebook または Twitter のプロファイル画像は、そのサービスにログインしていなくても表示できます。

以前に Facebook または Twitter にログインしていて、Facebook または Twitter のアカウントを Salesforce.com の取引先責任者、取引先、またはリードに関連付けている場合、プロファイル画像はログアウトしても表示可能なままになります。Facebook または Twitter が別のユーザによって取引先責任者、取引先、またはリードに関連付けられている場合も、そのプロファイル画像を見ることができます。この変更は、その他のソーシャルネットワークのプロファイル画像には影響を及ぼしません。

リストビューで利用できるソーシャルネットワーク項目

取引先および取引先責任者のリストビューにソーシャルネットワーク項目を追加することで、ユーザが自分のレコードに接続されているソーシャルネットワーク全体を確認できます。

組織で[ソーシャル取引先と取引先責任者]を使用している場合、自分と自分のユーザが取引先および取引先責任者のリストビューにソーシャルネットワークを項目として追加できます。特定のソーシャルネットワークの項目は、そのソーシャルネットワークを有効にしている場合にのみ使用できます。使用可能なソーシャルネットワーク項目は、リストビューを作成しているオブジェクトによって異なります。

- 取引先: Twitter および Facebook
- 取引先責任者: LinkedIn®、Twitter、および Facebook
- リード: なし

Action	Name	Account Name	Title	Last Modified Date	LinkedIn	Twitter	Facebook
Edit Del +	Abbey Vaughn	Salesforce.com, Inc.	Senior Premier Account Specialist	7/23/2013			✓
Edit Del +	Acker Rob	Salesforce.com, Inc.	Senior Vice President, Data com Sa...	5/7/2013	✓		
Edit Del +	Ackerman Elise	Salesforce.com, Inc.	Senior Writer	7/23/2013	✓		
Edit Del +	Acton Karen	Salesforce.com, Inc.	Contractor	7/23/2013	✓		✓
Edit Del +	Adams Alexa	Salesforce.com, Inc.	Sales Operations Manager	7/23/2013	✓		
Edit Del +	Benioff Marc	Salesforce.com, Inc.	Chief Executive Officer and Chairman	5/7/2013	✓	✓	

リストビューについての詳細は、Salesforce ヘルプの「カスタムリストビューの作成」を参照してください。

Sales Cloud のその他の機能強化

メールテンプレートとメールアカウントがさらに機能強化されています。

取引先階層リンクの非表示

メールテンプレートへのアクセス

「公開テンプレートの管理」権限のあるユーザは、メールテンプレートへの「参照・更新」権限の一部が変更されていることに気付くものと思われます。

取引先階層リンクの非表示

法人取引先が使用可能なエディション: Database.com 以外のすべてのエディション

必要なユーザ権限

取引先設定を変更する

「アプリケーションのカスタマイズ」

取引先のビューは簡略化できます。以前は、すべての法人取引先の詳細ページに取引先の階層へのリンクが表示されていました。この [階層の表示] リンクを非表示にできるようになりました。

この設定を有効にしても取引先階層は無効にならず、単に取引先詳細ページからデフォルトのリンクが削除されます。デフォルトのリンクを非表示にした場合、カスタムリンクまたはボタンを追加して、選択したユーザにのみ階層の表示を許可できます。たとえば、組織の主要マネージャのみが取引先階層を表示できるようにするには、デフォルトの取引先階層リンクをオフにし、それらのマネージャの取引先詳細ページにのみカスタムボタンを追加します。

この設定が有効になっている場合、すべてのユーザの法人取引先詳細ページに [階層の表示] リンクが表示されます。無効になっている場合、このリンクは削除されます。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [取引先] > [設定] をクリックします。
2. [編集] をクリックします。
3. [[階層の表示] リンクを表示] を選択解除し、[保存] をクリックします。

メールテンプレートへのアクセス

「公開テンプレートの管理」権限のあるユーザは、メールテンプレートへの「参照・更新」権限の一部が変更されていることに気付くものと思われます。

使用可能なエディション: Database.com を除くすべてのエディション
HTML および Visualforce メールが使用不可能なエディション: Personal Edition

必要なユーザ権限	
HTML メールテンプレートを作成または変更する	「HTML テンプレートの編集」
Visualforce メールテンプレートを作成または変更する	「アプリケーションのカスタマイズ」
公開メールテンプレートフォルダを作成または変更する	「公開テンプレートの管理」

「公開テンプレートの管理」権限のあるユーザは、他のユーザの非表示のメールテンプレートフォルダにアクセスできなくなりました。また、テンプレートを他のユーザの非表示フォルダに保存することもできません。さらに、これらのユーザがすべての共有フォルダにアクセスすることもできなくなりました。今後は、限定的に共有フォルダの所有者のみが、他のユーザをフォルダの共有グループに追加しなければなりません。

管理者権限には影響ありませんが、管理者がユーザから、かつては参照や編集できたファイルへのアクセス要求を受信することがあるでしょう。管理者は、フォルダのグローバル設定を [公開] (すべてのユーザがアクセス可能) または [共有] (要求したユーザを共有グループに追加) に変更して、アクセスを変更できます。

パートナーユーザ

パートナーユーザは、作成されたパートナーポータルまたはコミュニティから Salesforce にアクセスできます。

[シングルサインオンを使用するパートナーユーザの\[私のパスワード変更\] ボタンの削除](#)
[パートナーユーザの\[ユーザ名\] 項目の編集に関する変更](#)

シングルサインオンを使用するパートナーユーザの [私のパスワード変更] ボタンの削除

シングルサインオンを使用しているパートナーユーザがポータルの [パートナーポータルへようこそ] コンポーネントから自分のプロフィールを表示した場合、[私のパスワード変更] ボタンは非表示になります。シングルサインオンを使用しているパートナーユーザがパスワードをリセットするには、ポータル管理者に依頼する必要があります。

パートナーユーザの [ユーザ名] 項目の編集に関する変更

代理外部ユーザ管理者は、シングルサインオン権限がないパートナーユーザの [ユーザ名] 項目を編集できるようになりました。管理者は、シングルサインオン権限に割り当てられているかどうかに関係なく、その項目を編集できます。Winter '14 リリースより前は、シングルサインオン権限のある代理管理者がパートナーユーザのこの項目を編集できませんでした。

Salesforce to Salesforce のセキュリティの改善

Winter '14 からは、Salesforce to Salesforce の接続およびテンプレートを表示するのに「接続の管理」権限が必要になります。この権限を持たないユーザが接続ホームページにアクセスしようとすると、エラーが表示されます。この要件は、適切な権限を持つユーザのみが組織の Salesforce to Salesforce の接続を表示できるようにするために追加されました。以前のリリースと同様に、「接続の管理」権限を持つユーザは、接続およびテンプレートを管理できます。

Data.com

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。Data.com 製品スイートには、Data.com プロスペクタ と Data.com クリーンアップのほか、関連する Data.com 機能である Social Key、Data.com レポート、および Data.com データ評価が含まれています。



メモ: Data.com は、米国以外では利用できません。このため、これらのリリースノートには記載されていません。ただし、ユーザはこのサービスに関する情報をヘルプで確認できます。

サービス

Salesforce の Service Cloud では、顧客に包括的なカスタマーサービスを提供できるツールを使用できます。

ケースフィード

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供します。ケースフィードにはパブリッシャーが含まれています。パブリッシャーでは、エージェントがケースメモの作成、活動の記録、ケースの状況の変更、および顧客とのやりとりを Chatter のようなフィードで行えます。

Chatter アンサー

Chatter アンサーは、ユーザが質問を投稿して他のユーザやサポートエージェントから回答やコメントを受け取れる、セルフサービスのサポートコミュニティです。Chatter アンサーは、ケース、質問と回答、および Salesforce ナレッジの記事を一元化します。Winter '14 では、Chatter アンサーのいくつかの機能が新規追加および改良されました。

エンタイトルメント管理

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。Winter '14 では、エンタイトルメント管理のいくつかの機能が新規追加および改良されました。

アイデア

アイデアは、アイデアとアイデアに対する投票およびコメントを投稿するユーザのコミュニティです。アイデアコミュニティは、オンラインのわかりやすい方法で、革新的なアイデアを訴求、管理、および紹介できます。Winter '14 では、アイデアのいくつかの機能が新規追加および改良されました。

ナレッジ

Salesforce ナレッジ、ナレッジ中心のサポート認定済みの知識ベースには、Winter '14 で追加されたいくつかの新機能と改善された機能があります。

Live Agent

Live Agent により、サービス組織は、Web ベースのテキストのみの Live Chat を使用して顧客または Web サイトの訪問者とリアルタイムに接続できます。Winter '14 では、Live Agent のいくつかの機能が新規追加および改良されました。

Open CTI

Open CTI により、パートナーが、コールセンターユーザのマシンにアダプタプログラムをインストールしなくても、Salesforce をコンピュータテレフォニーインテグレーションシステムに統合できます。Winter '14 では、Open CTI のいくつかの機能が新規追加および改良されました。

Salesforce Console for Service

Salesforce Console for Service は、顧客をサポートするためにレコードの検索、更新、作成をすばやく行う必要のある、変化の速い環境にあるユーザ向けに設計されているアプリケーションです。Salesforce Console for Service には、Winter '14 で追加されたいくつかの新機能と改善された機能があります。

[コンソール] タブ

[コンソール] タブのエージェントコンソールには、サービスエージェントの作業に役立つ情報が統合されています。

カスタマーユーザ

カスタマーユーザは、作成されたカスタマーポータルまたはコミュニティを使用して Salesforce にアクセスできます。

ケースフィード

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供します。ケースフィードにはパブリッシャーが含まれています。パブリッシャーでは、エージェントがケースメモの作成、活動の記録、ケースの状況の変更、および顧客とのやりとりを Chatter のようなフィードで行えます。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

新規組織でのケースフィードの自動的な有効化

Winter '14 リリース以降に作成される Salesforce 組織では、ケースフィードが自動的に有効化され、すべての標準プロファイルに割り当てられます。

新しいパブリッシャー **JavaScript API** イベントによるカスタム **Salesforce** コンソールコンポーネントとケースフィードとのやりとり

`Sfdc.canvas.publisher` オブジェクトの `publish` メソッドによって公開可能な 4 つの新しいイベントを使用して、カスタム Salesforce コンソールコンポーネントを作成し、ケースフィードパブリッシャーのアクションとやりとりできます。

ケースフィードのケースの詳細ページへの **Visualforce** ページの追加

ページレイアウトエディタで Visualforce ページをレイアウトに追加することで、ケースフィードユーザ向けにケースの詳細ページをカスタマイズし、機能を追加できるようになりました。

ケースフィードのフィード項目の外観の更新

ケースフィードで特定のフィード項目の下に表示される詳細が、明るい灰色のボックス内に表示されるようになりました。

ケースフィードの条件と並び替えオプションの統合

ケースフィードレイアウトの中央列にフィード条件がドロップダウンリストとして含まれる場合、そのリストはフィード並び替えオプションと統合されました。

ケースフィードのポータル関連ボタンの新しい表示ラベル

ケースフィードポータルパブリッシャーのボタンと、ポータル投稿のフィード項目の下に表示されるボタンの名前が変更されました。

新規組織でのケースフィードの自動的な有効化

Winter '14 リリース以降に作成される Salesforce 組織では、ケースフィードが自動的に有効化され、すべての標準プロファイルに割り当てられます。

ケースフィードを使用しない場合、無効化するには、[設定] から [ケース] > [サポート設定] をクリックし、[ケースフィードを有効化] を選択解除します。

自社のニーズに基づいてケースフィードをカスタマイズする方法についての詳細は、オンラインヘルプの「ケースフィードの設定」を参照してください。

新しいパブリッシャー JavaScript API イベントによるカスタム Salesforce コンソールコンポーネントとケースフィードとのやりとり

`Sfdc.canvas.publisher` オブジェクトの `publish` メソッドによって公開可能な 4 つの新しいイベントを使用して、カスタム Salesforce コンソールコンポーネントを作成し、ケースフィードパブリッシャーのアクションとやりとりできます。

たとえば、サポートエージェントが Salesforce ナレッジ記事を閲覧した後、その記事の書式設定された全文をクリック 1 回でケースフィードメールアクションの新規メッセージに追加できるようにするコンソールコンポーネントを作成できます。

次のイベントは、ケースフィードとのやりとりをサポートしています。

名前	説明
<code>publisher.selectAction</code>	指定されたアクションを選択し、そこにフォーカスを移動します。
<code>publisher.setActionInputValues</code>	アクションのどの項目に特定の値を入力する必要があるかと、その値を指定します。
<code>invokeAction</code>	指定されたアクションの送信機能(メールの送信やポータルコメントの投稿など)をトリガします。
<code>customActionMessage</code>	カスタムイベントをカスタムアクションに渡します。 Visualforce ベースのカスタムアクションでのみサポートされます。

これらのイベントの使用方法の詳細は、『[Customizing Case Feed with Visualforce](#)』を参照してください。

ケースフィードのケースの詳細ページへの Visualforce ページの追加

ページレイアウトエディタで Visualforce ページをレイアウトに追加することで、ケースフィードユーザ向けにケースの詳細ページをカスタマイズし、機能を追加できるようになりました。

標準ケースコントローラを含む Visualforce ページであれば、どのページでも使用できます。

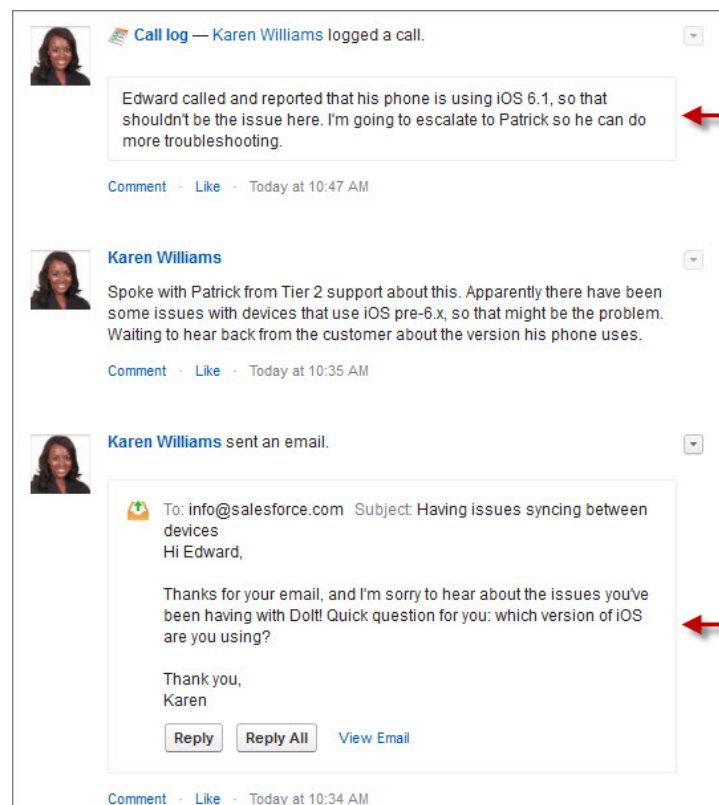
ケースフィードレイアウトを編集するには、[カスタマイズ]>[ケース]>[ページレイアウト]をクリックし、[ケースフィードユーザのページレイアウト]からレイアウトを選択します。

ケースフィードのフィード項目の外観の更新

ケースフィードで特定のフィード項目の下に表示される詳細が、明るい灰色のボックス内に表示されるようになりました。

次の項目の外観が更新されています。

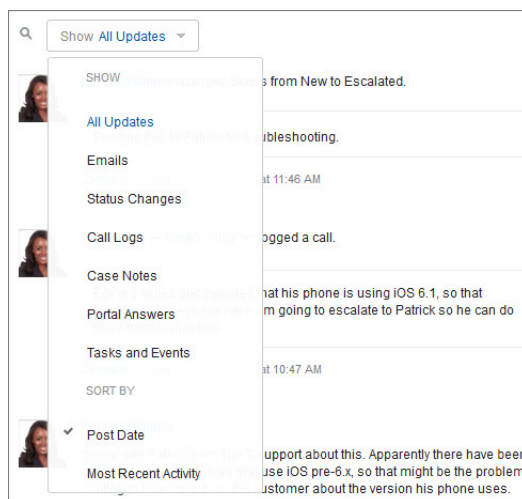
- メールメッセージ
- ポータル投稿
- 活動ログ
- ケース状況の変更
- ケースコメント
- 記事
- Live Chat のトランスクリプト



ケースフィードの条件と並び替えオプションの統合

ケースフィードレイアウトの中央列にフィード条件がドロップダウンリストとして含まれる場合、そのリストはフィード並び替えオプションと統合されました。

統合リストでは、検索条件オプションが最初に表示され、その後に並び替えオプションが表示されます。



レイアウトの左列にフィード条件が固定またはフロート表示リストとして含まれる場合、そのリストと並び替えオプションリストは引き続き別個に表示されます。

ケースフィードのポータル関連ボタンの新しい表示ラベル

ケースフィードポータルパブリッシャーのボタンと、ポータル投稿のフィード項目の下に表示されるボタンの名前が変更されました。

[ポータルから回答]という表示ラベルのポータルパブリッシャーボタンは[回答を投稿]になりました。ポータル関連フィード項目に表示されるボタンの名前は [ポータルから削除] から [回答を削除] に変更されました。

ポータルパブリッシャーの使用方法についての詳細は、Salesforce ヘルプの「カスタマーポータルおよび Chatter アンサーを介した顧客とのやりとり」を参照してください。

Chatter アンサー

Chatter アンサーは、ユーザが質問を投稿して他のユーザやサポートエージェントから回答やコメントを受け取る、セルフサービスのサポートコミュニティです。Chatter アンサーは、ケース、質問と回答、および Salesforce ナレッジの記事を一元化します。Winter '14 では、Chatter アンサーのいくつかの機能が新規追加および改良されました。

Chatter アンサーが使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Developer Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

活動履歴

Chatter プロファイルページで質問およびアイデアのユーザ活動を表示できます。

Chatter アンサーの返信でのリッチテキストおよび画像

ユーザが質問に返信するときにリッチテキストエディタを使用できるようになりました。

質問のユーザインターフェースの更新

[Q&A] タブでいくつか重要な改良が行われ、ユーザが質問をして回答を得るのがさらに容易になりました。これらの変更によって、Chatter アンサーの動作に影響することなく、Chatter アンサーユーザの操作性が向上します。

メールを使用した質問への返信

[Q&A] タブに移動せずに、メール通知から直接質問に返信できるようになりました。

[私のドメイン] を有効化するときには通知 URL に必要な更新

Chatter アンサーを使用する既存の組織は、[私のドメイン] を有効にするときにメール通知 URL を更新する必要があります。

Visualforce コンポーネントを使用した Chatter アンサーのカスタマイズ

Chatter アンサーの Visualforce コンポーネントを使用して、まったく新しい方法で Chatter アンサーのゾーンを構成します。

Chatter アンサーポータルユーザが取引先を作成するときの操作性のカスタマイズ

ChatterAnswersRegistration Apex クラスを使用して、ChatterAnswers.AccountCreator インターフェースを実装し、Chatter アンサーポータルユーザが取引先を作成および登録するときの操作性をカスタマイズします。

アプリケーションへの Chatter アンサー検索の組み込み

Chatter アンサー検索は、Chatter in Apex および Chatter REST API を通じて公開されています。

Chatter アンサー JavaScript API を使用したコンポーネントイベントのカスタマイズ—パイロット

Chatter アンサーの JavaScript API を使用すると、追加の機能を Chatter アンサーのアクションに追加できます。

活動履歴

Chatter プロファイルページで質問およびアイデアのユーザ活動を表示できます。

Winter '14 では、アイデアおよび質問で自分が行った投稿の数、自分が受け取ったいいね! の数などの活動の統計情報がプロフィールページに表示されるため、コミュニティへの参加を他のユーザが確認できます。

自分のプロフィールを表示するには、アプリケーションにある自分の名前をクリックします。また、[プロフィール] タブをクリックするか、ページ上部の **あなたの名前** > [私のプロフィール] をクリックして、プロフィールを表示することもできます (利用可能な場合)。他のユーザのプロフィールを表示するには、そのユーザの名前をクリックします。

活動履歴は自分のプロフィールの [概要] タブに表示されます。活動履歴には、他の人への自分の活動が表示されます。また、コミュニティの他のメンバーのプロフィールを確認するときに、その活動を評価することもできます。

Chatter > People > An Lin

About Me

EDUCATION: University of California, Berkeley
 EXPERIENCE: 5 years in current position
 SKILLS: Management, Agile Development
 MISSION: To bring World Wide Computing to the top of the pile
 PERSONAL: Married with two young sons

Contact

APAC Sales Director
 admin@wwwcomputing.com
 1 Market St
 San Francisco, CA 94105
 US
 Allison Wheeler (Manager)

Files Owned

No files have been added yet.

Groups

[Join or create groups](#)

Contribution

Active Influencer

3 posts & comments, 2 comments received, 0 likes received

Community Activity

Questions

Questions Asked	1
Questions Answered	4
Solved Questions	0

Ideas

Ideas Created	2
Idea Comments Received	1
Ideas Voted On	0

組織で Chatter アンサーが有効になっている場合、次の活動の合計数が自分のプロフィールページに表示されます。

- 自分が行った質問
- 自分が回答した質問
- 最良の回答で自分が解決した質問

[質問] をクリックすると [Q&A] タブに戻ります。

システム管理者がアイデアの [評価] を有効にしている場合、次の活動の合計数が自分のプロフィールページに表示されます。

- 自分が作成したアイデア
- 自分が受け取ったコメント
- 自分が投票したコメントおよびアイデア

[アイデア] をクリックすると [アイデア] タブに戻ります。

Chatter アンサーの返信でのリッチテキストおよび画像

ユーザが質問に返信するときにリッチテキストエディタを使用できるようになりました。

必要なユーザ権限	
Chatter アンサーを設定する	「アプリケーションのカスタマイズ」
	および
	「ユーザの管理」
	および
	「セルフサービスユーザの編集」

システム管理者は、コミュニティメンバーに返信でのリッチテキストエディタへのアクセス権を与え、質問に回答するときにテキストの書式設定や画像の追加を可能にすることができます。画像サイズは最大1 MB に制限されます。公開の返信の場合、32,000 文字以下という制限があります。新規組織の場合、リッチテキストエディタはデフォルトで有効になります。既存組織の場合、質問でリッチテキストが有効になっていると、返信でも自動的に有効になります。リッチテキストエディタを有効化すると、質問と返信の両方でリッチテキストを使用できるようになります。

組織内のユーザに対してリッチテキストを有効にするには、[設定] から [カスタマイズ] > [Chatter アンサー] > [設定] をクリックし、[リッチテキストエディタを有効化] を選択します。

質問のユーザインターフェースの更新

[Q&A] タブでいくつか重要な改良が行われ、ユーザが質問をして回答を得るのがさらに容易になりました。これらの変更によって、Chatter アンサーの動作に影響することなく、Chatter アンサーユーザの操作性が向上します。

[質問フローを最適化] 設定を有効にすると、ユーザが質問をするときに表示される情報が増えて回答を見つけやすくなります。

Chatter アンサーの [Q&A] タブが更新されて以下の改良が行われました。

1. フィルタと並び替えのオプションがさらに追加されて、質問と回答の表示がさらに容易になりました。フィルタと並び替えオプションが1つのドロップダウンリストに統合されました。コミュニティメンバーおよびサポートエージェントは、フィード内の質問にさまざまな表示オプションを選択できるようになりました。

Chatter アンサーの [Q&A] タブの検索を次のフィルタに基づいて絞り込むことができます。

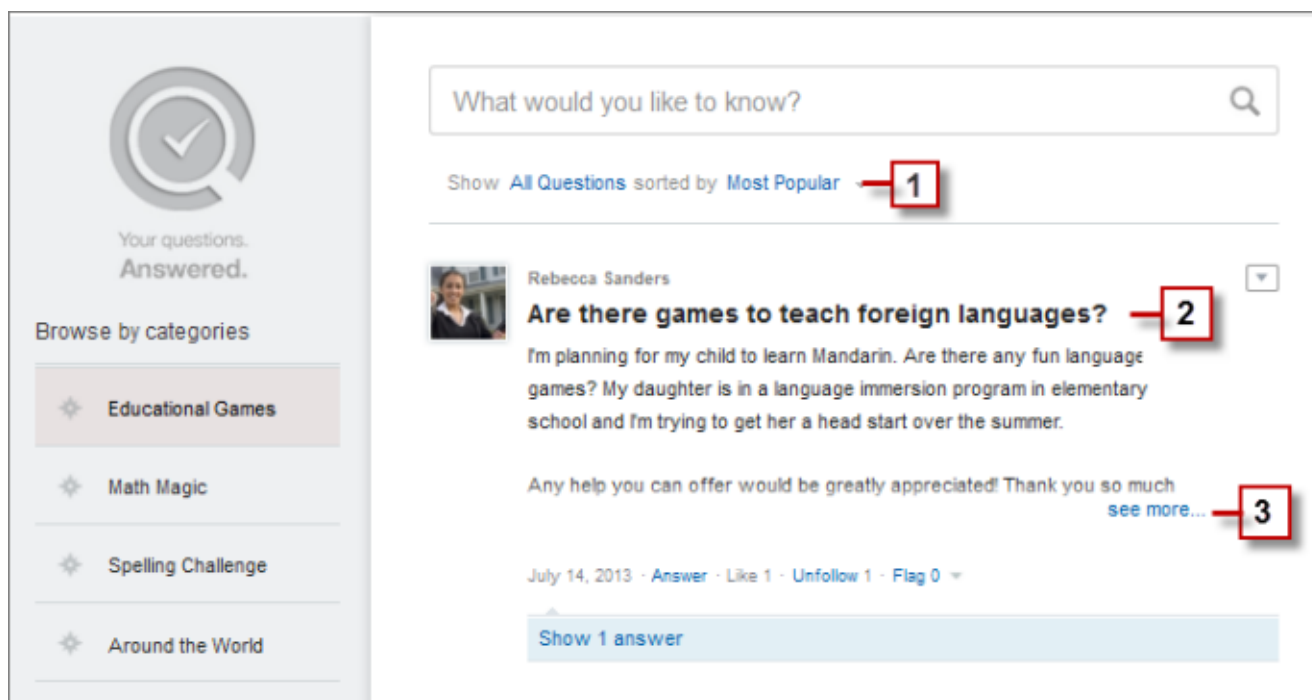
- [すべての質問] は、ゾーン内のすべての質問と、Salesforce ナレッジ記事 (有効な場合) を表示します。
- [未回答の質問] は、返信のない質問をすべて表示します。
- [未解決の質問] は、最良の回答がない質問をすべて表示します。
- [解決済みの質問] は、最良の回答がある質問すべてと、Salesforce ナレッジ記事 (有効な場合) を表示します。
- [私の質問] は、自分がした質問と自分がフォローしている質問をすべて表示します。

表示された結果を次のオプションに基づいて並び替えることができます。

- [投稿日] は、質問された日時の新しい順に質問を並び替えます。
- [最近の活動] は、返信とコメントの新しい順に質問を並び替えます。
- [最も人気のある] は、いいね!、賛成票、フォローされている数の多い順に質問を並び替えます。

システム管理者は、コミュニティのニーズに合わせて、[すべての質問]、[解決済みの質問]、[未回答の質問]、および [未解決の質問] の表示ラベルを編集できます。

- 質問のタイトルのテキスト色が、青から黒に変更されました。質問のタイトルまたは本文をクリックすると、質問の単一項目ビューに切り替わります。
- 質問が簡易表示になり、投稿の最初の数行が表示されるようになりました。質問全体を表示するには [表示を増やす] をクリックし、セクションを元の高さ 100 ピクセルのテキストエリアに折りたたむには [表示を減らす] をクリックします。



メールを使用した質問への返信

[Q&A] タブに移動せずに、メール通知から直接質問に返信できるようになりました。

質問に関連するメール通知を受信したとき、メールから直接返信でき、返信は [Q&A] タブに回答として表示されます。次のイベントについてメール通知を受信します。

- 自分がした質問か、フォローしている質問に他のユーザが回答した。
- カスタマーサポートまたはモデレータが、自分がした質問か、フォローしている質問への最良の回答を選択した。



メモ: メール通知に返信するには、システム管理者が [Chatter アンサーの設定] ページでメールの返信を有効化する必要があります。

メールの返信を送信するときに、次のヒントを考慮してください。

- 返信は、プロファイルで指定したメールアドレスから送信する必要があります。メールエイリアス (別名設定) やメール転送サービスなど、別のメールアドレスから返信するサービスを使用すると、返信は処理されません。

- 返信に個人のメール署名が含まれる場合、署名テキストはコメントの一部として処理されます。「iPhone から送信」のようにモバイルデバイスによって送信されたデフォルト署名は、返信から自動的に削除されます。返信前に、コミュニティに投稿しないカスタム署名と余分なテキストを削除してください。
- 返信の添付ファイルは無視されます。
- 返信する前に、メールの [宛先] 項目に表示されるメールアドレスを確認します。有効なアドレスには、w8t27apy1@j321imd9gbs.d8rx.d.chatter.salesforce.com のように、@マークの前後の両方にトークン、つまり長い文字列が含まれています。メールアプリケーションには、元のメールの [差出人] アドレス (ReplyToQ&A@<your.company>.com など) を自動的に使用するものもありますが、これは返信を受信できる有効なアドレスではありません。返信メールの [宛先] 項目にこの短縮アドレスが表示されている場合は、メールのヘッダー情報の有効な返信先アドレスに置き換えます。たとえば、IBM® Lotus Notes® などのアプリケーションでは、次のようにします。
 - 元のメールを開きます。
 - [表示] > [表示] > [ページソース] をクリックします。
 - ReplyToQ&A セクションで、w8t27apy1@j321imd9gbs.d8rx.d.chatter.salesforce.com などのメールアドレスをコピーします。
 - 返信メールの [宛先] 項目に返信アドレスを貼り付けます。

[私のドメイン]を有効化するときには通知 URL に必要な更新

Chatter アンサーを使用する既存の組織は、[私のドメイン]を有効にするときにメール通知 URL を更新する必要があります。

必要なユーザ権限	
ゾーンを作成または編集し、ドメイン名を設定する	「アプリケーションのカスタマイズ」

[私のドメイン]を使用して組織のドメイン名を設定すると、すべてのアプリケーション URL が変更されます。内部ゾーンにメール通知用 URL がすでにあり、その後で [私のドメイン]を使用してカスタムドメインを設定する場合、内部ゾーンの [メール通知 URL] 項目を手動で更新する必要があります。

- [設定] で、[カスタマイズ] > [Chatter アンサー] > [ゾーン] をクリックします。
- [メール通知 URL] 項目で、既存の URL をクリアして項目を空白にします。
- [保存] をクリックします。
システムによって [私のドメイン] の URL がその項目に入力されます。

Visualforce コンポーネントを使用した Chatter アンサーのカスタマイズ

Chatter アンサーの Visualforce コンポーネントを使用して、まったく新しい方法で Chatter アンサーのゾーンを構成します。

Chatter アンサーが使用可能なエディション: Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

Winter '14 では、フィード、サインイン、検索条件、[検索/質問] バーなどの Chatter アンサー要素の配置を制御できます。任意の Chatter アンサーコンポーネントを、ゾーンをカスタマイズする Visualforce ページに追加します。次のコンポーネントを任意の順序で含めることができます。

- chatteranswers:aboutme
- chatteranswers:guestsignin
- chatteranswers:feedfilter
- chatteranswers:feeds
- chatteranswers:searchask
- chatteranswers:categoryfilter

たとえば、次の Visualforce ページには、標準の Chatter アンサー要素がすべて含まれますが、作成されるページに表示される順序は、chatteranswers:allfeeds コンポーネントを使用する場合とは異なります。次の例では、[検索/質問] コンポーネントとフィード条件がフィードの上ではなく下に表示されます。

```
<apex:page language="en_US" showHeader="false" cache="true">
<body>
  <div class="csMini">
    <div class="threecolumn">
      <div class="leftContent">
        <chatteranswers:guestsignin />
        <chatteranswers:aboutme communityId="09aD00000000cfE"/>
        <chatteranswers:categoryfilter communityId="09aD00000000cfE"/>
      </div>
      <div class="mainContent">
        <div class="lowerMainContent" id="lowerMainContent">
          <div id="rightContent" class="rightContent"></div>
          <div id="centerContent" class="centerContent">
            <chatteranswers:feeds communityId="09aD00000000cfE"/>
            <chatteranswers:searchask communityId="09aD00000000cfE"/>
            <chatteranswers:feedfilter />
          </div>
        </div>
      </div>
      <div class="clearingBox"></div>
    </div>
  </div>
</body>
</apex:page>
```

Chatter アンサーポータルユーザが取引先を作成するときの操作性のカスタマイズ

ChatterAnswersRegistration Apex クラスを使用して、ChatterAnswers.AccountCreator インターフェースを実装し、Chatter アンサーポータルユーザが取引先を作成および登録するときの操作性をカスタマイズします。

Chatter アンサーが使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Developer Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

ChatterAnswers.AccountCreator インターフェースには、基本的なユーザ情報を受け取り、取引先レコードを作成する 1 つのメソッド、createAccount があります。このメソッドの実装では、ユーザ ID を返します。

<chatteranswers:registration> Visualforce コンポーネントの `registrationClassName` 属性で、`ChatterAnswers.AccountCreator` インターフェース実装のクラス名を指定します。

Chatter アンサーポータルユーザが取引先を作成および登録するときの操作性をカスタマイズする方法についての詳細は、「[ChatterAnswers.AccountCreator インターフェース](#)」(ページ 285)および「[<chatteranswers:registration> コンポーネントへの registrationClassName 属性の追加](#)」(ページ 268)を参照してください。

アプリケーションへの Chatter アンサー検索の組み込み

Chatter アンサー検索は、Chatter in Apex および Chatter REST API を通じて公開されています。

Chatter アンサーが使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Developer Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

Chatter アンサー検索では、特殊な関連性スコア (投票数や最良の回答数など) を使用して、質問および記事を返します。Chatter in Apex および Chatter REST API を使用して、ユーザインターフェースと同じリッチな Chatter アンサー検索をアプリケーションに統合できるようになりました。

Chatter アンサー検索のアプリケーションへの組み込みについての詳細は、「[新しいリソースと変更されたリソース](#)」の「Zones リソース」を参照してください。

Chatter アンサー JavaScript API を使用したコンポーネントイベントのカスタマイズ—パイロット

Chatter アンサーの JavaScript API を使用すると、追加の機能を Chatter アンサーのアクションに追加できます。



メモ:

Chatter アンサーの JavaScript API は現在、パイロットプログラムで使用可能です。Chatter アンサーの JavaScript API の使用方法についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

Visualforce ページで Chatter アンサーコンポーネントを使用して、Chatter アンサーコミュニティのカスタム操作を作成できます。Chatter アンサーの JavaScript API は、Chatter アンサーコンポーネントの動作を変更する、または Chatter アンサーコンポーネントと作成したコンポーネントとのやりとりを変更するための 4 つのイベントを公開します。

- `FEED_READY` — Chatter アンサーフィードの読み込みが終了したことを示します。このイベントが起動された後、他のイベントをトリガできます。
- `EDIT_MY_SETTINGS_CLICK` — [私の設定] のフロート表示の開始を処理します。
- `FEED_ITEM_SELECTED` — 単一項目ビューで特定のフィード項目を開きます。[検索/質問] コンポーネントから選択されたフィード項目のアクションによってトリガされます。
- `HOVER_USER` — マウスを置いたときのフロート表示の動作を処理します。ユーザのユーザ名の上にマウスを置いたときに、評価またはユーザ情報を表示できます。このイベントは上書きできます。

Chatter アンサー JavaScript API の使用方法についてのドキュメントは、「[Chatter Answers JavaScript API Developer's Guide](#)」(英語のみ)を参照してください。

エンタイトルメント管理

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。Winter '14 では、エンタイトルメント管理のいくつかの機能が新規追加および改良されました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition** (Service Cloud 付属)

繰り返しマイルストーンによるより柔軟なエンタイトルメントプロセスの作成

繰り返しマイルストーンでは、マイルストーン条件がケース条件に一致するたびに、エンタイトルメントプロセス内でマイルストーンを繰り返すことができます。

エンタイトルメントのバージョン設定— 正式リリース

エンタイトルメントのバージョン設定は正式リリースされています。エンタイトルメントのバージョン設定では、エンタイトルメントプロセス、およびそのプロセスに関連付けられたすべてのエンタイトルメントとケースをワンクリックで更新できるため、時間を節約できます。

マイルストーンフィード項目によるケース活動の監視

マイルストーンフィード項目により、サポートエージェントがケース活動を監視するための方法が追加されます。

マイルストントラッカーによる[ケースフィード] ページでのマイルストンの表示

有効なマイルストーンの目標日までのカウントダウン時間を表示したり、マイルストーンが違反し続けている期間を表示したりする、[ケースフィード] ページに追加できる新しいコンポーネントを作成しました。

マイルストンの目標に違反してからの経過時間の表示

[目標以降の経過時間] 項目を[ケースマイルストーン] 関連リストとケースマイルストンの詳細ページに追加して、マイルストンの目標日に違反してからの経過時間をすばやく表示できます。

エンタイトルメントに関連付けられた取引先の変更

サポートエージェントは、エンタイトルメントに関連付けられた取引先を変更し、エンタイトルメントの対象となる納入商品の所有者が変更された場合にエンタイトルメントを簡単に更新したり、エンタイトルメントの対象となるケースに誤った取引先または取引先責任者が割り当てられている場合にエンタイトルメントに関連付けられた取引先を簡単に修正したりできるようになりました。

繰り返しマイルストーンによるより柔軟なエンタイトルメントプロセスの作成

繰り返しマイルストーンでは、マイルストーン条件がケース条件に一致するたびに、エンタイトルメントプロセス内でマイルストーンを繰り返すことができます。

マイルストーンは、サポートプロセスで必要なステップで、各顧客に提供するサービスレベルを示す指標です。たとえば、マイルストーンには、ケースの最初の対応や解決時間が含まれます。マイルストーンは、エンタイトルメントプロセス内で1回発生、またはエンタイトルメントプロセスが存在する限り繰り返し発生するように設定できます。マイルストーンで使用可能な繰り返しタイプは、次のとおりです。

繰り返しタイプ	説明
なし	マイルストーンは、ケースで1回のみ発生します。
独立	マイルストーンは、マイルストーン条件がケース条件に一致するたびに発生します。
順次	マイルストーンは、マイルストーン条件がケース条件に一致し、その前に発生したマイルストーンの目標日を過ぎるたびに発生します。

繰り返しマイルストーンの設定についての詳細は、Salesforce ヘルプの「マイルストーンの作成」を参照してください。

独立した繰り返しマイルストーン

独立した繰り返しマイルストーンは、常に現在の時間を開始日として使用します。

独立した繰り返しマイルストーンは、エンタイトルメントプロセスが終了するまで、マイルストーン条件がケース条件に一致するたびに発生します。一度に1つのマイルストーンの発生のみが有効です。すべての発生で、以前の発生が完了しているかどうかに関わらず、マイルストーン条件がケース条件に一致したときの時間が開始日になります。

たとえば、エンジニアリングチームへのケースのエスカレーションを追跡するために、「エンジニアソリューション提案済み」というマイルストーンが設定されているとします。「エンジニアソリューション提案済み」マイルストーンが発生すると、サポートエージェントは4時間以内にエンジニアリングチームからソリューションが提案されることを期待します。

午前10時に項目を変更し、ワークフロールールによりマイルストーン条件とケース条件が一致することで、サポートエージェントがエンジニアリングチームにケースをエスカレーションします。その結果、「エンジニアソリューション提案済み」マイルストーンが現在の時間の午前10時を開始日として作成されます。マイルストーンの目標日は、開始日から4時間後の午後2時です。目標日よりかなり前の午前11時に、エンジニアが顧客に送信されるソリューションを提案し、「エンジニアソリューション提案済み」マイルストーンが完了します。

ただし、提案されたソリューションでは顧客の問題が解決されませんでした。午後1時に、サポートエージェントがエンジニアリングチームにケースをエスカレーションし、「エンジニアソリューション提案済み」マイルストーンが再作成されます。今回の目標日は午後5時に設定されます。

「エンジニアソリューション提案済み」マイルストーンの2回目の発生後、ケースには次の2つのマイルストーンが存在します。

- ・ 午前10時に開始されて現在は完了しているマイルストーン
- ・ 午後1時に開始されて目標日が午後5時の未完了のマイルストーン

マイルストーンは、エンタイトルメントプロセスが完了するまで必要に応じて何度でも繰り返すことができます。

順次繰り返しマイルストーン

順次繰り返しマイルストーンには、その前に発生したマイルストーンの目標日に基づいて開始日が設定されます。

順次繰り返しマイルストーンは、エンタイトルメントプロセスが終了するまで、マイルストーン条件がケース条件に一致し、その前に発生したマイルストーンの目標日を過ぎるたびに発生します。一度に1つのマイルストーンの発生のみが有効です。最初の発生では、マイルストーン条件がケース条件に一致したときの時間が開始日になります。それ以降の発生では、開始日は前の発生の目標日より後である必要があります。発生がその目標日より前に完了し、再度マイルストーン条件がケース条件に一致した場合、前の発生の目標日時点で次の発生が開始します。発生がその目標日より後に完了した場合、次の発生の開始日は、マイルストーン条件がケース条件に一致した時間になります。

たとえば、SLAの一部として顧客との毎日の連絡を追跡するために、「顧客連絡済み」というマイルストーンが設定されているとします。マイルストーンは、サポートエージェントが顧客に連絡したときに完了します。「顧客連絡済み」マイルストーンの目標時間は 24 時間です。

月曜日の午前 10 時に、「顧客連絡済み」マイルストーンのケースが作成されました。マイルストーンの目標日は、開始日から 24 時間後の火曜日午前 10 時です。月曜日の午前 11 時に、サポートエージェントが顧客に連絡しました。これで最初の「顧客連絡済み」マイルストーンは完了です。さらに、次の「顧客連絡済み」マイルストーンの発生が作成されました。ただし、前の発生の目標時間に達していないため、この発生の開始日は火曜日の午前 10 時になります。

「顧客連絡済み」マイルストーンの 2 回目の発生後、ケースには次の 2 つのマイルストーンが存在します。


- ・ 月曜日の午前 10 時に開始されて現在は完了しているマイルストーン
- ・ 火曜日の午前 10 時に開始がスケジュールされ、目標日が水曜日午前 10 時の未完了のマイルストーン

サポートエージェントが月曜日に複数回顧客に連絡した場合、火曜日のマイルストーンには何も影響ありません。

エンタイトルメントのバージョン設定 — 正式リリース

エンタイトルメントのバージョン設定は正式リリースされています。エンタイトルメントのバージョン設定では、エンタイトルメントプロセス、およびそのプロセスに関連付けられたすべてのエンタイトルメントとケースをワンクリックで更新できるため、時間を節約できます。

エンタイトルメントのバージョン設定により、既存のエンタイトルメントプロセスが有効なエンタイトルメントおよびケースに割り当てられていても、変更を加えることができます。これは、たとえばエンタイトルメントプロセスの背後にあるビジネスルールを変更する場合、または、同一エンタイトルメントプロセスについて、互いに軽微な違いしかない複数のバージョンを作成する必要があるような場合に便利です。エンタイトルメントのバージョン設定を使用すれば、まったく新しいプロセスを作成する必要はなく、既存のエンタイトルメントの新しいバージョンを作成するだけで済みます。

複数のバージョンのエンタイトルメントプロセスの作成についての詳細は、Salesforce ヘルプの「エンタイトルメントのバージョン設定の概要」を参照するか、 [デモを参照してください](#) (2:20 分間)。

マイルストーンフィード項目によるケース活動の監視

マイルストーンフィード項目により、サポートエージェントがケース活動を監視するための方法が追加されます。

必要なユーザ権限	
マイルストーンフィード項目を有効にする	「エンタイトルメントの管理」

マイルストーンフィード項目を有効にすると、マイルストーンが完了または違反した場合、サポートエージェントのケースフィードに通知が表示されます。ユーザが所有またはフォローするケースのマイルストーンフィード項目は、ユーザプロフィールページにも表示されます。

この設定は、Chatter とエンタイトルメント管理を有効にしている場合にのみ適用されます。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [エンタイトルメントプロセス] > [設定] をクリックします。
2. 「マイルストーンフィード項目の有効化」を選択します。



メモ: マイルストーンフィード項目を有効化しても、すでに完了または違反しているマイルストンのフィード項目は作成されません。


マイルストントラッカーによる [ケースフィード] ページでのマイルストンの表示

有効なマイルストンの目標日までのカウントダウン時間を表示したり、マイルストーンが違反し続けている期間を表示したりする、[ケースフィード] ページに追加できる新しいコンポーネントを作成しました。

必要なユーザ権限	
ページレイアウトを作成および編集する	「アプリケーションのカスタマイズ」
ページレイアウトを割り当てる	「ユーザの管理」

ケースを処理するエージェントは、多くの場合マイルストンを到達できなかった頻度に基づいてパフォーマンスが測定されるため、マイルストンの期日までの残り時間を把握する必要があります。マイルストントラッカーでは、今後のマイルストンと終了したマイルストンのリストに加えて、有効なマイルストンの残り時間、または目標日が過ぎている場合はマイルストンの期限切れ状況が、すべてエージェントの [ケースフィード] ページに表示されます。

サポートエージェントのマイルストントラッカーを有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [ケース] > [ページレイアウト] をクリックします。
2. ケースフィードユーザのページレイアウトで、レイアウトの横にある  をクリックして [フィードビューを編集] を選択します。
3. [その他のツールおよびコンポーネント] 領域で [マイルストントラッカー] を選択し、ページ内に表示する位置を指定します。
4. [保存] をクリックします。

Visualforce ページに `<apex:milestoneTracker>` コンポーネントを含めることで、カスタムページにマイルストントラッカーを追加できます。新しい `<apex:milestoneTracker>` コンポーネントについての詳細は、「[新しい <apex:milestoneTracker> コンポーネント](#)」を参照してください。

マイルストンの目標に違反してからの経過時間の表示

[目標以降の経過時間] 項目を [ケースマイルストーン] 関連リストとケースマイルストンの詳細ページに追加して、マイルストンの目標日に違反してからの経過時間をすばやく表示できます。

必要なユーザ権限	
ケースのマイルストンの参照に必要な権限	ケースに対する「参照」
ケースのマイルストンの編集に必要な権限	ケースに対する「編集」

マイルストーンは、サポートプロセスで必要なステップで、各顧客に提供するサービスレベルを示す指標です。たとえば、マイルストーンには、ケースの最初の対応や解決時間が含まれます。マイルストンの目標日は、マイルストーンが完了される予定の日付または時間です。

ケースの「目標以降の経過時間」項目では、マイルストンの目標に違反してから経過した時間が計算されます。この時間は、日数、時間と分、または分と秒で表示できます。これらの項目は、ケースの詳細ページの「ケースマイルストーン」関連リスト、およびケースマイルストンの詳細ページに追加できます。

ケースの詳細ページの「ケースマイルストーン」関連リストに「目標以降の経過時間」を表示する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [ケース] > [ページレイアウト] をクリックします。
2. ケースページレイアウトで、ページレイアウトの横にある [編集] をクリックします。
3. ページレイアウトパレットで、[関連リスト] をクリックします。
4. 「ケースマイルストーン」関連リストの上にあるレンチアイコンをクリックします。
5. いずれかの「目標以降の経過時間」項目を [選択済みの項目] リストに追加します。
6. [OK] をクリックします。

「目標以降の経過時間」を「ケースマイルストーン」関連リストに追加すると、ケースにマイルストーンが含まれていてそのマイルストンの目標に違反した場合、エージェントのケースの詳細ページにこの項目が表示されます。

ケースマイルストンの詳細ページに「目標以降の経過時間」項目を表示する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [ケース] > [ケースマイルストーン] > [ページレイアウト] をクリックします。
2. ページレイアウトの横にある [編集] をクリックします。
3. パレットの「項目」リストから、目的の「目標以降の経過時間」項目をページレイアウトにドラッグします。
4. [保存] をクリックします。

「目標以降の経過時間」をケースマイルストンの詳細ページに追加すると、ケースにマイルストーンが含まれていてそのマイルストンの目標に違反した場合、エージェントにこの項目が表示されます。

マイルストーンが完了すると、目標からの経過時間は固定されたままになります。目標からの経過時間は、マイルストーンが目標日より後に完了した場合、完了日から目標日を差し引いて計算されます。

エンタイトルメントに関連付けられた取引先の変更

サポートエージェントは、エンタイトルメントに関連付けられた取引先を変更し、エンタイトルメントの対象となる納入商品の所有者が変更された場合にエンタイトルメントを簡単に更新したり、エンタイトルメントの対象となるケースに誤った取引先または取引先責任者が割り当てられている場合にエンタイトルメントを簡単に修正したりできるようになりました。

必要なユーザ権限	
エンタイトルメントの参照に必要な権限	エンタイトルメントに対する「参照」権限
エンタイトルメントの変更に必要な権限	エンタイトルメントに対する「編集」

エンタイトルメントに関連付けられた取引先を変更する手順は、次のとおりです。

1. 変更するエンタイトルメントの [編集] をクリックします。

2. 「取引先名」をクリックします。[参照] ダイアログボックスで納入商品をすばやく検索するには、「絞り込み条件」項目から基準を選択します。管理者は、ルックアップ検索条件を設定して、検索条件の値および結果を制限します。
3. [編集] をクリックします。

エンタイトルメントの編集についての詳細は、Salesforce ヘルプの「エンタイトルメントの編集」を参照してください。

アイデア

アイデアは、アイデアとアイデアに対する投票およびコメントを投稿するユーザのコミュニティです。アイデアコミュニティは、オンラインのわかりやすい方法で、革新的なアイデアを訴求、管理、および紹介できます。Winter '14 では、アイデアのいくつかの機能が新規追加および改良されました。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

活動履歴

Chatter プロファイルページで質問およびアイデアのユーザ活動を表示できます。

コメントに「いいね!」と言う

コミュニティメンバーはコメントにいいね! と言うことができます。

自分のアイデアユーザへのプロフィールの種別の設定

[アイデアユーザプロフィール] 設定を使用して、ゾーン内のすべてのユーザプロフィールを同じ方法で表示します。

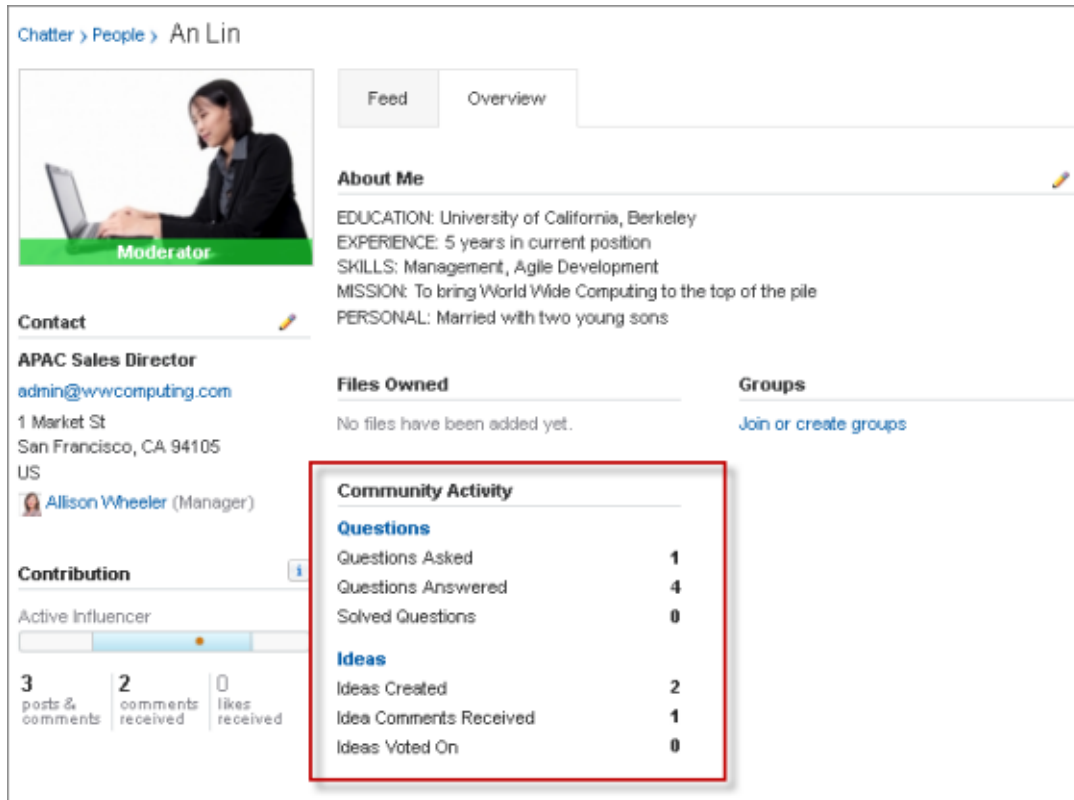
活動履歴

Chatter プロファイルページで質問およびアイデアのユーザ活動を表示できます。

Winter '14 では、アイデアおよび質問で自分が行った投稿の数、自分が受け取ったいいね! の数などの活動の統計情報がプロフィールページに表示されるため、コミュニティへの参加を他のユーザが確認できます。

自分のプロフィールを表示するには、アプリケーションにある自分の名前をクリックします。また、[プロフィール] タブをクリックするか、ページ上部の *あなたの名前* > [私のプロフィール] をクリックして、プロフィールを表示することもできます (利用可能な場合)。他のユーザのプロフィールを表示するには、そのユーザの名前をクリックします。

活動履歴は自分のプロフィールの [概要] タブに表示されます。活動履歴には、他の人への自分の活動が表示されます。また、コミュニティの他のメンバーのプロフィールを確認するときに、その活動を評価することもできます。



Chatter > People > An Lin

About Me

EDUCATION: University of California, Berkeley
 EXPERIENCE: 5 years in current position
 SKILLS: Management, Agile Development
 MISSION: To bring World Wide Computing to the top of the pile
 PERSONAL: Married with two young sons

Contact

APAC Sales Director
 admin@wwwcomputing.com
 1 Market St
 San Francisco, CA 94105
 US
 Allison Wheeler (Manager)

Contribution

Active Influencer

3 posts & comments | 2 comments received | 0 likes received

Files Owned

No files have been added yet.

Groups

Join or create groups

Community Activity

Questions	
Questions Asked	1
Questions Answered	4
Solved Questions	0
Ideas	
Ideas Created	2
Idea Comments Received	1
Ideas Voted On	0

組織で Chatter アンサーが有効になっている場合、次の活動の合計数が自分のプロフィールページに表示されます。

- ・ 自分が行った質問
- ・ 自分が回答した質問
- ・ 最良の回答で自分が解決した質問

[質問] をクリックすると [Q&A] タブに戻ります。

システム管理者がアイデアの [評価] を有効にしている場合、次の活動の合計数が自分のプロフィールページに表示されます。

- ・ 自分が作成したアイデア
- ・ 自分が受け取ったコメント
- ・ 自分が投票したコメントおよびアイデア

[アイデア] をクリックすると [アイデア] タブに戻ります。

コメントに「いいね!」と言う

コミュニティメンバーはコメントにいいね! と言うことができます。

コメントにいいね! と言って、アイデアに関連する素晴らしい意見に賛同を示すことができるようになりました。

コメントの下にある [いいね!] をクリックします。コメントにいいね! と言うのを止める場合は、[いいね! を取り消す] をクリックします。

コメントには、コメントにいいね!と言った人の数が表示されるようになりました。コメントがいいね!を受け取ると、コメントの合計スコアにそれが追加されます。

自分のアイデアユーザへのプロフィールの種別の設定

[アイデアユーザプロフィール] 設定を使用して、ゾーン内のすべてのユーザプロフィールを同じ方法で表示します。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
ゾーンを作成または編集する	「アプリケーションのカスタマイズ」

ゾーンのすべてのアイデアユーザに、3つのプロフィール種別を設定できます。ユーザの Chatter プロファイル、ユーザがプロフィールページに設定したアイデアゾーンプロフィール、および Visualforce ページが含まれたカスタムユーザプロフィールから選択できます。ユーザ名をクリックして、そのユーザのプロフィールページにアクセスできます。

ゾーンのアイデアユーザのプロフィール種別を設定する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [アイデア] > [設定] をクリックします。
2. [編集] をクリックします。
3. ゾーンのすべてのユーザプロフィールの [アイデアユーザプロフィール] 種別を選択します。

ユーザプロフィール種別	説明
Chatter プロファイル	ユーザの Chatter プロファイルがデフォルトのユーザプロフィール種別です。このオプションを選択する場合に、ユーザに Chatter プロファイルがないときは、アイデアゾーンプロフィールが使用されます。
アイデアゾーンプロフィール	アイデアゾーンにユーザが設定するプロフィール。このプロフィールの種別は、ポータル内のアイデアゾーンに使用されます。
Visualforce ページ付きのカスタムプロフィール	ゾーン内のすべてのアイデアユーザに対して、カスタムプロフィールの Visualforce ページを指定できます。このプロフィール種別を選択する場合、Visualforce ページを [カスタムプロフィールページ] に指定する必要があります。

4. [保存] をクリックします。

Winter '14 リリースから開始する新しい組織については、ユーザプロフィール種別のデフォルトは Chatter プロファイルです。Winter '14 リリースよりも前に作成された組織については、アイデアゾーンプロフィールが使用されます。

IdeasSettings メタデータ種別の enableChatterProfile 項目と ideasProfilePage 項目を使用して、これらのアイデア設定をカスタマイズできます。ユーザインターフェースでこれらの設定を変更する方法の詳細は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

ナレッジ

Salesforce ナレッジ、ナレッジ中心のサポート認定済みの知識ベースには、Winter '14 で追加されたいくつかの新機能と改善された機能があります。

Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Performance Edition** および **Developer Edition**
有料オプションで Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Enterprise Edition** および **Unlimited Edition**

内部ユーザの **Salesforce** ナレッジへのアクセス権

Salesforce のフルライセンスを所有するユーザは、ナレッジユーザのライセンスがなくても記事を表示できるようになりました。

統合検索のある **Knowledge One**

新しい [ナレッジ] タブにある Knowledge One を使用して、公開された記事とドラフト記事の両方に加え、Salesforce に接続したすべての外部データソースを検索できます。

記事タイプの追加カスタム項目

記事タイプに、さらに 9 個のカスタム項目を含めることができるようになりました。

記事を検索してスマート記事リンクを作成する

記事の作成中に、既存の Salesforce ナレッジ記事をすばやく検索して、スマートリンクを追加できます。このリンクは、記事の名前または URL が変更されると自動的に調整されます。

記事ツールバーで **Chatter** フィードが使用可能に

コメントを表示および投稿し、公開前に記事をフォローできます。

記事の承認アクションに対するメタデータ **API** のサポート

リリース済み記事タイプで、メタデータ API を使用して記事のアクションとワークフロールールを設定できます。

カスタム **Visualforce** ページを使用したプロバイダからのビデオ再生

カスタム Visualforce ページと HTML エディタを使用して、プロバイダから Salesforce ナレッジ記事にビデオを挿入できます。

内部ユーザの **Salesforce** ナレッジへのアクセス権

Salesforce のフルライセンスを所有するユーザは、ナレッジユーザのライセンスがなくても記事を表示できるようになりました。

Winter'14 では、Salesforce ナレッジの参照アクセス権は、ナレッジユーザのライセンスがなくても、Salesforce のフルライセンスで入手できます。ただし、その他のアクション(作成、編集、削除、および公開)には、ナレッジユーザのライセンス、「記事の管理」権限、および記事タイプに対する記事アクションが必要です。



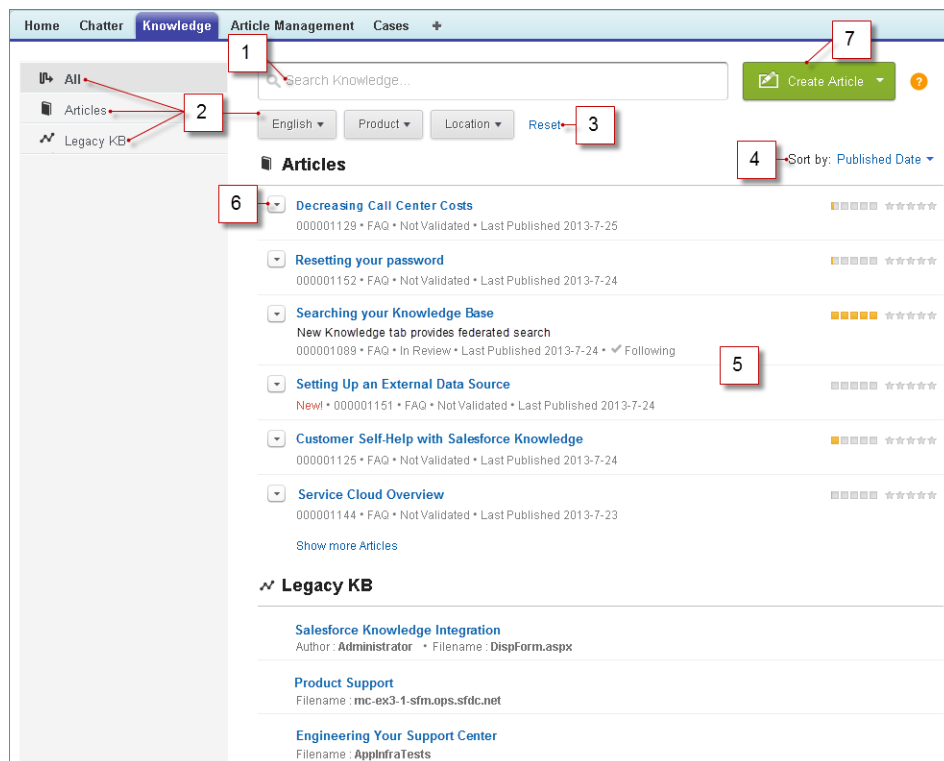
ヒント: 同じプロファイル、権限セット、またはロールでナレッジのアクセス権を持つユーザとナレッジのアクセス権を持たないユーザの両方を以前に管理していた場合、そのプロファイル、権限セット、またはロールを複製して、ナレッジ記事を表示しないようにするユーザの作成、参照、更新、削除の各アクセス権を削除してください。

ライセンス	参照アクセス権	作成、編集、削除、および公開アクセス権
サービスクラウド (Enterprise Edition および Unlimited Edition)	記事タイプに対する参照	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジユーザライセンス 記事の管理権限 記事タイプに対する記事アクション
サービスクラウド (Performance Edition)	記事タイプに対する参照	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> 記事の管理権限 記事タイプに対する記事アクション
セールスクラウド (Enterprise、Unlimited、および Performance Edition)	記事タイプに対する参照	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジユーザライセンス 記事の管理権限 記事タイプに対する記事アクション
ソーシャルイントラネット	記事タイプに対する参照	該当なし
コミュニティおよびポータル	記事タイプに対する参照	該当なし
Chatter Plus	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジユーザライセンス 記事タイプに対する参照 	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジユーザライセンス 記事の管理権限 記事タイプに対する記事アクション
Force.com	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジユーザライセンス 記事タイプに対する参照 	ユーザに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジユーザライセンス 記事の管理権限 記事タイプに対する記事アクション

統合検索のある Knowledge One

新しい[ナレッジ]タブにある Knowledge One を使用して、公開された記事とドラフト記事の両方に加え、Salesforce に接続したすべての外部データソースを検索できます。

Knowledge One によって、すべての Salesforce ナレッジ記事と、Microsoft® SharePoint® などのすべての外部データソースが表示されます。また、ケースフィードを使用する場合、[ナレッジ] タブのレイアウトは記事サイドバーに適用されます。Knowledge One は以前の [記事] タブと [記事の管理] タブの機能を対応付け、統合検索を使用してすべてのリソースを一度に検索するため、次を行うことができます。



1. すべての Salesforce ナレッジ記事 (ドラフトと公開済みの両方の記事) と、Microsoft® SharePoint® などのすべての外部データソースを検索します。
2. 検索条件を選択して、検索結果を絞り込みます。
 - ・ [すべて] を選択すると、組織でサポートされている内容に応じて、言語およびデータカテゴリで絞り込むことができます。
 - ・ [記事] または [私のドラフト] を選択すると、次を使用して絞り込むことができます。
 - ◇ 記事の状況: 公開、ドラフト、およびドラフト翻訳
 - ◇ 言語: 組織でサポートされている内容によって値は異なる
 - ◇ データカテゴリ: 組織で作成された内容によって値は異なる
 - ◇ 記事タイプ: 組織で作成された内容によって値は異なる
 - ◇ 検証状況: 条件なし (すべての記事)、未検証 (検証されていない記事)、検証済み (検証された記事)、およびレビュー中など、組織でサポートされている他のすべての値。


- ・ 外部ソースが選択されている場合、検索条件はなく、表示される一般記事情報は外部オブジェクトの検索レイアウトによって制御されます。

3. すべての検索条件をデフォルト設定に戻すには、[リセット] をクリックします。
4. 公開日、評価、参照回数が最多、およびタイトルによって記事を並べ替えます。
5. 記事または外部ソースタイトルをクリックして、情報を表示します。タイトルの下に、新しい記事を示す表示、記事番号、記事タイプ、検証状況、最終公開日、記事ビューの比較、および記事評価の比較などの一般的な記事情報が表示されます。
6. 権限に従って、記事ごとにドロップダウンを使用して、記事をフォローまたはフォロー解除、編集、公開、および削除します。
7. [記事を作成] ドロップダウンを使用して記事タイプを選択し、記事を作成します。


Knowledge One の有効化

Winter '14 以降で Salesforce ナレッジを初めて使用する組織の場合、Knowledge One はすでに有効になっています。以前から使用していた組織が Knowledge One に切り替えるには、[Knowledge One] 権限をプロファイルまたは権限セットに追加します。

[Knowledge One] 権限をプロファイルに追加する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[管理者設定] > [ユーザの管理] > [プロファイル] をクリックします。
2. Knowledge One 権限を追加するプロファイルをクリックします。
3.  [設定の検索...] ボックスに、「Knowledge」と入力します。
4. 推奨リストから [Knowledge One] を選択します。
5. [編集] をクリックします。
6. [ナレッジの管理] で、[Knowledge One] をオンにします。
7. [保存] をクリックします。

[Knowledge One] 権限を権限セットに追加する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[管理者設定] > [ユーザの管理] > [権限セット] をクリックします。
2. Knowledge One 権限を追加する権限セットをクリックします。
3.  [設定の検索...] ボックスに、「Knowledge」と入力します。
4. 推奨リストから [Knowledge One] を選択します。
5. [ナレッジの管理] で、[Knowledge One] の [有効化] チェックボックスをオンにします。
6. [保存] をクリックします。

ユーザが Knowledge One を使用できるようになったら、外部データソースを定義する必要があります。外部データソースは、検索結果と左側のパネルの両方で、記事の下に表示されます。








メモ: 外部データソースはベータ版で使用できます。salesforce.com サポートチケットをログに入れて、外部オブジェクトを有効にします。

記事タイプの追加カスタム項目

記事タイプに、さらに 9 個のカスタム項目を含めることができるようになりました。

新しい項目は、次のとおりです。

データ型	説明
記事の通貨	複数の通貨組織で、記事の通貨ISOコードを設定するための記事通貨項目の記事に使用できます。
通貨	<p>通貨の金額を入力できます。システムによって項目が自動的に通貨金額として書式化されます。この項目は、データをスプレッドシートアプリケーションにエクスポートする場合に便利です。</p> <p> メモ: Salesforce は、通貨項目に対して、近い方の偶数に丸めるタイプレールを使用します。たとえば、23.5 は 24 になり、22.5 は 22 に、-22.5 は -22 に、そして -23.5 は -24 になります。</p> <p>値の精度は、15 桁より後で失われます。</p>
メール	メールアドレスを入力できます。メールの形式が正しいかどうかを検証されます。最大 80 文字です。この項目が取引先責任者またはリードに指定されている場合、[メールを送信] をクリックするときにアドレスを選択できます。カスタムメールアドレスは一括メール送信に使用できません。
数式	<p>差し込み項目など他の項目や値に基づいて値を自動的に計算することができます。</p> <p> メモ: Salesforce は、数式項目内の数値に対して、切り上げタイプレールを使用します。たとえば、12.345 は 12.35 に、-12.345 は -12.35 になります。</p> <p>Database.com では、数式エディタに [構文を確認] ボタンがありません。構文の確認は、ユーザが数式を保存しようとするときに行われます。</p>
参照関係	<p>2つのレコード間の関係を作成し、互いを関連付けることができます。たとえば、商談とケースの間には参照関係があるため、特定のケースを商談に関連付けることができます。参照関係によって項目が作成されるため、ユーザは、ルックアップアイコンをクリックして、ポップアップウィンドウから別のレコードを選択できます。関連レコードから関連リストを表示して、そのレコードにリンクしているすべてのレコードを表示できます。ユーザ、標準オブジェクト、またはカスタムオブジェクトにリンクする参照関係を作成できます。削除済みのレコードを参照項目が参照している場合、デフォルトで Salesforce は参照項目の値をクリアします。または、レコードが参照関係にある場合は削除されないように選択することもできます。</p> <p>参照関係項目は、Personal Edition では使用できません。</p> <p>キャンペーンメンバーへの参照関係項目は使用できません。ただし、キャンペーンメンバーからその他のオブジェクトへの参照関係項目は使用できます。</p>
数値	<p>任意の数値を入力できます。この数値は実数として扱われるため、0 で始まる数値を入力しても、最初の 0 は削除されます。</p> <p> メモ: Salesforce では、数値項目に対して、切り上げタイプレールを使用します。たとえば、12.345 は 12.35 に、-12.345 は -12.34 になります。</p>

データ型	説明
	Salesforce では、数値項目設定で指定された小数点以下桁数ではなく、ユーザのロケールに従って、差し込み項目で参照される数値を丸めます。
パーセント	<p>「10」などのパーセント値を入力できます。数値には、パーセント記号が自動的に追加されます。</p> <p> メモ: 小数値が 15 より大きい場合に、その数値にパーセント記号を追加すると、ランタイムエラーが発生します。</p> <p>値の精度は、15 桁より後で失われます。</p>
電話	<p>任意の電話番号を入力できます。最大 40 文字です。</p> <p>Salesforce により、自動的に電話番号形式に変換されます。</p> <p>Salesforce CRM Call Center を使用している場合は、カスタム電話項目が  ボタンと一緒に表示され、クリック-to-ダイヤル機能を使用できるようになっています。salesforce.com は、カスタム電話項目を、Fax 番号として使用しないことをお勧めします。</p>
選択リスト (連動)	別の項目の値に従って、ユーザがリストから値を選択できるようにします。
URL	有効な Web サイトアドレスを 255 文字まで入力できます。ユーザが項目をクリックすると、URL が別のブラウザウィンドウで開きます。レコード詳細ページには、最初の 50 文字しか表示されません。

記事を検索してスマート記事リンクを作成する


記事の作成中に、既存の Salesforce ナレッジ記事をすばやく検索して、スマートリンクを追加できます。このリンクは、記事の名前または URL が変更されると自動的に調整されます。

必要なユーザ権限	
記事を作成する	「記事の管理」 および 記事タイプに対する「作成」および「参照」
ドラフト記事を編集する	「記事の管理」 および 記事タイプに対する「参照」および「編集」
公開記事またはアーカイブ済み記事を編集する	「記事の管理」 および 記事タイプに対する「作成」、「参照」、および「編集」

Winter '14 では、著者は記事を検索して別の記事を参照し、リッチテキストエディタ内でスマートリンクをすべて作成できます。記事の名前またはURLが変更されると、スマートリンクは自動的に調整されます。たとえば、記事の URL 名が変更されると、Salesforce ナレッジはチャンネルに基づいて記事の URL を自動的に更新し、公開知識ベースのサイトプレフィックスを追加して、コミュニティポータルコミュニティ名を追加します。

キーワード検索を使用して、リッチテキストエリア項目でスマートリンクを作成する手順は、次のとおりです。

1. リンクを配置する場所にカーソルを置きます。

2. リンクアイコン  をクリックします。

[記事のリンク] ダイアログが表示されます。

3. 必要に応じて、検索する言語を選択します。言語を選択しない場合、Salesforce ナレッジは、キーワード検索に関連する知識ベースのデフォルト言語でそれらの記事を返します。
4. 必要に応じて、検索する公開状況種別を選択します。
 - ・ オンライン (公開状況が選択されていない場合はデフォルト)
 - ・ ドラフト
 - ・ ドラフト翻訳 (知識ベースで複数の言語がサポートされている場合)

5. 検索バーに記事のキーワードを入力します。
6. 検索バーの端にある検索アイコンをクリックします。上位 20 件の関連する記事が表示されます。
7. 記事リストから、スマートリンクで参照する記事を選択します。



重要: スマートリンクは、それらが置かれているチャンネルに基づきます。このため、別のチャンネルにある記事にスマートリンクを追加することはできません。たとえば、公開知識ベースの記事は、内部チャンネルでのみ公開されている記事にはリンクできません。

8. 必要に応じて、[記事に移動] をクリックして別のウィンドウで記事を表示し、正しい参照内容であることを確認します。
9. 任意で、[対象] タブをクリックし、参照元の記事が表示される場所を選択します。
 - ・ 未設定: クリックしたフレームと同じフレームで、リンクされた記事が開きます。

- ・ フレーム: 指定されたフレームで、リンクされた記事が開きます。
- ・ 新規ウィンドウ (`_blank`): 新しいウィンドウまたはタブで、リンクされた記事が開きます。
- ・ 最上位ウィンドウ (`_top`): 全画面のウィンドウで、リンクされた記事が開きます。
- ・ 同じウィンドウ (`_self`): クリックしたフレームと同じフレームで、リンクされた記事が開きます。
- ・ 親ウィンドウ (`_parent`): 親フレームで、リンクされた記事が開きます。

10. [OK] をクリックします。

記事ツールバーで Chatter フィードが使用可能に

コメントを表示および投稿し、公開前に記事をフォローできます。

記事の詳細ページで、Chatter フィードを使用できるようになりました。ドラフト状況のまま記事をフォローし、Chatter 投稿を表示および追加できます。

記事の承認アクションに対するメタデータ API のサポート

リリース済み記事タイプで、メタデータ API を使用して記事のアクションとワークフロールールを設定できます。

Salesforce ナレッジの記事の承認時のアクションおよびワークフロールールが、リリース済みの記事タイプのメタデータ API でサポートされるようになりました。承認プロセスの記事バージョン (`_kav`) の場合、サポートされるアクションの種類は次のとおりです。

- ・ ナレッジアクション
- ・ メールアラート
- ・ 項目自動更新
- ・ アウトバウンドメッセージ

承認プロセスとワークフロールールを作成することによって、組織は知識ベースの管理に伴う多くの ToDo を自動化できます。承認プロセスは、公開された記事の承認を自動化します。承認プロセスを Salesforce ナレッジと共に実装した場合、記事のコンテンツとその承認に使用されるプロセスに追加のコントロールが得られます。たとえば、機密情報を含む記事を法務チームおよび管理チームが承認するプロセスを作成できます。ワークフロールールでは、記事が特定の条件に一致した場合にメールアラートの作成、項目の更新、またはアウトバウンド API メッセージの送信を行えます。たとえば、新しい記事がケースから作成されたときにメールアラートが記事タイプの所有者に送信されるワークフロールールを作成できます。



メモ: ToDo は、記事タイプのワークフローではサポートされません。

カスタム Visualforce ページを使用したプロバイダからのビデオ再生

カスタム Visualforce ページと HTML エディタを使用して、プロバイダから Salesforce ナレッジ記事にビデオを挿入できます。

たとえば、次のようにして Visualforce ページを作成します。

```
<apex:page showHeader="false" showChat="false" sidebar="false">
  <iframe width="560" height="315"
    src="http://myvideo.provider.com/embed/{!$CurrentPage.parameters.VideoID}"
    frameborder="0" allowfullscreen="true">
  </iframe>
</apex:page>
```

次に HTML エディタで、著者は次のコードを使用してビデオを参照できます。

```
<iframe frameborder="0" height="315"
  src="https://<salesforce_instance>/apex/Video?videoID=12345"
  width="560">
</iframe>
```

Live Agent

Live Agent により、サービス組織は、Web ベースのテキストのみの Live Chat を使用して顧客または Web サイトの訪問者とリアルタイムに接続できます。Winter '14 では、Live Agent のいくつかの機能が新規追加および改良されました。

Live Agent が使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日より後に作成された **Performance Edition** および **Developer Edition** の組織

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise Edition** および **Unlimited Edition**

自動チャット招待—正式リリース

自動チャット招待を作成およびカスタマイズして、エージェントとチャットするように訪問者を Web サイトに招きます。このリリースでは、Live Agent 自動チャット招待が正式リリースされました。

スーパーバイザ設定のカスタマイズ

エージェントを効率的に監視するために必要な権限をスーパーバイザに付与する、Live Agent のすべての設定に対するスーパーバイザの設定をカスタマイズします。

カスタムエージェント名および自動挨拶に使用できる差し込み項目

Live Agent のカスタムエージェント名および自動チャット挨拶に差し込み項目を組み込んで、エージェントと顧客のチャットのやりとりを親しみやすいものします。

エージェント名のカスタマイズ

チャットの操作を親しみやすいものにするために、顧客に表示されるエージェント名をカスタマイズします。

Live Agent セッションレコードの作成、削除、および編集

Live Agent セッションレコードを作成、削除、および編集して、組織のカスタマーサービス情報を常に最新状態にします。

未応答のチャットの待機時間経過アラート

エージェントの応答時間を有効利用するために、Salesforce コンソールで顧客とチャット時に、未応答のまま一定時間経過すると参加中のチャットに対応するよう促されます。

スーパーバイザパネルのボタンおよび状況に基づくエージェントの条件検索

エージェントの活動を細かく監視するために拡張された条件を使用して、スーパーバイザパネルの[エージェント状況] リストを条件検索します。

Live Agent コンポーネントのユーザインターフェースの改良

Salesforce コンソールの Live Agent アプリケーションのデザインが一部変更され、Live Agent が斬新で使いやすくなっています。

自動チャット招待 — 正式リリース

自動チャット招待を作成およびカスタマイズして、エージェントとチャットするように訪問者を Web サイトに招きます。このリリースでは、Live Agent 自動チャット招待が正式リリースされました。

自動チャット招待では、アニメーションを使用したポップアップが Web サイトに表示され、エージェントとのチャットに顧客を招待します。これらの招待には詳細なカスタマイズを行えるため、自社のニーズを正確に捉えて適応させることができます。招待に使用できるカスタムオプションの例をいくつか見てみましょう。

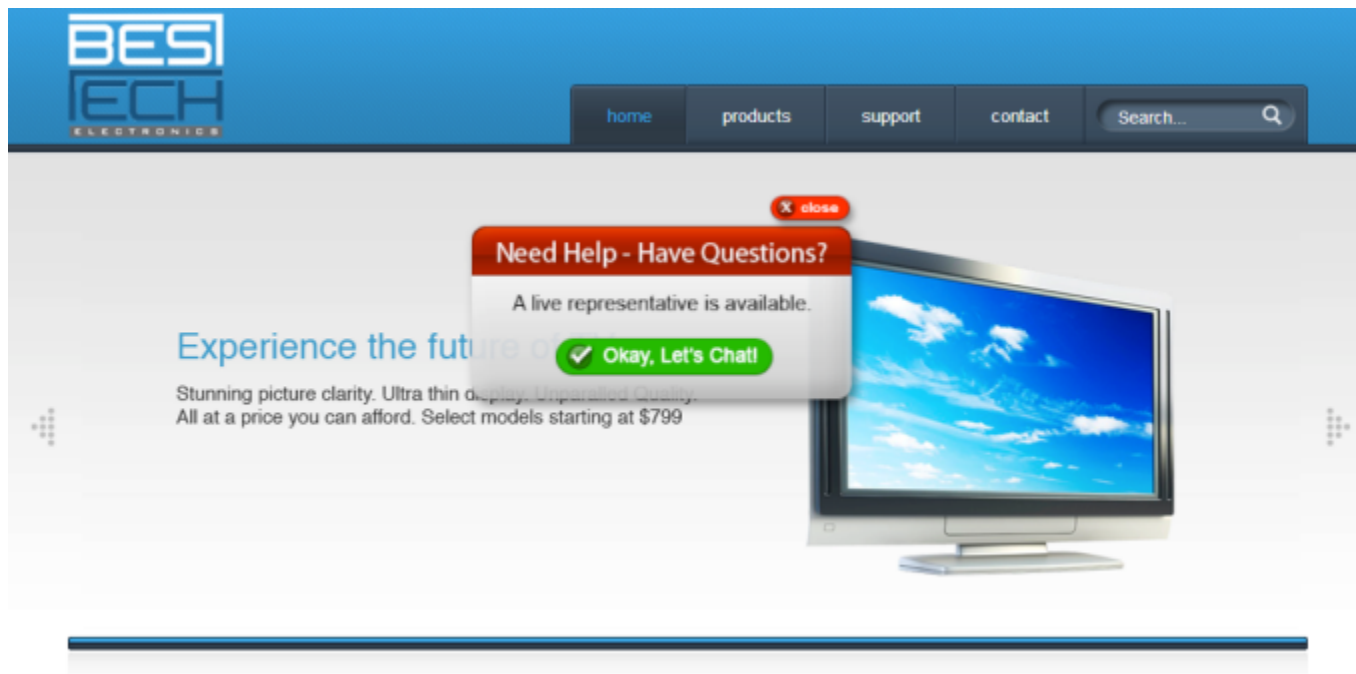
- エージェントのスキルに招待を関連付けます。招待を特定のスキルに関連付けることで、顧客がチャット招待を受け入れると、適切なエージェントにチャットが転送されます。たとえば、顧客のチェックアウトページに表示される招待を、販売スキルを持つエージェントに関連付けることができます。
- 特定のリリースに招待を関連付けます。さまざまな招待を異なる Live Agent リリースに関連付けることで、Web サイトの個々の領域に合わせてカスタマイズした招待を作成します。
- 招待にアニメーションを付けます。招待がどのように表示されるかをカスタマイズします。たとえば、画面に徐々に表示されたり、画面の特定の領域から別の領域にスライド表示されたりするようにします。意欲がある場合は、JavaScript を使用してカスタムアニメーションを作成します。



メモ: Chrome、Firefox、Safari、および Internet Explorer Web ブラウザの最新バージョンで、デフォルトのアニメーションオプションを使用できます。以前のバージョンの Internet Explorer では使用できません。

- 画像を使用して招待をカスタマイズします。Force.com サイトを使用して画像をアップロードし、招待をカスタマイズします。
- 論理演算子を使用して、送信ルールを作成します。送信ルールの基準をカスタマイズして、自動招待が顧客に送信される方法とタイミングを定義します。送信ルールを使用して、顧客がショッピングカートに特定の商品を入れているかどうかなど、特定の条件に基づいて招待がトリガされるように設定できます。

これは、自動招待が顧客に表示されるときに、どのように見えるかを示した例です。



自動チャット招待を開始するには、[設定] から [カスタマイズ] > [Live Agent] > [[チャット] ボタンと招待] をクリックします。

自動チャット招待の設定およびカスタマイズについての詳細は、Salesforce ヘルプのSalesforce ヘルプの「Live Agent 自動チャット招待の概要」を参照してください。

スーパーバイザ設定のカスタマイズ

エージェントを効率的に監視するために必要な権限をスーパーバイザに付与する、Live Agent のすべての設定に対するスーパーバイザの設定をカスタマイズします。

[Live Agent 設定] ページで、管理者がスーパーバイザの設定をカスタマイズできるようになり、スーパーバイザがエージェントの活動を監視しやすくなりました。たとえば、スーパーバイザがエージェントの進行中のチャットを監視するかどうか、顧客とチャット中のエージェントに示唆メッセージを送信するかどうかを選択することや、スーパーバイザパネルの[エージェント状況] リストのエージェントを並び替えるデフォルトの条件を定義することができます。

スーパーバイザ設定の使用を開始するには、[設定] で [カスタマイズ] > [Live Agent] > [Live Agent の設定] をクリックします。

カスタムエージェント名および自動挨拶に使用できる差し込み項目

Live Agent のカスタムエージェント名および自動チャット挨拶に差し込み項目を組み込んで、エージェントと顧客のチャットのやりとりを親しみやすいものします。

これらの差し込み項目により、エージェントとのチャットの開始時に顧客に表示されるエージェント名や挨拶をカスタマイズできます。たとえば、[名] 差し込み項目を使用してカスタムエージェント名にエージェントの名

(ファーストネーム)を表示することや、メッセージに「訪問者名」差し込み項目を組み込んで挨拶に顧客の名前を入れることができます。Live Agent 設定、チャットボタン、自動化された招待などに関連付けられた「カスタムエージェント名」項目および「自動挨拶」項目で差し込み項目を使用できます。

Live Agent 設定で使用する差し込み項目の一覧を参照するには、[設定] で [カスタマイズ] > [Live Agent] > [Live Agent の設定] > [差し込み項目ルックアップ] をクリックします。

チャットボタンまたは招待で利用可能な差し込み項目の一覧を参照するには、[設定] で [カスタマイズ] > [Live Agent] > [[チャット] ボタンと招待] > [差し込み項目ルックアップ] をクリックします。

エージェント名のカスタマイズについての詳細は、「[エージェント名のカスタマイズ](#)」を参照してください。

エージェント名のカスタマイズ

チャットの操作を親しみやすいものにするために、顧客に表示されるエージェント名をカスタマイズします。

[Live Agent 設定] ページで、「カスタムエージェント名」項目の差し込み項目を使用して、その設定に関連付けられているエージェントの名前をカスタマイズできるようになりました。

Live Agent 設定に関連付けられているエージェント名をカスタマイズするには、[設定] で [カスタマイズ] > [Live Agent] > [Live Agent の設定] をクリックします。

[チャットボタンおよび招待] ページで、特定のボタンやチャット招待に関連付けられているエージェント名をカスタマイズできます。



メモ: チャットボタンまたは招待に関連付けられているカスタムエージェント名は、Live Agent 設定に関連付けられているカスタムエージェント名を上書きします。

チャットボタンまたは招待に関連付けられているエージェント名をカスタマイズするには、[設定] で [カスタマイズ] > [Live Agent] > [[チャット] ボタンと招待] をクリックします。

差し込み項目では、顧客および関連するチャットトランスクリプトに表示されるエージェントの名前をカスタマイズできます。たとえば、カスタムエージェント名の「名」差し込み項目を使用して、顧客とのチャットではエージェントの名 (ファーストネーム) が表示されるようにします。

差し込み項目についての詳細は、「[カスタムエージェント名および自動挨拶に使用できる差し込み項目](#)」を参照してください。

Live Agent セッションレコードの作成、削除、および編集

Live Agent セッションレコードを作成、削除、および編集して、組織のカスタマーサービス情報を常に最新状態にします。

これまで、エージェントが Live Agent にログインするたびにセッションレコードが自動的に作成されていました。他方、新しいレコードを一から作成することや、古いレコードを削除すること、既存のレコードの標準項目を編集することはできませんでした。

こうした変更により、セッションレコードやその内容に対するエージェントおよびスーパーバイザの管理が強まるため、セッションレコードが適切かつ最新な状態で維持されます。

Live Agent セッションレコードの作業を開始するには、[Live Agent セッション] タブをクリックします。

未応答のチャットの待機時間経過アラート

エージェントの応答時間を有効利用するために、Salesforce コンソールで顧客とチャット時に、未応答のまま一定時間経過すると参加中のチャットに対応するよう促されます。

[設定] の [エージェント設定] ページに、[重要なアラート待機時間] 項目が追加されました。この項目では、顧客のチャットに回答するようエージェントを促すアラートがチャットタブに表示されるまでの秒数を選択できます。エージェントがチャットの応答期限まであとどのくらいあるか推測する必要がなくなるため、時間を有効利用して顧客が問題を迅速に解決できるよう援助できます。

これらのアラートの使用を開始するには、[設定] で [カスタマイズ] > [Live Agent] > [エージェント設定] をクリックします。

スーパーバイザパネルのボタンおよび状況に基づくエージェントの条件検索

エージェントの活動を細かく監視するために拡張された条件を使用して、スーパーバイザパネルの [エージェント状況] リストを条件検索します。

これまで、スーパーバイザは、エージェントに関連付けられたスキルでしか [エージェント状況] リストを条件検索できませんでした。今後は、スーパーバイザが、エージェントのスキルと次の新しい条件に基づいて [エージェント状況] リストを検索できます。

- ボタン — 特定のボタンに関連付けられているエージェントのリストを参照できます。
- 状況 — オンライン、退席中、オフラインなど、特定の状況のエージェントのリストを参照できます。

これらの拡張された条件検索オプションにより、スーパーバイザは自ら関心のある内容に関連するエージェントのリストのみを参照するよう選択して、エージェントの活動をより細かく監視できます。新しい条件は、[エージェント状況] リストの上部に表示されます。

Agent Name	Status	Action	No. Chats in Progress	No. Requests Assigned	Time Elapsed Since Login	Time Elapsed Since Last Accept
Jon A	Available	Offline Away	0	0	00:32	N/A

Live Agent コンポーネントのユーザインターフェースの改良

Salesforce コンソールの Live Agent アプリケーションのデザインが一部変更され、Live Agent が斬新で使いやすくなっています。

待機中のチャットや終了したチャットのチャットタブアラート

Salesforce コンソールの Live Agent にあるチャットタブの通知は、顧客のチャットに一定期間応答していない場合や、顧客がチャットを終了した場合にエージェントに注意を促します。

チャット要求およびチャット転送のプレビュー

新規のチャット要求やチャット転送に関する顧客情報をプレビューして、Salesforce コンソールで要求を受け入れる前に顧客の問題を把握します。

チャット転送メニューでエージェントの可能チャット数を参照

他のエージェントに新規チャットを引き受ける余裕があることを確認するために、チャットを転送する前に、Salesforce コンソールの Live Agent でそのエージェントが参加可能なチャット数を参照します。

チャット要求リストのデザインの更新

Salesforce コンソールの Live Agent チャット要求リストが刷新され、使いやすくなりました。

エージェントチャットウィンドウのデザインの更新

Salesforce コンソールの Live Agent を使用するエージェント用のチャットウィンドウのデザインが刷新され、エージェントのチャットの操作性が向上しました。

[エージェント設定] から [Live Agent 設定] への設定表示ラベルの変更

Live Agent の設定メニューで、以前の [エージェント設定] ラベルが [Live Agent 設定] に変更され、ページの機能がわかりやすくなりました。

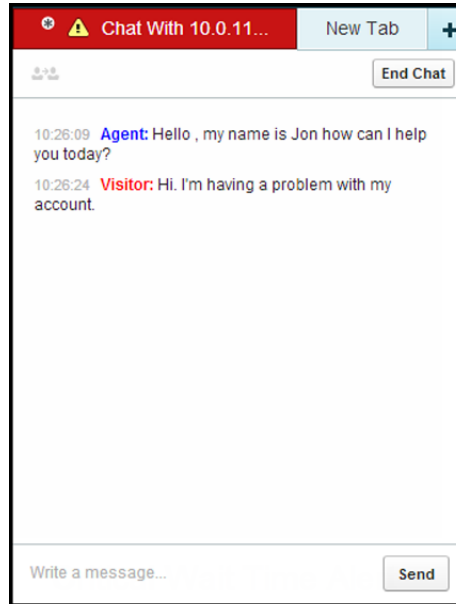
待機中のチャットや終了したチャットのチャットタブアラート

Salesforce コンソールの Live Agent にあるチャットタブの通知は、顧客のチャットに一定期間応答していない場合や、顧客がチャットを終了した場合にエージェントに注意を促します。

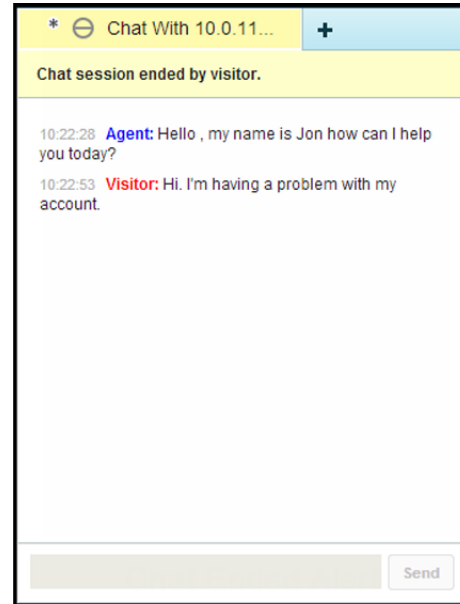
エージェントが顧客のチャットに一定期間応答せずにいると、そのチャットに関連付けられているタブに感嘆符が表示されて赤く点滅し、エージェントにその顧客に対応するよう促します。チャットへの応答を保留にしておいてこのアラートを受信するまでの時間をカスタマイズする場合は、[設定] の [エージェント設定] ページにある「重要なアラート待機時間」を編集します。この新設定についての詳細は、「[未応答のチャットの待機時間経過アラート](#)」を参照してください。

顧客がエージェントとのチャットを終了すると、そのチャットに関連付けられたタブに、顧客がチャットを離れたことを示すアイコンが表示されます。

これらのタブアラートにより、エージェントが複数の顧客とチャットするときにタブをいちいち切り替える必要がなく、時間を有効利用できます。次に、新しいタブアラートがエージェントにどのように表示されるかを示します。



Critical Wait Time Alert



Chat Ended Alert

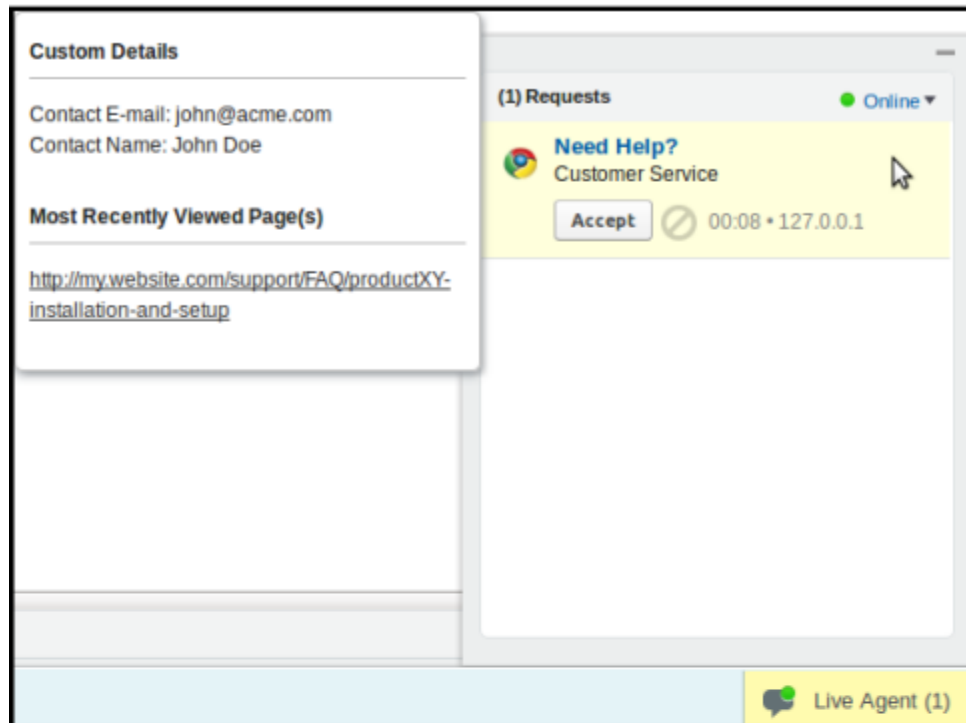
チャット要求およびチャット転送のプレビュー

新規のチャット要求やチャット転送に関する顧客情報をプレビューして、Salesforce コンソールで要求を受け入れる前に顧客の問題を把握します。

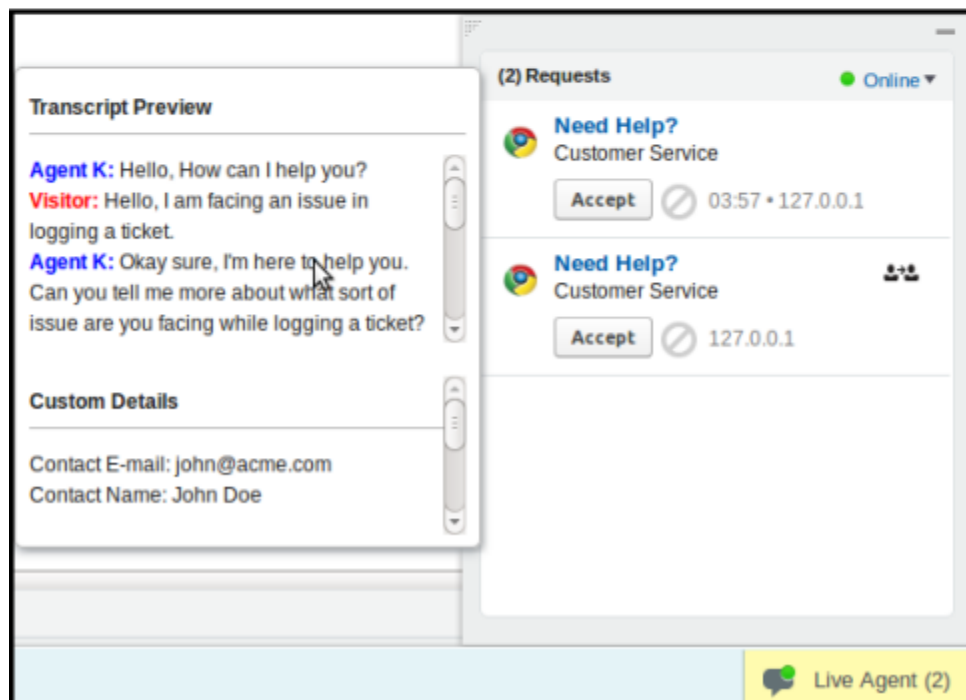
エージェントが、顧客のチャットを受け入れる前に、顧客の問題や懸念を把握できます。エージェントが新規チャット要求を受信したときに、チャット要求ウィンドウの要求の上にマウスを置くと、顧客の名前、メールアドレス、顧客が最後に参照していたWebサイトのページなど、顧客に関する詳細が表示されます。エージェントがチャット転送要求を受信したときに、その要求の上にマウスを置くと、顧客の詳細と、該当する場合は顧客の前回のチャットのトランスクリプトを参照できます。エージェントはこうした情報から、顧客の質問に速やかに回答できるようになります。

次に、Salesforce コンソールのチャット要求または転送要求の上にマウスを置いたときに、エージェントに表示される内容の例を示します。

New Requests



Transfer Requests



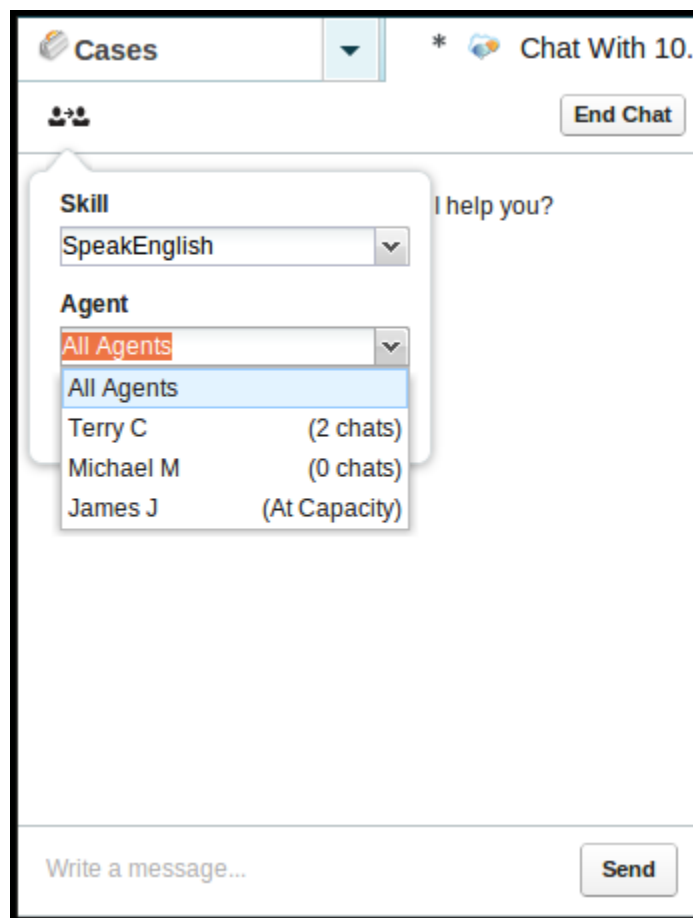
チャット転送メニューでエージェントの可能チャット数を参照

他のエージェントに新規チャットを引き受ける余裕があることを確認するために、チャットを転送する前に、Salesforce コンソールの Live Agent でそのエージェントが参加可能なチャット数を参照します。

これまで、エージェントがチャットを転送する前に、他のエージェントが参加しているチャット数を知ることはできませんでした。今後は、チャットする顧客数を増やす余裕のある同僚にチャットを転送するように、エージェントがこの情報に基づいて判断できます。

エージェントが他の顧客とチャット中のときは、転送メニューのエージェント名の横にある括弧内にチャット数が示されます。エージェントのチャットが最大数に達しているときは、この表示ラベルが「フル」になります。

次に、エージェントに表示される新規転送メニューの例を示します。



チャット要求リストのデザインの更新

Salesforce コンソールの Live Agent チャット要求リストが刷新され、使いやすくなりました。

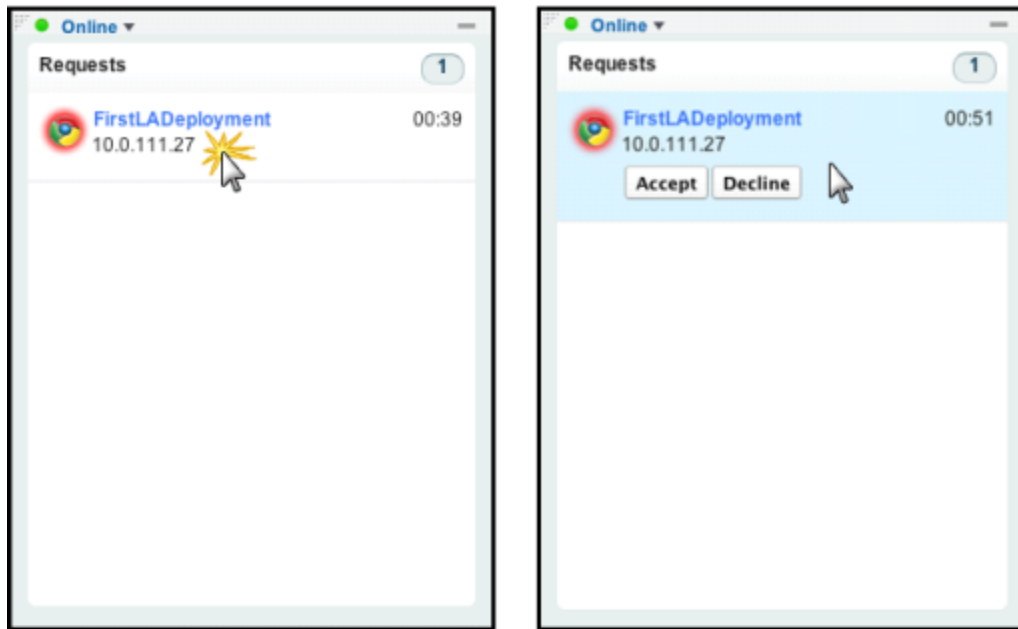
エージェントのチャットの操作性を向上させるために、チャット要求リストの次の点が更新されました。

- チャットを開始するチャットボタンの名前が、各要求に表示されるようになりました。これまで、リリースの名前のみがエージェントに表示され、そこからチャットを開始していました。

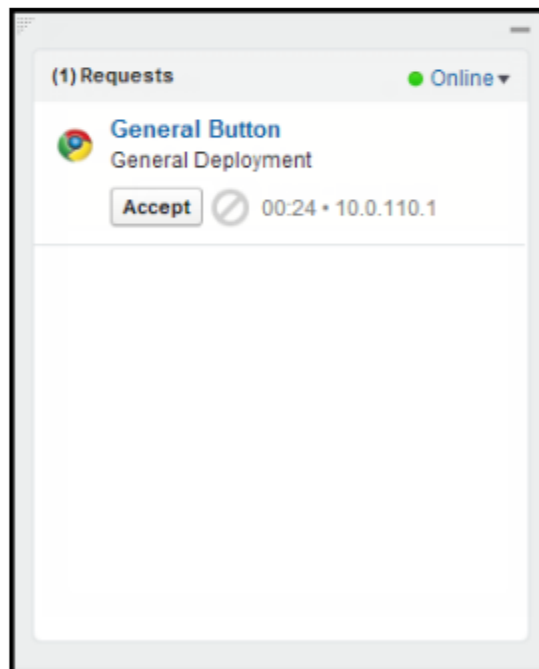
- アクション項目が各要求に直接表示されます。これまでは、エージェントがチャットを受け入れる、または拒否するために要求をクリックする必要がありました。
- リスト内の要素が改善されました。たとえば、右側に [状況] ドロップダウンリストが設けられ、[要求] ラベルの左側に待機中のチャット要求数が表示されるようになりました。
- 未応答のチャット要求は黄色で強調表示されます。これまでは、エージェントが要求をクリックすると青色で強調表示されていました。

次に、新旧のチャット要求リストを示します。

Before:



After:



エージェントチャットウィンドウのデザインの更新

Salesforce コンソールの Live Agent を使用するエージェント用のチャットウィンドウのデザインが刷新され、エージェントのチャットの操作性が向上しました。

エージェントチャットウィンドウの一部が若干変更され、デザインが洗練されて使いやすくなりました。

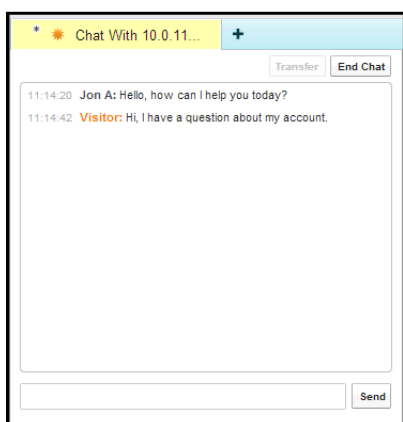
- 顧客名は赤色、訪問者名は青色で表示されるようになりました。
- チャットウィンドウの右上にある[転送]ボタンが、ウィンドウの左上の転送アイコンに変更されました。エージェントにチャットを転送する権限がない場合は、この新しいアイコンがグレー表示されます。
- ウィンドウ内のチャットを囲むグレーの境界線が削除されました。
- エージェントの入力領域に「メッセージを入力してください...」と表示されるようになりました。



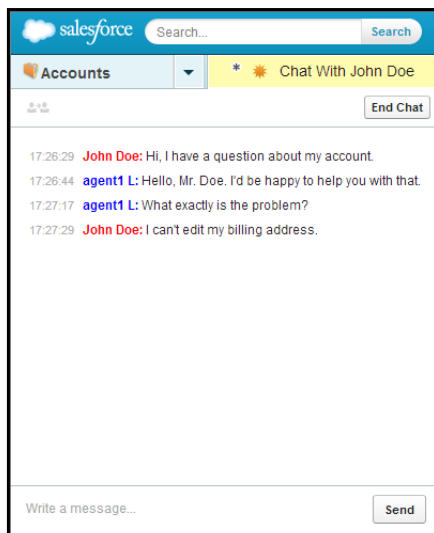
メモ: Internet Explorer バージョン 8 または 9 を使用している場合は、チャットログにこの文字が表示されません。

次に、前回のリリース以降エージェントチャットログがどのように変わったかを示します。

Before:



After:



[エージェント設定] から [Live Agent 設定] への設定表示ラベルの変更

Live Agent の設定メニューで、以前の [エージェント設定] ラベルが [Live Agent 設定] に変更され、ページの機能がわかりやすくなりました。

[Live Agent 設定] ページにアクセスするには、[設定] から [カスタマイズ] > [Live Agent] > [Live Agent の設定] をクリックします。

Open CTI

Open CTI により、パートナーが、コールセンターユーザのマシンにアダプタプログラムをインストールしなくても、Salesforce をコンピュータテレフォニーインテグレーションシステムに統合できます。Winter '14 では、Open CTI のいくつかの機能が新規追加および改良されました。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

Open CTI 用の Force.com Canvas

Force.com Canvas アプリケーションを Open CTI に追加できるようになりました。

新しい Open CTI メソッド: `notifyInitializationComplete()`

上級システム管理者または開発者が、ソフトフォンのスタンバイ URL を指定できるようになりました。

Open CTI 用の Force.com Canvas

Force.com Canvas アプリケーションを Open CTI に追加できるようになりました。

これにより、ユーザは新規または既存のアプリケーションを Salesforce の通話制御ツールの一部として使用できます。

Open CTI と Force.com Canvas は似ています。これらはツールと JavaScript API のセットで、開発者がサードパーティシステムを Salesforce に追加するために使用できます。これらを併用することで、開発者は Salesforce に完全に統合されたパーツであるアプリケーションをコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムに追加できます。キャンバスアプリケーションを Open CTI に追加した後、キャンバスアプリケーションを表示するには、コールセンターの定義ファイルに追加する必要があります。

詳細 (英語のみ) は、[『Force.com Canvas 開発者ガイド』](#) および [『Open CTI Developer's Guide』](#) を参照してください。

新しい Open CTI メソッド: `notifyInitializationComplete()`

上級システム管理者または開発者が、ソフトフォンのスタンバイ URL を指定できるようになりました。

Open CTI は、コンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムを対象とした、Salesforce にプログラムでアクセスできるようにする API です。Open CTI では、開発者は次のことを実行できます。

- CTI アダプタを使用せずに Salesforce と統合する CTI システムを構築する。
- Salesforce および Salesforce コンソールと完全に統合されたパーツとして機能するカスタマイズ可能なソフトフォン (通話管理ツール) を作成する。
- Mac、Linux、または Windows マシン上の Microsoft® Internet Explorer®、Mozilla® Firefox®、Apple® Safari®、または Google Chrome™ 向けの CTI などブラウザおよびプラットフォームにとらわれない CTI システムを提供する。

Winter '14 では、次の新しいメソッドを使用できるようになりました。

メソッド	説明
<code>notifyInitializationComplete()</code>	<p>Salesforce に、ソフトフォンの初期化が完了したことで、Salesforce がスタンバイ URL に切り替えないようにすることを通知します。ソフトフォンの初期化中は、[ソフトフォン] 領域に読み込み中アイコンが表示されます。</p> <p>スタンバイ URL を使用するには、コールセンターの定義ファイルに指定する必要があります。</p>

Open CTI を使った CTI システムのカスタマイズと構築についての詳細は、『[Open CTI Developer's Guide](#)』（英語のみ）を参照してください。

Salesforce Console for Service

Salesforce Console for Service は、顧客をサポートするためにレコードの検索、更新、作成をすばやく行う必要のある、変化の速い環境にあるユーザ向けに設計されているアプリケーションです。Salesforce Console for Service には、Winter '14 で追加されたいくつかの新機能と改善された機能があります。

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション: **Performance** Edition および **Developer** Edition (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition (Sales Cloud の有料オプション)

Service Cloud コンソール名の変更

コンソールアプリケーションは、Service Cloud と Sales Cloud の両方で使用できます。サポートとドキュメントを簡略化するため、Service Cloud コンソールは **Salesforce Console for Service** という名前に変更されました。

Salesforce コンソールの Microsoft® Internet Explorer 10® のサポート

Salesforce コンソールは、Microsoft の Internet Explorer® 10 ブラウザで使用できます。

Salesforce コンソールのルックアップコンポーネント

ポイント & クリックを使用して参照項目をカスタムコンソールコンポーネントとして追加できます。

Salesforce コンソールの [ホーム] タブ

システム管理者は、[ホーム] タブを Salesforce コンソールに追加できます。

最近使用した項目

Salesforce を検索せずに、Salesforce コンソールで最近表示または編集したタブ 10 個にすばやくアクセスできます。

[キーボードショートカット] パネル

Salesforce コンソールでパネルを開いて、キーボードショートカットの一覧を参照できるようになりました。

Salesforce コンソール用の Force.com Canvas

Salesforce コンソールに外部アプリケーションを追加するための新しいオプションを使用できるようになりました。

Salesforce コンソールインテグレーションツールキット: 新しいメソッド

Salesforce コンソールインテグレーションツールキットは、上級システム管理者や開発者がコンソールにプログラムを使用してアクセスし、ビジネスニーズに応じてコンソールを拡張できるようにする API です。

Service Cloud コンソール名の変更

コンソールアプリケーションは、Service Cloud と Sales Cloud の両方で使用できます。サポートとドキュメントを簡略化するため、Service Cloud コンソールは **Salesforce Console for Service** という名前に変更されました。

[設定] 領域のメニュー名は、コンソールアプリケーションの名前の変更を反映して変更されています。[設定] から、管理者が管理コンソールアプリケーションにアクセスするには、[カスタマイズ] > [コンソール] をクリックします。

Salesforce コンソールの Microsoft® Internet Explorer 10® のサポート

Salesforce コンソールは、Microsoft の Internet Explorer® 10 ブラウザで使用できます。

Salesforce コンソールのルックアップコンポーネント

ポイント & クリックを使用して参照項目をカスタムコンソールコンポーネントとして追加できます。

カスタムコンソールコンポーネントを使用すると、Salesforce コンソールのフッター、サイドバー、強調表示パネル、および相互関係ログをカスタマイズ、拡張、または統合することができます。これまで、主タブまたはサブタブのレコードに関連するコンポーネントとして参照項目を表示するには、Visualforce ページを作成する必要がありました。同じ機能を、数回ボタンをクリックすれば追加できるようになりました。

ルックアップコンポーネントの追加

ルックアップコンポーネントの追加

必要なユーザ権限	
カスタムコンソールコンポーネントを追加する	「アプリケーションのカスタマイズ」
Visualforce ページを作成する	「アプリケーションのカスタマイズ」
キャンバスアプリケーションを管理する	「アプリケーションのカスタマイズ」

参照項目をカスタムコンソールコンポーネントとして追加する手順は、次のとおりです。

1. 標準オブジェクトの場合、[設定] から [カスタマイズ] > オブジェクト > [ページレイアウト] をクリックします。

カスタムオブジェクトの場合、[設定] から [作成] > [オブジェクト] をクリックして、オブジェクトを選択します。

2. ページレイアウトの横にある [編集] をクリックします。
3. [カスタムコンソールコンポーネント] をクリックします。
4. 参照項目コンポーネントの追加先のサイドバーの横で、[種類] から [ルックアップ] を選択します。
5. 参照項目の名前を選択します。
6. コンソールに表示するときのコンポーネントの高さまたは幅を入力します。
7. [保存] をクリックします。

必要に応じて、オブジェクトのミニページレイアウトを定義することで、さらに項目をルックアップコンポーネントに追加できます。詳細は、Salesforce ヘルプの「エージェントコンソールのミニページレイアウトの定義」を参照してください。



メモ: AppExchange のパッケージにルックアップコンポーネントを追加することはできません。

Salesforce コンソールの [ホーム] タブ

システム管理者は、[ホーム] タブを Salesforce コンソールに追加できます。

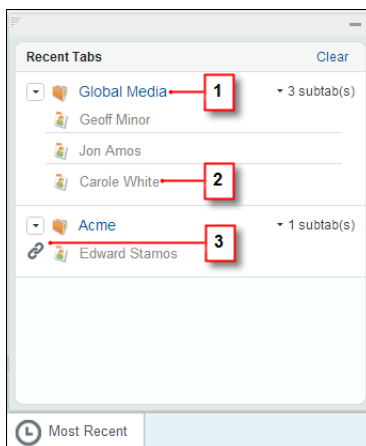
[ホーム] タブを使用して、ユーザは Chatter 投稿の作成、ダッシュボードスナップショットの表示、カレンダーでのToDoの参照ができます。[ホーム] タブをコンソールに含めるには、システム管理者が[ホーム] タブをコンソールの移動タブに追加する必要があります。詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce コンソールアプリケーションの作成」を参照してください。

最近使用した項目

Salesforce を検索せずに、Salesforce コンソールで最近表示または編集したタブ 10 個にすばやくアクセスできます。

最近使用した項目には、コンソールのフッターから [最新] を 1 回クリックするだけで移動できます。

[最新のタブ] は次のように表示されます。



1. 主タブ

2. サブタブ
3. 共有するリンク

最近使用したタブの表示

[最新のタブ] コンポーネントの有効化




最近使用したタブの表示

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition** (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション: **Performance Edition** および **Developer Edition** (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise Edition** および **Unlimited Edition** (Sales Cloud の有料オプション)

システム管理者が設定した場合、Salesforce コンソールで最近使用した 10 個の主タブにすばやくアクセスできます。これにより、表示または編集したばかりのタブを検索する時間を節約できます。また、各主タブの 10 個のサブタブにもアクセスできます。最近使用したタブにアクセスするには、コンソールのフッターで [最新] をクリックします。

- ・ サブタブのある最近使用したタブを表示するには、タブの名前をクリックします。
- ・ サブタブのない主タブとして最近使用したタブを表示するには、 および [主タブで開く] をクリックします。
- ・ 最近使用したタブの URL をコピーして別のユーザに送信するには、 および [共有するリンクを取得] をクリックします。
- ・ 最近使用したタブのサブタブのリストを表示するには、[サブタブ] をクリックします。リストが表示されたら、サブタブをクリックして表示するか、 をクリックしてサブタブの URL をコピーし、別のユーザに送信できます。
- ・ 最近使用したタブのリストをクリアして最初から開始するには、[クリア] をクリックします。

ミーティング要請フロート表示など、タブとして表示されない項目は、[最新] フッターに表示されません。

[最新のタブ] コンポーネントの有効化

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition** (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション: **Performance Edition** および **Developer Edition** (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise Edition** および **Unlimited Edition** (Sales Cloud の有料オプション)

必要なユーザ権限

[最新のタブ] を有効化する

「アプリケーションのカスタマイズ」


Salesforce コンソールが設定されている場合、[最新のタブ] コンポーネントをフッターに追加できます。このコンポーネントにより、Salesforce を検索しなくても、最近表示または編集した 10 個の主タブにすばやくアクセスできるため、時間を節約できます。

1. [設定] で、[作成] > [アプリケーション] をクリックします。
2. Salesforce コンソールアプリケーションを選択します。
3. [編集] をクリックします。
4. [コンソールコンポーネントを選択] で、[最新のタブ] を [選択済みの項目] に追加します。
5. [カスタムコンソールコンポーネントを揃える] で、コンポーネントをフッターの右または左のどちらに表示するかを選択します。
6. [保存] をクリックします。

[キーボードショートカット] パネル

Salesforce コンソールでパネルを開いて、キーボードショートカットの一覧を参照できるようになりました。

ショートカットを使用すると、マウスなしでアクションを実行できるため、コンソールでより効率よく操作でき

ます。コンソールで  をクリックして、[キーボードショートカットを表示] を選択すると、キーの組み合わせとそのアクションを表示できるようになりました。または、システム管理者がオンにしている場合は、Shift キーを押しながら K キーを押してパネルを開くことができます。ショートカットが淡色表示されている場合、有効化されていないか、カスタマイズされています。

詳細は、「Salesforce コンソールのデフォルトのキーボードショートカット」および Salesforce ヘルプの「Salesforce コンソールのキーボードショートカットのカスタマイズ」を参照してください。

Salesforce コンソール用の Force.com Canvas

Salesforce コンソールに外部アプリケーションを追加するための新しいオプションを使用できるようになりました。

これまで、Visualforce または Salesforce コンソールインテグレーションツールキットを使用してコンソールの機能を統合し、拡張するオプションがありました。このたび、Force.com Canvas を使用してコンソールを拡張または統合するオプションが追加されました。

Force.com Canvas と Salesforce コンソールインテグレーションツールキットは似ています。これらはツールと JavaScript API のセットで、開発者がサードパーティシステムを Salesforce に追加するために使用できます。これらを併用することで、開発者は Salesforce に完全に統合されたパーツであるアプリケーションをコンソールに追加できます。ただし、Force.com Canvas の利点の 1 つは、署名付き要求や OAuth 2.0 プロトコルなど、認証方式を選択できることです。キャンバスアプリケーションをコンソールに表示するには、コンソールにカスタムコンソールコンポーネントとして追加する必要があります。

詳細 (英語のみ) は、『[Force.com Canvas 開発者ガイド](#)』および『[Salesforce コンソールインテグレーションツールキット開発者ガイド](#)』を参照してください。

Salesforce コンソールインテグレーションツールキット:新しいメソッド

Salesforce コンソールインテグレーションツールキットは、上級システム管理者や開発者がコンソールにプログラムを使用してアクセスし、ビジネスニーズに応じてコンソールを拡張できるようにする API です。

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション: **Performance** Edition および **Developer** Edition (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition (Sales Cloud の有料オプション)

たとえば、開発者はこのツールキットを使用してコンソールのタブを開いたり閉じたりすることにより、ビジネスプロセスを合理化できます。

Winter '14 では、次の新しいメソッドを使用できるようになりました。

Live Agent メソッド	説明
<code>acceptChat()</code>	チャット要求を受け入れます。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>declineChat()</code>	チャット要求を却下します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>endChat()</code>	エージェントが現在参加しているチャットを終了します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getAgentInput()</code>	特定のチャットキーを持つチャットのチャットログにある、エージェントのテキスト入力領域に現在あるテキストの文字列を返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getAgentState()</code>	オンライン、退席中、またはオフラインなど、エージェントの現在の Live Agent 状況を返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getChatLog()</code>	特定のチャットキーに関連付けられたチャットのチャットログを返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getChatRequests()</code>	エージェントに割り当てられたチャット要求のチャットキーを返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getDetailsByChatKey()</code>	特定のチャットキーに関連付けられたチャットの詳細を返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。

Live Agent メソッド	説明
<code>getDetailsByPrimaryTabId()</code>	特定の主タブ ID に関連付けられたチャットの詳細を返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getEngagedChats()</code>	エージェントが現在参加しているチャットのチャットキーを返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>getMaxCapacity()</code>	エージェントの割り当て済みエージェント設定に指定されているとおりに、現在のエージェントの最大チャット可能数を返します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onAgentSend()</code>	エージェントが Salesforce コンソールでチャットメッセージを送信するとコールされる関数を登録します。このメソッドにより、メッセージが受信されます。また、このメソッドはメッセージがチャット訪問者に送信される前に発生します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onAgentStateChanged()</code>	オンラインから退席中への変更など、エージェントが Live Agent 状況を変更するとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatCanceled()</code>	チャット訪問者がチャット要求をキャンセルするとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatCriticalWaitState()</code>	チャットへの応答が不可欠になるか、待機中のチャットが応答されるとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatDeclined()</code>	エージェントがチャット要求を却下するとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatEnded()</code>	参加していたチャットが終了するとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatRequested()</code>	エージェントがチャット要求を受け取るとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatStarted()</code>	エージェントが顧客と新しいチャットを開始するとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onChatTransferredOut()</code>	参加していたチャットが別のエージェントに転送されるとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。

Live Agent メソッド	説明
<code>onCurrentCapacityChanged()</code>	エージェントが受け入れ可能なチャット数が変わるとコールされる関数を登録します。たとえば、エージェントが新しいチャットを受け入れたり、現在参加しているチャットを終了したり、割り当てられているチャットの数が変わったり、チャット要求がチャットキューに入れられたりする場合があります。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onCustomEvent()</code>	チャット中にカスタムイベントが実行されるとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onNewMessage()</code>	顧客、エージェント、またはスーパーバイザから新しいメッセージが送信されるとコールされる関数を登録します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>onTypingUpdate()</code>	チャットウィンドウの顧客のテキストが変更されるとコールされる関数を登録します。プレビューが有効になっている場合、この関数は、顧客がチャットウィンドウのテキストを編集するたびにコールされます。プレビューが有効になっていない場合、この関数は、顧客がチャットウィンドウで入力を開始または停止するたびにコールされます。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>sendCustomEvent()</code>	特定のチャットキーを持つチャットのクライアント側のチャットウィンドウにカスタムイベントを送信します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>sendMessage()</code>	特定のチャットキーを持つチャットに、エージェントから新しいチャットメッセージを送信します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。
<code>setAgentState()</code>	オンライン、退席中、またはオフラインなど、エージェントの Live Agent 状況を設定します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。

ツールキットについての詳細は、[『Salesforce コンソールインテグレーションツールキット開発者ガイド』](#) (英語版のみ) を参照してください。

[コンソール] タブ

[コンソール] タブのエージェントコンソールには、サービスエージェントの作業に役立つ情報が統合されています。

[\[設定\] の \[エージェントコンソール\] の新しい場所](#)

[エージェントコンソール] にアクセスするには、[設定] から [カスタマイズ] > [エージェントコンソール] をクリックします。

[設定] の [エージェントコンソール] の新しい場所

[エージェントコンソール] にアクセスするには、[設定] から [カスタマイズ] > [エージェントコンソール] をクリックします。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

以前は、[設定] からのパスは [カスタマイズ] > [コンソール] でした。現在このパスでは、Salesforce コンソールの設定が開きます。

カスタマーユーザ

カスタマーユーザは、作成されたカスタマーポータルまたはコミュニティを使用して Salesforce にアクセスできます。

[シングルサインオンを使用するカスタマーユーザに表示されていた\[私のパスワードの変更\] ボタンの削除](#)
[カスタマーユーザの\[ユーザ名\] 項目に関する動作の変更](#)

シングルサインオンを使用するカスタマーユーザに表示されていた[私のパスワードの変更] ボタンの削除

シングルサインオンを使用するカスタマーユーザが自分のプロフィールをポータルの Welcome コンポーネントから表示するとき、[私のパスワード変更] ボタンが表示されなくなります。シングルサインオンを使用するカスタマーユーザは、ポータル管理者に連絡して、パスワードをリセットするためのサポートを依頼する必要があります。

カスタマーユーザの [ユーザ名] 項目に関する動作の変更

カスタマーユーザがシングルサインオン権限を持っていない場合、外部ユーザの代理管理者がカスタマーユーザの [ユーザ名] 項目を編集できるようになりました。管理者は、シングルサインオン権限に割り当てられているかどうかに関係なく、その項目を編集できます。Winter '14 リリースよりも前のリリースでは、シングルサインオン権限を持つ代理管理者はカスタマーユーザのこの項目を編集できませんでした。

分析

Winter '14 リリースでは、レポートおよびダッシュボードがさらに強力になり、柔軟性が向上しています。履歴トレンドの分析、オブジェクトレコードへのレポートグラフの埋め込み、および新しい分析APIを使用した独自の Salesforce 分析アプリケーションの作成を行うことができます。

履歴トレンドレポート

ビジネスの現在の状態に関する最新の標準レポートに加えて、Winter '14 では、商談オブジェクトと最大3つのカスタムオブジェクトの日単位および週単位の変化を分析できるようになりました。

埋め込みの分析

ユーザは、必要なデータを [レポート] タブに移動することなく、最も頻繁にアクセスするページで取得できるようになりました。どの標準またはカスタムオブジェクトでもレコード詳細ページにレポートグラフを埋め込むことができます。ユーザは、ページのコンテキストで表示されるデータに基づいて意思決定を行うことができます。

分析API

REST ベースの分析 API は、Salesforce データへのアクセスとデータの視覚化を大幅に改革します。API では、レポートビルダーを使用して定義したレポートデータにプログラムを介してアクセスできます。Salesforce プラットフォーム内外で任意の Web アプリケーションまたはモバイルアプリケーションにレポートデータを簡単に統合できます。また、API の上位にリッチな視覚効果を定義して、データのアニメーションを実行できます。

レポートのロール階層の表示または非表示

Salesforce の階層は強力ですが、階層が複雑でない場合はレポートヘッダーの貴重な領域を消費してしまいます。クリックするだけで、Salesforce レポートの階層を表示または非表示にできるようになりました。

ユーザ共有でサポートされるレポートタイプ

Winter '14 では、新しい組織でユーザ共有が自動的に使用可能になります。組織でユーザ共有を有効にしている、ユーザオブジェクトの内部組織の共有設定が「非公開」に設定されている場合、一部のレポートユーザに対して、通常は表示されないユーザに属するデータを表示させることができます。

リストビューの作成の制限

リストビューが多すぎてユーザの画面が複雑にならないように、一部のユーザのリストビュー作成機能を制限できます。

デフォルトでオンになる分析フォルダ共有

Summer '13 で導入された新しいレポートおよびダッシュボードフォルダの共有モデルは、Winter '14 以降に作成された新しい組織ではデフォルトで有効になります。既存の組織の場合、[設定] メニューを使用して有効化する必要があります。

レポートおよびダッシュボードフォルダリストのサイズ変更

[レポート] タブで、レポートおよびダッシュボードフォルダが表示される左ペインをドラッグしてサイズを変更し、レポートフォルダの完全な名前を表示できるようになりました。

メタデータ API のページレイアウトからのレポートグラフ

メタデータ API によるパッケージ化に、標準またはカスタムオブジェクトの詳細ページレイアウト (LayoutItem) に追加されたレポートグラフのメタデータを使用できるようになりました。

SOAP API のレポートオブジェクトの形式

SOAP API で SOQL を使用して Salesforce レポートオブジェクトをクエリする場合、レポートの Format で絞り込みまたは並び替えができます。

履歴トレンドレポート

ビジネスの現在の状態に関する最新の標準レポートに加えて、Winter '14 では、商談オブジェクトと最大 3 つのカスタムオブジェクトの日単位および週単位の変化を分析できるようになりました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

組織データの履歴ビューの作成がこれまで以上に簡単になりました。売上目標に向けて作業するにつれて、除外されたのはどの商談ですか? 取り込まれたのは? 成長したものは? 履歴トレンドによって、Salesforce での作業に伴い発生するこうした種類の変化を分析できます。

履歴トレンドには、5 営業日や 5 営業週など、5 つのスナップショット日付の間の変化を強調表示するように設計された新しいカスタムレポートタイプがあります。グラフおよびダッシュボードにデータの変化を視覚的に表示できます。また、メタデータ API や新しい分析 API を使用して、履歴トレンドレポートを作成およびカスタマイズすることもできます。

既存の組織の場合、[設定] メニューで履歴トレンドレポートを有効化する必要があります。Winter '14 以降で作成された新しい組織の場合、デフォルトで有効化されます。

Opportunity Name	Amount (Historical)	Amount	Close Date (Historical)	Close Date
Acme	\$26,000	\$16,000	2/15/2013	2/28/2013
Advanced Interconnections Corp* - 32K	\$18,000	\$20,000	2/28/2013	2/28/2013
Advanced Interconnections Corp* - 8K	\$12,000	\$8,000	2/15/2013	2/28/2013
Allied Technologies - 40K	\$30,000	\$39,000	2/15/2013	2/15/2013
Data Solutions	\$10,000	\$3,000	2/28/2013	2/28/2013
DFC Inc. - 50K	\$55,000	\$45,700	2/15/2013	2/28/2013
Eastern Shipping	\$21,500	\$21,500	2/28/2013	2/28/2013

図 1: (1) 最大 5 つの日付をスナップショットして、日単位または週単位のトレンドを追跡する。(2) 現在の値および履歴値が簡単に比較できるように横に並べて表示される。(3) 変更された日付と金額が赤または緑で強調表示される。



重要: Salesforce の履歴トレンドレポートは、データウェアハウスに置き換わるものではなく、将来的にウェアハウス要件を満たすために拡張されることはありません。この機能の作成目的上の有用性が維持されるように、ハードシステム制限が課せられます。これには、追跡期間の制限、行数の制限、追跡される項目とオブジェクトに対する制限などがあります。

履歴トレンドのレポート

自社の商談パイプラインを監視して、現在および将来の売上目標を達成できるだけの十分な活動が含まれていることを確認するとします。重要な商談属性(日付、金額、および状況変更など)の履歴値と現在の値を比較して、パイプラインが時間と共にどのように変化するかを確認する必要があります。値が増加した商談、値が減少した商談、特定の対象期間に含まれるようになった商談、特定の対象期間から除外された商談に焦点を当てます。

履歴トレンドレポートの設定

履歴トレンドレポートをユーザが使用できるようにするには、条件を使用して、履歴レポート用にキャプチャするデータ量を設定し、履歴レポートに使用できる項目を選択します。

パイプラインの経時的な変化の監視

今日と昨日のパイプラインの合計値を比較する方法を知りたいとします。2つの日付を比較する簡単なレポートを作成します。

履歴トレンドレポートに関する制限

Salesforce の履歴トレンドは、データを追跡するときの時間、データの行数、追跡可能な項目およびオブジェクトに関して特定の制限の対象になります。これらの制限は、レポートデータをすばやく返せるように設けられた制限です。

履歴トレンドのレポート

自社の商談パイプラインを監視して、現在および将来の売上目標を達成できるだけの十分な活動が含まれていることを確認するとします。重要な商談属性(日付、金額、および状況変更など)の履歴値と現在の値を比較して、パイプラインが時間と共にどのように変化するかを確認する必要があります。値が増加した商談、値が減少した商談、特定の対象期間に含まれるようになった商談、特定の対象期間から除外された商談に焦点を当てます。

Salesforce では、3か月分の履歴データを分析できるようになっています。実際に操作できる履歴データ量は、組織のデータ設計や使用パターンによって異なります。最大4つの履歴条件を使用して、比較する対象期間のスナップショット日付を5つまで選択できます。



メモ: システムは、日単位および週単位のレポート用に最適化されています。これより長期間の使用は推奨されず、レポートがタイムアウトになり返されない可能性があります。商談レコード数が限定された小規模な会社の場合は、月単位のトレンドが動作することもあります。これは機能の設計目標ではありません。

履歴トレンドレポートの設定

履歴トレンドレポートをユーザが使用できるようにするには、条件を使用して、履歴レポート用にキャプチャするデータ量を設定し、履歴レポートに使用できる項目を選択します。

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
レポートを作成、編集、および削除する	「レポートの作成とカスタマイズ」 および 「レポートビルダー」

容量の制限を超えない範囲でユーザが十分に活用できるだけの履歴トレンドデータを形成します。どの項目にユーザが分析する履歴データが含まれているのか、どの項目に除外できるデータが含まれているのかを考慮します。



重要: 履歴データを保持すると、保存する必要のあるデータ量が増加します。この影響は、組織の作業によって異なります。たとえば、一般的な商談レコードの状況を1日または2日おきに更新する場合と、商談の状況値を1か月に1回または2回変更する場合を比較すると、前者の方が商談オブジェクトの[状況]項目の履歴トレンドデータの容量が大きくなります。いずれかのトレンドオブジェクトがデータ制限を超える恐れがある場合、メールアラートが送信されます。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [レポートおよびダッシュボード] > [履歴トレンド] をクリックします。
2. 履歴トレンドレポートを実行するオブジェクトを選択します。
商談オブジェクトおよび最大3つのカスタムオブジェクトを選択できます。
3. [履歴トレンドの有効化] を選択します。
4. [データの選択] の条件を使用して、履歴トレンドレポートに含めるレコードを絞り込みます。
たとえば、最も可能性が低い商談を除外するには、[フェーズ] [次の文字列と一致しない] *Prospecting* を設定します。



メモ: このステップで項目を操作しますが、履歴トレンドレポートで使用できるようになる項目はまだ選択しません。ここで実行するのは、履歴トレンドレポートでキャプチャするデータの合計容量を指定することだけです。

5. [項目の選択] で、履歴トレンドレポートで使用できるようにする項目 (最大8個) を選択します。
ユーザは、履歴トレンドレポートの作成時にこれらの項目を選択できます。



メモ: 商談レポートの場合、5つの項目 ([金額]、[完了予定日]、[売上予測分類]、[確度]、[フェーズ]) が事前に選択されています。さらに3つの項目を追加できます。

履歴トレンドを有効にすると、ユーザは新規レポートの作成時に新しいカスタムレポートタイプを選択できるようになります。新しい項目で履歴トレンドを有効にすると、その項目は自動的に履歴トレンドレポートレイアウトに追加されます。

履歴トレンドをオフにする必要がある場合、次の点に留意してください。

- 項目の履歴トレンドをオフにすると、その項目の履歴データが削除されます。
- オブジェクトの履歴トレンドをオフにすると、そのオブジェクトのすべての履歴データと設定 (オブジェクトの履歴トレンドレポートタイプおよびそのタイプで作成されたレポートを含む) が削除されます。
- 項目の履歴トレンドをオフにしてからその項目を削除すると、履歴トレンドを再度有効にしても、項目の履歴データは使用できなくなります。



メモ:

- 各ユーザが使用できる履歴項目は、ユーザがアクセスできる項目によって異なります。権限が変更されて、特定の項目を表示できなくなると、その項目の履歴データも表示できなくなります。
- 各履歴項目の項目レベルセキュリティは、その親項目と同じになります。親項目の項目権限が変更されると、それに応じて履歴項目の権限も変更されます。

パイプラインの経時的な変化の監視

今日と昨日のパイプラインの合計値を比較する方法を知りたいとします。2つの日付を比較する簡単なレポートを作成します。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
レポートを作成、編集、および削除する	「レポートの作成とカスタマイズ」 および 「レポートビルダー」

- 商談履歴レポートを作成します。
 - [レポート] タブで、[新規レポート] をクリックします。
 - [レポートタイプを選択] > [商談] で、[履歴トレンドが関連する商談] を選択します。
 - [作成] をクリックします。

- [表示] で、[すべての商談] を選択します。

[履歴日] 項目のデフォルト値は [昨日] で、[金額 (履歴)] 項目には、昨日の日付が表示されます。



ヒント: [昨日] は、可変の日付値で、今日の日付の相対日付を示します。明日これと同じレポートを実行すると、[金額 (履歴)] には今日の日付が表示されます。

- [金額 (履歴)] および [金額-今日] 列のヘッダーの下向き矢印をクリックします。[この項目を集計] をクリックし、[合計] を選択します。
総額が各列の下部に表示されます。
- [金額] 列のヘッダーの下向き矢印をクリックし、[変更を表示] を選択します。
- [レポート実行] をクリックします。
- [変更] 列で、[金額 (履歴)] 列と [金額-今日] 列の合計値の差を確認します。



ヒント: 緑色または赤色の値を探すことで、一目で変更を確認できます。

パイプラインの動作の分析に役立つ簡単な履歴トレンドレポートを作成しました。

履歴トレンドレポートに関する制限

Salesforce の履歴トレンドは、データを追跡するときの時間、データの行数、追跡可能な項目およびオブジェクトに関して特定の制限の対象になります。これらの制限は、レポートデータをすばやく返せるように設けられた制限です。

- 履歴トレンドレポートでは最大 3 か月分のデータを使用できます。
- 各オブジェクトで最大 500 万行の履歴トレンドデータを保存できます。この制限を超過すると、履歴データのキャプチャは停止します。オブジェクトが制限の 70% に達した場合と、制限を超過した場合に管理者にメールで通知されます。
- 各履歴トレンドレポートには、100 個まで項目を含めることができます。商談レポートでは、履歴トレンドレポートに事前選択される標準項目が含まれており、この項目は無効にできません。
- 各履歴トレンドレポートで最大 5 つの履歴スナップショット日付を指定できます。
- 各履歴トレンドレポートで最大 4 つの履歴条件を使用できます。
- サポートされる項目種別は、数値、通貨、日付、選択リストです。
- Internet Explorer 6 はサポートされていません。
- レポートウィザードはサポートされていません。履歴トレンドレポートは、レポートビルダーでのみ作成できます。



重要: 選択リスト項目が履歴トレンドデータ条件ですでに使用されている場合、よく考えてからその値を変更してください。今後の履歴レポートでその項目の有用性が低下してしまう可能性があります。

埋め込みの分析

ユーザは、必要なデータを [レポート] タブに移動することなく、最も頻繁にアクセスするページで取得できるようになりました。どの標準またはカスタムオブジェクトでもレコード詳細ページにレポートグラフを埋め込むことができます。ユーザは、ページのコンテキストで表示されるデータに基づいて意思決定を行うことができます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
ページレイアウトを参照する	「設定を参照」
ページレイアウトにグラフを埋め込む	「アプリケーションのカスタマイズ」

たとえば、次の商談レコードでは、詳細ページに直接重要なデータが表示されています。



ページレイアウトへのレポートグラフの追加

標準オブジェクトページまたはカスタムオブジェクトページにレポートグラフを埋め込むには、高度なページレイアウトエディタを使用してオブジェクトのページレイアウトを編集してから、グラフを追加します。

取引先ページのレポートグラフの例

次の例では、パイプラインにおける商談と取引先の未解決のサポートケースを示す2つのレポートグラフが、重要な取引先ページに埋め込まれています。アカウントエグゼクティブは、取引先の活動と健全度をグラフからすばやく把握できます。

ページのレポートグラフに関する制限

詳細ページにグラフを埋め込む場合は、次の制限を考慮してください。

ページレイアウトへのレポートグラフの追加

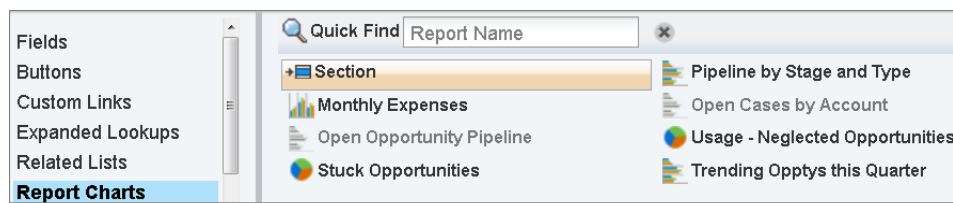
標準オブジェクトページまたはカスタムオブジェクトページにレポートグラフを埋め込むには、高度なページレイアウトエディタを使用してオブジェクトのページレイアウトを編集してから、グラフを追加します。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
ページレイアウトを参照する	「設定を参照」
ページレイアウトを編集する	「アプリケーションのカスタマイズ」

グラフを追加する前に、次の点を確認します。

- ・ アクセスする必要があるユーザと共有するフォルダにソースレポートがある。個人レポートフォルダにあるレポートは、ページに追加できません。
 - ・ ソースレポート形式がサマリーまたはマトリックスである。
 - ・ ソースレポートにグラフがある。
1. グラフを追加するオブジェクトのページレイアウトエディタに移動します。
 - ・ 標準オブジェクトの場合、[設定] から [カスタマイズ] > *Object* > [ページレイアウト] をクリックします。
 - ・ カスタムオブジェクトの場合、[設定] から [作成] > [オブジェクト] をクリックして、オブジェクトを選択します。
 2. ページレイアウトの横にある [編集] をクリックします。
 3. [レポートグラフ] をクリックします。



4. [クイック検索] ボックスにレポート名を入力し、🔍 をクリックしてレポートグラフを検索および選択します。
[レポートグラフ] パレットで、グラフの種類別に最近参照した 200 個までのレポートを参照できます。
5. レイアウトの新規または既存のセクションにグラフをドラッグします。
6. グラフで 🛠️ をクリックしてカスタマイズします。
7. [保存] をクリックします。
[指定した形式でプレビュー] オプションは、レポートグラフには使用できません。

取引先ページのレポートグラフの例

次の例では、パイプラインにおける商談と取引先の未解決のサポートケースを示す2つのレポートグラフが、重要な取引先ページに埋め込まれています。アカウントエグゼクティブは、取引先の活動と健全度をグラフからすばやく把握できます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

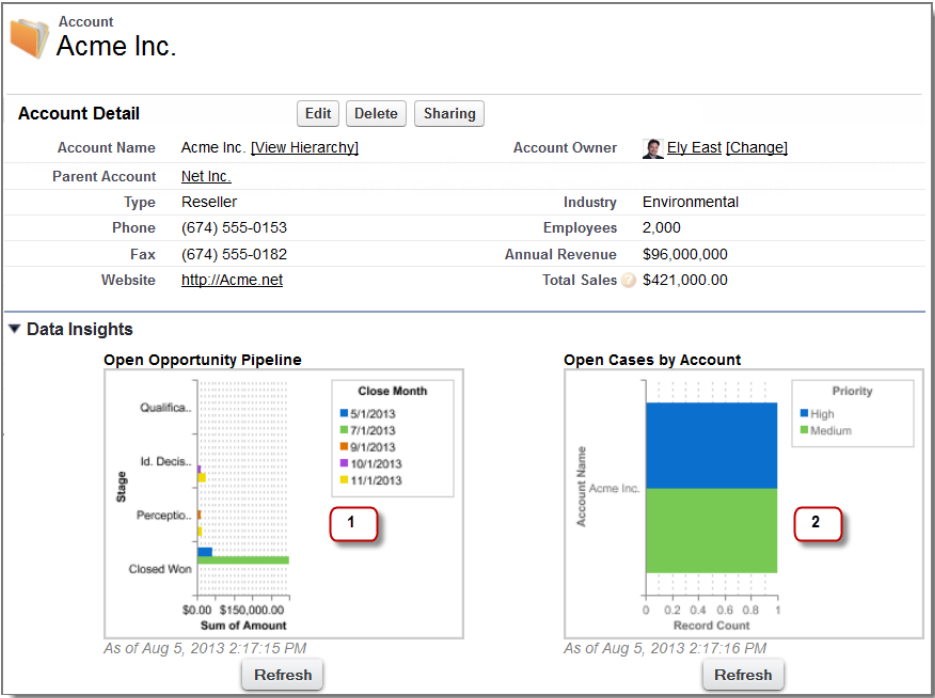


図 2: 取引先ページのレポートグラフ

1. パイプライングラフには、成立した 2 つの商談を含む、さまざまなフェーズの取引先の商談が表示されています。アカウントエグゼクティブは、グラフにマウスポインタを置いて、各商談の値を表示できます (ソースレポートグラフでフロート表示が有効になっていると、値が強調表示されます)。グラフをクリックし、レポートに移動して、これらの商談の詳細を表示できます。
2. 進行中のケースのグラフから、取引先に未解決のサポート問題が 2 つあることがわかります。グラフをクリックし、ケースの詳細レポートにドリルダウンして、クライアントとの重要な会議の前に、サポートエンジニアと共にこれらの問題の解決に努めることができます。

ページのレポートグラフに関する制限

詳細ページにグラフを埋め込む場合は、次の制限を考慮してください。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

- ページあたり 2 つのレポートグラフを使用できます。
- 高度なページレイアウトエディタからのみレポートグラフを追加できます。ミニコンソールおよび従来のページレイアウトエディタはサポートされていません。
- ユーザは、詳細ページで 60 分ごとに 100 個までのレポートグラフを更新できます。
- 組織は、60 分ごとに 3,000 個までのレポートグラフを更新できます。

分析 API

REST ベースの分析 API は、Salesforce データへのアクセスとデータの視覚化を大幅に改革します。API では、レポートビルダーを使用して定義したレポートデータにプログラムを介してアクセスできます。Salesforce プラットフォーム内外で任意の Web アプリケーションまたはモバイルアプリケーションにレポートデータを簡単に統合できます。また、API の上位にリッチな視覚効果を定義して、データのアニメーションを実行できます。

分析 API にアクセスするには、認証された OAuth セッションを確立し、JSON で応答および要求をエンコードします。

使用可能なエディション: Database.com を除く API 対応のすべてのエディション

必要なユーザ権限	
レポートを実行する	「レポート実行」

分析 API の使用例

分析 API を使用すれば、非常に簡単にモバイルアプリケーションに動的にデータをプルできることを、例を挙げて説明します。

分析 API のリソース

分析 API には、レポートのメタデータおよびデータをクエリしたり、レポートデータを動的に絞り込んだり、サマリーレベルまたはレコード詳細レベルで結果を取得したりするリソースがあります。

分析 API の制限

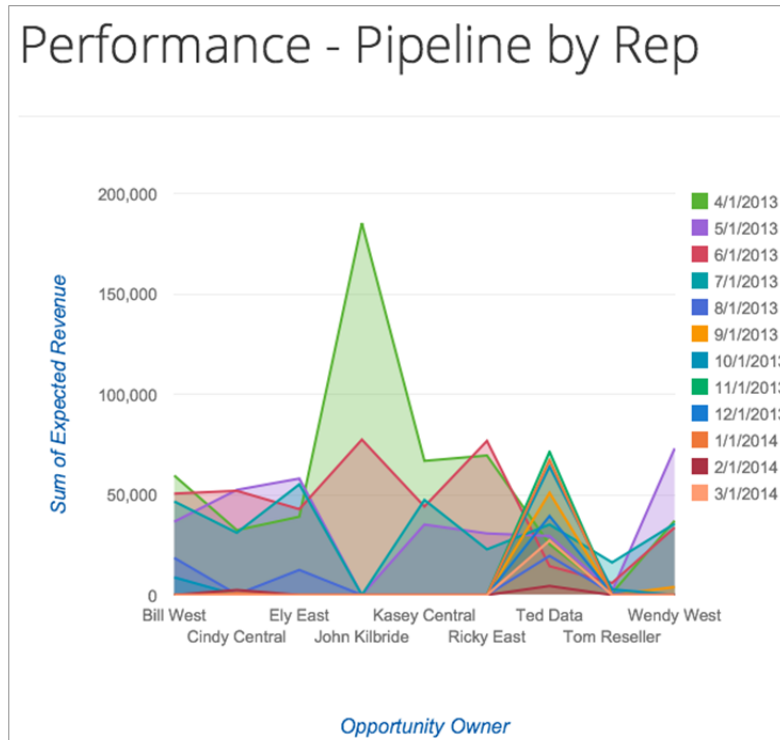
分析 API には、一般的な API 制限に加えて一部の制約があります。

分析 API の使用例

分析 API を使用すれば、非常に簡単にモバイルアプリケーションに動的にデータをプルできることを、例を挙げて説明します。

このモバイルアプリケーションには、四半期のパイプラインのすべての商談のグラフが表示されます。営業商談パイプラインの Salesforce レポートのデータは、営業担当者と月次目標ごとにグループ化されます。

営業担当者は、電話またはタブレットでグラフをプルアップしたり、同僚が完了した商談と比較するために絞り込んだり、自分が完了した商談だけに焦点を絞ったりして、パイプラインに関する最新情報を得られるようになりました。



次に、Salesforce とアプリケーション間のシームレスなデータフローを実現するために、分析 API がバックグラウンドでどのように機能するかを示します。

- API のインスタンスリソースは Salesforce パイプラインレポートを非同期で実行するため、担当者がアプリケーションを開いたときに最新の数値を取得できます。通常、レポートは非同期で実行することをお勧めします。これは、より多くのレポートを実行して結果を保存し、後でアクセスできるようにするためです。つまり、実行時間の長いレポートでも API 制限やレポートのタイムアウト制限に達することなく、アプリケーションを開きなおすたびにユーザの最新データを表示できます。
- 担当者が同僚が完了した商談と比較するために絞り込む場合、API は次の作業を実行します。
 1. Describe リソースを使用して、条件に基づいて Salesforce パイプラインレポートからメタデータを取得します。
 2. 次に、このメタデータを Execute リソース要求に入れて、パイプラインレポートを同期して (すぐに) 実行します。これにより、わずかな時間で結果が利用できるようになります。担当者は電話でデータの変更を確認できますが、Salesforce の基盤となるソースレポートは API によって変更されることはありません。

詳細およびコードスニペットについては、『[分析 API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

分析 API のリソース

分析 API には、レポートのメタデータおよびデータをクエリしたり、レポートデータを動的に絞り込んだり、サマリーレベルまたはレコード詳細レベルで結果を取得したりするリソースがあります。

レポートを実行してすぐに結果を取得することも、非同期でより多くのレポートを実行してその結果を保存し、後でアクセスすることもできます。



メモ: レポートのメタデータを抽出して、結合形式を除くすべてのレポート形式でサマリーデータと詳細データの両方の結果を取得できます。

API には、次のリソースがあります。

リソース	説明	サポートされている HTTP メソッド	リソース URL
Describe	レポートのメタデータを提供します。これには、詳細列、集計、カスタム集計項目、グルーピングとしてレポートで定義された項目に関する情報が含まれます。	GET	<code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId>/describe</code>
Execute Sync	レポートのサマリーレベルデータを提供します。必要に応じて詳細が含まれます。 POST 要求のメタデータで条件を定義している場合、特定のレポートデータを返します。	GET、POST	<ul style="list-style-type: none"> サマリーデータ: <code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId></code> サマリーデータと詳細: <code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId>?includeDetails=true</code>
Execute Async	非同期で実行されたレポートのサマリーレベルデータを保存するインスタンスを返します。詳細が含まれる場合と含まれない場合があります。特定の結果を取得するには、要求のメタデータで条件を定義します。	POST	<ul style="list-style-type: none"> サマリーデータ: <code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId>/instances</code> サマリーデータと詳細: <code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId>/instances?includeDetails=true</code>
Instances List	非同期に実行されたレポートのすべてのインスタンスを表示します。	GET	<code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId>/instances</code>
Instance Results	要求の種類に応じて、非同期に実行されたレポートのインスタンスのサマリーレベルデータか、レコードレベルデータか、またはその両方を提供します。	GET	<code>/services/data/v29.0/analytics/reports/<reportId>/instances/<report Instance Id></code>
List	Salesforce アプリケーションで最近表示したレポートの	GET	<code>/services/data/v29.0/analytics/reports</code>

リソース 説明	サポート	リソース URL
	サポート されてい る HTTP メソッド	
リストを提供します (結合レ ポート形式のレポートは除 く)。		

分析 API の制限

分析 API には、一般的な API 制限に加えて一部の制約があります。

- ・ クロス条件、標準レポート条件、行制限による絞り込みは、データを絞り込む場合には使用できません。
- ・ 表形式の履歴トレンドレポートは使用できません。
- ・ API では、列として選択された 100 個までの項目を含むレポートのみ処理できます。
- ・ List リソースは、API ユーザが最近参照した 200 個までのレポートを返します。
- ・ Execute Sync リソースを使用して、1 時間あたり 500 回までのレポートの同期実行を組織で要求できます。
- ・ API では、一度に 20 回までのレポートの同期実行の要求をサポートしています。
- ・ Instances List リソースは、非同期に実行されたレポートの 2000 件までのインスタンスを返します。
- ・ API では、レポートの非同期実行の結果を取得するために、一度に 200 件までの要求をサポートしています。
- ・ Execute Async リソースを使用して、1 時間あたり 1200 回までのレポートの非同期実行を組織で要求できます。
- ・ レポートの非同期実行の結果は、24 時間以内に使用できます。

レポートのロール階層の表示または非表示

Salesforce の階層は強力ですが、階層が複雑でない場合はレポートヘッダーの貴重な領域を消費してしまいます。クリックするだけで、Salesforce レポートの階層を表示または非表示にできるようになりました。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

必要なユーザ権限	
レポートを表示する	「レポート実行」

商談レポートと活動レポートの上部に表示されるロール階層はデフォルトで非表示になったため、実際のレポートデータを表示するためにスクロールダウンする必要がなくなりました。組織にポータルが含まれている場合、ロール階層を非表示のままにしておくと特に便利です。それは、ポータルロールをすべて表示すると、多くの画面表示領域を消費する可能性があるためです。

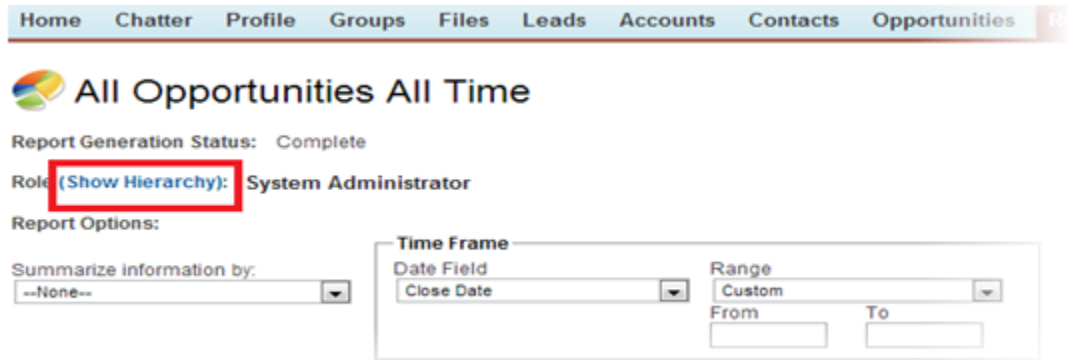


図3:[階層を表示]をクリックして、商談レポートまたは活動レポートへのアクセス権のあるロールのリストを表示する。



図4:[階層を非表示]をクリックして、ロールのリストの表示を停止する。

各ユーザは、ロール階層を表示して、このレポートデータへのアクセス権のあるユーザを確認できます。表示するには、レポート結果が表示される画面の左上隅で [階層を表示] をクリックします。再度非表示にするには、[階層を非表示] をクリックします。

ユーザ共有でサポートされるレポートタイプ

Winter '14 では、新しい組織でユーザ共有が自動的に使用可能になります。組織でユーザ共有を有効にしている、ユーザオブジェクトの内部組織の共有設定が「非公開」に設定されている場合、一部のレポートユーザに対して、通常は表示されないユーザに属するデータを表示させることができます。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

デフォルトでは、これらのレポートには適切なアクセス権のあるユーザのみがアクセスできます。ただし、関連ユーザに対する適切なアクセス権のないユーザにそれらのレポートを表示するように設定を変更できます。

また、一部のレポートにはユーザのロールが表示される可能性があります。ユーザがレコードを表示できてそのレコード所有者へのアクセス権がない場合、そのユーザにはそれらのレポートに所有者のロールが表示されません。

次のレポートタイプが影響を受けます。

- ・ 取引先
- ・ 取引先所有者
- ・ 納入商品が関連する取引先
- ・ カスタムオブジェクトが関連する取引先
- ・ パートナーが関連する取引先
- ・ API 使用状況
- ・ 商談が関連するキャンペーン
- ・ カスタマイズブル売上予測: 売上予測履歴一覧
- ・ カスタマイズブル売上予測: 商談売上予測一覧
- ・ 見積が関連するカスタムオブジェクト商談レポート
- ・ 被招集者が関連する行動
- ・ 商談
- ・ 商談項目履歴
- ・ 商談履歴
- ・ 商談の動向
- ・ 商談と接続
- ・ 競合が関連する商談
- ・ 取引先責任者のロールが関連する商談
- ・ 取引先責任者のロールと商品が関連する商談
- ・ カスタムオブジェクトが関連する商談
- ・ パートナーが関連する商談
- ・ 商品が関連する商談
- ・ 商品とスケジュールが関連する商談
- ・ 見積と見積ドキュメントが関連する商談
- ・ 見積と見積品目が関連する商談
- ・ 営業チームが関連する商談
- ・ 営業チームと商品が関連する商談
- ・ 商談の分割
- ・ 商品が関連する商談の分割
- ・ 商品およびスケジュールが関連する商談の分割

詳細は、「[ユーザ共有 — 正式リリース](#)」を参照してください。

リストビューの作成の制限

リストビューが多すぎてユーザの画面が複雑にならないように、一部のユーザのリストビュー作成機能を制限できます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

新しい権限「リストビューの作成およびカスタマイズ」を使用できます。この権限がないユーザは、新しいリストビューを作成できません。すべてのユーザがデフォルトでこの権限を持っています。

たとえば、サポートスーパーバイザによって管理される一連の共有リストビューをすべてのサポートエージェントで使用するとします。「リストビューの作成およびカスタマイズ」権限をサポートスーパーバイザのロールに割り当て、サポートエージェントのロールから削除します。



重要:「リストビューの作成およびカスタマイズ」権限をユーザから削除しても、そのユーザはアクセス権のあるリストビューを表示できます。ただし、そのユーザの非公開リストビュー(誰とも共有されていないリストビュー)は、「すべてのデータの編集」権限があるユーザでも編集または削除できません。

デフォルトでオンになる分析フォルダ共有

Summer '13 で導入された新しいレポートおよびダッシュボードフォルダの共有モデルは、Winter '14 以降に作成された新しい組織ではデフォルトで有効になります。既存の組織の場合、[設定]メニューを使用して有効化する必要があります。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

Winter '14 以降に作成された組織では、標準レポートおよびダッシュボードフォルダが自動的にポータルユーザおよびコミュニティユーザと共有されることはありません。ポータルユーザとコミュニティユーザは、明示的に共有されているレポートフォルダまたはダッシュボードフォルダへのアクセス権のみを持っています。

既存の組織では、分析共有を有効にしても、ポータルユーザとコミュニティユーザのアクセス権に変更はありません。すべてのユーザは、分析共有が有効化される前に持っていたアクセス権と同等の、レポートフォルダおよびダッシュボードフォルダへのアクセス権を保持します。

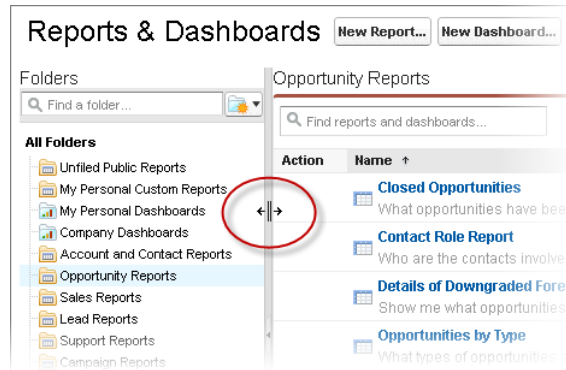
Winter '14 以降に作成された組織では、分析共有がデフォルトでオンになっているため、分析共有を有効化する[設定] オプションは表示されません。

新しい分析フォルダの共有モデルの詳細は、Salesforce ヘルプの「レポートとダッシュボードの共有」を参照してください。

レポートおよびダッシュボードフォルダリストのサイズ変更

[レポート] タブで、レポートおよびダッシュボードフォルダが表示される左ペインをドラッグしてサイズを変更し、レポートフォルダの完全な名前を表示できるようになりました。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション



メタデータ API のページレイアウトからのレポートグラフ

メタデータ API によるパッケージ化に、標準またはカスタムオブジェクトの詳細ページレイアウト (LayoutItem) に追加されたレポートグラフのメタデータを使用できるようになりました。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

詳細は、リリースノートの「[更新されたメタデータ型とメタデータ項目](#)」セクションを参照してください。

SOAP API のレポートオブジェクトの形式

SOAP API で SOQL を使用して Salesforce レポートオブジェクトをクエリする場合、レポートの Format で絞り込みまたは並び替えができます。

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

これは、形式 (表形式、サマリー、マトリックス、マルチブロック (統合)) でレポートを検索する場合に役立ちます。詳細は、リリースノートの「[新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト](#)」セクションを参照してください。

Site.com

Site.com は Web コンテンツ管理システム (CMS) です。この製品では、データ主導の動的な Web ページを迅速に構築し、実行時にコンテンツを編集したり、Web サイトを管理したりできるようになります。

マルチ言語のサイトのサポート — 正式リリース

Winter '14 で正式にリリースされたマルチ言語サイトサポートにより、サイト管理者およびデザイナーは異なる言語バージョンのサイトを作成できます。また、すべての言語がサイト内に保持されるため、言語ごとに個別のサイトを作成して維持する必要はありません。

ウィジェットのカスタムプロパティ

ウィジェットを使用すると、デザイナーおよび管理者は、自分とそのチームがサイト全体で再利用できるカスタムページ要素を作成することができ、時間を節約できます。Winter '14 で導入されたカスタムプロパティにより、ウィジェットの再利用方法の柔軟性が向上しました。

Site.com での Sandbox の有効化

Winter '14 では、Site.com サイトと Site.com コミュニティサイトの両方の Sandbox 環境で Site.com がサポートされるようになりました。

HTML のインポート

Site.com Studio で HTML ページのインポートがサポートされるようになりました。

新しい破損リンクファインダー

破損リンクファインダーは、ページ内の破損リンクを検索するのに役立ちます。この機能は、HTML ページをインポートするときに特に便利です。

新しいコンテンツ編集のライブモード

サイト管理者、デザイナー、寄稿者は、ライブモードを使用して、各種プラットフォーム (モバイルデバイスやコンピュータの画面など) のユーザに表示されるとおりに、ページ、テンプレート、ウィジェットをプレビューできます。

インラインエディタ

ライブモードでは、新しいインラインエディタを使用してテキストをすばやく編集できるようになりました。さらに、テキストをインラインで編集しているため、本番で編集完了後のページがどのように表示されるかを常に正確に把握できます。

デフォルトドックタイプの HTML5 への変更

ページのデフォルトのドックタイププロパティを XHTML 1.0 から最新バージョンの HTML5 に変更しました。

Site.com での承認プロセス対応 — パイロット

Site.com で承認プロセスがサポートされるようになりました。

Site.com での外部参照チェック対応

外部参照チェックがすべての Site.com サイトで有効になりました。

Site.com Studio への追加更新

Site.com Studio のその他の最新の更新を紹介します。

ドメイン名に必要な組織ID

ドメインを Site.com または Force.com サイト組織に追加するには、CNAME ターゲットで 18 文字の組織 ID を使用する必要があります。

新しい社内コミュニティライセンス

これは、**Developer Edition**、**Enterprise Edition**、および **Unlimited Edition** で使用可能な内部ユーザライセンスです。Force.com Light アプリケーションのカスタムオブジェクト、カスタムタブ、Chatter (人、グループ、フィード、ファイル)、および Site.com サイトを含むコミュニティにアクセスするユーザ向けです。

新しい社内コミュニティ権限セットライセンス

社内コミュニティアドオン権限セットライセンスを使用して、Force.com ユーザライセンスを持つユーザに Salesforce ナレッジへの参照のみアクセス権を付与します。

マルチ言語のサイトのサポート — 正式リリース

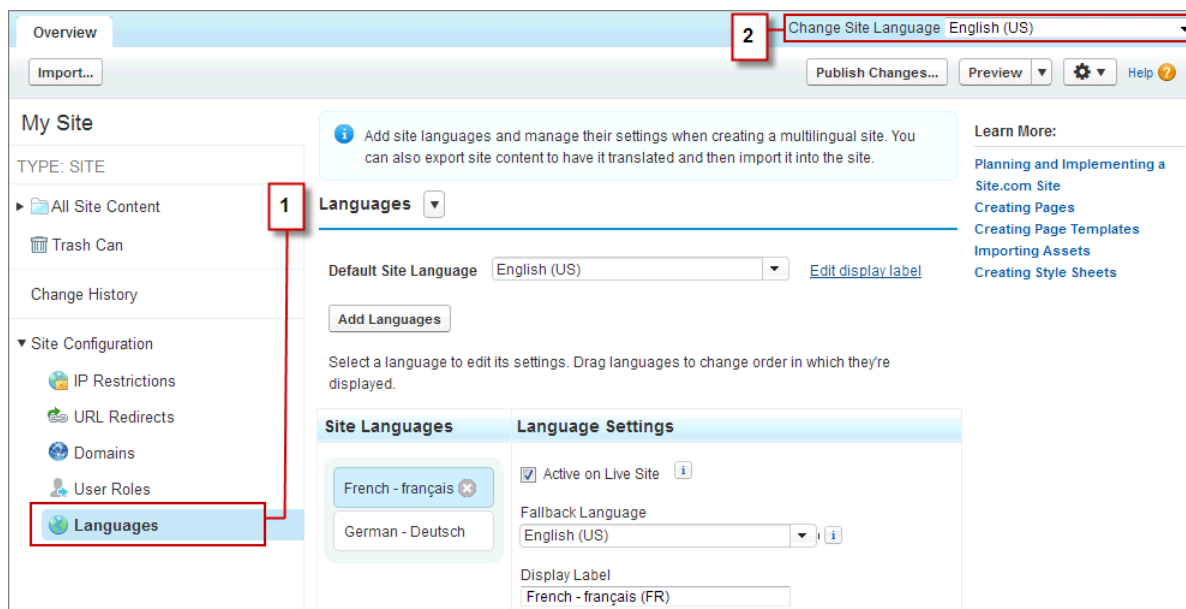
Winter '14 で正式にリリースされたマルチ言語サイトサポートにより、サイト管理者およびデザイナーは異なる言語バージョンのサイトを作成できます。また、すべての言語がサイト内に保持されるため、言語ごとに個別のサイトを作成して維持する必要はありません。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

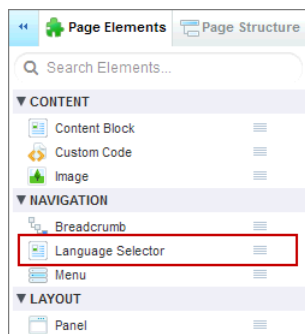
使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

[概要] タブの [サイトの設定] セクションに新しい [言語] ビュー (1) が追加されました。[言語] ビューでは、デフォルトのサイト言語を定義し、150 以上の言語から選択してサイトに追加できます。また、言語プロパティを管理することもできます。さらに、サイトコンテンツを翻訳用にエクスポートして、翻訳済みコンテンツをサイトにインポートし直すことができます。

言語をサイトに追加したら、ページのコンテンツを編集するときに使用可能な言語を切り替えることができる言語セレクタ (2) が表示されます。これにより、別の言語に変更するためにページを移動する必要がなくなり、コンテンツの編集をすばやく簡単に行うことができます。



また、新しい言語セクタのページ要素をページまたはテンプレートに追加することで、サイト訪問者は、サイトを表示するときに使用可能な言語から希望する言語を選択できます。また、サイトコンテンツの一部が選択した言語で使用できない場合、代わりに表示する代替言語を指定できます。



たとえば、サイト訪問者が言語セクタで日本語を選択したが、そのページでは日本語のコンテンツが使用できない場合、ページには代わりに代替言語のコンテンツが表示されます。

ウィジェットのカスタムプロパティ

ウィジェットを使用すると、デザイナーおよび管理者は、自分とそのチームがサイト全体で再利用できるカスタムページ要素を作成することができ、時間を節約できます。Winter '14 で導入されたカスタムプロパティにより、ウィジェットの再利用方法の柔軟性が向上しました。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

新しいウィジェットを作成する場合、[プロパティ] ペインでカスタムプロパティを追加してそれらの値を指定できます。次に、カスタムコードまたはコンテンツブロックをウィジェットに追加すれば、式を使用してプロパティ値にアクセスできます。式は、ページが読み込まれたときに情報に置き換えられるデータのプレースホルダとして機能します。

その後、ウィジェットをページに追加すると、ウィジェットのコピー(インスタンス)が作成されます。ウィジェットインスタンスは編集できませんが、そのプロパティ値を更新することはできます。式は単なるプレースホルダであるため、それらの値は、[プロパティ] ペインで値を更新すると自動的に更新されます。

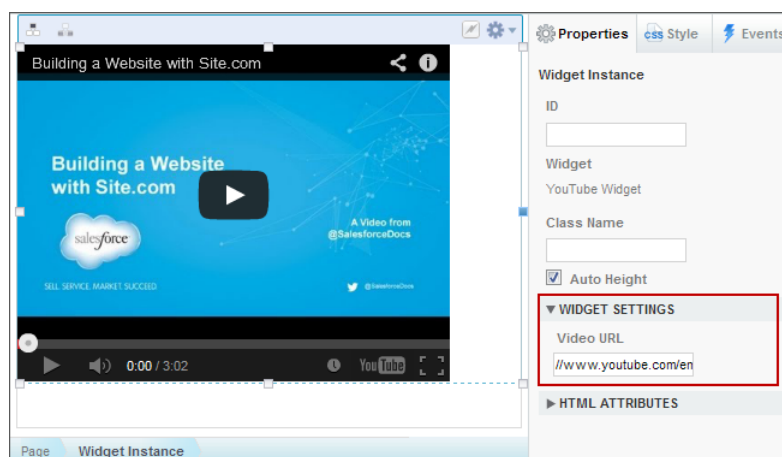
たとえば、次の埋め込みコードを使用して YouTube ウィジェットを作成するとします。

```
<iframe width="560" height="315" src="//www.youtube.com/embed/hcUaN6XBTz4" frameborder="0" allowfullscreen></iframe>
```

今回は、ウィジェットのインスタンスをページに追加するときに、表示する動画をユーザに指定してもらいます。videoURL というカスタムプロパティを追加して初期値を指定することで、代わりに次のコードを使用できます。

```
<iframe width="560" height="315" src="{!videoURL}" frameborder="0" allowfullscreen></iframe>
```

これで、ユーザが YouTube ウィジェットをページに追加するときに、[プロパティ] ペインで videoURL プロパティを更新して ({!videoURL} 式で表される値が自動的に更新される)、別の動画を指定できるようになりました。



Site.com での Sandbox の有効化

Winter '14 では、Site.com サイトと Site.com コミュニティサイトの両方の Sandbox 環境で Site.com がサポートされるようになりました。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

Site.com Studio を使用してサイトの作成、編集、およびプレビューができます。.site ファイルを使用して、Sandbox から Site.com および Site.com コミュニティサイトを本番組織にコピーすることもできます。このプロセスにより、Sandbox で変更したコンテンツで既存のサイトが置き換わります。

ライブドメインに公開する前に Site.com Studio 内で本番サイトをプレビューすることはできますが、実際のオブジェクトとコードを使用してテストすることはできません。Sandbox サイトでは、公開する前にサイトの静的コンテンツだけでなく、サイトの動的データ要素をテストすることもできます。



メモ: Sandbox から本番環境にサイトを公開することはできません。

HTML のインポート

Site.com Studio で HTML ページのインポートがサポートされるようになりました。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**


この新しい機能により、Web サイト全体をインポートできるようになりました。Web サイトのフォルダ構造とアセットを含む zip ファイルを作成すれば、そのファイルをインポートできます。Site.com は、zip ファイルのインポート時にそのファイルからフォルダ構造を複製します。これにより、既存のサイトおよびアセットを最初から再作成する必要がなくなります。

新しい破損リンクファインダ

破損リンクファインダは、ページ内の破損リンクを検索するのに役立ちます。この機能は、HTML ページをインポートするときに特に便利です。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

Site.com では、サイトに HTML ページをインポートするときに、リンクが正しい書式に設定されます。それでも破損している可能性のあるリンクは、リンクファインダを使用して確認できます。ページを開き、[] > [破損したリンクを検出] を選択します。ダイアログに、すべての破損リンク (ある場合) が表示されます。リンクを修正するには、[編集] をクリックします。リンクがエディタで開き、そのエディタで修正できます。

新しいコンテンツ編集のライブモード

サイト管理者、デザイナー、寄稿者は、ライブモードを使用して、各種プラットフォーム (モバイルデバイスやコンピュータの画面など) のユーザーに表示されるとおりに、ページ、テンプレート、ウィジェットをプレビューできます。







購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

また、ページのコンテンツブロックをすばやく変更する **インラインエディタ**もあります。

Site.com 寄稿者は、すべてのコンテンツ編集で自動的にライブモードになります。寄稿者は、サイト管理者によってアクセス権が付与されたコンテンツブロックを編集できます。サイト管理者およびデザイナーは、Site.com Studio

ツールバーのスライダを使用して、ライブモードと設計モードを切り替えることができます。ライブモードには、次のオプションがあります。

- プリセットされたデバイス    ボタンを使用すると、ページのサイズをすばやく調整して、モバイルデバイス、タブレット、またはコンピュータの画面でどのように表示されるかをプレビューできます。
- スライダー  を使用すると、手動で任意のサイズ (320x320 ~ 2880x2280 ピクセル) にページを調整できます。
- フレームの端にあるサイズ変更ハンドルを使用すると、画面のサイズを変更できます。
- プリセットされた  ボタンを使用すると、頻繁に使用するカスタム画面サイズを保存できます。
- 回転  を使用すると、画面の方向を縦から横に変更できます。

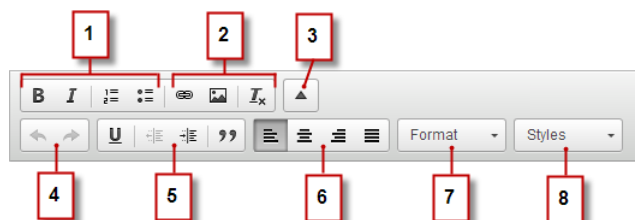
インラインエディタ

ライブモードでは、新しいインラインエディタを使用してテキストをすばやく編集できるようになりました。さらに、テキストをインラインで編集しているため、本番で編集完了後のページがどのように表示されるかを常に正確に把握できます。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

寄稿者の場合、インラインエディタを使用してページ内の任意の編集可能なテキストエリアを編集できます。編集可能な領域では、テキストの上にマウスを置くと灰色の境界線が表示されます。デザイナーまたはサイト管理者の場合は、ライブモードでページを表示している場合にのみインラインエディタを使用できます。



インラインエディタを使用すると、次のことができます。

- 次を使用したテキストスタイルおよびレイアウトの制御 (1)
 - ◇ 太字または斜体の書式設定を適用する
 - ◇ 番号付きまたは箇条書きリストを挿入する
- 画像とハイパーリンクの追加、および不要な書式設定の削除 (2)
- ツールバーの展開 (3) および追加オプションへのアクセス (4 ~ 8)
- 編集を元に戻すまたはやり直す (4)
- 次を使用したテキストスタイルおよびレイアウトの制御 (5)
 - ◇ 下線の書式設定を適用する
 - ◇ テキストの配置を設定する
 - ◇ blockquote の書式設定を適用する

- 段落のインデントの設定 (6)
- 段落および見出しスタイルの適用 (7)
- 強調表示などの追加スタイルの適用 (8)



ヒント: 異なるフォント、強調表示などの書式設定をテキストに直接適用することはできるだけ避けてください。直接適用するのではなく、段落スタイルおよび見出しスタイルを使用して、サイト全体で一貫した書式設定を迅速に適用することをお勧めします。また、これによりサイト管理者またはデザイナーがサイトの段落スタイルおよび見出しスタイルを変更すると、すべてのページテキストが自動的に更新されます。

デフォルトドックタイプの HTML5 への変更

ページのデフォルトのドックタイププロパティを XHTML 1.0 から最新バージョンの HTML5 に変更しました。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

ページのドックタイプ定義 (DTD)、つまり、*doctype* では、ページが使用している HTML のバージョンを定義します。この情報は、一部のブラウザで標準の表示モードを起動するために使用されます。

管理者またはデザイナーが新しいサイトページまたはページテンプレートを作成するときに、そのドックタイププロパティは自動的に HTML5 に設定されます。HTML5 では、含まれるコンテンツを説明する複数のセマンティック HTML5 要素を活用できます。

Site.com での承認プロセス対応 — パイロット

Site.com で承認プロセスがサポートされるようになりました。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**



メモ: 承認は現在、パイロットプログラムで使用できます。組織での承認の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

サイトで公開されるコンテンツを制御できる承認プロセスを作成できます。Site.com の承認プロセスの設定は、2つのパートに分かれます。まず、組織で承認プロセスを設定します。次に、サイトで承認を有効にする必要があります。



メモ: Sandbox でサイトを公開できません。Sandbox で公開する変更リストを承認した場合、承認時のアクションは実行されますが、変更リストは [変更履歴] リストから取り消すことしかできず、公開することはできません。

特定のサイトで承認を有効にしたら、公開プロセスが承認プロセスに変わります。ユーザには、[公開] ボタンの代わりに [変更を送信] ボタンが表示されます。承認申請するコンテンツの選択プロセスは、公開プロセスと同じです。

ユーザが変更を承認申請する場合、変更リストが作成されます。変更リストは承認申請され、対応する Salesforce 承認プロセスによって処理されます。このプロセスは、組織で定義されます。通常、変更リストへのリンクを含むメールが生成されて、承認者に送信されます。承認者がメールのリンクをクリックすると、変更リストの詳細ページが開きます。承認者は、このページで変更を表示、承認、または却下できます。

承認が有効である場合、[概要] タブの [変更履歴] リストの上部に追加の絞り込みボタンが表示されます。承認サイクル中は、サイト内の [変更履歴] リストですべての変更リストが追跡されます。ここから、サイト管理者は申請された変更リストの進行状況や状態を確認できます。

たとえば、すべてのサイトの新しい Web コンテンツは、公開する前にマーケティングの責任者がレビューおよび承認する必要があるというポリシーが会社にあるとします。まず、変更リストの申請元サイトを指定する組織の承認プロセスを作成します。次に、マーケティングの責任者を承認者として追加します。承認プロセスを作成したら、そのサイトの承認を有効にします。

Site.com での外部参照チェック対応

外部参照チェックがすべての Site.com サイトで有効になりました。

購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

この機能は、以前は他の Salesforce 機能で使用可能でしたが、自分のサイトページにあるリアルタイムデータオブジェクトへのリンクを保護できるようになりました。たとえば、自分のサイトで使用されているオブジェクトを組織内の他のユーザが修正しようとした場合、そのユーザにはオブジェクトが使用中である警告が表示されます。

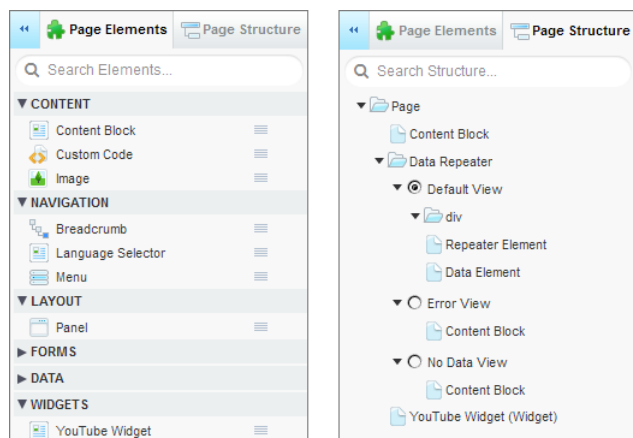
Site.com Studio への追加更新

Site.com Studio のその他の最新の更新を紹介します。

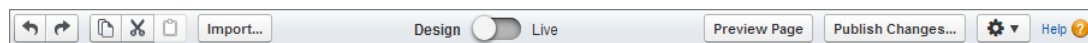
購入可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

使用可能なエディション (制限付き): **Developer Edition**

- ページ要素やカスタムウィジェットをより簡単に検索できるように、検索ボックスが [ページ要素] ペインに追加されました。また、ページの項目を検索しやすくするために、検索ボックスが [ページ構造] ペインに追加されました。それだけではありません。すべてのページ要素をより明確に表示できるように、両方のペインのサイズを変更できるようになりました。



- ページ編集ビューのツールバーが合理化されました。新しい**ライブモード機能**が追加されただけでなく、[ページアクション] ボタンが アイコンに置き換わり、[コンテンツの編集] ボタンが削除されました。



- [概要] タブの [サイトアクション] ボタンが アイコンに置き換わりました。また、[公開履歴] ビューの名前が [変更履歴] に変更され、[最新の変更] が削除されました。

ドメイン名に必要な組織 ID

ドメインを Site.com または Force.com サイト組織に追加するには、CNAME ターゲットで 18 文字の組織 ID を使用する必要があります。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

現時点では、ドメイン名が有効になるまでの間に別の組織がそのドメイン名を取得してしまう可能性があります。この可能性は非常に低いですが、一意の `orgId` を CNAME ターゲットに追加することで、この問題を回避できます。

形式は `domain.orgID.live.siteforce.com` となります。たとえば、`www.example.com` ドメインの CNAME ターゲットは `www.example.com.00dx00000000001aaa.live.siteforce.com` となり、この `00dx00000000001aaa` が組織 ID です。

既存のドメインで現在の `domain.live.siteforce.com` 形式または `subdomain.force.com` 形式を CNAME ターゲットとして使用している場合は、そのまま正常に機能します。ドメインの証明書またはそのドメインでのサイトの構成を変更した場合、`domain.live.siteforce.com` CNAME がそのまま更新されます。

組織から既存の `domain.live.siteforce.com` CNAME を削除した場合、そのドメインを再追加するには、新しい条件を満たす必要があります。

18 文字の組織 ID は、[設定] の [ドメイン管理] 内で新しいドメインを追加するときに表示されます。

新しい社内コミュニティライセンス

これは、**Developer Edition**、**Enterprise Edition**、および **Unlimited Edition** で使用可能な内部ユーザライセンスです。Force.com Light アプリケーションのカスタムオブジェクト、カスタムタブ、Chatter (人、グループ、フィード、ファイル)、および Site.com サイトを含むコミュニティにアクセスするユーザ向けです。

Company Community のユーザは、Salesforce ナレッジ記事への「参照のみ」アクセス権と、各自のケースを作成および参照するためのケースへの限定アクセス権を有します。また、次の操作も実行できます。

- 最大で 10 個のカスタムオブジェクトと 10 個のカスタムタブにアクセスする
- コンテンツ、アイデア、およびアンサーを使用する
- 活動、ToDo、カレンダー、および行動を使用する
- 取引先および取引先責任者への「参照のみ」アクセス権を所持する

新しい社内コミュニティ権限セットライセンス

社内コミュニティアドオン権限セットライセンスを使用して、Force.com ユーザライセンスを持つユーザに Salesforce ナレッジへの参照のみアクセス権を付与します。

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

社内コミュニティアドオン権限セットライセンスをユーザに割り当てたら、「ナレッジの参照を許可」権限を権限セットに追加し、その権限セットをユーザに割り当てます。詳細は、Salesforce ヘルプの「権限セットライセンスの割り当て」を参照してください。

Force.com のカスタマイズ

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Webサイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント & クリックツールを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

システム管理者向け **SalesforceA** モバイルアプリケーション

モバイルデバイスからユーザを管理し、Salesforce 組織の情報を参照できます。

User オブジェクトのワークフロー ベータ

User オブジェクトのワークフロールールやワークフローアクションを作成できるようになりました。

[設定] での検索 ベータ

[高度な設定の検索] を使用して、[設定] ページ、[設定] のサイドバーにあるカスタムプロファイル、権限セット、公開グループ、ロール、ユーザを検索できます。

ユーザアカウントの停止

無効の手続きに追加作業を要するユーザアカウントを一時的に停止できます。

全般的な管理

システム管理によって、組織をビジネスニーズに合わせて管理できます。

データ

Force.com プラットフォームを使用すると、データのインポートや履歴の管理を簡単に行えます。

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

ワークフロー、承認、および Visual Workflow には、複雑なビジネスプロセスを自動化および簡略化するためのポイント & クリックツールが備わっています。

セキュリティ

セキュリティを使用して、データとアプリケーションの両方を保護します。

共有

共有により、どのユーザに何が表示されるかについて、さらに詳細に制御できます。

グローバリゼーション

グローバリゼーションツールは、システム管理者が多言語、マルチ通貨、および翻訳されたコンテンツを管理するのに役立ちます。

重要な更新

リリース後まもなく使用可能になる機能には、特殊な準備が必要になる場合があります。

その他のカスタマイズ

軽微なカスタマイズによる機能強化ではありますが、Salesforce がさらに使いやすくなりました。

システム管理者向け SalesforceA モバイルアプリケーション

モバイルデバイスからユーザを管理し、Salesforce 組織の情報を参照できます。

SalesforceA モバイルアプリケーションは、Salesforce システム管理者に高い柔軟性を提供します。SalesforceA では、ユーザの詳細の編集、パスワードのリセット、権限セットの割り当て、ユーザアカウントのロック解除、凍結、および無効化など、重要なユーザ管理タスクをすべてモバイルデバイスから実行できます。

詳細は、「[SalesforceA](#)」(ページ 62)を参照してください。

User オブジェクトのワークフロー — ベータ

User オブジェクトのワークフロールールやワークフローアクションを作成できるようになりました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

ToDo、サイト、およびメールアラートは、**Database.com** では利用できません。

必要なユーザ権限

ワークフロールールとアクションを作成または変更する 「アプリケーションのカスタマイズ」



メモ:

このリリースには、User オブジェクトのワークフローのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。フィードバックや提案を送信する場合は、「[IdeaExchange](#)」に移動してください。

User オブジェクトのサポートにより、次のワークフロールールを設定できます。

- トレーニングリソースを含むお知らせメールを、新しく作成されたユーザに送信する。
- ユーザのロールが変更されたり、無効化されたりすると、メールアラートを送信する。
- 項目自動更新を使用して、指定した期間後に臨時従業員を無効にする。
- アウトバウンドメッセージを使用して、ユーザデータをサードパーティのシステムと同期させる。

User オブジェクトにワークフローがなかったために代用していた Apex トリガに取って代わります。同等のワークフロールールを有効にしたら、これらの Apex トリガを忘れずに削除してください。削除しないと、Apex トリガとワークフロールールの両方が起動し、上書きされた項目の更新や重複したメールメッセージなど、予期しない結果が生じることがあります。

User オブジェクトのワークフローのベータの制限

User オブジェクトのワークフロールールまたはワークフローアクションを作成する前に次の制限を理解しておきます。

- ToDo は、ユーザオブジェクトのワークフローアクションとしてはサポートされません。
- ワークフロールール条件を設定する場合、選択リストを使用して「現在のユーザ」項目を選択することはできません。ただし、数式を使用してルール条件を設定し、現在のユーザの項目を含めることは可能です。数式エディタで「項目の挿入」をクリックして \$User を選択し、項目を選択してから「挿入」をクリックします。
- ワークフロールールが実行される前に、カスタム検証ルールが実行されます。『Force.com Apex コード開発者ガイド』の「トリガと実行の順序」を参照してください。

[設定] での検索 — ベータ

[高度な設定の検索] を使用して、[設定] ページ、[設定] のサイドバーにあるカスタムプロファイル、権限セット、公開グループ、ロール、ユーザを検索できます。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
高度な設定の検索を有効化する	「アプリケーションのカスタマイズ」
設定を検索する	「設定・定義を参照する」



メモ:


- [高度な設定の検索] はベータです。本番品質ではありますが、既知の制限があります。
- Winter '14 以降に組織で使用できますが、組織のグループ、権限セット、プロファイル、ロールデータがインデックス付けされ、検索可能になるまでには数週間かかる可能性があります。この期間中は、すべての可能な結果が検索から返されないことがあります。

[高度な設定の検索] を使用するには、[高度な設定の検索] ユーザインターフェースの設定を有効にします。[設定] から [カスタマイズ] > [ユーザインターフェース] をクリックし、[高度な設定の検索を有効化 (ベータ)] までスクロールします。[高度な設定の検索] が無効な場合は、[設定] ページのみが検索可能です。

[高度な設定の検索] は多目的であり、さまざまな方法で使用できます。

- [設定] ページを検索するには、[設定の検索] ボックスに [設定] ページ名の一部または全部を入力します。このボックスに入力すると、入力中の名前と一致する [設定] ページがすぐに表示されます。ページ名をクリックして開きます。
- カスタムプロファイル、権限セット、公開グループ、ロール、ユーザを検索するには、目的の項目の 2 文字以上連続する文字列を入力して、🔍 をクリックするか Enter キーを押します。表示される [設定の検索結果] ページで、目的の項目をリストから選択します。

たとえば、組織のワークフロールールをすべて表示するとします。「workf」と入力します。文字を入力すると、[設定]メニューが折りたたまれ、検索語と一致するメニューおよびページのみが表示されます。目的のページのリンク ([ワークフロールール]) がすぐに表示されます。

次に、1 人のユーザ (Jane Smith) のパスワードを変更したいとします。「smit」と入力し、 をクリックします。[設定の検索結果] ページで、Jane Smith の結果をクリックして、そのユーザ詳細ページに直接移動します。



ヒント: 設定の検索結果の参照時に Web ブラウザで結果ページをブックマークすると、以降は同じ検索を簡単に実行できます。たとえば、「smit」を頻繁に検索する場合は、結果ページをブックマークすると、同じ検索を再び実行できます。このブックマークの URL は、
<https://MyCompany.salesforce.com/ui/setup/SetupSearchResultsPage?setupSearch=smit> のようになります。

ユーザアカウントの停止

無効の手続きに追加作業を要するユーザアカウントを一時的に停止できます。

使用可能なエディション: **Contact Manager Edition**、**Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

必要なユーザ権限	
ユーザアカウントを凍結する	「ユーザの管理」

場合によっては、アカウントをすぐに無効にできないことがあります (ユーザがカスタム階層関係項目で選択されている場合など)。システム管理者が無効化の手続きをしている間にユーザが組織にログインしないように、ユーザアカウントを凍結できます。たとえば、JoAnn Baker というユーザの退職に伴い当人のアカウントを無効にするとします。しかし、このユーザはカスタム階層関係項目で選択されていたため、項目からアカウントを削除するには追加の手順を踏む必要があります。このアカウントをすぐに無効にできない場合に、当面の間凍結することができます。

ユーザアカウントを凍結する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。
2. アカウントを凍結するユーザの名前をクリックします。
3. [凍結] をクリックします。



メモ: ユーザアカウントを凍結しただけでは、そのユーザライセンスを組織で使用できるようになりません。当人のユーザライセンスを使用可能にするには、ユーザアカウントを無効にする必要があります。

全般的な管理

システム管理によって、組織をビジネスニーズに合わせて管理できます。

権限セットのライセンス

特定の機能へのアクセス権をユーザに付与する権限を割り当てることができます。ただし、一部の権限では、それらの権限を含むいずれかの権限セットにユーザを割り当てるには、それらのユーザが権限セットのライセンスを所有している必要があります。

地理位置情報のパフォーマンス向上

特定の状況で、WHERE 条件内で地理位置情報を使用した検索とクエリのパフォーマンスが向上しました。パフォーマンスの向上を有効にするには、関連する地理位置情報カスタム項目のカスタムインデックスを作成する必要があります。

リッチテキストエリアエディタのコンテキストメニューの変更

リッチテキスト項目エディタのコンテキストメニューの動作が変更されました。これまで、リッチテキスト項目の HTML 編集領域内で右クリックすると、エディタ固有のコンテキストメニューが表示されていました。Winter '14 では、右クリックすると代わりにブラウザのネイティブコンテキストメニューが表示されます。

権限セットのライセンス

特定の機能へのアクセス権をユーザに付与する権限を割り当てることができます。ただし、一部の権限では、それらの権限を含むいずれかの権限セットにユーザを割り当てるには、それらのユーザが権限セットのライセンスを所有している必要があります。

使用可能なエディション: Enterprise Edition 、 Performance Edition 、 Unlimited Edition 、および Developer Edition
--

たとえば、「Identity Connect を使用」権限を含む権限セットにユーザを割り当てるには、そのユーザが Identity Connect 権限セットのライセンスに割り当てられている必要があります。

新しい権限である「Identity Connect を使用」と「セールスコンソール」のみで、権限セットのライセンスが必要です。Winter '14 よりも前に存在していた権限には、権限セットのライセンスは必要ありません。権限セットライセンスは、ユーザ機能ライセンスよりも優先されます。Winter '14 からは、追加ライセンスが求められる新しい機能には、ユーザ機能ライセンスではなく権限セットライセンスが必要になります。この変更は、既存のユーザ機能ライセンスには影響しません。

権限セットのライセンスを購入するには、salesforce.com の担当者までお問い合わせください。権限セットライセンスの割り当て方法を確認するには、「[セールスコンソールユーザ権限セットライセンスの割り当て](#)」(ページ 116)を参照してください。

地理位置情報のパフォーマンス向上

特定の状況で、WHERE 条件内で地理位置情報を使用した検索とクエリのパフォーマンスが向上しました。パフォーマンスの向上を有効にするには、関連する地理位置情報カスタム項目のカスタムインデックスを作成する必要があります。

このパフォーマンス向上を活用できるようにするには、次のような条件があります。

- クエリで使用される地理位置情報カスタム項目を含むレコードが 100,000 件以上ある。

- クエリまたは検索条件が、<、>、または within 演算子を使用して、それらのレコードの地理位置情報と別の位置との距離を計算して比較する。たとえば、顧客の場所から 10 マイル以内 (within) にあるすべての店舗の場所を検索する場合などがあります。
- データ分布での典型的なクエリ結果がデータセット全体と比較すると「小さく」なる。確かな経験則として、典型的なクエリ結果がレコード全体の 10% 未満になるのが理想的です。全体データセットと比較して典型的な結果セットが小さいほど、パフォーマンスの影響が大きくなる可能性があります。

これらは必要条件ですが、地理位置情報項目のインデックスによるパフォーマンス向上を保証するものではありません。パフォーマンスには、実行される特定のクエリ、それらのクエリに対する他のインデックスの影響など、多くの要因が影響を与えます。組織が地理位置情報項目を使用していて、カスタムインデックスを使用したパフォーマンス向上について調査する場合、Salesforce サポートに連絡して組織の利用状況の評価をご依頼ください。カスタムインデックスを追加してパフォーマンスが向上する場合、サポートが地理位置情報カスタム項目にインデックスを追加できます。

例: リストビュー条件

これは、関連する地理位置情報カスタム項目のカスタムインデックスによって効果が見込まれるリストビュー条件の定義です。

このリストビュー定義では、カスタム地理位置情報項目を使用する条件と、within 演算子を使用する条件を指定して、表示を Home Location が 10 マイル以内の取引先責任者に制限しています。このリストビューのパフォーマンスは、Home Location カスタム項目にインデックスを追加することで向上する可能性があります。

例: SOQL クエリ

これは、関連する地理位置情報カスタム項目のカスタムインデックスによって効果が見込まれる SOQL クエリです。

```
SELECT name__c, address__c FROM Warehouses__c
WHERE (DISTANCE(warehouse_location__c, GEOLOCATION(37.775,-122.418), "mi") < 20)
ORDER BY DISTANCE(warehouse_location__c, GEOLOCATION(37.775,-122.418), "mi")
```

WHERE 句は、DISTANCE () 計算が 20 マイル未満のレコードを検索します。他の条件が同じと仮定すると、これは地理位置情報項目のカスタムインデックスの使用候補として非常に適しています。

リッチテキストエリアエディタのコンテキストメニューの変更

リッチテキスト項目エディタのコンテキストメニューの動作が変更されました。これまで、リッチテキスト項目の HTML 編集領域内で右クリックすると、エディタ固有のコンテキストメニューが表示されていました。Winter '14 では、右クリックすると代わりにブラウザのネイティブコンテキストメニューが表示されます。

Salesforce ナレッジのコンテキストメニューでは動作が異なります。右クリックすると、以前と同様に HTML エディタのエディタ固有のコンテキストメニューにアクセスします。ブラウザのネイティブコンテキストメニューにアクセスするには、Ctrl (Mac の command) キーを押しながら右クリックします。

データ

Force.com プラットフォームを使用すると、データのインポートや履歴の管理を簡単に行えます。

[データインポートウィザード — ベータ](#)

[項目履歴データの保持](#)

データインポートウィザード — ベータ

使用可能なエディション: Database.com を除くすべてのエディション

このリリースには、データインポートウィザードのベータバージョンが含まれています。機能は、すべての組織に対して自動的に有効になっています。

データのインポートウィザードには、取引先、取引先責任者、リード、およびソリューションなど、多数の標準 Salesforce オブジェクトをインポートできる統合インターフェースがあります。このウィザードを使用して、カスタムオブジェクトをインポートすることもできます。

この新しいウィザードの使用を開始するには、[設定] から [データの管理] > [データインポートウィザード] をクリックします。



メモ: 取引先、取引先責任者、リード、ソリューション、およびカスタムオブジェクト用の個々のインポートウィザードも、ベータ中に引き続き使用できます。それらの機能は変更されていません。以前のウィザードと新しいウィザードの相違点の一覧については、[インポートウィザードの比較表](#)を参照してください。

項目履歴データの保持

使用可能なエディション: Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

今年初め、salesforce.com は、Summer '13 リリースで、特定の組織 (2011 年 6 月 2 日 12:00 a.m より後に作成された組織) について 18 か月より古い項目履歴データを自動的に削除する機能を有効にすると発表しました。お客様からのフィードバックを受けて、この機能は延期することになりました。Salesforce.com では、項目履歴をより長い期間保持できるサービスを今後提供できるよう取り組んでいます。現時点では、顧客組織から項目履歴データを一切削除していません。

Winter '14 では、項目履歴データ保持のパイロット機能を提供します。この機能は、Salesforce Enterprise Edition と Tooling API を介してのみ使用でき、保持する項目履歴データと、保持する期間の長さを定義することができます。パイロットへの参加についての詳細は、営業担当者またはカスタマーサポートまでお問い合わせください。

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

ワークフロー、承認、および Visual Workflow には、複雑なビジネスプロセスを自動化および簡略化するためのポイント & クリックツールが備わっています。

従来型のデスクトップ Flow Designer に対するサポートの終了

Winter '14 以降、従来のデスクトップ Flow Designer はサポートされません。詳細は、salesforce.com カスタマーサポートにお問い合わせください。

Salesforce1 アプリケーションでの承認

Salesforce1 では、ユーザが承認申請通知を受信し、通知をタップしてシステム管理者が選択した承認ページの項目を参照してから、[承認] または [却下] をタップできます。

すべての承認関連のメールアラートで使用可能になった[承認コメント] 差し込み項目

{!ApprovalRequest.Comments} 差し込み項目は、すべての承認関連メールアラートで使用できます。

承認プロセスあたり 30 個の新しいステップ数制限

承認プロセスあたりの承認ステップの制限数が 15 個から 30 個に増えました。

従来型のデスクトップ Flow Designer に対するサポートの終了

Winter '14 以降、従来のデスクトップ Flow Designer はサポートされません。詳細は、salesforce.com カスタマーサポートにお問い合わせください。

Cloud Flow Designer を使用してフローを作成することをお勧めします。使用を開始する前に、『[Cloud Flow Designer Workbook](#)』および『[Visual Workflow の実装ガイド](#)』を参照してください。

従来のデスクトップ Flow Designer と Cloud Flow Designer の機能および要素の相違点については、『[Flow Designer Matrix](#)』を参照してください。

Salesforce1 アプリケーションでの承認

Salesforce1 では、ユーザが承認申請通知を受信し、通知をタップしてシステム管理者が選択した承認ページの項目を参照してから、[承認] または [却下] をタップできます。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

ユーザは次の操作も実行できます。

- 承認または却下のコメントを登録する。
- レコードの [承認履歴] 関連リストを参照する。

その他すべての承認に関する機能は、現在 Salesforce1 ではサポートされていません。制限事項と Salesforce フルサイトとの違いについては、「[承認での違い](#)」(ページ 59)を参照してください。

すべての承認関連のメールアラートで使用可能になった [承認コメント] 差し込み項目

{!ApprovalRequest.Comments} 差し込み項目は、すべての承認関連メールアラートで使用できます。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

以前は、{!ApprovalRequest.field_name} という名前のすべての承認差し込み項目では、承認割り当てメールテンプレートで使用されている場合にのみ、値が返されました。ワークフロールールや承認プロセスなど、他のメールアラートアクションのテンプレートで承認差し込み項目を使用すると、null が返されていました。

現在は、たとえば要求がいずれかの承認ステップで却下されると、承認者の却下コメントを申請者に対するメールアラートに入れることができます。



メモ: {!ApprovalRequest.Comments} 差し込み項目は、複数の承認者全員からの承認が必要な承認ステップのメールでは、最も最近入力されたコメントのみを返します。

承認プロセスあたり 30 個の新しいステップ数制限

承認プロセスあたりの承認ステップの制限数が 15 個から 30 個に増えました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

制限が緩和されたため、承認プロセスで 30 個を超えるステップが必要な場合を除き、Apex トリガによって一連の承認プロセスを介してレコードを送信するプログラムを使用した回避策を使用する必要はなくなりました。

セキュリティ

セキュリティを使用して、データとアプリケーションの両方を保護します。

RelayState パラメータのデフォルトの変更

SAML 2.0 を使用している場合、RelayState パラメータを使用して、正常なログイン後にユーザをリダイレクトする場所を制御できます。

すべての SAML アサーションが署名されるようになった

SAML レスポンスが、署名付きアサーションに含まれるようになりました。

接続アプリケーションのカスタム属性

以前はサービスプロバイダの SAML 属性として知られていた接続アプリケーションのカスタム属性を使用して、開発者または管理者はユーザ属性を接続アプリケーションに送信できます。

Salesforce アプリケーションの自動インストール

Salesforce アプリケーションは接続アプリケーションとして実装され、組織に自動的にインストールされるようになりました。

接続アプリケーションの OAuth 使用状況ページの更新

接続アプリケーションの OAuth 使用状況ページが再設計され、より多くの機能が提供されるようになりました。

SAML が有効な接続アプリケーションとしてのサービスプロバイダの作成

SAML が有効な接続アプリケーションを作成して、サービスプロバイダを作成します。

ユーザメールアドレスの制限

ユーザの [メール] 項目で許可されるメールアドレスを制限するホワイトリストを定義できます。

セッションおよび ID 確認の表示およびコントロール

ID 確認を有効にすると、有効化されたデバイスの IP アドレスとクライアントブラウザ情報が公開されます。

セッションレベルセキュリティ

ユーザの login メソッドに関連付けられた新しいセキュリティレベルを使用して、特定のタイプのリソースへのアクセスを制限できます。

2 要素認証

Winter '14 では、ID 確認に時間ベースのトークンを使用する 2 要素認証が追加されています。

設定での私のドメインの新しい場所

[設定] から [私のドメイン] ページにアクセスするには、[ドメイン管理] > [私のドメイン] をクリックします。

新しい私のドメインでの ID プロバイダの自動有効化

新しい [私のドメイン] が作成されると、デフォルトでサービスプロバイダが設定されていなくても SAML ID プロバイダが自動的に有効になります。

OpenID 接続認証プロバイダの使用

Amazon、Google、PayPal など、OpenID Connect プロトコルのサーバ側を実装するサードパーティの Web アプリケーションを認証プロバイダとして、Salesforce の組織、ポータル、またはサイトにシングルサインオンでログインできるようになりました。

相互認証

クライアントが開始するサーバ間のセキュアな接続を設定できるようになりました。

Frontdoor.jsp を使用した Salesforce へのログイン

frontdoor.jsp を使用すると、リモートアクセスの Force.com サイトやその他の API インテグレーションなど、カスタムの Web インターフェースから、既存のセッション ID とサーバ URL を使用して Salesforce にアクセスする権限をユーザに付与できます。

ログインページでカスタマイズ可能なブランド設定

背景色、ロゴ、および右フレームの内容を追加して、ログインページの外観をカスタマイズします。

ログインページへの代替 ID プロバイダの追加

ユーザが代替 ID プロバイダを使用してログインページから直接認証できるようにします。

ID ライセンス

Identity ユーザライセンスを持つユーザは、接続アプリケーションと Chatter アプリケーションにアクセスできます。ユーザは、「Identity Features 機能を使用」権限も所有している必要があります。

ID 接続ライセンス

Identity Connect 権限セットのライセンスを使用して、「Identity Connect を使用」権限をユーザに割り当てることができます。Identity Connect によって、Active Directory を統合できます。

RelayState パラメータのデフォルトの変更

SAML 2.0 を使用している場合、RelayState パラメータを使用して、正常なログイン後にユーザをリダイレクトする場所を制御できます。

サービスプロバイダがログインを開始するときのデフォルトの RelayState は / になりました。以前のリリースでは、デフォルトの RelayState は /home/home.jsp でした。

すべての SAML アサーションが署名されるようになった

SAML レスポンスが、署名付きアサーションに含まれるようになりました。

SAML ID プロバイダアサーションが、SAML 応答の残りの部分の署名に使用されるものと同じ証明書で署名されるようになりました。以前のアサーションでは、SAML レスポンスの署名から各自の署名を継承していましたが、個別に署名されていませんでした。

接続アプリケーションのカスタム属性

以前はサービスプロバイダの SAML 属性として知られていた接続アプリケーションのカスタム属性を使用して、開発者または管理者はユーザ属性を接続アプリケーションに送信できます。

開発者は接続アプリケーションの属性を設定できます。管理者はそれらの属性を削除または編集できます。管理者はカスタム属性をさらに追加することもできます。管理者によって追加、編集、または削除された属性は、開発者によって設定された属性を上書きします。

カスタム属性は、すべての接続アプリケーションで使用できます。SAML を使用する場合、属性は SAML 属性ステートメントとして送信されます。OAuth を使用する場合、属性はユーザの ID URL で custom_attributes オブジェクトとして使用できます。

Salesforce アプリケーションの自動インストール

Salesforce アプリケーションは接続アプリケーションとして実装され、組織に自動的にインストールされるようになりました。

接続アプリケーションとしてビルドされる Salesforce アプリケーションは2つの管理対象パッケージ(1つは Chatter 関連アプリケーションでもう1つは Chatter 関連以外のアプリケーション)に配置されていました。管理を容易にするために、組織内のいずれかのユーザがパッケージ内の Salesforce アプリケーションの1つに次のいずれかのアクションを初めて実行したときに、各パッケージが組織に非同期にインストールされます。

- ・ ユーザが接続アプリケーションの OAuth 承認ページにアクセスする
- ・ 接続アプリケーションで、アプリケーションに対して更新トークンフローが実行される

パッケージは、2013 年 9 月 20 日 (金曜日) からインストール可能になる予定です。これらのパッケージは、それらのアプリケーションへのアクセスが行われるタイミングに応じて、異なる時間にインストールされます。つまり、Salesforce 接続アプリケーション (Salesforce for Outlook など) およびそれらのアプリケーションを含むパッケージは自動的にインストールされるため、多くのシステム管理者は何も作業をせずにそれらが組織にインストールされることを確認できます。

接続アプリケーションの OAuth 使用状況ページの更新

接続アプリケーションの OAuth 使用状況ページが再設計され、より多くの機能が提供されるようになりました。更新されたページでは、次の操作を実行できます。

- ・ [アプリケーション情報を参照] をクリックすると、接続アプリケーションの詳細ページに移動します。または、接続アプリケーションがまだインストールされていない場合は、[インストール] をクリックします。
- ・ [ブロック] をクリックすると、接続アプリケーションを使用する現在のすべてのユーザセッションが終了し、すべての新しいセッションがブロックされます。アプリケーションのブロックは永続的ではありません。いつでも [ブロック解除] をクリックして、ユーザがアプリケーションにログインし、アクセスできるようになります。

SAML が有効な接続アプリケーションとしてのサービスプロバイダの作成

SAML が有効な接続アプリケーションを作成して、サービスプロバイダを作成します。

使用可能なエディション: Developer Edition 、 Enterprise Edition 、 Performance Edition 、 Unlimited Edition 、および Database.com Edition
--

[ID プロバイダ] ページからサービスプロバイダを作成することはできなくなりました。代わりに、次の手順を実行します。

1. [設定] で、[作成] > [アプリケーション] をクリックします。
2. [接続アプリケーション] セクションで、[新規] をクリックします。
3. [基本情報] に必要事項を入力して、Web アプリケーション設定で [SAML の有効化] を選択します。

4. 次の項目を指定します。

Entity Id

この値はサービスプロバイダから取得します。組織内の各エンティティ ID は一意にする必要があります。サービスプロバイダから複数のアプリケーションにアクセスする場合、サービスプロバイダを一度のみ定義し、RelayState パラメータを使用して、サインイン後にユーザを適切なアプリケーションに移動させるための URL 値を追加する必要があります。

ACS URL

ACS、つまりアサーションコンシューマサービスでは、URL は SAML サービスプロバイダから取得します。

Subject Type

アプリケーションのユーザ ID を定義するフィールドを指定します。ユーザのユーザ名、統合 ID、ユーザ ID、カスタム属性、またはアルゴリズムを使用して計算された永続 ID などのオプションがあります。

Name ID Format

SAML メッセージで送信される形式属性を指定します。デフォルトで、「unspecified」(未定義) が選択されています。使用する SAML サービスプロバイダによっては、これをメールアドレス、persistent (永続)、または transient (一時) に設定できます。

Issuer

デフォルトで、ID プロバイダの標準発行者が使用されます(組織の[私のドメイン])。SAML サービスプロバイダによって別の値が要求される場合、それをここに指定します。

[開始 URL] フィールドと [サービスプロバイダ証明書] フィールドは省略可能です。

5. [保存] をクリックします。

6. [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックし、アプリケーション名をクリックして、目的のプロファイルか権限セット、またはその両方を選択し、SAML アプリケーションへのアクセス権をユーザに付与します。

サービスプロバイダを定義した後は、[設定] から [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックし、リスト内の接続アプリケーションの名前をクリックすることでサービスプロバイダに関する情報を取得できます。

ユーザメールアドレスの制限

ユーザの [メール] 項目で許可されるメールアドレスを制限するホワイトリストを定義できます。

使用可能なエディション: すべてのエディション	
必要なユーザ権限	
ユーザのメールアドレスを制限する	「ユーザの管理」

メールアドレスをホワイトリストに追加する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[ユーザの管理] > [許可メールドメイン] をクリックします。



メモ: このページが表示されない場合は、salesforce.com の担当者に連絡してページを有効にしてください。

2. [新規許可メールドメイン] をクリックします。
3. [ドメイン] を入力します。

sampledoc.org などの最上位のドメインも、emea.sampledoc.org などのサブドメインも入力できます。

4. [保存] をクリックします。

別のメールドメインをホワイトリストに追加する場合は、この手順を繰り返します。

ホワイトリストにメールドメインを 1 つ以上追加した場合は、新しい各ユーザの [メール] 項目がホワイトリストに登録されたドメインと一致する必要があります。

既存のユーザの [メール] 項目は、ホワイトリストに従う必要はありません。ただし、既存のユーザを編集するときは、[メール] 項目を更新してホワイトリストに登録されたメールドメインと一致させる必要があります。



メモ: メールドメインホワイトリストは、ポータル、コミュニティ、または Chatter 外部ユーザなど、組織外のユーザには適用されません。

セッションおよび ID 確認の表示およびコントロール

ID 確認を有効にすると、有効化されたデバイスの IP アドレスとクライアントブラウザ情報が公開されます。

使用可能なエディション: すべてのエディション

ID 確認は不明なデバイスから送信されるユーザ ID の確認に使用され、認証およびシングルサインオン機能の最上部にセキュリティ層がさらに追加されます。新しい IP アドレスを使用して不明なデバイスからユーザが送信される場合、そのユーザはメール、SMS、またはモバイル認証アプリケーションによって提供される ID 確認コードを提示する必要があります。ユーザの ID 確認作業が完了したら、デバイス (およびクライアントブラウザ) は有効化されているとみなされます。

セッションレベルセキュリティ

ユーザの login メソッドに関連付けられた新しいセキュリティレベルを使用して、特定のタイプのリソースへのアクセスを制限できます。

使用可能なエディション: **Personal Edition**、**Contact Manager Edition**、**Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

必要なユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

「アプリケーションのカスタマイズ」

ユーザの現在のセッションに対する認証 (login) メソッドに関連付けられたセキュリティレベルに基づいて、特定のタイプのリソースへのアクセスを制限できます。デフォルトで、各 login メソッドには Standard または High Assurance という 2 つのセキュリティレベルのいずれかが設定されています。セッションのセキュリティレベルを変更してポリシーを定義することで、指定したリソースを使用できるユーザを High Assurance レベルのユーザのみに限定できます。

デフォルトでは、次のように認証メソッドごとに異なるセキュリティレベルが割り当てられています。

- ユーザ名およびパスワード — Standard
- 代理認証 — Standard
- 2 要素認証 — High Assurance
- 認証プロバイダ — Standard
- SAML — Standard



メモ: SAML セッションに対するセキュリティレベルも、ID プロバイダによって送信される SAML アサーションの `SessionLevel` 属性を使用して指定できます。属性は、`STANDARD` または `HIGH_ASSURANCE` という 2 つの値のいずれかに設定できます。

Login メソッドに関連付けられたセキュリティレベルを変更する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[セキュリティのコントロール] > [セッションの設定] をクリックします。
2. [セッションセキュリティレベル] で、login メソッドを選択します。
3. [追加] または [削除] 矢印をクリックして、login メソッドを適切なカテゴリに移動します。

現在、セッションレベルセキュリティを使用する機能は、接続アプリケーション、レポート、およびダッシュボードのみです。High Assurance を必要とするポリシーをこれらのタイプのリソースに設定して、リソースへのアクセスに使用されるセッションが High Assurance ではない場合に取りられるアクションを指定できます。次の 2 つのアクションがサポートされています。

- ブロックする — 権限が不十分であるというエラーを表示して、リソースへのアクセスがブロックされます。
- セッションレベルを上げる — セッションのセキュリティレベルを High Assurance に上げるために、2 要素認証フローにリダイレクトされます。このフローが正常に完了すると、リソースにアクセスできるようになります。

接続アプリケーションにアクセスするために、High Assurance を必要とするポリシーを設定する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[管理] > [アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] に移動します。
2. 接続アプリケーションの横にある [編集] をクリックします。
3. [高保証セッションが必要です] を選択します。
4. 表示される 2 つのアクションのいずれかを選択します。
5. [保存] をクリックします。

レポートおよびダッシュボードにアクセスするために、High Assurance を必要とするポリシーを設定する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[ビルド] > [カスタマイズ] > [レポート & ダッシュボード] > [アクセスポリシー] に移動します。
2. [高保証セッションが必要です] をクリックします。
3. 表示される 2 つのアクションのいずれかを選択します。
4. [保存] をクリックします。

このセッションレベルは、明示的なセキュリティポリシーが定義された接続アプリケーション、レポート、およびダッシュボードを除き、アプリケーション内のどのリソースにも影響しません。

2 要素認証

Winter '14 では、ID 確認に時間ベースのトークンを使用する 2 要素認証が追加されています。

Salesforce は、サポートされるモバイル認証アプリケーションから時間ベースのトークンを 2 要素認証の形式で使用する、ログイン中および High Assurance セキュリティレベルが要求されているときは常に、ユーザの ID を検証して、サービスへの許可されていないアクセスを防ぎます。

2 要素認証ログイン要件の設定

システム管理者は、Salesforce にログインするときに、各自のモバイルデバイスの認証機能アプリケーションから生成された時間ベースのトークンを入力するようユーザに要求できます。

時間ベースのトークンを使用した API へのアクセス

システム管理者は、「API へのログインの 2 要素認証」権限を設定して、サービスへのアクセスに標準のセキュリティトークンではなく時間ベースのトークンを使用できます。

ID 確認用の時間ベースのトークンの使用

SMS ベースおよびメールベースのログイン検証に加えて、時間ベースのトークンを使用してコンピュータを有効化できるようになりました。

2 要素認証ログイン要件の設定

システム管理者は、Salesforce にログインするときに、各自のモバイルデバイスの認証機能アプリケーションから生成された時間ベースのトークンを入力するようユーザに要求できます。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

必要なユーザ権限	
プロファイルおよびシステム権限を編集する	「ユーザの管理」 および 「アプリケーションのカスタマイズ」

ユーザが Salesforce にログインするときに毎回この検証を要求するには、ユーザプロファイルまたは権限セットの「ユーザインターフェースへのログインの 2 要素認証」権限を選択します。

次回ユーザが Salesforce にログインするときに、時間ベースのトークンの追加を指示するプロンプトが表示されます。ユーザは、ログインするたびに、各自のモバイルアプリケーションから毎回変化するトークンを入力する必要があります。



メモ: ユーザが Salesforce に初めてログインするときは、確認コードを要求されません。

ユーザがアカウントに時間ベースのトークンを追加した後は、コンピュータを有効にするときもそのトークンを使用して各自の ID を確認できます。パートナーポータルとカスタマーポータルのユーザは、ログインを行うためにコンピュータをアクティベートする必要はありません。

時間ベースのトークンを使用した API へのアクセス

システム管理者は、「API へのログインの 2 要素認証」権限を設定して、サービスへのアクセスに標準のセキュリティトークンではなく時間ベースのトークンを使用できます。

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

必要なユーザ権限	
プロファイルおよびシステム権限を編集する	「ユーザの管理」 および 「アプリケーションのカスタマイズ」

ユーザがアカウントに時間ベースのトークンを追加し、ユーザプロファイルまたは権限セットの「API へのログインの 2 要素認証」権限が有効になっている場合は、アカウントのパスワードのリセット時など、要求されたときに必ず標準のセキュリティトークンではなく時間ベースのトークンを使用する必要があります。



メモ: 「ユーザインターフェースへのログインの 2 要素認証」権限は「API へのログインの 2 要素認証」権限の前提条件のため、この機能が有効なときは、ユーザが Salesforce へのログイン時にユーザインターフェースを使用して時間ベースのトークンを追加する必要があります。

ID 確認用の時間ベースのトークンの使用

SMS ベースおよびメールベースのログイン検証に加えて、時間ベースのトークンを使用してコンピュータを有効化できるようになりました。

使用可能なエディション: すべてのエディション

すべてのユーザは、モバイル認証アプリケーションを使用してアカウントに時間ベースのトークンを追加できます。不明な IP アドレスからログインする場合など、ユーザが ID を確認するように要求される場合には常に、モバイルアプリケーションからの変化する時間ベースのトークンを使用できます。

1. 使用しているモバイルデバイスのタイプに応じて、[サポートされる認証アプリケーション](#)をダウンロードします。
2. Salesforce のユーザ詳細ページから、[時間ベースのトークン] の横にある [追加] をクリックします。
3. セキュリティ上の理由で、アカウントにログインするように要求されます。
4. モバイルデバイスで、認証アプリケーションを使用して QR コードをスキャンします。
あるいは、ユーザ名と、[QR コードをスキャンできませんか?] をクリックすると表示されるキーをアプリケーションに手動で入力することもできます。
5. モバイルアプリケーションから生成されたトークンを、Salesforce の [トークン] フィールドに入力します。

認証アプリケーションによって、新しいトークンが 30 秒ごとに生成されます。

6. [確認して追加] をクリックします。

設定での私のドメインの新しい場所

[設定] から [私のドメイン] ページにアクセスするには、[ドメイン管理] > [私のドメイン] をクリックします。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

以前は、[設定] からのパスは [組織プロファイル] > [私のドメイン] でした。

新しい私のドメインでの ID プロバイダの自動有効化

新しい [私のドメイン] が作成されると、デフォルトでサービスプロバイダが設定されていなくても SAML ID プロバイダが自動的に有効になります。

使用可能なエディション: **Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

以前は、管理者がセキュリティコントロール設定にアクセスして ID プロバイダを有効にする必要がありました。この変更は、既存の [私のドメイン] には影響しません。

OpenID 接続認証プロバイダの使用

Amazon、Google、PayPal など、OpenID Connect プロトコルのサーバ側を実装するサードパーティの Web アプリケーションを認証プロバイダとして、Salesforce の組織、ポータル、またはサイトにシングルサインオンでログインできるようになりました。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
設定を参照する	「設定・定義を参照する」
設定を編集する	「アプリケーションのカスタマイズ」 および 「認証プロバイダの管理」

認証プロバイダを指定するには、[設定] から [セキュリティのコントロール] > [認証プロバイダ] をクリックします。

相互認証

クライアントが開始するサーバ間のセキュアな接続を設定できるようになりました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

Salesforce によって、受信接続で相互に認証されるトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) がサポートされるようになりました。これにより、クライアント認証証明書を使用してクライアントが開始するサーバ間のセキュアな接続が可能になります。つまり、クライアントとサーバの両方が、それぞれが示す身元をお互いに認証および検証できます。以前は、相互に認証される SSL/TLS 接続を使用してアウトバウンドコールを保護する機能のみがサポートされていました。

この機能には、次が含まれています。

- データベースにアップロードおよび保存され、検証用に使用されるクライアント証明書。
- 標準の TLS ポートへ戻るのを回避するメカニズム。
- Salesforce が信頼する認証機関 (CA) によって署名された証明書を追加する機能。

相互認証を設定するには、組織のシステム管理者と API クライアントのマネージャの両方によるアクションが必要です。

管理者のアクション

1. 組織の相互認証を有効にするように、salesforce.com に依頼します。
2. Salesforce への相互認証された TLS 接続を確立するときに、API クライアントによって示されるクライアント証明書に対する証明書署名要求 (CSR) が生成されます。このクライアント証明書は、salesforce.com が信頼するいずれかのルート認証機関によって署名されていることが重要です。認証機関のリストは、[「Outbound Messaging SSL CA Certificates」](#)にあります。
3. 証明書が署名されたら、[セキュリティのコントロール] > [証明書と鍵の管理] へ移動してその証明書を組織にアップロードします。受信相互認証された TLS 接続を開始するときにクライアントによって提示されるクライアント証明書を Salesforce が適切に検証できるように、署名されたクライアント証明書を相互認証証明書の表にアップロードします。
4. API クライアントユーザに対して、SSL/TLS 相互認証を強制するユーザ権限を有効にします。この権限により、セキュアな接続にポート 8443 を使用することが強制されます。

この権限はプロファイルに追加することも、権限セットを使用して個々のユーザに割り当てることもできます。

API クライアントマネージャのアクション

API クライアントがポート 8443 に接続し、クライアント証明書を提示するように設定します。この設定プロセスは各環境によって内容が非常に異なるため、salesforce.com によって管理されるものではありません。salesforce.com に完全な証明書チェーン (root > intermediate > client) が提示され、証明書が適切に検証されるように、クライアントを設定する必要があります。

組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

Frontdoor.jsp を使用した Salesforce へのログイン

frontdoor.jsp を使用すると、リモートアクセスの Force.com サイトやその他の API インテグレーションなど、カスタムの Web インターフェースから、既存のセッション ID とサーバ URL を使用して Salesforce にアクセスする権限をユーザに付与できます。

使用可能なエディション: すべてのエディション

frontdoor.jsp でユーザを認証するには、サーバ URL とセッション ID を次の形式で frontdoor.jsp に渡す必要があります。

```
https://instance.salesforce.com/secur/frontdoor.jsp?sid=session_ID&retURL=optional_relative_url_to_open
```

インスタンス

ユーザの組織のインスタンスを把握している必要があります。たとえば、API 経由でログインしたときに返される `serverUrl` が `https://na1.salesforce.com` の場合は、`na1` がインスタンスです。サーバアドレス (`salesforce.com` ドメイン名) の残りの部分は変わりません。

1つの Salesforce 組織のインテグレーションを構築している場合は、この値をハードコード化できます。複数の組織のインテグレーションを構築している場合は、SOAP API `login()` コールによって返される `LoginResult` の `serverUrl` からインスタンスを解析します。

セッション ID

セッション ID は次から取得できます。

- OAuth 認証の `access_token`



ヒント: 接続アプリケーションの作成時に指定した範囲の 1 つが、`web` または `full` でなければなりません。

- SOAP API `login()` コールで返される `LoginResult`
- `Apex UserInfo.getSessionId()`

frontdoor.jsp では、Visualforce `{!GETSESSIONID() }` を使用して返されるセッション ID は使用できません。

サイトを開くための相対 URL

ユーザを Salesforce ユーザインターフェース、または特定のレコード、オブジェクト、レポート、Visualforce ページ (`/apex/MyVisualforcePage` など) にリダイレクトするために、必要に応じて URL にエンコードされた相対パスを含めることができます。

ログインページでカスタマイズ可能なブランド設定

背景色、ロゴ、および右フレームの内容を追加して、ログインページの外観をカスタマイズします。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

必要なユーザ権限	
ログインページをカスタマイズする	「アプリケーションのカスタマイズ」

ログインページをカスタマイズして自社のブランドに関連付けると、ユーザがページを見覚えやすくなります。

1. [設定]から[ドメイン管理]>[私のドメイン]をクリックします。
2. [編集]をクリックします。
3. ロゴをカスタマイズするには、画像をアップロードします。
画像には、最大 100 KB の .jpg、.gif、または .png ファイルを使用できます。最大サイズは 250px × 125px です。
4. ログインページの背景をカスタマイズするには、カラーピッカーを選択するか、有効な 16 進数の色コードを入力します。
5. ログインページの右側の iframe に入れる URL を入力します。
SSL 暗号化と https:// 接頭辞を使用する URL にコンテンツを配置する必要があります。コンテンツの最大サイズは 478px × 397px です。
6. オプションで、ログインページに含める追加認証サービスを選択します。
7. [保存]をクリックします。

ログインページへの代替 ID プロバイダの追加

ユーザが代替 ID プロバイダを使用してログインページから直接認証できるようにします。

使用可能なエディション: Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

必要なユーザ権限	
ログインページに ID プロバイダを追加する	「アプリケーションのカスタマイズ」

シングルサインオンを有効にして SAML を設定していたか、外部認証プロバイダを設定していた場合、ログインページでそれらの代替 ID プロバイダへのリンクを提供できます。ユーザは代替 ID プロバイダのログイン画面に送信されて認証された後、Salesforce にリダイレクトされます。ID プロバイダは、ログインページをカスタマイズして追加できます。



メモ: Janrain を除き、[セキュリティ]>[シングルサインオン設定] および [セキュリティ]>[認証プロバイダ] に設定されているすべてのプロバイダを認証サービスとして使用できます。ログインページで Janrain ログインウィジェットを使用できるようにするには、カスタムログイン画面を作成する必要があります。

SAML ID プロバイダを使用可能な認証サービスとして取り入れるには、組織に対して複数の SAML 設定を有効にする必要があります。[設定] から [セキュリティ]>[シングルサインオン設定] に移動し、[複数の設定を有効化] をクリックします。

1. [設定] で、[ドメイン管理]>[私のドメイン]をクリックします。
2. [編集]をクリックします。
3. ID プロバイダとして、1 つ以上の認証サービスを選択します。

4. [保存] をクリックします。

ID ライセンス

Identity ユーザライセンスを持つユーザは、接続アプリケーションと Chatter アプリケーションにアクセスできます。ユーザは、「Identity Features 機能を使用」権限も所有している必要があります。

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

トライアル Enterprise Edition 組織または新しい Developer Edition 組織ごとに 10 個の無償の Identity ユーザライセンスが含まれています。

接続アプリケーションと Chatter アプリケーションをインストールした後、管理者はプロフィールと権限セットの割り当てを行って、Identity ライセンスユーザにアクセス権を付与できます。

[「Identity ライセンスユーザのアプリケーションランチャー」](#) (ページ 246) も参照してください。

ID 接続ライセンス

Identity Connect 権限セットのライセンスを使用して、「Identity Connect を使用」権限をユーザに割り当てることができます。Identity Connect によって、Active Directory を統合できます。

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

トライアル Enterprise Edition 組織ごとに 10 個の無償の Identity Connect ユーザライセンスが含まれています。

Identity Connect 権限セットのライセンスをユーザに割り当てると、「Identity Connect を使用」権限が権限セットに追加され、その権限セットがユーザに割り当てられます。詳細は、Salesforce ヘルプの「権限セットライセンスの割り当て」を参照してください。

共有

共有により、どのユーザに何が表示されるかについて、さらに詳細に制御できます。

[ユーザ共有 — 正式リリース](#)

標準の共有機能を使用して、組織の誰が誰を参照するかを制御します。

[共有ルールに関する新しい\[説明\] 項目](#)

共有ルールを使いやすくするための説明を表示します。

[マネージャグループとのレコードの共有](#)

共有ルールまたは共有の直接設定を使用して、管理チェーンの上位または下位に移動するレコードを共有します。

外部組織の共有設定 — パイロット

外部ユーザの組織の共有設定は「非公開」のままで、内部ユーザの共有オーバーヘッドをなくします。

並列処理による組織の共有設定の更新 — パイロット

大規模な組織の共有設定の更新処理にかかる時間が短縮されます。

共有ルールの非同期再適用 — パイロット

共有ルールを作成および更新するときに、共有の再適用に要する時間を短縮します。

並列再適用の監視

並列処理による再適用の進行状況を監視します。

共有取引先の取引先責任者の表示

カスタマーポータルユーザは、取引先責任者オブジェクトが「親レコードに連動」に設定されている場合、他のポータル取引先責任者にアクセスできます。

ユーザ共有 — 正式リリース

標準の共有機能を使用して、組織の誰が誰を参照するかを制御します。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

ユーザ共有では、内部ユーザまたは外部ユーザを組織内の別のユーザから表示または非表示にできます。以前は、外部ユーザのユーザ共有はコミュニティでデフォルトで有効で、内部ユーザのユーザ共有はパイロットプログラムで使用可能でした。

Winter '14 では、新しい組織でユーザ共有が自動的に有効になります。次の操作が可能です。

- ・ ユーザレコードの組織の共有設定を [非公開] または [公開/参照のみ] に設定する。
- ・ グループメンバーシップまたはその他の条件に基づくユーザ共有ルールを作成する。
- ・ ユーザレコードの共有の直接設定を作成して、個々のユーザまたはグループにアクセスできるようにする。
- ・ カスタマーポータル、パートナーポータル、およびコミュニティでの外部ユーザの表示を制御する。

既存の組織がユーザ共有を有効にする場合は、salesforce.com にお問い合わせください。

組織がユーザ共有を使用するのはどのような場合でしょうか。たとえば、メーカーの場合、すべての販売店を組織に参加させる必要がある一方で、販売店同士が参照したり連絡を取り合ったりしないようにすることが考えられます。この場合は、ユーザオブジェクトの組織の共有設定を [非公開] に設定します。続いて、共有ルールや共有の直接設定を使用して、組織内で参照し合ったり連絡を取り合ったりする必要のある販売店間でアクセスできるようにします。あるいは、組織の全員を参照する必要のあるユーザに「すべてのユーザの参照」権限を割り当てることもできます。

誰に対するアクセス権があるかを確認するには、[設定] から [ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。



メモ: 自分にはアクセス権のないユーザが所有するレコードへのアクセス権がある場合、所有者の名前にマウスポインタを置いたときに、権限が不十分である旨のエラーが表示されます。同様に、Chatter では、ユーザへのアクセス権を失うと、そのユーザに @ メンションすることができません。ユーザ名の上

にマウスを置くことで完全なプロファイルを表示したり、ユーザプロフィールページを表示したりすることはできません。ただし、Chatter グループまたは会話スレッドが同じ場合、そのユーザに @ メンションできます。

ユーザ共有について

組織の共有設定、ユーザ共有ルール、共有の直接設定、権限を組み合わせて、ユーザ共有を実装します。

ユーザレコードの組織の共有設定

ユーザオブジェクトへのアクセスを開設する前に、そのオブジェクトに組織の共有設定を実行します。

ユーザ共有ルールの作成

あるグループのメンバーを別のグループと共有したり、条件に基づいてユーザを共有したりします。

ユーザレコードへのアクセスの許可

ユーザを有効にして表示およびやりとりするためのアクセス権をユーザに付与します。

チームへのユーザ共有の表示

営業チームを使用した場合、表示を詳細に制御できます。

標準レポートの表示の制御

ユーザがアクセス権を持っていないユーザのデータを公開している可能性のある標準レポートを表示または非表示にします。

ユーザ共有について

組織の共有設定、ユーザ共有ルール、共有の直接設定、権限を組み合わせて、ユーザ共有を実装します。

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

ユーザ共有を使用すると、内部および外部のユーザレコードに組織の共有設定を指定できます。その後、メンバーシップに基づく共有ルールを使用して、アクセス権を公開グループ、ロール、またはテリトリーに拡張したり、共有の直接設定を使用して個々のユーザレコードを他のユーザやグループと共有したりすることができ

ます。

ユーザ共有を有効にすると、ユーザに他のユーザに対する参照アクセス権がある場合に限り、検索やリストビューなどでそのユーザを参照できます。

組織でユーザ共有を実装する前に、次の考慮事項を確認してください。

「すべてのユーザの参照」権限

この権限は、共有の設定に関係なく、すべてのユーザへの参照アクセス権が必要なユーザに付与できます。すでに「ユーザの管理」権限がある場合は、「すべてのユーザの参照」権限が自動的に付与されています。

ユーザレコードの組織の共有設定

この設定のデフォルトは、外部ユーザに対しては [非公開] で、内部ユーザに対しては [公開/参照のみ] です。デフォルトのアクセス権が [非公開] に設定されている場合、ユーザは各自のユーザレコードのみ表示

および編集できます。ロール階層で部下を持つユーザは、その部下のユーザレコードへの参照アクセス権限を保持します。

ユーザ共有ルール

全般的な共有ルールに関する考慮事項がユーザ共有ルールにも適用されます。ユーザ共有ルールは、公開グループ、ロール、またはテリトリーへのメンバーシップに基づいています。各共有ルールでは、共有元グループのメンバーが共有先グループのメンバーと共有されます。共有ルールを作成する前に、適切な公開グループ、ロール、またはテリトリーを作成する必要があります。ユーザはロール階層内で自分より下位のユーザと同じアクセス権を継承します。

ユーザレコードの共有の直接設定

共有の直接設定では、個々のユーザの参照または編集アクセス権を付与できますが、付与するアクセス権が対象ユーザのデフォルトのアクセス権よりも高い場合に限られます。ユーザはロール階層内で自分より下位のユーザと同じアクセス権を継承します。Apex 管理共有はサポートされていません。

外部ユーザのユーザ共有

「外部ユーザの管理」権限を持つユーザには、ユーザレコードの共有ルールや組織の共有設定に関係なく、パートナーリレーションの管理、カスタマーサービス、およびカスタマーセルフサービスポータルユーザの外部ユーザレコードへのアクセス権があります。「外部ユーザの管理」権限では、ゲストまたは Chatter 外部ユーザへのアクセス権は付与されません。

ユーザ共有の互換性

ユーザオブジェクトの組織の共有設定が [非公開] に設定されている場合、ユーザ共有はこれらの機能を完全にはサポートしません。

- 外部ユーザは、Chatter Messenger を使用できません。これは、ユーザオブジェクトの組織の共有設定が [公開/参照のみ] に設定されている場合にのみ、内部ユーザが使用できます。
- カスタマイズブル売上予測: 「すべての売上予測の参照」権限を持つユーザは、自分がアクセス権を持っていないユーザを表示できます。
- Salesforce CRM Content: ライブラリを作成できるユーザは、ライブラリメンバーを追加するときに、自分がアクセス権を持っていないユーザを表示できます。
- 標準レポートタイプ: 標準レポートのタイプに基づく一部のレポートで、ユーザがアクセス権を持っていないユーザのデータを公開します。詳細は、「[標準レポートの表示の制御](#)」を参照してください。

ユーザレコードの組織の共有設定

ユーザオブジェクトへのアクセスを開設する前に、そのオブジェクトに組織の共有設定を実行します。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
デフォルトの共有アクセス権を設定する	「ユーザの管理」

ユーザレコードに対して、組織の共有設定を [非公開] または [公開/参照のみ] に設定できます。レコードを表示してはいけないユーザが 1 人でもいる場合は、このデフォルトを [非公開] に設定する必要があります。

組織に、内部ユーザ(従業員と営業エージェント)と、さまざまな営業エージェントやポータル取引先の下に外部ユーザ(顧客/ポータルユーザ)がいて、次の要件があるとしてします。

- ・ 従業員は全員を表示できる。
- ・ 営業エージェントは従業員、他のエージェント、および自分の顧客のユーザレコードのみを表示できる。
- ・ 顧客は、同じエージェントまたはポータル取引先の下にいる他の顧客のみを表示できる。

これらの要件を満たすために、デフォルトの外部アクセス権を [非公開] に設定し、共有ルール、共有の直接設定、ユーザ権限を使用してアクセス権を拡張します。

この機能が最初に有効化されるとき、外部ユーザのデフォルトのアクセス設定は非公開になっています。内部ユーザのデフォルトは、[公開/参照のみ] です。ユーザオブジェクトへの外部アクセス権の組織の共有設定を変更する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックします。

2. [組織の共有設定] エリアで [編集] をクリックします。

3. ユーザレコードに使用するデフォルトの内部および外部のアクセス権を選択します。

デフォルトの外部アクセス権の制限は、デフォルトの内部アクセス権以上にする必要があります。

4. [保存] をクリックします。

ユーザは、ロール階層が下位のユーザレコードへの参照アクセス権と、自身のユーザレコードへの完全アクセス権を保持します。

ユーザ共有ルールの作成

あるグループのメンバーを別のグループと共有したり、条件に基づいてユーザを共有したりします。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
共有ルールを作成する	「ユーザの管理」

ユーザ共有ルールは、公開グループ、ロール、テリトリーへのメンバーシップ、または部署や役職などの他の条件に基づいて作成できます。デフォルトでは、最大で 300 件のユーザ共有ルールを定義し、条件に基づく共有ルールを最大で 50 件含めることができます。これらの制限の引き上げに関する情報は、Salesforce.com までお問い合わせください。

メンバーシップに基づくユーザ共有ルールでは、あるグループのメンバーに属するユーザレコードを別のグループのメンバーと共有できます。メンバーシップに基づくユーザ共有ルールを作成する前に、適切なグループが作成されていることを確認します。

ユーザはロール階層内で自分より下位のユーザと同じアクセス権を継承します。

1. [設定] で、[セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックします。

2. [ユーザ共有ルール] 関連リストで、[新規] をクリックします。

3. [表示ラベル名] を入力して [ルール名] 項目をクリックすると、自動的に入力が行われます。

4. [説明] を入力します。この項目は、共有ルールについて説明します。省略可能で、1000 文字まで入力できます。

5. ルールタイプを選択します。
6. 選択したルールタイプに応じて、次の手順を実行します。
 - a. グループメンバーシップに基づく — あるグループのメンバーであるユーザを別のグループのメンバーと共有できます。[次のメンバーであるユーザ] 行で、最初のドロップダウンリストからカテゴリを選択し、次のドロップダウンリスト (または、組織に 200 を超えるグループ、ロール、テリトリーがある場合は参照項目) からユーザセットを選択します。
 - b. 条件に基づく — 共有ルールに含めるためにレコードが一致する必要がある [項目]、[演算子]、[値] 条件を指定します。使用可能な項目は、選択したオブジェクトによって異なり、値は常に数字か文字列です。各検索条件間のリレーションであるデフォルトの AND 条件を変更するには、[検索条件ロジックを追加...] をクリックします。
7. [共有先] 行では、ユーザレコードへのアクセス権を与えるグループを指定します。最初のドロップダウンリストからカテゴリを選択し、次のドロップダウンリストまたは参照項目からユーザセットを選択します。
8. ユーザの共有アクセス設定を選択します。

アクセス権の設定	説明
参照のみ	レコードを参照することはできますが、更新はできません。リストビュー、ルックアップ、検索の対象ユーザを参照することや、Chatter で対話することができます。
参照・更新	レコードの参照と更新ができます。

ユーザレコードへのアクセスの許可

ユーザを有効にして表示およびやりとりするためのアクセス権をユーザに付与します。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
自分のユーザレコードへのアクセスを許可する	自分と共有するユーザに対する「参照」
その他のユーザレコードへのアクセスを許可する	「ユーザの管理」

ユーザはユーザレコードへのアクセスを手動で許可できるため、他のユーザはそれらを表示できます。ユーザはロール階層内で自分より下位のユーザと同じアクセス権を継承します。

ユーザレコードにアクセス権を付与すると、ユーザの詳細ページが他のユーザに表示され、ルックアップ、リストビュー、検索などでユーザが表示されるようになります。

他のユーザがユーザレコードにアクセスできない場合、ユーザレコードを手動で共有するか、組織全体のデフォルト、共有ルール、またはロール階層を介して共有できます。複数の方法でアクセス権を取得した場合は、最も高いアクセスレベルが保持されます。共有の直接設定を使用して大規模ポータルユーザを他のユーザと共有することはできませんが、共有ルールに含めることはできません。

ユーザレコードへのアクセスを許可する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。共有するユーザ名をクリックします。
2. [ユーザの詳細] ページで、[共有] をクリックします。
3. [追加] をクリックします。
4. ドロップダウンリストから、共有するグループ、ユーザ、ロール、またはテリトリーを選択します。
5. ユーザを [共有先] リストに追加して、アクセスを許可するユーザを選択します。
6. 共有するレコードに対するアクセスレベルを選択します。

ユーザの組織の共有設定に応じて、[参照・更新] や [参照のみ] などの値を選択します。組織の共有設定より高いアクセス権のみを付与できます。

7. [保存] をクリックします。

レコードアクセスを編集または削除するには、レコードの [共有] をクリックして、共有の直接設定の横にある [編集] または [削除] をクリックします。組織の共有設定が [公開/参照のみ] に設定されている場合、共有の直接設定での有効なアクセス権は [参照・更新] のみであるため、[編集] オプションは表示されない可能性があります。

チームへのユーザ共有の表示

営業チームを使用した場合、表示を詳細に制御できます。

Winter '14 では、ユーザ共有を使用する組織には、取引先チーム、商談チーム、およびケースチームを使用した場合に次の変更が適用されます。

- ユーザへの「参照」アクセス権がある場合、それらのユーザをチーム (デフォルトチームを含む) に追加することのみできます。
- デフォルトチームメンバーへのアクセス権を失った場合、そのチームメンバーのレコードと名前は表示されますが、完全なプロファイルは表示されません。
- ユーザへの「参照」アクセス権がない場合でも、すべてのデフォルトチームメンバーを削除できます。

標準レポートの表示の制御

ユーザがアクセス権を持っていないユーザのデータを公開している可能性のある標準レポートを表示または非表示にします。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
標準レポートの表示を設定する	「ユーザの管理」

ユーザがアクセス権を持っていないユーザのデータを公開している可能性のある標準レポートのタイプに基づいて、それらのユーザがレポートを表示できるかどうかを制御できます。ユーザ共有が最初に有効になっている場合、表示しているユーザがアクセス権を持っていないユーザのデータが含まれているすべてのレポートは非表示になっています。

レポートの表示を有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] から [セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックします。
2. [組織の共有設定] 領域で [編集] をクリックします。
3. [標準レポート表示] チェックボックスをオンにすると、ユーザがアクセス権を持っていないユーザのデータを公開している可能性のある標準レポートのタイプに基づいて、それらのユーザがレポートを表示できるようになります。あるいは、これらのレポートを非表示にする場合は、このチェックボックスをオフにします。
4. [保存] をクリックします。

ユーザオブジェクトの組織の共有設定が [非公開] になっている場合にこのチェックボックスをオンにすると、表示しているユーザは、レポートでアクセス権を持っていないユーザの名前のみを表示することができます。ユーザ名や電子メールなどのユーザの詳細は表示されません。

[標準レポート表示] チェックボックスをオフにしても、「すべてのユーザの参照」権限を持っているユーザは標準レポートのタイプに基づいてすべてのレポートを表示できます。また、ユーザオブジェクトの組織の共有設定が [公開/参照のみ] に設定されている場合、すべてのユーザはこれらのレポートを表示できます。

共有ルールに関する新しい [説明] 項目

共有ルールを使いやすくするための説明を表示します。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Database.com Edition

共有ルールを作成または編集するときに、[表示ラベル名] 項目と [ルール名] 項目の下の [説明] 項目に共有ルールの説明を入力または更新できるようになりました。この項目の最大文字数は 1000 字です。

[説明] 項目は、SOAP API およびメタデータ API を使用して入力または更新することもできます。

マネージャグループとのレコードの共有

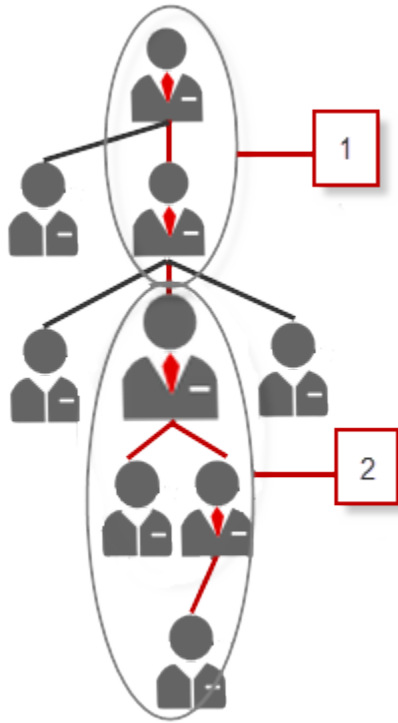
共有ルールまたは共有の直接設定を使用して、管理チェーンの上位または下位に移動するレコードを共有します。

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition



メモ: マネージャグループは、組織で自動的に有効化されません。マネージャグループの有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

ロール階層は、ユーザが組織のデータを参照できるレベルを制御します。Winter '14 では、ロール階層に基づく同一ロール内のすべてのマネージャの代わりに、マネージャグループを使用して管理チェーンとレコードを共有できます。マネージャグループは、共有の直接設定または共有ルールなど、他のグループが使用されているすべての場所で使用できます。ただし、他のグループに追加することはできず、ポータルユーザを含むことはできません。マネージャグループには、標準ユーザおよび Chatter 限定ユーザのみを含めることができます。



すべてのユーザには、2つのマネージャグループがあります。

1. マネージャグループ: 直属マネージャおよび間接マネージャ
2. マネージャ部下グループ: 自分と自分の直属部下および間接部下

ユーザのマネージャが誰であるかを確認するには、[設定] から [ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。ユーザの名前をクリックします。ユーザ詳細ページの [マネージャ] 項目にそのユーザのマネージャが表示されます。

マネージャグループでは、共有の直接設定、共有ルール、Apex による共有管理を介してこれらのグループとレコードを共有できます。Apex 共有の理由はサポートされていません。

たとえば、組織の共有設定が「非公開」に設定されたパフォーマンスレビューのカスタムオブジェクトがあるとしたします。[階層を使用したアクセス許可] チェックボックスをオフにすると、レビューレコードを所有する従業員のみがそのオブジェクトを表示および編集できます。管理チェーンの上位のレビューを共有するには、管理者がユーザのマネージャグループと共有する共有ルールを作成します。または、その従業員が共有の直接設定を使用してマネージャグループとレビューレコードを共有します。

無効ユーザはそのユーザが属するグループ内にそのまま残りますが、関連するすべての共有ルールと共有の直接設定はグループ内で保持されます。



メモ: 組織でユーザ共有が有効化されている場合、自分がアクセスできないユーザは表示されません。また、特定のユーザへのアクセス権がないクエリ実行ユーザは、そのユーザのグループをクエリできません。

外部組織の共有設定 — パイロット

外部ユーザの組織の共有設定は「非公開」のままで、内部ユーザの共有オーバーヘッドをなくします。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**



メモ: 外部組織の共有設定は、パイロットプログラムで使用できます。組織のこの機能の有効化の詳細については、salesforce.com にお問い合わせください。

以前は、外部組織の共有設定はカスタムオブジェクトおよびユーザのみで使用できました。後者は、「[ユーザ共有](#)」の一部として提供されています。Winter '14 では、取引先、ケース、取引先責任者、商談でも外部組織の共有設定を使用できます。

Object	1 — Default Internal Access	2 — Default External Access
Lead	Private	Private
Account, Contract and Asset	Public Read Only	Private
Contact	Public Read Only	Private
Opportunity	Public Read Only	Private
Case	Public Read Only	Private
Campaign	Public Full Access	Public Full Access
User	Public Read Only	Private

1. デフォルトの内部アクセス権
2. デフォルトの外部アクセス権

外部ユーザには次のユーザが含まれます。

- 認証 Web サイトユーザ
- Chatter 外部ユーザ
- カスタマーポータルユーザ
- ゲストユーザ
- 大規模ポータルユーザ
- パートナーポータルユーザ
- Service Cloud ポータルユーザ

外部組織の共有設定なしでは、社内ユーザに「公開/参照のみ」または「公開/参照・更新可能」アクセスを与えて、外部ユーザには非公開にする場合、デフォルトのアクセスを非公開にして、すべての社内ユーザとレコードを共有する共有ルールを作成する必要がありました。

個別の組織の共有設定では、[デフォルトの内部アクセス権] を [公開/参照のみ] または [公開/参照・更新可能] に、また [デフォルトの外部アクセス権] を [非公開] に設定することで、共有ルールを追加せずに類似する動作を実現することができます。デフォルトの内部アクセス権を [公開/参照のみ] または [公開/参照・更新可能] に設定することによっても、レポート、リストビュー、検索、および API クエリのパフォーマンスを向上できます。

外部組織の共有設定の設定

外部組織の共有設定を使用して、外部ユーザに異なるデフォルトのアクセス権を設定できます。

外部組織の共有設定の無効化

外部組織の共有設定を無効にすると、それぞれのオブジェクトに 1 つの組織の共有設定が指定されます。

外部組織の共有設定の設定

外部組織の共有設定を使用して、外部ユーザに異なるデフォルトのアクセス権を設定できます。

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
デフォルトの共有アクセス権を設定する	「ユーザの管理」



メモ: 外部組織の共有設定は、パイロットプログラムで使用できます。組織のこの機能の有効化の詳細については、salesforce.com にお問い合わせください。

外部組織の共有設定を設定する前に、それが有効であることを確認します。[設定] から、[セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックし、[外部共有モデルを有効化] ボタンをクリックします。

外部組織の共有設定を最初に有効にしていると、[デフォルトの内部アクセス権] と [デフォルトの外部アクセス権] は元のデフォルトアクセス権に設定されます。たとえば、取引先責任者の組織の共有設定が [非公開] である場合、[デフォルトの内部アクセス権] と [デフォルトの外部アクセス権] も [非公開] になります。

オブジェクトの外部組織の共有設定を設定する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で [セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックします。
2. [組織の共有設定] 領域で [編集] をクリックします。
3. オブジェクトごとに、使用するデフォルトアクセス権を選択します。

次のアクセス権を割り当てることができます。

アクセスレベル	説明
親レコードに連動	ユーザは、関連するすべての主レコードでアクション (表示、編集、削除など) を実行できる場合は、主従関係の従の側のレコードに対しても同じアクションを実行できます。
非公開	所有権、権限、ロール階層、共有の直接設定、または共有ルールによってアクセス権が付与されているユーザのみが、レコードにアクセスできます。
公開/参照のみ	すべてのユーザがオブジェクトのすべてのレコードを表示できます。

アクセスレベル	説明
公開/参照・更新可能	すべてのユーザがオブジェクトのすべてのレコードを表示および編集できます。



メモ: [デフォルトの外部アクセス権] レベルは [デフォルトの内部アクセス権] レベル以上に制限が厳しい必要があります。たとえば、[デフォルトの外部アクセス権] が [非公開] で [デフォルトの内部アクセス権] が [公開/参照のみ] に設定されたカスタムオブジェクトがあります。

4. [保存] をクリックします。

外部組織の共有設定の無効化

外部組織の共有設定を無効にすると、それぞれのオブジェクトに 1 つの組織の共有設定が指定されます。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

必要なユーザ権限	
外部組織の共有設定を無効にする	「ユーザの管理」

この機能を無効にする前に、各オブジェクトに対して [デフォルトの外部アクセス権] と [デフォルトの内部アクセス権] を同じアクセスレベルに設定します。

外部組織の共有設定を無効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] で [セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックします。
2. [組織の共有設定] 領域で [外部共有モデルを無効化] をクリックします。

外部組織の共有設定を無効にすると、組織の共有設定領域に [デフォルトの外部アクセス権] および [デフォルトの内部アクセス権] 設定ではなく、[デフォルトのアクセス権] 設定が表示されます。ユーザ共有がある場合、取引先、取引先責任者、ケース、および商談の各オブジェクトの [デフォルトの外部アクセス権] 設定は表示されたままですが、無効になります。

並列処理による組織の共有設定の更新 — パイロット

大規模な組織の共有設定の更新処理にかかる時間が短縮されます。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**



メモ: 並列処理による組織の共有設定の更新は、パイロットプログラムで使用できます。組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

並列処理による組織の共有設定の更新を行うと、バックグラウンドで更新結果の再適用が非同期で並列処理されます。大規模な組織では、大量のデータに影響を及ぼす組織の共有設定の更新時に、再適用に要する時間が短縮されます。

組織の共有設定を更新すると、バックグラウンドで再適用が続行され、完了時にメール通知を受信します。変更を表示するには、[共有設定] ページを更新します。再適用が完了するまで、共有ルールの作成や組織の共有設定の更新など、他の共有操作を行うことはできません。

また、[\[バックグラウンドジョブ\]](#) ページで、並列再適用の進捗状況を監視できます。

共有ルールの非同期再適用 — パイロット

共有ルールを作成および更新するときに、共有の再適用に要する時間を短縮します。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**



メモ: この情報は、共有ルール of 非同期再適用についての進行中のパイロットプログラムに参与する組織に適用されます。組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

共有ルールを作成または更新するときに、更新結果の再適用が非同期で順番に処理されます。Winter '14 では、新しい組織においてこれらの再適用は非同期で並列処理されます。並列処理に使用できるリソースが適切に割り当てられるため、共有ルールはより速く再適用されます。再適用はバックグラウンドで続行され、完了したらメール通知が送信されます。再適用が完了するまで、共有ルールの作成や組織の共有設定の更新など、他の共有操作を行うことはできません。

また、[\[バックグラウンドジョブ\]](#) ページで、並列再適用の進捗状況を監視できます。

並列再適用の監視

並列処理による再適用の進行状況を監視します。

使用可能なエディション: **Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

必要なユーザ権限	
バックグラウンドジョブを監視する	「設定・定義を参照する」

並列処理による共有ルールの再適用は、[共有設定] ページで共有ルールの[再適用] ボタンをクリックすると実行されます。同様に、[共有を延期] ページの共有ルールを再適用すると、並列処理による再適用がトリガされます。

並列処理による再適用の進捗状況を監視するには、[設定] から [監視] > [バックグラウンドジョブ] をクリックします。

以前は、[ジョブの種類] 列に、[並列処理による共有ルールの再適用]、または並列処理による共有のすべての操作を示す [並列処理による組織の共有設定の更新] のいずれかが表示されていました。

Winter '14 では、ジョブの種類が細分化され、各オブジェクトの共有ルールの操作、組織の共有設定の更新、メタデータ API を使用した共有ルールの操作に区別されています。たとえば、取引先条件に基づく共有ルールが更新されたときに並列処理による再適用が実行されると、[ジョブの種類] 列に [並列処理による共有ルールの再適用] が表示され、[ジョブのサブ種別] 列に [取引先 - 条件に基づく共有ルール] が表示されます。

共有取引先の取引先責任者の表示

カスタマーポータルユーザは、取引先責任者オブジェクトが「親レコードに連動」に設定されている場合、他のポータル取引先責任者にアクセスできます。

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

ポータルユーザは、組織の共有設定で取引先が「非公開」、取引先責任者が「親レコードに連動」に設定されている場合、同じ取引先に属するポータルを使用できる取引先責任者を表示できます。Winter '14 では、取引先にカスタマーポータルへのユーザアクセスを許可すると、ユーザはその取引先に属するポータルを使用できるすべての取引先責任者にもアクセスできます。この動作は、パートナーポータルユーザおよびカスタマーポータルスーパーユーザの現在の動作と似ています。



メモ: この変更は API または Visualforce ページを使用しているときに表示されます。ユーザインターフェースに影響は及びません。

グローバリゼーション

グローバリゼーションツールは、システム管理者が多言語、マルチ通貨、および翻訳されたコンテンツを管理するのに役立ちます。

[カスタムの州選択リストと国選択リスト - 正式リリース](#)

[標準オブジェクトと項目の名前変更](#)

カスタムの州選択リストと国選択リスト - 正式リリース

使用可能なエディション: Database.com を除くすべてのエディション

州選択リストと国選択リストを使用すると、州および国のデータをテキスト項目に入力する代わりに、事前定義の標準化されたリストから州および国を選択できます。州選択リストと国選択リストを使用すると、データ入力をすばやく簡単にでき、データがさらにクリーンになるため、レポートやダッシュボードなどの他の用途にデータを活用して信頼性の高い結果を得ることができます。選択リストに含まれる国および州は、ISO-3166 標準値に基づいており、他のアプリケーションとも互換性があります。

州選択リストと国選択リストは、取引先、キャンペーンメンバー、取引先責任者、契約、リード、個人取引先、見積、およびサービス契約標準オブジェクトで納入先、請求先、郵送先、および「その他」住所項目に使用でき

まず、選択リストは、管理者設定でのユーザおよび会社の管理にも使用できます。選択リストを使用するには、まず、国を選択してから、自動的に指定される州選択リストからオプションを選択します。

Salesforce で州項目や国項目を使用できる次のほとんどの場所で州選択リストと国選択リストを使用できます。

- レコードの編集ページと詳細ページ
- リストビュー、レポート、およびダッシュボード
- 検索条件、関数、ルール、および割り当て

州選択リストと国選択リストは、高度な検索を使用して検索もできます。

州選択リストと国選択リストを実装するためのステップバイステップガイドは、「[都道府県選択リストと国選択リストの実装](#)」を参照してください。

州選択リストと国選択リストに関するフィードバックを送信するには、「[IdeaExchange](#)」に移動してください。



メモ: Salesforce は、Summer '13 で州選択リストと国選択リストのベータバージョンをリリースしました。それ以来、次のような一般的な可用性に関する多数の改善を行ってきました。

- 州選択リストや国選択リストを有効にしたときに、ワークフロールール、割り当てルール、自動レスポンスルールなどの潜在的な問題を通知する高度なメタデータ検出。
- トランスレーションワークベンチの高度なサポート。
- Web-to-リードフォームの可用性。

標準オブジェクトと項目の名前変更

Salesforce は、メタデータ API を使用した標準オブジェクトと標準項目の名前変更をサポートするようになりました。「[更新されたメタデータ型とメタデータ項目](#)」の「CustomFieldTranslation」を参照してください。

重要な更新

リリース後まもなく使用可能になる機能には、特殊な準備が必要になる場合があります。

設定以外の Salesforce ページのクリックジャック保護

この重要な更新によって、設定以外の Salesforce ページすべてでクリックジャック保護が有効になり、ユーザーインターフェース着せ替え攻撃に対して保護できます。

設定以外の Salesforce ページのクリックジャック保護

この重要な更新によって、設定以外の Salesforce ページすべてでクリックジャック保護が有効になり、ユーザーインターフェース着せ替え攻撃に対して保護できます。

使用可能なエディション: すべてのエディション

これまで、設定以外の Salesforce ページへのクリックジャック攻撃に対して保護するには、[設定]>[セキュリティのコントロール]>[セッションの設定] で [設定以外の Salesforce ページのクリックジャック保護を有効化] を選択する必要があります。

この重要な更新を有効にすると、設定以外の Salesforce ページのクリックジャック保護が組織で自動的に有効になります。または、自動有効化日に、デフォルトですべての組織に保護が有効になります。

組織が設定以外の Salesforce ページをフレームまたは <iframe> 内に表示している場合、クリックジャック保護が有効になった後、空白のページまたはフレームなしでページが表示される可能性があります。この動作は、使用するブラウザとそのバージョンに応じて異なります。ページをフレーム化する理由があるとはいえ、フレームページがハッカーによって使用されるおそれがあります。

既存のフレームページに対処する方法は 2 つあります。

- 組織のクリックジャック保護をオフにしない。代わりに、これらのページをフレームまたは <iframe> 内に表示するのをやめます。これが推奨される解決策です。
- 組織のクリックジャック保護を無効にする。これにより、設定以外の Salesforce ページを引き続きフレーム化できますが、ページはクリックジャック攻撃に対して脆弱な状態のままです。この方法は推奨されません。



メモ: Spring '14 リリースで、クリックジャック保護を無効にする機能は [セッションの設定] ページから削除される予定であるため、クリックジャック保護を無効にする必要がある場合は、salesforce.com カスタマーサポートまでご連絡いただく必要があります。ただし、クリックジャック保護を無効にすることは推奨されません。

その他のカスタマイズ

軽微なカスタマイズによる機能強化ではありますが、Salesforce がさらに使いやすくなりました。

ページレイアウトエディタの [Chatter フィード] セクションの [パブリッシャーアクション] への変更 メールログの容量制限

メールログは、ダウンロード可能な複数の .zip ファイルでより多くのレコードを返すようになりました。

単一送信メールの制限

一部の組織で 1 日に送信できるメール数が増えました。

Identity ライセンスユーザのアプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーでは、現在のすべてのユーザの標準アプリケーションおよび接続アプリケーションのアイコンが単一のタブに表示されます。

ページレイアウトエディタの [Chatter フィード] セクションの [パブリッシャーアクション] への変更

使用可能なエディション: すべてのエディション

高度なページレイアウトエディタの [Chatter フィード] セクションが [パブリッシャーアクション] という表示レベルになりました。

メールログの容量制限

メールログは、ダウンロード可能な複数の .zip ファイルでより多くのレコードを返すようになりました。

使用可能なエディション: Database.com を除くすべてのエディション

現在、メールログは最大で 50,000 件のレコードを返します。1つのメールログ要求で、ダウンロード可能な複数の .zip ファイルが返されるようになりました。各 .zip ファイルには最大 10,000 件のレコードを入れることができるため、要求に対して最大 5 つのダウンロード用 .zip ファイルが返されます。その場合でも、メールログはファイルストレージ全体の制限にカウントされます。

単一送信メールの制限

一部の組織で 1 日に送信できるメール数が増えられました。

使用可能なエディション: すべてのエディション

Developer Edition 組織とトライアルで Salesforce を評価中の組織では、1 日あたり最大で 15 個のメールアドレスに単一メールを送信できるようになりました。ユーザインターフェースと API を使用してメールを送信する場合、その両方がこの制限数にカウントされます。

Identity ライセンスユーザのアプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーでは、現在のすべてのユーザの標準アプリケーションおよび接続アプリケーションのアイコンが単一のタブに表示されます。

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
アプリケーションランチャーを表示する	「Identity Features を使用」

標準アプリケーションまたは接続アプリケーションをアプリケーションランチャーに表示するには、これらのアプリケーションへのアクセス権が必要です。また、接続アプリケーションには有効な開始 URL が必要です。

Salesforce のアプリケーションランチャーでは、接続アプリケーションおよび標準アプリケーションにリンクするロゴがすべて 1 つのタブに表示されます。「Identity Features を使用」が有効になっているプロファイルまたは権限セットが割り当てられ、[アプリケーションランチャー] が [参照可能] に設定されたユーザの場合、Force.com アプリケーションメニューのアプリケーションとして表示されます。

アプリケーションランチャーは、任意の Salesforce ページのドロップダウンアプリケーションメニューから選択するアプリケーションです。

アプリケーションランチャーで、インストールされたアプリケーションアイコンをクリックすると、そのアプリケーションが起動します。

「[ID ライセンス](#)」(ページ 230)も参照してください。

Force.com 開発

Force.com は、組織を拡張したり、再販用に提供したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

リリースの監視の改善

Force.com 移行ツールの使用時のリリースのキャンセル、成功、または失敗に関する情報をより詳細に取得できるようになりました。

変更された[メモと添付ファイル]関連リストのリレーション名

[メモと添付ファイル] 関連リストのリレーション名が変更されました。

管理パッケージのコンポーネントの削除—パイロット

以前リリースされた管理パッケージのカスタム項目およびカスタムタブを ISV で削除できるようになりました。

Sandbox

Sandbox を使用して、カスタマイズのリリースを開発、テスト、およびシミュレーションを行います。

変更セットとリリース

システム管理者と開発者は、新しい方法でリリースに変更セットと外部ツールを使用することができます。

開発者コンソール

開発者コンソールの新機能を使用して、組織でコードをより簡単に管理します。

Visualforce

Winter '14 の Visualforce の機能強化は、HTML5 アプリケーション開発の操作性の改善に重点が置かれていますが、開発ツールの改善やその他の変更もいくつか行われています。

Force.com Canvas

Force.com Canvas により、簡単に Salesforce にサードパーティのアプリケーションを統合できます。Force.com Canvas は、アプリケーションをキャンバスアプリケーションとして公開するのに使用できるツールと JavaScript API のセットです。つまり、ユーザはあなたが選択した新しいアプリケーションまたは既存のアプリケーションを、Salesforce の一環として使用できます。

Apex コード

Apex コードは、次世代のビジネスアプリケーションの構築に関心を持つ開発者のための、初のマルチテナント、オンデマンドプログラミング言語です。

API

Salesforce を他のサービスと統合するアプリケーションを作成するには、API を使用します。

ISVforce

Winter '14 には、パートナーが簡単にアプリケーションを開発および配布できるようにするいくつかの機能が含まれています。

リリースの監視の改善

Force.com 移行ツールの使用時のリリースのキャンセル、成功、または失敗に関する情報をより詳細に取得できるようになりました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Database.com Edition**

[リリースの監視] にリストされる状況メッセージが改善されました。値は次のとおりです。

- ・ 待機中 — リリースは開始されていません。キューで待機しています。
- ・ 処理中 — リリースの処理は開始されていますが、完了していません。リリースの進捗状況を追跡するには、ページの「コンポーネント」および「テスト」の数を確認してください。
- ・ キャンセル要求済み — リリースはロールバックされていますが、まだ完全にはキャンセルされていません。
- ・ 成功 — すべてのコンポーネントが正常にリリースされ、すべてのテストが正常に実行されました。
- ・ 成功 (一部) — 変更のサブセットが組織にコミットされましたが、一部のファイルが欠落していたか、一部のコンポーネントにエラーがあったか、一部のテストが失敗しました。リリースオプションが `RollBackOnError = false` に設定されている場合にのみ、この状況を受け取る可能性があります。
- ・ キャンセル — リリースは正常にキャンセルされました。組織に変更はコミットされませんでした。
- ・ 失敗 — ファイルが欠落していた、コンポーネントにエラーがあった、またはテストが失敗したため、変更は組織にコミットされませんでした。

[リリースの監視] ページの「開始時刻」に、リリースがキューで待機している (待機中) 時間ではなく、リリースが開始された (処理中) 日時が表示されるようになりました。

また、リリースをキャンセルするためのボタンが [中止] から [キャンセル] に変更され、状況メッセージがより具体的に反映されるようになりました。

さらに、メタデータ API と Force.com 移行ツールを使用して、リリースの処理中にリアルタイムでエラーメッセージの詳細を受け取ります。詳細は、[メタデータ API](#) (ページ 335) のリリースノートを参照してください。この情報を使用して、処理中のリリースのキャンセル、問題の修正、およびリリースの再開を決定できます。

変更された[メモと添付ファイル]関連リストのリレーション名

[メモと添付ファイル] 関連リストのリレーション名が変更されました。

[メモと添付ファイル] 関連リストのデータは、`CombinedAttachments` で提供されるようになりました。これまでは、この関連リストのデータの提供に使用されていたリレーション名は `NotesAndAttachments` でした。たとえば、Visualforce ページを作成するときに、次のサンプルで取引先の [メモと添付ファイル] 関連リストが生成されます。

```
<apex:relatedList subject="{!account}"  
  list="CombinedAttachments" />
```

**メモ:**

- Caseオブジェクトではメモがサポートされていないため、このオブジェクトの添付ファイルのリレーション名は `Attachments` でした。この名前も `CombinedAttachments` に変更されました。
- 標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトを記述した場合、`NotesAndAttachments` リレーションが引き続き表示されますが、関連するメモと添付ファイルを取得するには `CombinedAttachments` リレーション名を使用する必要があります。

管理パッケージのコンポーネントの削除 — パイロット

以前リリースされた管理パッケージのカスタム項目およびカスタムタブを ISV で削除できるようになりました。

使用可能なエディション: **Developer Edition**



メモ: この機能は現在、パイロットプログラムで使用可能です。組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

登録者組織でのデータの損失やインテグレーションの失敗のリスクを回避するために、管理対象のカスタム項目およびカスタムタブの削除はサポートされていませんでした。しかし、複雑なパッケージでは、リリースを繰り返すうちにカスタム項目やカスタムタブの数が膨大になることがあります。このような場合には、カスタム項目やカスタムタブを削除する機能が極めて役立ちます。この機能により、ISV によるアプリケーションの管理やアップグレードの柔軟性が向上します。

管理パッケージのカスタム項目またはカスタムタブを削除すると、復元することも、同じ名前での別のカスタム項目またはカスタムタブを作成することもできなくなります。ただし、新しいパッケージバージョンにアップグレードする登録者は、削除したコンポーネントを引き続き組織で使用できます。該当するコンポーネントは、[パッケージの詳細] ページの [未使用のコンポーネント] セクションに表示されます。このリストにより、登録者は、使用されていないコンポーネントを明示的に削除する前に、データをエクスポートしたり、これらのコンポーネントを伴うカスタムインテグレーションを変更したりすることができます。



メモ: コンポーネントの削除によって予想される影響を顧客に指導することはシステム管理者の責任です。アップグレードしたパッケージのリリースノートに、削除したすべてのカスタム項目とカスタムタブをリストして、登録者が実行すべきアクションを通知します。

作成中のパッケージで管理カスタム項目を削除すると、次のことが実行されます。

- 現在その項目に存在するすべてのデータが永久に削除される。
- その項目に関連するすべての履歴が永久に削除される。
- そのカスタム項目を使用している条件が永久に削除される。
- その項目に依存する割り当てルールまたはエスカレーションルールの結果が変わる。
- 同じ名前で作成対象の別のカスタム項目を作成することはできない。

作成中のパッケージで管理カスタムタブを削除すると、次のことが実行されます。

- そのタブに依存する割り当てルールまたはエスカレーションルールの結果が変わる。
- 同じ名前で作成対象の別のカスタムタブを作成することはできない。

登録者組織で管理カスタム項目を削除すると、次のことが実行されます。

- ・ 連動項目と制御項目のすべての連動設定が削除される。
- ・ その項目に依存する割り当てルールまたはエスカレーションルールの結果が変わる。

今後の参照のためにデータのレコードを保持する場合は、登録者はカスタム項目を削除する前にデータのエクスポートを実行できます。[設定] で、[データの管理] > [データのエクスポート] をクリックします。

管理パッケージのカスタム項目およびカスタムタブは、ユーザインターフェースで宣言して削除することも、メタデータ API を使用してプログラムで削除することも可能です。後者の場合は、`destructiveChanges.xml` マニフェストファイルに削除するカスタム項目またはカスタムタブを指定して、標準の `deploy()` コールを使用します。管理対象外のカスタム項目やカスタムタブを削除する場合も処理は同じです。詳細については、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

Sandbox

Sandbox を使用して、カスタマイズのリリースを開発、テスト、およびシミュレーションを行います。

「設定のみ」の **Sandbox** の「**Developer Pro**」への名前変更

[Sandbox サイズの増加](#)

[Sandbox サブドメイン名にハイフンが必要](#)

Salesforce で Force.com サイトのドメイン名を処理する方法が変わります。

「設定のみ」の **Sandbox** の「**Developer Pro**」への名前変更

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

「設定のみ」の sandboxes は、「Developer Pro」と呼ばれるようになり、ストレージサイズが増えました。詳細は、『[Sandbox サイズの増加](#)』（ページ 251）を参照してください。

Sandbox サイズの増加

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Database.com Edition

Salesforce の 開発者 および Developer Pro (旧称「設定のみ」) Sandbox のストレージの制限が大きくなりました。

- ・ 開発者 Sandbox のストレージ制限は 10 MB から 200 MB に増えました。
- ・ Developer Pro Sandbox のストレージ制限は 500 MB から 1 GB に増えました。
- ・ フル Sandbox のストレージ制限は、引き続き本番組織での制限と同じです。

Sandbox サブドメイン名にハイフンが必要

Salesforce で Force.com サイトのドメイン名を処理する方法が変わります。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

システムでは、Sandbox の名前とサブドメイン名を分離するために、ピリオドではなくハイフンが 1 つ必要になりました。形式は `[sandboxName]-[subdomain].[instance].force.com` となります。たとえば、`https://mysandbox-mycompany.cs1.force.com` などです。

これは、Force.com サイトにのみ適用されます。[私のドメイン] または Force.com IDE の各種設定には影響ありません。

作業は不要です。既存のすべてのリリースは、自動的に更新されます。

変更セットとリリース

システム管理者と開発者は、新しい方法でリリースに変更セットと外部ツールを使用することができます。

Force.com 移行ツールまたは Force.com IDE を使用している場合は、「[メタデータ API](#)」(ページ 335)の変更も参照してください。

[変更セットで使用可能な承認投稿テンプレート](#)

[変更セットで使用可能なコンパクトレイアウト](#)

[変更セットで使用可能なフレキシブルページ](#)

[変更セットのプロファイル設定のユーザ権限](#)

[変更セットのキューと処理の改善](#)

変更セットで使用可能な承認投稿テンプレート

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

[Chatter での承認] の投稿テンプレートを変更セットで使用できるようになりました。

変更セットを使用して、投稿テンプレートを参照する承認プロセスを簡単にリリースできるようになりました。アップロードする前に投稿テンプレートへの参照を承認プロセスから削除したり、承認プロセスをリリースする前に対象組織で投稿テンプレートを再作成したりする必要はなくなりました。

ただし、カスタム項目を含む投稿テンプレートは、変更セットに追加する前に再保存する必要があります。[設定] で、[作成] > [ワークフローと承認申請] > [テンプレートの投稿] をクリックします。各投稿テンプレートで、[編集]、[保存] の順にクリックします。

変更セットで使用可能なコンパクトレイアウト

使用可能なエディション: **Database.com Edition** を除くすべてのエディション

Salesforce1 のモバイルに最適化された新しいレコードレイアウトであるコンパクトレイアウトは、変更セットで使用できます。

変更セットで使用可能なフレキシブルページ

使用可能なエディション: **Database.com Edition** を除くすべてのエディション

Salesforce1 の新しいモバイルアプリケーションホームページであるフレキシブルページを変更セットで使用できます。

変更セットのプロファイル設定のユーザ権限

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Database.com Edition**

ユーザ権限 (「ユーザの管理」など) は、変更セットのプロファイル設定に含まれるようになりました。

変更セットのキューと処理の改善

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Database.com Edition**

変更セットのリリースは、変更を同時にリリースしようとする複数のユーザ間の競合を回避するため、処理用のキューに入るようになりました。

また、Salesforce では、変更セットのリリース中または検証中に変更セットの詳細ページからの移動が禁止されなくなりました。リリース中または検証中に変更セットの詳細ページから離れ、後から戻って処理されたかどうかを確認することができます。

開発者コンソール

開発者コンソールの新機能を使用して、組織でコードをより簡単に管理します。

使用可能なエディション: **Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、**Enterprise Edition**、および **Database.com Edition**



メモ: 現在、開発者コンソールのユーザインターフェースは英語でのみ利用できます。

コード検索

保存順序のデバッグビュー

開発者コンソールに、DML アクションのタイムラインを視覚的に表示する [Save Order (保存順序)] デバッグビューが新しく追加されました。

SOSL 検索のサポートとクエリ履歴

静的リソースエディタ

開発者コンソールのソースコードエディタで JavaScript、XML、CSS、およびテキスト形式がサポートされるようになりました。

クラスまたはトリガのログレベルの上書き

開発者コンソールで特定のクラスまたはトリガのログレベルを定義できるようになりました。

開発者コンソールでの Visualforce 開発の改善

開発者コンソールでの Visualforce 開発が複数の点で改良され、開発者コンソールでの作業が Visualforce 開発モードフッターを使用する場合と同じように簡単になりました。

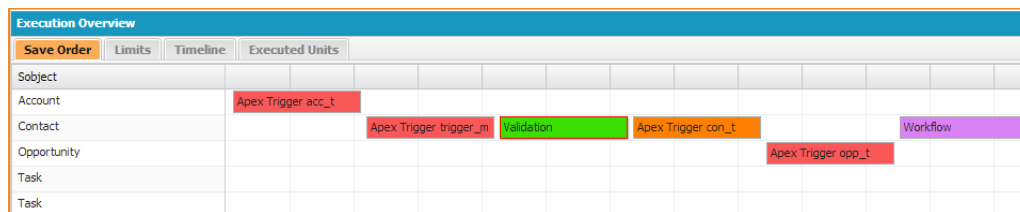
コード検索

このリリースでは、開発者コンソールに、すべてのファイル形式を対象とする統合されたコード検索が含まれるようになりました。[File (ファイル)] > [Search in Files (ファイル内を検索)] をクリックするか、Ctrl+Shift+H キーを押します。

保存順序のデバッグビュー

開発者コンソールに、DML アクションのタイムラインを視覚的に表示する [Save Order (保存順序)] デバッグビューが新しく追加されました。

[Save Order (保存順序)] タブには、DML アクションのタイムラインが色分けして表示されます。実行された DML アクションごとに、保存順序要素がタイムラインに矩形として表示されます。



特定の要素の詳細を表示するには、タイムラインで関連付けられた矩形をクリックします。ポップアップウィンドウに、ログの関連する位置に直接移動するためのリンクを含む、追加情報が表示されます。

影響を受けるレコードの ID を表示するには、左ペインで sObject の名前をクリックします。

SOSL 検索のサポートとクエリ履歴

開発者コンソールのクエリエディタでSOSL検索がサポートされるようになりました。複数のオブジェクトを含む SOSL 検索結果では、各オブジェクトは別々のタブに表示されます。

クエリエディタには、最新のクエリ 10 個を表示してすばやく再利用できるようにする [Query History (クエリ履歴)] パネルも新しく追加されました。

静的リソースエディタ

開発者コンソールのソースコードエディタで JavaScript、XML、CSS、およびテキスト形式がサポートされるようになりました。

JavaScript、XML、CSS、またはテキストのファイルを新規作成するには、[File(ファイル)] > [New(新規)] > [Static Resource (静的リソース)] をクリックします。[New Static Resource (新規静的リソース)] ポップアップウィンドウで、ファイルの名前を入力し、適切な [MIME Type (MIME タイプ)] を選択して、[Submit(実行)] をクリックします。

クラスまたはトリガのログレベルの上書き

開発者コンソールで特定のクラスまたはトリガのログレベルを定義できるようになりました。

ログレベルでは、デバッグログに保存する要求情報の量を決定します。サイズの大きいログの解析には長時間かかる場合があります。ログのサイズを小さくするには、ログレベルを調整します。レビューするコードには冗長ログを使用します。対象外のコードには簡易ログを使用します。

今後の要求のログレベルを指定するには、[Debug(デバッグ)] > [Change Log Levels(ログレベルを変更)] をクリックします。このページでは、一般設定の定義と、特定のクラスまたはトリガの一般ログレベルの上書きができます。

クラスまたはトリガのログレベルを定義するには、[追加] をクリックしてリストからクラスまたはトリガを選択します。使用可能なログレベルのリストから、選択するエントリをクリックします。

General Trace Settings for User								
Name	DB	Callouts	Apex Code	Validation	Workflow	Profiling	Visualforce	System
	INFO	INFO	FINEST	INFO	INFO	INFO	INFO	DEBUG
Class and Trigger Trace Overrides								
Name	DB	Callouts	Apex Code	Validation	Workflow	Profiling	Visualforce	System
TestClass	INFO	INFO	INFO	INFO	INFO	INFO	INFO	INFO

ERROR
WARN
INFO
DEBUG
FINE
FINER
FINEST

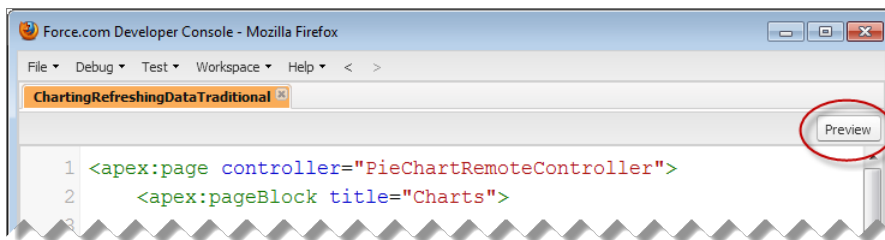
Add Remove

開発者コンソールでの Visualforce 開発の改善

開発者コンソールでの Visualforce 開発が複数の点で改良され、開発者コンソールでの作業が Visualforce 開発モードフッターを使用する場合と同じように簡単になりました。

Visualforce ページのプレビュー

Visualforce タブで [プレビュー] をクリックすると、別のウィンドウでページを開いて使用できます。



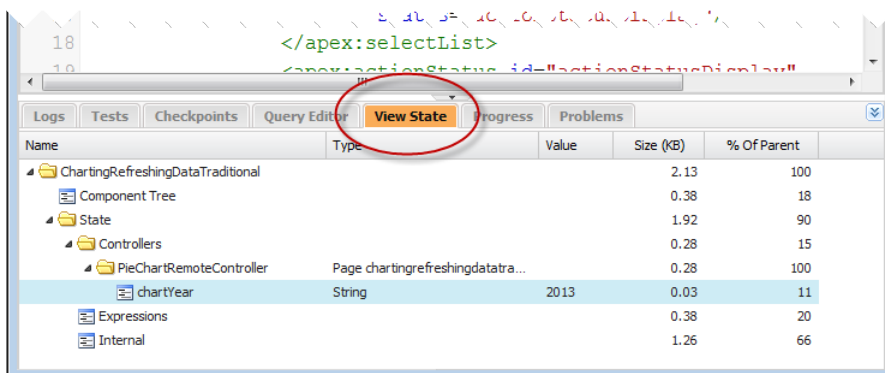
プレビューウィンドウの Visualforce ページは、変更をページまたはページのコントローラコードに保存すると、自動的に再読み込みされます。

Visualforce ページのビューステートの検査 — ベータ



メモ: このリリースには、開発者コンソールの [View State (ビューステート)] タブのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。

開発者コンソールの [View State (ビューステート)] タブでは、Visualforce ページ要求のビューステートを調べることができます。



開発者コンソールの [View State (ビューステート)] タブは、フォルダノードをダブルクリックしても利用状況円グラフウィンドウが開かない点を除き、Visualforce 開発モードフッターの [View State (ビューステート)] タブと同じように機能します。詳細は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』の「[View State (ビューステート)] タブについて」を参照してください。

[View State (ビューステート)] タブを有効にする手順は、次のとおりです。

1. Salesforce ページ上部で、名前の横にある下向き矢印をクリックします。名前の下にあるメニューで、[設定] または [私の設定] のどちらか表示される方を選択します。
2. 左のペインで、次のいずれかを選択します。
 - ・ [設定] をクリックした場合は、[私の個人情報] > [個人情報] を選択します。
 - ・ [私の設定] をクリックした場合は、[個人用] > [高度なユーザの詳細] を選択します。
3. [編集] をクリックします。

4. [開発モード] チェックボックスがオフの場合は、オンにします。
5. [開発モードでビューステートを表示] チェックボックスをオンにします。
6. [保存] をクリックします。



メモ: ビューステートはフォームデータにリンクしているため、[View State (ビューステート)] タブは、ページに `<apex:form>` タグが含まれる場合にのみ表示されます。また、[View State (ビューステート)] タブは、カスタムコントローラまたはコントローラ拡張を使用するページにのみ表示されます。

Visualforce

Winter '14 の Visualforce の機能強化は、HTML5 アプリケーション開発の操作性の改善に重点が置かれていますが、開発ツールの改善やその他の変更もいくつか行われています。

使用可能なエディション: **Contact Manager Edition**、**Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、[『Visualforce 開発者ガイド』](#)を参照してください。

Visualforce を使用した HTML5 開発

Winter '14 の Visualforce では、HTML5 開発を容易にするために多くの機能が改善されています。

その他の Visualforce の改善点

Winter '14 では、その他にも多数の Visualforce 機能に変更されています (管理ユーザインターフェース要素の機能強化または変更、コンポーネントの新規追加や機能強化、パイロット機能、バグ修正など)。

Visualforce を使用した HTML5 開発

Winter '14 の Visualforce では、HTML5 開発を容易にするために多くの機能が改善されています。

以下のリリースノートでは、新機能を詳細に説明し、また、詳細なコードサンプルで、異なる機能を一緒に使用して大幅に刷新されたユーザ入力用フォームを作成する方法を示します。

新しい `<apex:input>` コンポーネント

`<apex:input>` は、フォーム項目で期待されるデータに適応する、HTML5 に適した新しい一般的な入力コンポーネントです。HTML `type` 属性、特に HTML5 で新しく追加された値を使用して、クライアントブラウザが、日付ピッカーや範囲スライダなど、型に適したユーザ入力ウィジェットを表示したり、タッチデバイスで型固有のキーボードを使用したりできるようにします。または、クライアント側で数値範囲や電話番号などの書式設定または検証を実行します。

`<apex:input>` および `<apex:inputField>` の `type` 属性

HTML5 ブラウザ機能または JavaScript ユーザインターフェースウィジェットを使用し、デフォルトの Salesforce 入力要素を補足または置き換えて入力ユーザインターフェース要素を表示するには、`<apex:input>` および `<apex:inputField>` で新しい `type` 属性を使用します。

入力コンポーネントのHTML5 <datalist> 要素

HTML5 <datalist> 要素には <input> 要素に関連付ける値のリストを指定し、入力によって絞り込まれたコンプリートオプションのリストを表示するために使用できます。<apex:input>、<apex:inputField>、および <apex:inputText> コンポーネントが、関連付けられた入力項目用の <datalist> ブロックを生成できるようにするには、新しい list 属性を使用します。

パススルーHTML 属性をサポートするコンポーネントの追加

任意の属性を多くの Visualforce コンポーネントに追加し、表示される HTML に「パススルー」することができます。たとえば、Visualforce と jQuery Mobile、AngularJS、Knockout などの JavaScript フレームワークを併用するとき、data-* またはその他の属性をフレームワーク関数を有効化するフックとして使用する場合に、この機能は便利です。また、placeholder 「ゴースト」テキスト、pattern クライアント側検証、title ヘルプテキスト属性などの HTML5 機能の使いやすさを向上させるためにも使用できます。

Visualforce コンポーネントでのアクセシビリティの改善

複数の Visualforce コンポーネントで生成される HTML のセマンティックと完全性を向上させたことにより、Visualforce ページのアクセシビリティが改善されました。

<apex:includeScript> による JavaScript リソース読み込みの延期

<apex:includeScript> コンポーネントには、読み込み対象の JavaScript リソースをすぐに読み込むか (既存の動作)、またはページのドキュメントモデル (DOM) が作成されるまで読み込みを延期するかを制御する新しい属性 loadOnReady があります。

HTML5 機能のコードサンプル

このコードサンプルでは、Visualforce の新しい HTML5 開発機能の多くを実例で示します。新しい <apex:input> コンポーネント、HTML5 パススルー属性、<datalist> を使用したオートコンプリートのための list 属性、および <apex:selectRadio> コンポーネントの新しいユーザインターフェースとアクセシビリティオプションの各使用例が含まれています。

新しい <apex:input> コンポーネント

<apex:input> は、フォーム項目で期待されるデータに適応する、HTML5 に適した新しい一般的な入力コンポーネントです。HTML type 属性、特に HTML5 で新しく追加された値を使用して、クライアントブラウザが、日付ピッカーや範囲スライダーなど、型に適したユーザ入力ウィジェットを表示したり、タッチデバイスで型固有のキーボードを使用したりできるようにします。または、クライアント側で数値範囲や電話番号などの書式設定または検証を実行します。

<apex:input> コンポーネントは HTML <input> タグを生成し、コンポーネントの type 属性がその HTML タグの対応する type 属性を設定します。type は、Visualforce マークアップで明示的に設定できます。または、「auto」に設定して、コンポーネントでコントローラプロパティまたはメソッドの署名から適切な型を検出することができます。type 属性の詳細は、「<apex:input> および <apex:inputField> の type 属性」(ページ 259) を参照してください。

type の自動検出の動作は、<apex:inputField> が sObject 項目のデータ型に適応する方法と似ています。ただし、<apex:inputField> と異なり、<apex:input> は、取引先の請求先住所など、複数の別個のデータ要素を組み合わせた複合項目には使用できません。

このコンポーネントは、Salesforce オブジェクトの項目に対応しないコントローラプロパティまたはメソッドのユーザ入力を取得するために使用します。また、Salesforce 項目またはオブジェクトのその他のどのデータにも対応していないため、ユーザが入力した値を使用するにはカスタムコードが必要です。

次の単純なフォームでは基本的な取引先責任者データを収集します。

```
<apex:form>
  <apex:pageBlock title="{!acct.Name} Contacts">

    <apex:pageBlockSection id="contactDetails" title="New Contact">

      <apex:input label="First Name" value="{!cFirstName}"/>
      <apex:input label="Last Name" value="{!cLastName}"/>
      <apex:input label="Mobile Number" value="{!cMobile}" type="tel"/>
      <apex:input label="Email" value="{!cEmail}" type="email"
        html-pattern="^[a-zA-Z0-9._-]+@example.com$"/>

    </apex:pageBlockSection>

  </apex:pageBlock>
</apex:form>
```

`<apex:input>` コンポーネントのその他の使用方法を示す詳細なコードサンプルは、「[HTML5 機能のコードサンプル](#)」(ページ 264)を参照してください。

さまざまな入力型に対して表示される特定のユーザインターフェースは、Visualforce ではなく、ブラウザによって決まります。最新のブラウザはすべて `<input>` タグの `type` 属性をサポートしていますが、ブラウザによっては HTML5 のすべての型がサポートされていない場合もあります。サポートしていないブラウザでは、不明な `type` 属性はデフォルトのテキスト項目になります。目的の動作を検証するには、対象のブラウザで入念にテストしてください。

`<apex:input>` は、API バージョン 29.0 以降でサポートされます。また、`<apex:page>` `docType` 属性が「html-5.0」に設定されている必要があります。

`<apex:input>` および `<apex:inputField>` の `type` 属性

HTML5 ブラウザ機能または JavaScript ユーザインターフェースウィジェットを使用し、デフォルトの Salesforce 入力要素を補足または置き換えて入力ユーザインターフェース要素を表示するには、`<apex:input>` および `<apex:inputField>` で新しい `type` 属性を使用します。

`type` 属性の値は、HTML `<input>` タグにパススルーされ、HTML5 の新しいクライアント側動作 (電話番号の自動書式設定、「クリア」ボタンによる項目のリセット、日付ピッカーなど型固有のユーザインターフェースウィジェット、タッチベースのデバイスの型固有キーボードなど) を実現できるようにします。デフォルトの Visualforce 入力要素は、タッチスクリーンではなく、マウスとキーボードの入力用に最適化されているため、これは、モバイルアプリケーションには特に役立ちます。

これらの動作は、パススルー属性と併用するとうまく組み合わせられてさらに高度な操作が可能になり、クライアント側検証などの HTML5 機能を実現できます。クライアント側検証は、Visualforce によって実行される標準のサーバ側検証の代わりにはなりませんが、無効な入力が行われたときに、サーバまで往復する必要なく即座にフィードバックが可能です。`type` 属性をパススルー属性と組み合わせるさまざまな動作を実現する方法を示す詳細なコードサンプルは、「[HTML5 機能のコードサンプル](#)」(ページ 264)を参照してください。

`type` 属性の有効値は次のとおりです。

- auto

- date
- datetime
- datetime-local
- month
- week
- time
- email
- number
- 範囲
- search
- tel
- text
- url

指定された type には、sObject 項目のデータ型またはコントローラメソッドまたはプロパティの戻り値の型との互換性が必要です。互換性がない場合、ページが保存されたときにコンパイルエラーが発生します。

`<apex:inputField>` コンポーネントの type を設定しないと、デフォルトの標準スマート動作になります。

`<apex:input>` コンポーネントの type を設定しないと、デフォルトの「テキスト」になります。

`<apex:inputField>` で使用する場合、デフォルトの日時型には引き続き標準の Salesforce 日付/時間ピッカーウィジェットが表示されます。日付/時刻ピッカーを抑止して、ネイティブのブラウザまたは JavaScript のピッカーを使用する場合も、`<apex:inputField>` を `showDatePicker="false"` に設定します。

`<apex:inputField>` で使用する場合、選択リスト項目には常に標準の Salesforce 選択リストウィジェットが表示されます。この標準ユーザインターフェース要素を上書きするには、フォームで `<apex:input>` コンポーネントを使用し、送信されたデータを手動で処理する必要があります。`<apex:input>` で選択リスト値を使用する方法を示す詳細なコードサンプルは、「[HTML5 機能のコードサンプル](#)」(ページ 264)を参照してください。

さまざまな入力型に対して表示される特定のユーザインターフェースは、Visualforce ではなく、ブラウザによって決まります。最新のブラウザはすべて `<input>` タグの type 属性をサポートしていますが、ブラウザによっては HTML5 のすべての型がサポートされていない場合もあります。サポートしていないブラウザでは、不明な type 属性はデフォルトのテキスト項目になります。目的の動作を検証するには、対象のブラウザで入念にテストしてください。

`<apex:input>` および `<apex:inputField>` コンポーネントの type 属性、および `<apex:inputField>` の `showDatePicker="false"` 属性は、API バージョン 29.0 以降でサポートされます。また、`<apex:page>` docType 属性が「html-5.0」に設定されている必要があります。

入力コンポーネントの HTML5 `<datalist>` 要素

HTML5 `<datalist>` 要素には `<input>` 要素に関連付ける値のリストを指定し、入力によって絞り込まれたコンプリートオプションのリストを表示するために使用できます。`<apex:input>`、`<apex:inputField>`、および `<apex:inputText>` コンポーネントが、関連付けられた入力項目用の `<datalist>` ブロックを生成できるようにするには、新しい list 属性を使用します。

list 属性は、カンマ区切りの静的文字列または Visualforce 式として指定されます。式は、カンマ区切り文字列またはオブジェクトのリストに解決できます。リスト要素には任意のデータ型を設定できますが、その型は、Apex 言語機能として、または `toString()` メソッドを介して、文字列に変換する必要があります。

次に例を示します。

```
<apex:inputText value="{!preferredBrowser}" list="{!modernBrowsers}"
  html-inputText="Enter your preferred browser" html-autocomplete="on" />
```

HTML パススルー属性 `autocomplete` の使用に注意してください。これは、多くのブラウザでフォーム入力のオートコンプリートに `<datalist>` を使用するために必要です。

`list` 属性のさまざまな使用方法を示す詳細なコードサンプルは、「[HTML5 機能のコードサンプル](#)」(ページ 264)を参照してください。

`<datalist>` の特定のユーザインターフェース動作は、Visualforce ではなく、ブラウザによって決まります。

`<datalist>` タグは、ほとんどの最新のブラウザでサポートされています。目的の動作を検証するには、対象のブラウザで入念にテストしてください。

`<apex:inputField>` および `<apex:inputText>` の `list` 属性は、API バージョン 29.0 以降でサポートされます。また、`<apex:page>` `docType` 属性が「html-5.0」に設定されている必要があります。

パススルー HTML 属性をサポートするコンポーネントの追加

任意の属性を多くの Visualforce コンポーネントに追加し、表示される HTML に「パススルー」することができます。たとえば、Visualforce と jQuery Mobile、AngularJS、Knockout などの JavaScript フレームワークを併用するとき、`data-*` またはその他の属性をフレームワーク関数を有効化するフックとして使用する場合に、この機能は便利です。また、`placeholder` 「ゴースト」テキスト、`pattern` クライアント側検証、`title` ヘルプテキスト属性などの HTML5 機能の使いやすさを向上させるためにも使用できます。

この機能をサポートするコンポーネントの範囲は、Winter '14 で大幅に拡張されます。次のコンポーネントでパススルー属性がサポートされます。

- `<apex:column>`
- `<apex:commandButton>`
- `<apex:commandLink>`
- `<apex:component>`
- `<apex:dataTable>`
- `<apex:form>`
- `<apex:iframe>`
- `<apex:image>`
- `<apex:includeScript>`
- `<apex:input>`
- `<apex:inputCheckbox>`
- `<apex:inputField>`
- `<apex:inputHidden>`
- `<apex:inputSecret>`
- `<apex:inputText>`
- `<apex:inputTextArea>`
- `<apex:messages>`
- `<apex:outputField>`
- `<apex:outputLabel>`
- `<apex:outputLink>`

- `<apex:outputPanel>`
- `<apex:outputText>`
- `<apex:page>`
- `<apex:pageBlock>`
- `<apex:pageBlockButtons>`
- `<apex:pageBlockSection>`
- `<apex:pageBlockSectionItem>`
- `<apex:pageBlockTable>`
- `<apex:panelBar>`
- `<apex:panelBarItem>`
- `<apex:panelGrid>`
- `<apex:sectionHeader>`
- `<apex:selectCheckboxes>`
- `<apex:selectList>`
- `<apex:selectOption>`
- `<apex:selectOptions>`
- `<apex:selectRadio>`
- `<apex:stylesheet>`
- `<apex:tab>`
- `<apex:tabPanel>`

パススルー属性の使用法を示す詳細なコードサンプルは、「[HTML5 機能のコードサンプル](#)」(ページ 264)を参照してください。生成された HTML の詳細を含む、HTML 属性の使用に関するその他の考慮事項と例は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』の「[Visualforce コンポーネントのカスタム HTML 属性の設定](#)」を参照してください。

Visualforce コンポーネントでのアクセシビリティの改善

複数の Visualforce コンポーネントで生成される HTML のセマンティックと完全性を向上させたことにより、Visualforce ページのアクセシビリティが改善されました。

次のコンポーネントに影響があります。

- `<apex:inputField>` — `<apex:pageBlockSection>` 内で使用すると、入力要素とその表示ラベルを表示するテーブルに適切なヘッダーセルが追加され、項目と表示ラベル間のセマンティックリレーションが向上します。
- `<apex:inputFile>` — `<label>` タグが追加されてアクセシビリティと使いやすさが向上します。
- `<apex:messages>` — `role="alert"` 属性が追加され、このコンポーネントを使用して表示される重要なメッセージがあると、スクリーンリーダーのユーザにアラートが通知されます。
- `<apex:outputField>` — `<apex:pageBlockSection>` 内で使用すると、項目の値とその表示ラベルを表示するテーブルに適切なヘッダーセルが追加され、項目と表示ラベル間のセマンティックリレーションが向上します。
- `<apex:pageMessages>` — `role="alert"` 属性が追加され、このコンポーネントを使用して表示される重要なメッセージがあると、スクリーンリーダーのユーザにアラートが通知されます。
- `<apex:selectCheckboxes>` — 「[<apex:selectCheckboxes> および <apex:selectRadio> の <fieldset> と <legend>](#)」を参照してください。

- `<apex:selectRadio>` — 「`<apex:selectCheckboxes>` および `<apex:selectRadio>` の `<fieldset>` と `<legend>`」を参照してください。

これらのコンポーネントを使用する既存の Visualforce ページでは、自動的に新しい HTML が生成され、開発者の作業なしでアクセシビリティが向上します。

下記を例外として、これらのコンポーネントは、デフォルトの Salesforce スタイルを使用した場合と同じ外観になります。カスタムスタイルを使用しても、視覚的な変化は最小限か、まったくありません。まれに、正確な書式設定を維持するためにスタイルシートに微調整が必要になる場合があります。

`<apex:selectCheckboxes>` および `<apex:selectRadio>` の `<fieldset>` と `<legend>`

`<apex:selectCheckboxes>` および `<apex:selectRadio>` コンポーネントで生成される HTML が `<fieldset>` タグでラップされることにより、アクセシビリティが改善されます。

さらに、次の3つの新しい属性が `<apex:selectCheckboxes>` および `<apex:selectRadio>` で使用可能になり、`<legend>` を `<fieldset>` に追加したり、凡例テキストの表示やグループ化された入力要素の周囲の境界線の表示を制御したりできるようになりました。

属性名	属性型	説明
<code>borderVisible</code>	Boolean	チェックボックスまたはラジオボタングループをラップする <code><fieldset></code> の周囲の境界線を表示するか、非表示にするかを制御します。デフォルト値は <code>false</code> (境界線なし) です。
<code>legendInvisible</code>	Boolean	凡例テキストを表示するか、非表示にするかを制御します。デフォルト値は <code>false</code> (凡例テキストをすべてのユーザに表示) です。 <code>true</code> に設定すると、 <code><legend></code> にスタイル属性 <code>class="assistiveText"</code> が追加され、DOM で凡例テキストが保持されますが、表示は画面外に移動します。これにより、テキストが画面に表示されずにスクリーンリーダーからアクセスできるようになります。
<code>legendText</code>	String	チェックボックスまたはラジオボタングループの凡例として表示されるテキスト。境界線が表示されている場合、凡例は境界線の左上の端にはめ込まれます。 <code>legendText</code> が空の文字列か、設定されていない場合、凡例は追加されません。

`<apex:selectCheckboxes>` および `<apex:selectRadio>` コンポーネントへのこれらの変更は、バージョン管理されており、使用するにはページを API バージョン 29.0 以降に更新する必要があります。

`<apex:includeScript>` による JavaScript リソース読み込みの延期

`<apex:includeScript>` コンポーネントには、読み込み対象の JavaScript リソースをすぐに読み込むか (既存の動作)、またはページのドキュメントモデル (DOM) が作成されるまで読み込みを延期するかを制御する新しい属性 `loadOnReady` があります。

`loadOnReady` 属性を `true` に設定すると、コンポーネントが参照する JavaScript は、ページが「ready (準備完了)」になるまで待機してから読み込まれます。たとえば、「`<apex:includeScript loadOnReady="true" value={$Resource.waitUntilReadyScript}"/>`」などです。この方法で読み込まれたスクリプトは、すぐに

ではなく、onload イベントがトリガされた後に DOM に追加されます。これは、DOM が作成された後に行われますが、子フレームまたは外部リソース (画像など) の読み込みが終了する前に行われる場合があります。

loadOnReady="true" を設定すると、ページの初期表示のパフォーマンスが向上する可能性があります。使用は、ページが完全に読み込まれた後でのみ必要になるスクリプトに限定してください。

loadOnReady のデフォルト値は false です。

HTML5 機能のコードサンプル

このコードサンプルでは、Visualforce の新しい HTML5 開発機能の多くを実例で示します。新しい <apex:input> コンポーネント、HTML5 パススルー属性、<datalist> を使用したオートコンプリートのための list 属性、および <apex:selectRadio> コンポーネントの新しいユーザインターフェースとアクセシビリティオプションの各使用例が含まれています。

次の Visualforce ページには、詳細を取引先責任者に追加するためのフォームが表示されます。

```
<apex:page standardController="Contact" extensions="ContactExtras" docType="html-5.0">

<!--
  This page expects to be referenced along with the ID of an existing contact record
  For example: https://<salesforce_instance>/apex/ContactForm?id=003D000000QB6wh
-->

<apex:form id="theForm">
  <apex:pageBlock title="Contact: {! Contact.Name }" >

    <apex:pageBlockSection id="contactDetails" title="Contact Details" columns="1">

      <apex:inputField value="{! Contact.MobilePhone }" type="tel"
        html-placeholder="999-999-9999"
        html-autofocus="true"
      />

      <apex:inputField value="{! Contact.Email }" type="email"
        html-placeholder="you@example.com"
        html-pattern="^[a-zA-Z0-9._-]+@example.com$"
        html-title="Please enter an example.com email address"
      />

      <apex:inputField value="{! Contact.Birthdate }" type="date"
        showDatePicker="false"
      />

      <apex:inputField value="{! Contact.Pick_A_Number__c }" type="auto"
        html-min="0" html-max="100" html-step="5"
        html-title="Must be between 0 and 100"
      />

      <apex:inputField value="{! Contact.Favorite_Color__c }" type="text"
        list="{! colorsList }"
      />

      <apex:inputField value="{! Contact.Favorite_Shape__c }"
        list="circle,square,rectangle,triangle,hexagon,cube,sphere"
      />

      <apex:selectRadio value="{! Contact.LeadSource}" layout="pageDirection"
        legendText="Select a source for this contact" borderVisible="true">
        <apex:selectOptions value="{! sourcesList }"/>
      </apex:selectRadio>

    </apex:pageBlockSection>

  </apex:pageBlock>
</apex:form>
```

```

<apex:pageBlockSection id="contactExtras" title="Contact Extras" columns="1">
    <apex:input label="Car Color" value="{! fText }" list="{! colorsList }"/>
    <apex:input label="Steps Today" value="{! fNumber }" type="number"
        html-min="0" html-max="50000"
    />
    <apex:input label="Favorite Date in History" value="{! fDate }"
        type="auto"
    />
</apex:pageBlockSection>

<apex:pageBlockButtons location="bottom">
    <apex:commandButton id="commandButton" value="Update"
        action="{!quickSave}" reRender="theForm"
    />
</apex:pageBlockButtons>

</apex:pageBlock>
</apex:form>
</apex:page>

```

サポートするコントローラ拡張は意図的に簡略化されています。これは上記のマークアップをサポートするためのもので、それ自体は特に有用な処理は行いません。

```

public class ContactExtras {

    public ContactExtras(ApexPages.StandardController controller) { }

    // Stub properties, to allow use on the form
    // Real code would do something with them, like save to the record
    public String fText { get; set; }
    public Integer fNumber { get; set; }
    public Date fDate { get; set; }

    // Create a list of colors (strings) for use in a list attribute,
    // for auto-completion via a <datalist>
    // The choices come from a picklist custom field; you can use
    // the list with any field, not just that picklist field
    public List<String> getColorsList() {
        List<String> colors = new List<String>();
        Schema.DescribeFieldResult picklistColors = Contact.Favorite_Color__c.getDescribe();

        for (Schema.PicklistEntry color : picklistColors.getPicklistValues()) {
            colors.add(color.getValue());
        }
        return colors;
    }

    // Again from a picklist field, convert the values into a list that
    // can be used with an <apex:selectRadio> component
    public List<SelectOption> getSourcesList() {
        List<SelectOption> sources = new List<SelectOption>();
        Schema.DescribeFieldResult picklistSources = Contact.LeadSource.getDescribe();
        for (Schema.PicklistEntry source : picklistSources.getPicklistValues()) {
            sources.add(new SelectOption(source.getValue(), source.getValue()));
        }
        return sources;
    }
}

```


その他の Visualforce の改善点

Winter '14 では、その他にも多数の Visualforce 機能が変更されています (管理ユーザインターフェース要素の機能強化または変更、コンポーネントの新規追加や機能強化、パイロット機能、バグ修正など)。

Visualforce ページのページプレビューボタン

Visualforce ページの [設定] リストビューに、リストから直接ページを開くためのボタンが追加され、他の Visualforce の [設定] ページで [詳細] および [編集] ビューからページを開けるようになりました。

[Touch で利用可能] チェックボックスの名前変更

[Visualforce の作成] ページの [Touch で利用可能] チェックボックスの名前が、[Salesforce モバイルアプリケーションで利用可能] に変更されました。[Visualforce の作成] ページには、[設定] で [開発] > [ページ] > [新規] をクリックしてアクセスできます。

新しい <apex:milestoneTracker> コンポーネント

<apex:milestoneTracker> は、[ケースフィード] ページにマイルストントラッカーを表示する、新しい Visualforce のコンポーネントです。

<chatteranswers:registration> コンポーネントへの registrationClassName 属性の追加

registrationClassName 属性が <chatteranswers:registration> コンポーネントに追加されました。

chatteranswers:allfeeds forceSecureCustomWebAddress 属性の廃止

<chatteranswers:allfeeds> Visualforce コンポーネントの forceSecureCustomWebAddress 属性は、Salesforce API バージョン 29.0 以降では使用できなくなりました。ページへの影響はありません。

サーバ側のビューステート パイロット

サーバ側のビューステートでは、Visualforce ページのビューステートがサーバに保持されます。フォーム登録や応答中にそれが送受信されることはありません。これにより、要求ごとに転送されるデータ量を減らすことができるため、モバイルワイヤレス接続など、帯域幅が制限されているか、待ち時間の長い接続を使用する場合は特に、パフォーマンスが高まる可能性があります。

queryLocator を使用して初期化された StandardSetController で SOQL の WHERE 句がリセットされる問題の解消

以前のリリースでは、コントローラで save() がコールされると、queryLocator で初期設定された StandardSetController が WHERE 句を失う可能性のあるソフトウェア上の欠陥がありました。

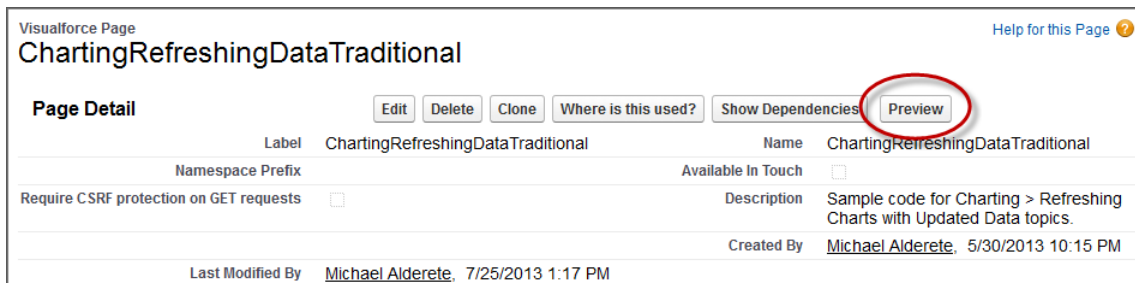
Visualforce ページのページプレビューボタン

Visualforce ページの [設定] リストビューに、リストから直接ページを開くためのボタンが追加され、他の Visualforce の [設定] ページで [詳細] および [編集] ビューからページを開けるようになりました。



[プレビュー] ボタン (🔍) をクリックすると、新しいウィンドウで Visualforce ページが開きます。

Visualforce ページの [詳細] および [編集] ビューに [プレビュー] ボタンが追加されました。これも同じように機能します。



[プレビュー] をクリックすると、新しいウィンドウでページが開きます。

[Touch で利用可能] チェックボックスの名前変更

[Visualforce の作成] ページの [Touch で利用可能] チェックボックスの名前が、[Salesforce モバイルアプリケーションで利用可能] に変更されました。[Visualforce の作成] ページには、[設定] で [開発] > [ページ] > [新規] をクリックしてアクセスできます。

このチェックボックスは、Chatter Mobile アプリケーションで Visualforce ページのサポートが今後行われることを想定して名前変更されました。Salesforce Touch での Visualforce のサポートは変更されていません。

新しい <apex:milestoneTracker> コンポーネント

<apex:milestoneTracker> は、[ケースフィード] ページにマイルストントラッカーを表示する、新しい Visualforce のコンポーネントです。

エンタイトルメントを使用して、顧客がカスタマーサポートの対象であるかどうかを確認し、顧客にケースを作成することができます。顧客は、特定の納入商品、取引先、またはサービス契約によって、サポートの対象となる場合があります。マイルストーンは、サポートプロセスで必要なステップで、各顧客に提供するサービスレベルを示す指標です。たとえば、マイルストーンには、ケースの最初の対応や解決時間が含まれます。

マイルストントラッカーには、有効なマイルストンの目標日に対するカウントダウン時間、またはマイルストーンが違反状態になっている期間が表示されます。これを [ケースフィード] ページに追加して、今後のマイルストーン

と終了したマイルストンのリストと共に、有効なマイルストンに残されている時間や、目標日が過ぎた場合にマイルストンが期限切れになっている期間をエージェントに表示できます。

Visualforce ページで `<apex:milestoneTracker>` コンポーネントを使用する場合、`entityId` 属性が必要です。

```
<apex:page standardController="Case" showHeader="true">
  <apex:milestoneTracker entityId="{!case.id}" />
</apex:page>
```

マイルストントラッカーの詳細は、「[マイルストントラッカーによる\[ケースフィード\]ページでのマイルストンの表示](#)」を参照してください。

<chatteranswers:registration> コンポーネントへの registrationClassName 属性の追加

`registrationClassName` 属性が `<chatteranswers:registration>` コンポーネントに追加されました。

この属性は、`ChatterAnswers.AccountCreator` Apex インターフェースを実装する Apex クラスの名前を指定します。この属性が使用されていない場合、Chatter アンサー登録では、生成される `ChatterAnswersRegistration` または `ChatterAnswers` Apex クラスが使用されます。

`registrationClassName` 属性の使用の詳細については、「[Chatter アンサーポータルユーザが取引先を作成するときの操作性のカスタマイズ](#)」を参照してください。

chatteranswers:allfeeds forceSecureCustomWebAddress 属性の廃止

`<chatteranswers:allfeeds>` Visualforce コンポーネントの `forceSecureCustomWebAddress` 属性は、Salesforce API バージョン 29.0 以降では使用できなくなりました。ページへの影響はありません。

Chatter アンサーフィードの絶対 URL では、セキュアなカスタム Web アドレスがデフォルトで 사용되는ようになったため、この属性を設定する必要がなくなりました。既存の組織でこの属性をすでに使用している場合でも、Visualforce ページの動作は変わりません。

サーバ側のビューステート — パイロット

サーバ側のビューステートでは、Visualforce ページのビューステートがサーバに保持されます。フォーム登録や応答中にそれが送受信されることはありません。これにより、要求ごとに転送されるデータ量を減らすことができるため、モバイルワイヤレス接続など、帯域幅が制限されているか、待ち時間の長い接続を使用する場合は特に、パフォーマンスが高まる可能性があります。

この機能は、制限されたパイロットとして使用できます。パイロットプログラムの追加を希望する場合は、salesforce.com に連絡してください。

queryLocator を使用して初期化された StandardSetController で SOQL の WHERE 句がリセットされる問題の解消

以前のリリースでは、コントローラで `save()` がコールされると、`queryLocator` で初期設定された `StandardSetController` が WHERE 句を失う可能性のあるソフトウェア上の欠陥がありました。

次に、この問題を示す簡単な例を示します。

```
public class OpportunityListController {

    public ApexPages.StandardSetController setCon {
        get {
            if(setCon == null) {
                setCon = new ApexPages.StandardSetController(
                    Database.getQueryLocator(
                        [SELECT Name, CloseDate FROM Opportunity WHERE Amount > 0]
                    )
                );
                setCon.setPageSize(10);
            }
            return setCon;
        }
        set;
    }

    public List<Opportunity> getOpportunities() {
        return (List<Opportunity>) setCon.getRecords();
    }

    public PageReference dropWhereClauseOops() {
        setCon.save();
        return null;
    }
}
```

Visualforce ページがアクションメソッド `dropWhereClauseOops()` をコールした場合、WHERE 条件が失われ、ゼロ以外の値を持つ商談が表示されるのではなく、すべての商談がページに表示されます。

これは非常に特有で、他とは分離されたバグですが、これによってアプリケーションコードに影響が及ぼされると、回避策を作成するために労力を要する可能性があります。Winter'14 では、このバグは修正されているため、すべての回避策を削除することもできます。

Force.com Canvas

Force.com Canvas により、簡単に Salesforce にサードパーティのアプリケーションを統合できます。Force.com Canvas は、アプリケーションをキャンバスアプリケーションとして公開するのに使用できるツールと JavaScript API のセットです。つまり、ユーザはあなたが選択した新しいアプリケーションまたは既存のアプリケーションを、Salesforce の一環として使用できます。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Professional Edition** (Force.com Canvas が有効な場合)、および **Developer Edition**

Force.com Canvas SDK のバージョンは 29.0 です。

詳細は、『Force.com Canvas 開発者ガイド』を参照してください。

API が有効なユーザ権限が必要なくなった

インストールされたキャンバスアプリケーションの実行に、API が有効なユーザ権限が必要なくなりました。

SDK オブジェクトおよび項目の変更

Force.com Canvas SDK にあるオブジェクトと項目には、次の変更が加えられました。

ストリーミング API に対する Force.com Canvas サポート

Force.com Canvas には、キャンバスアプリケーションがストリーミング API 通知をリスンできるようにするイベントとメソッドがあります。

API が有効なユーザ権限が必要なくなった

インストールされたキャンバスアプリケーションの実行に、API が有効なユーザ権限が必要なくなりました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Professional Edition** (Force.com Canvas が有効な場合)、および **Developer Edition**

この項目にアクセスするには、[設定] から [ユーザの管理] > [プロファイル] と移動し、プロファイルの横にある [編集] をクリックします。[API の有効化] 項目は、管理権限セクションにあります。

SDK オブジェクトおよび項目の変更

Force.com Canvas SDK にあるオブジェクトと項目には、次の変更が加えられました。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Professional Edition** (Force.com Canvas が有効な場合)、および **Developer Edition**

- `referenceId` 項目が Application オブジェクトに追加されました。

項目	説明
<code>applicationId</code>	キャンバスアプリケーションの ID。
<code>authType</code>	キャンバスアプリケーションのアクセスメソッド。接続アプリケーションを作成してキャンバスアプリケーションを公開するときは、この値を指定します。
<code>canvasUrl</code>	たとえば、 <code>http://instance.salesforce.com:8080/canvas_app_path/canvas_app.jsp</code> などの、キャンバスアプリケーションの URL です。
<code>developerName</code>	キャンバスアプリケーションの内部名。接続アプリケーションを作成してキャンバスアプリケーションを公開するときは、[API 参照名] 項目にこの値を指定します。
<code>name</code>	キャンバスアプリケーションの名前。
<code>namespace</code>	キャンバスアプリケーションと関連付けられた Salesforce 名前空間プレフィックス。

項目	説明
referenceId	キャンバスアプリケーション定義の一意の ID。内部的に使用されます。
version	キャンバスアプリケーションのバージョン。組織のキャンバスアプリケーションを更新および再公開すると、この値が変化します。

```
"application":
{
  "applicationId": "06Px000000003ed",
  "authType": "SIGNED_REQUEST",
  "canvasUrl": "http://instance.salesforce.com:8080/canvas_app_path/canvas_app.jsp",
  "developerName": "my_java_app",
  "name": "My Java App",
  "namespace": "org_namespace",
  "referenceId": "09HD00000000AUM",
  "version": "1.0.0"}
```

ストリーミング API に対する Force.com Canvas サポート

Force.com Canvas には、キャンバスアプリケーションがストリーミング API 通知をリスンできるようにするイベントとメソッドがあります。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Professional Edition** (Force.com Canvas が有効な場合)、および **Developer Edition**

次のようなイベントやメソッドがあります。

- `sfdc.streamingapi` — 作成後、PushTopic によって定義されたストリーミング API チャンネルに関連付ける JavaScript イベントです。[「ストリーミング API イベントの使用」](#)を参照してください。
- `subscribe` — 定義する `sfdc.streamingapi` イベントを登録します。[「ストリーミング API イベントの登録」](#)を参照してください。
- `unsubscribe` — `sfdc.streamingapi` イベントから登録解除します。[「ストリーミング API イベントからの登録解除」](#)を参照してください。

[ストリーミング API イベントの使用](#)

[ストリーミング API イベントの登録](#)

[ストリーミング API イベントからの登録解除](#)

ストリーミング API イベントの使用

Force.com Canvas SDK には、`sfdc.streamingapi` と呼ばれるイベントが含まれています。このイベントでは、キャンバスアプリケーションでイベントを定義し、そのイベントをストリーミング API チャンネルに関連付けることができます。その後、`subscribe` メソッドを使用してイベントを登録し、ストリーミング API 通知を受信します。

たとえば、Salesforce では、InvoiceStatement が更新され状況が [完了] に変更した場合に通知を受信するストリーミング API を作成できます。その後、キャンバスアプリケーションで、そのチャンネルに関連付けられたイベント

を作成し、そのイベントを登録できます。Salesforce では、請求書明細が完了すると、有効化されたキャンバスアプリケーションで通知を受信し、メッセージをユーザに表示するなどの操作を実行できます。

ストリーミング API イベントを定義する場合、次のような考慮事項があります。

- イベントは、PushTopic 名を含む 1 つのパラメータを受け付けます。
- PushTopic 名の先頭に「/topic/」と指定する必要があります。

```
{name:"sfdc.streamingapi", params:{topic:"/topic/myPushTopicName"}}
```

ストリーミング API イベントの登録

次のコード例に、subscribe メソッドをコールして、キャンバスアプリケーションでストリーミング API イベントを登録できるようにする方法を示します。イベントを登録するには、キャンバスアプリケーションイベントの登録に使用する標準の sfdc.canvas.client.subscribe メソッドをコールします。subscribe メソッドをコールする場合、クライアントおよびストリーミング API イベントを渡す必要があります。ストリーミング API 通知を受信できるのは、開いており、イベントを登録したキャンバスアプリケーションのみです。

この例の onComplete メソッドは、コードでイベントが正常に登録された後で実行する関数を指定します。onData メソッドは、イベントでストリーミング API 通知を受信したときに実行する関数を指定します。

```
// Subscribe to Streaming API events.
// The PushTopic to subscribe to must be passed in.
// The 'onComplete' method may be defined,
// and will fire when the subscription is complete.
Sfdc.canvas(function() {
  sr = JSON.parse('<%=signedRequestJson%>');
  var handler1 = function(){ console.log("onData done");},
  handler2 = function(){ console.log("onComplete done");};
  Sfdc.canvas.client.subscribe(sr.client,
    {name : 'sfdc.streamingapi', params:{topic:"/topic/InvoiceStatements"}},
    onData : handler1, onComplete : handler2)
});
```

subscribe メソッドをコールすると、REST コールが行われ、ストリーミング API への接続に必要な OAuth 範囲がキャンバスアプリケーションに設定されていることが確認されます。このため、キャンバスアプリケーションでストリーミング API イベントを登録するたびに、1 つの API コールが使用され、組織の API 要求数の制限にカウントされます。ストリーミング API に接続するには、キャンバスアプリケーションに最低でも「データへのアクセスと管理」OAuth 範囲が必要です。

subscribe メソッドへのコールが成功した場合、ペイロード {success:true,handle:handle} で onComplete メソッドがコールされます。handle は、登録先のストリーミング API チャンネルの名前が含まれる配列で、subscriptionId は一意の ID が含まれる整数です。たとえば、["/topics/InvoiceStatements", subscriptionId] です。subscribe メソッドへのコールが失敗した場合、ペイロード {success:false,errorMessage:msg} で onComplete メソッドがコールされます。msg は、エラーの原因が含まれる文字列です。

ストリーミング API 通知を受け取るには、PushTopic によって定義されたチャンネルを作成する必要があります。詳細は、『[Force.com ストリーミング API 開発者ガイド](#)』の「ステップ 2: PushTopic を作成する」を参照してください。

ストリーミング API イベントからの登録解除

次のコード例に、unsubscribe メソッドをコールして、キャンバスアプリケーションがストリーミング API イベントから登録解除できるようにする方法を示します。

```
//Unsubscribe from Streaming API events.
//The PushTopic to unsubscribe from must be passed in.
Sfdc.canvas(function() {
    sr = JSON.parse('<%=signedRequestJson%>');
    Sfdc.canvas.client.unsubscribe(sr.client, {name : 'sfdc.streamingapi',
        params:{topic:"/topic/InvoiceStatements"}}});
});
```

Apex コード

Apex コードは、次世代のビジネスアプリケーションの構築に関心を持つ開発者のための、初のマルチテナント、オンデマンドプログラミング言語です。

使用可能なエディション: **Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、**Enterprise Edition**、および **Database.com Edition**

Apex には、次の機能強化があります。これらの機能強化についての詳細は、[『Force.com Apex コード開発者ガイド』](#)を参照してください。

[ステートメント制限の削除](#)

[クエリで使用するスケジュール済みジョブの名前と種別](#)

[アップグレードされたスケジュール済み Apex ジョブの PreviousFireTime のリセット](#)

[Topic および TopicAssignment のトリガ](#)

[新しいクラス、メソッド、およびインターフェース](#)

[QuickAction.QuickActionRequest クラスの更新](#)

[Chatter in Apex](#)

[エラー時の動作の変更](#)

[開発者コンソールのみのコードカバレッジ情報](#)

ステートメント制限の削除

コードステートメント制限は削除されました。Apex トランザクションは、実行可能なコードステートメント数で制限されなくなったため、これまで適用されていたステートメント制限を超えるコードステートメントを実行できます。

無制限のプロセスによる共有 CPU リソースの過剰使用から保護するため、トランザクションの最大 CPU 時間は、同期 Apex の場合は 10,000 ミリ秒、非同期 Apex (Apex 一括処理メソッドおよび future メソッド) の場合は 60,000 ミリ秒です。

CPU 時間は、トランザクションで発生するすべての実行 (Apex コードや、このコードからコールされるすべてのプロセス (パッケージコードやワークフローなど) の実行) に対して計算されます。CPU 時間は、1 つのラン

ザクシオン専用であり、他のトランザクションからは独立しています。CPU 制限を超えると、他のガバナ制限を超えた場合と同様に、処理できない `LimitException` が発生します。

アプリケーションサーバの CPU 時間を消費しない操作は、CPU 時間には加算されません。たとえば、実行時間のうち DML、SOQL、および SOSL 用のデータベースに費やされた時間や、Apex コールアウトの待ち時間はカウントされません。

クエリで利用できるスケジュール済みジョブの名前と種別

SOQL クエリを使用して、スケジュール済みジョブの名前と種別をプログラムで取得できるようになりました。以前は、この情報をクエリで取得できませんでした。新しい `CronJobDetail` SOAP API オブジェクトでは、スケジュール済みジョブの名前と種別が公開されます。スケジュール済みジョブを表す各 `CronTrigger` レコードが、ジョブの名前と種別に関する追加情報を示す `CronJobDetail` レコードに関連付けられるようになりました。

ジョブの名前と種別を取得するには、`CronTrigger` でクエリを実行するときに `CronJobDetail` リレーションを使用します。次の例では、`CronJobDetail` にあるジョブの名前と種別を含む最新の `CronTrigger` レコードを取得します。

```
CronTrigger job =
    [SELECT Id, CronJobDetail.Id, CronJobDetail.Name, CronJobDetail.JobType
     FROM CronTrigger ORDER BY CreatedDate DESC LIMIT 1];
```

`CronJobDetail` を直接クエリして、ジョブの名前と種別を取得することもできます。次の例では、前の例でクエリした `CronTrigger` レコードに対してジョブの名前と種別を取得します。対応する `CronJobDetail` レコード ID は、`CronTrigger` レコードの `CronJobDetail.Id` 式によって取得されます。

```
CronJobDetail ctd =
    [SELECT Id, Name, JobType
     FROM CronJobDetail WHERE Id = :job.CronJobDetail.Id];
```

他の種別のすべてのスケジュール済みジョブを除く、すべての Apex スケジュール済みジョブの合計件数を取得するには、次のクエリを実行します。

```
SELECT COUNT() FROM CronTrigger WHERE CronJobDetail.JobType = '7'
```

次に、`CronJobDetail` SOAP API オブジェクトで利用できるジョブ種別を示します。各ジョブ種別の表示ラベルをリストに示します。値は弧内に示されます。特定のジョブ種別をクエリする場合には、ジョブ種別の値を使用します。

- データのエクスポート (0)
- ダッシュボードの更新 (3)
- 分析スナップショット (4)
- スケジュール済み Apex (7)
- レポート実行 (8)
- 一括処理ジョブ (9)

アップグレードされたスケジュール済み Apex ジョブの PreviousFireTime のリセット

Summer '13 で導入された新規の改善されたスケジュール設定インフラストラクチャを利用するため、Summer '13 より前にスケジュールされた Apex ジョブは、新しいスケジュール設定インフラストラクチャで実行するようにアップグレードされます。このアップグレードの結果、アップグレードされたスケジュール済み Apex ジョブに関連付けられている CronTrigger の PreviousFireTime 項目は null に設定されます。スケジュール済み Apex ジョブの最初の実行およびそれ以降のすべての実行では、各実行が完了するたびに PreviousFireTime が期待値で更新されます。

このアップグレードは、スケジュール済みの Apex ジョブにのみ適用され、他の種別のスケジュール済みジョブには適用されません。

Topic および TopicAssignment のトリガ

Topic オブジェクトと TopicAssignment オブジェクトで、トリガがサポートされるようになりました。Salesforce ユーザーインターフェースからトリガを作成するには、[設定] から [カスタマイズ] > [トピック] > [トピックトリガ] または [カスタマイズ] > [トピック] > [TopicAssignment トリガ] をクリックしてから、[新規] をクリックします。

新しいクラス、メソッド、およびインターフェース

新しい Apex クラスとメソッドは、次のとおりです。

[Database メソッドと Result クラス](#)

[Schema メソッドと Describe Result クラス](#)

[新たに使用可能になった QuickAction Describe メソッドとクラス](#)

[新しい QuickAction Describe メソッドとクラス](#)

[QuickAction.DescribeLayoutComponent クラス](#)

[QuickAction.DescribeLayoutItem クラス](#)

[QuickAction.DescribeLayoutRow クラス](#)

[QuickAction.DescribeLayoutSection クラス](#)

[QuickAction.DescribeQuickActionDefaultValue クラス](#)

[ChatterAnswers.AccountCreator インターフェース](#)

[新しい BusinessHours メソッド](#)

[新しい QuickAction メソッド](#)

Database メソッドと Result クラス

新しいメソッドが Database クラスに追加されました。DML のマージ操作は、以前は DML ステートメントとしてしか使用できませんでした。新しいマージメソッドが Database クラスに追加され、適切な Database メソッドを使用してマージを実行できるようになりました。必要に応じて、マージ操作の結果として発生する例外では

なく、エラーを返すこともできます (存在する場合)。また、2つのユーティリティメソッド (`getDeleted` と `getUpdated`) が追加されました。次の表に、これらのメソッドの詳細を示します。

名前	引数	戻り値	説明
<code>getDeleted</code>	String <i>sObjectType</i> Datetime <i>startDate</i> Datetime <i>endDate</i>	<code>Database.GetDeletedResult</code>	<p>指定された開始日時と終了日時の期間内に <code>sObject</code> 型に対して削除された個々のレコードのリストを返します。</p> <p><i>sObjectType</i> 引数は、<code>sObject</code> 型の名前であり、取引先または <code>merchandise__c</code> などの削除されたレコードがこの名前で取得されます。</p> <p><i>startDate</i> 引数は、削除されたレコードの時間枠の開始日時です。</p> <p><i>endDate</i> 引数は、削除されたレコードの時間枠の終了日時です。</p> <p>コールが実行された日から 15 日以内の結果が返されます (管理者がごみ箱の中身を消去した場合は、この期間が長くなります)。</p> <p>例:</p> <pre>Database.GetDeletedResult r = Database.getDeleted('Merchandise__c', Datetime.now().addHours(-1), Datetime.now());</pre>
<code>getUpdated</code>	String <i>sObjectType</i> Datetime <i>startDate</i> Datetime <i>endDate</i>	<code>Database.GetUpdatedResult</code>	<p>指定された開始日時と終了日時の期間内に <code>sObject</code> 型に対して更新された個々のレコードのリストを返します。</p> <p><i>sObjectType</i> 引数は、<code>sObject</code> 型の名前であり、取引先または <code>merchandise__c</code> などの更新されたレコードがこの名前で取得されます。</p> <p><i>startDate</i> 引数は、更新されたレコードの時間枠の開始日時です。</p> <p><i>endDate</i> 引数は、更新されたレコードの時間枠の終了日時です。</p> <p>コールが実行された日から 30 日以内の結果が返されます。</p> <p>例:</p> <pre>Database.GetUpdatedResult r = Database.getUpdated('Merchandise__c', Datetime.now().addHours(-1), Datetime.now());</pre>

名前	引数	戻り値	説明
merge	sObject <i>master</i> Id <i>duplicate</i> (省略可能) Boolean <i>allOrNone</i>	Database.MergeResult	<p>指定の重複レコードを同じ型のマスタ sObject レコードにマージし、重複を削除して関連レコードの親を変更します。取引先、取引先責任者、またはリードのみをマージします。</p> <p><i>master</i> 引数は、重複レコードをマージするマスタ sObject レコードです。</p> <p><i>duplicate</i> 引数は、マスタとマージするレコードの ID です。このレコードは、マスタと同じ sObject 型である必要があります。</p> <p><i>allOrNone</i> 引数 (省略可能) — 返される結果の一部として、この操作で発生したエラーを返すには、<i>false</i> を設定します。<i>true</i> に設定すると、操作に失敗したときにこのメソッドで例外が発生します。デフォルトは <i>true</i> です。</p> <p>実行された各 <i>merge</i> メソッドは、DML ステートメントのガバナ制限にカウントされます。</p>
merge	sObject <i>master</i> sObject <i>duplicate</i> (省略可能) Boolean <i>allOrNone</i>	Database.MergeResult	<p>指定された重複する sObject レコードを同じ型のマスタ sObject レコードにマージし、重複を削除して関連レコードの親を変更します。</p> <p><i>master</i> 引数は、重複レコードをマージするマスタ sObject レコードです。</p> <p><i>duplicate</i> 引数は、マスタとマージする sObject レコードです。この sObject は、マスタと同じ型である必要があります。</p> <p><i>allOrNone</i> 引数 (省略可能) — 返される結果の一部として、この操作で発生したエラーを返すには、<i>false</i> を設定します。<i>true</i> に設定すると、操作に失敗したときにこのメソッドで例外が発生します。デフォルトは <i>true</i> です。</p> <p>実行された各 <i>merge</i> メソッドは、DML ステートメントのガバナ制限にカウントされます。</p>
merge	sObject <i>master</i> List<Id> <i>duplicates</i> (省略可能) Boolean <i>allOrNone</i>	List<Database.MergeResult>	<p>同じ sObject 型のレコードを 2 つまでマスタ sObject レコードにマージし、その他のレコードを削除して関連レコードの親を変更します。</p> <p><i>master</i> 引数は、その他のレコードをマージするマスタ sObject レコードです。</p> <p><i>duplicates</i> 引数は、マスタとマージする最大 2 つのレコードの ID のリストです。これらの</p>

名前	引数	戻り値	説明
			<p>レコードは、マスタと同じ sObject 型である必要があります。</p> <p><i>allOrNone</i> 引数 (省略可能) — 返される結果の一部として、この操作で発生したエラーを返すには、<i>false</i> を設定します。<i>true</i> に設定すると、操作に失敗したときにこのメソッドで例外が発生します。デフォルトは <i>true</i> です。</p> <p>実行された各 <i>merge</i> メソッドは、DML ステートメントのガバナ制限にカウントされます。</p>
<i>merge</i>	<p>sObject <i>master</i></p> <p>LIST<SObject> <i>duplicates</i></p> <p>(省略可能) Boolean <i>allOrNone</i></p>	List<Database.MergeResult>	<p>同じオブジェクト種別のレコードを2つまでマスタ sObject レコードにマージし、その他のレコードを削除して関連レコードの親を変更します。</p> <p><i>master</i> 引数は、その他の sObject をマージするマスタ sObject レコードです。</p> <p><i>duplicates</i> 引数は、マスタとマージする最大2つの sObject レコードのリストです。これらの sObject は、マスタと同じ型である必要があります。</p> <p><i>allOrNone</i> 引数 (省略可能) — 返される結果の一部として、この操作で発生したエラーを返すには、<i>false</i> を設定します。<i>true</i> に設定すると、操作に失敗したときにこのメソッドで例外が発生します。デフォルトは <i>true</i> です。</p> <p>実行された各 <i>merge</i> メソッドは、DML ステートメントのガバナ制限にカウントされます。</p>

getDeleted および *getUpdated* メソッドの新しいサポートクラスは、次のとおりです。

- *Database.GetDeletedResult* — 特定の sObject 型および時間枠に対して取得された削除済みレコードが含まれます。
- *Database.DeletedRecord* — 削除済みレコードに関する情報が含まれます。
- *Database.GetUpdatedResult* — *Database.getUpdated* メソッドコールの結果が含まれます。

merge メソッドでサポートされているクラスは次のとおりです。

- *Database.MergeResult* — *merge Database* メソッドの処理結果が含まれます。

Schema メソッドと Describe Result クラス

次に、Schema クラスの新しいメソッドを示します。これらの新しいメソッドの結果は、同等の SOAP API コールではパリティになります。

名前	引数	戻り値	説明
describeSObjects	List<String> types	List<Schema. DescribeSObjectResult>	<p>指定された sObject または sObject の配列のメタデータ (項目リストとオブジェクトプロパティ) を表します。</p> <p>types 引数は、記述する sObject 型名のリストです。</p> <p>このメソッドは、Schema.sObjectType トークンの getDescribe メソッドと類似しています。getDescribe メソッドと異なり、このメソッドでは sObject 型を動的に指定して、複数の sObject を一度に記述できます。</p> <p>最初に describeGlobal をコールして組織のすべてのオブジェクトのリストを取得します。その後リスト内を反復処理し、describeSObjects を使用して個々のオブジェクトのメタデータを取得します。</p> <p>describeSObjects メソッドが返すことができるオブジェクトの最大数は 100 個です。</p> <p>例:</p> <pre>Schema.DescribeSObjectResult[] descResult = Schema.describeSObjects(new String[]{ 'Account', 'Contact'});</pre>
describeTabs		LIST<Schema. DescribeTabSetResult>	<p>実行ユーザが利用可能な標準アプリケーションとカスタムアプリケーションの情報を返します。</p> <p>アプリケーションとは、タブのグループのことです。たとえば、標準 Salesforce アプリケーションとして「セールス」と「コールセンター」があります。</p> <p>describeTabs メソッドは、アプリケーションを別のユーザインターフェースで表示するのに必要な最小限のメタデータを返します。通常このコールは、Salesforce データを別のユーザインターフェース(モバイルアプリケー</p>

名前	引数	戻り値	説明
			<p>ションや接続アプリケーションなど) で表示するためにパートナーアプリケーションからコールされます。</p> <p>Salesforce ユーザインターフェースでは、ページ上部の Salesforce アプリケーションメニューに示されているとおり、ユーザには標準的なアプリケーションへのアクセス権があります (カスタムアプリケーションへのアクセス権があることもあります)。メニューでアプリケーション名を選択すると、表示されるアプリケーションをいつでも切り替えることができます。</p> <p> メモ: [すべてのタブ] タブは、前述のタブのリストには含まれません。</p> <p>例:</p> <pre>Schema.DescribeTabSetResult [] tabSetDesc = Schema.describeTabs ();</pre>

次に、結果のメタデータ情報を含む `describeTabs` の新しいサポートクラスを示します。

- `Schema.DescribeTabSetResult` — Salesforce ユーザインターフェースで利用可能な標準またはカスタムアプリケーションに関するメタデータ情報が含まれます。
- `Schema.DescribeTabResult` — Salesforce ユーザインターフェースで利用可能な標準またはカスタムアプリケーションのタブに関するタブメタデータ情報が含まれます。
- `Schema.DescribeColorResult` — タブの色メタデータ情報が含まれます。
- `Schema.DescribeIconResult` — タブのアイコンメタデータ情報が含まれます。

新たに使用可能になった QuickAction Describe メソッドとクラス

新しい QuickAction `describeAvailableQuickActions` メソッドは、使用可能なクイックアクションの Describe Result オブジェクト (`QuickAction.DescribeAvailableQuickActionResult`) の配列を返します。各結果オブジェクトには、指定された親に使用できるパブリッシャークイックアクションの Describe メタデータ情報が含まれます。



メモ: アプリケーションでは、QuickAction はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

メソッド	戻り値	説明
<code>getLabel</code>	<code>String</code>	パブリッシャーアクションの表示ラベル。

メソッド	戻り値	説明
getName	String	パブリッシャーアクション名。
getType	String	パブリッシャーアクションの種別。

新しい QuickAction Describe メソッドとクラス

新しい QuickAction describeQuickActions メソッドは、クイックアクションの Describe Result オブジェクト (QuickAction.DescribeQuickActionResult) の配列を返します。各結果オブジェクトには、指定された sObject のパブリッシャークイックアクションの Describe メタデータ情報が含まれます。



メモ: アプリケーションでは、QuickAction はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

QuickAction.DescribeQuickActionResult クラスには次のインスタンスメソッドがあります。

メソッド	戻り値	説明
getCanvasApplicationName	String	キャンバスアプリケーションの名前を返します(使用されている場合)。  メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織での Shared Activities の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。
getDefaultValues	LIST<QuickAction. DescribeQuickActionDefaultValue>	アクションのデフォルト値を返します。
getHeight	Integer	アクションペインの高さ (ピクセル単位) を返します。
getIconName	String	アクションのアイコン名を返します。
getIconUrl	String	アクションに使用する 32 x 32 アイコンの URL を返します。
getIcons	LIST <Schema.DescribeIconResult>	タブに使用する色を示す Schema.DescribeIconResult オブジェクトのリストを返します。
getLabel	String	アクションの表示ラベルを返します。
getLayout	QuickAction. DescribeLayoutSection	アクションを構成するレイアウトセクションを返します。
getMiniIconUrl	String	16 x 16 アイコンの URL を返します。

メソッド	戻り値	説明
getName	String	アクション名を返します。
getSourceObjectType	String	アクションに使用するオブジェクト種別を返します。
getTargetParentField	String	アクションの親オブジェクトの種別を返します。
getTargetRecordTypeId	String	対象レコードのレコードタイプを返します。
getTargetObjectType	String	アクションの対象オブジェクト種別を返します。
getType	String	作成アクションまたはカスタム Visualforce アクションを返します。
getVisualforcePageName	String	Visualforce を使用する場合、アクションに関連付けられたページの名前を返します。
getWidth	Integer	カスタムアクションを作成する場合、アクションペインの幅 (ピクセル単位) を返します。

QuickAction.DescribeLayoutComponent クラス

新しい QuickAction DescribeLayoutComponent クラスは、レイアウトの最小単位である項目または境界を表します。



メモ: アプリケーションでは、QuickAction はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

QuickAction.DescribeLayoutComponent クラスには次のインスタンスメソッドがあります。

メソッド	戻り値	説明
getDisplayLines	Integer	項目に表示される垂直な線を返します。textarea および複数選択リストに適用されます。
getTabOrder	Integer	行のアイテムのタブの順序を返します。
getType	String	このコンポーネントの QuickAction.DescribeLayoutComponent の型の名前を返します。
getValue	String	QuickAction.DescribeLayoutComponent の型が textarea の場合は、項目名を返します。

QuickAction.DescribeLayoutItem クラス

QuickAction.DescribeLayoutRow の個別のアイテムを表します。レイアウトのほとんどの項目で、1つのレイアウトアイテムごとにコンポーネントは1つだけです。ただし、表示のみのビューでは、

`QuickAction.DescribeLayoutItem` は個別項目の組み合わせである場合があります (たとえば、住所は町名、市区郡、都道府県、国、郵便番号のデータから構成することができます)。対応する編集ビューでは、住所項目のそれぞれのコンポーネントは、別個の `QuickAction.DescribeLayoutItem` に分けられます。



メモ: アプリケーションでは、`QuickAction` はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

`QuickAction.DescribeLayoutItem` クラスには次のインスタンスメソッドがあります。

メソッド	戻り値	説明
<code>getLabel</code>	<code>String</code>	このアイテムの表示ラベルのテキストを返します。
<code>getLayoutComponents</code>	<code>LIST<QuickAction.DescribeLayoutComponent></code>	このアイテムの <code>QuickAction.DescribeLayoutComponent</code> のリストを返します。
<code>isEditable</code>	<code>Boolean</code>	このアイテムが編集可能であるか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。
<code>isPlaceholder</code>	<code>Boolean</code>	このアイテムがプレースホルダか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。 <code>true</code> の場合、このアイテムは空白となります。
<code>isRequired</code>	<code>Boolean</code>	このアイテムが必須項目か (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。この機能は、目立つ色で必須項目を表示する場合などに便利です。

QuickAction.DescribeLayoutRow クラス

`QuickAction.DescribeLayoutSection` の行を表します。 `QuickAction.DescribeLayoutRow` は、1 つ以上の `QuickAction.DescribeLayoutItem` オブジェクトで構成されます。それぞれの `QuickAction.DescribeLayoutRow` について、 `QuickAction.DescribeLayoutItem` は特定の項目または「空の」 `QuickAction.DescribeLayoutItem` (`QuickAction.DescribeLayoutComponent` オブジェクトを含まない) を参照します。空の `QuickAction.DescribeLayoutItem` は、指定された `QuickAction.DescribeLayoutRow` が疎である場合に返されます (たとえば、左の列より右の列の方が項目が多い場合)。



メモ: アプリケーションでは、`QuickAction` はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

`QuickAction.DescribeLayoutRow` クラスには次のインスタンスメソッドがあります。

メソッド	戻り値	説明
<code>getLayoutItems</code>	<code>LIST<QuickAction.DescribeLayoutItem></code>	特定の項目または空の <code>QuickAction.DescribeLayoutItem</code> (<code>QuickAction.DescribeLayoutComponent</code> オブジェクトを含まない) のいずれかを返します。

メソッド	戻り値	説明
getNumItems	Integer	QuickAction.DescribeLayoutItem の数を返します。

QuickAction.DescribeLayoutSection クラス

レイアウトのセクションを表し、1つ以上の列および1つ以上の行から構成されます (QuickAction.DescribeLayoutRow の配列)。



メモ: アプリケーションでは、QuickAction はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

QuickAction.DescribeLayoutSection クラスには次のインスタンスメソッドがあります。

メソッド	戻り値	説明
getColumns	Integer	QuickAction.DescribeLayoutSection の列数を返します。
getHeading	String	QuickAction.DescribeLayoutSection のヘッダーのテキスト (表示ラベル)。
getLayoutRows	LIST<QuickAction.DescribeLayoutRow>	1つ以上の QuickAction.DescribeLayoutRow オブジェクトの配列を返します。
getRows	Integer	QuickAction.DescribeLayoutSection の行数を返します。
isUseCollapsibleSection	Boolean	QuickAction.DescribeLayoutSection が折りたたみ可能なセクションであるか (true)、否か (false) を示します。
isUseHeading	Boolean	heading が使用されているか (true)、否か (false) を示します。

QuickAction.DescribeQuickActionDefaultValue クラス

クイックアクションのデフォルト値を返します。デフォルトレイアウトで使用する項目のデフォルト値を表します。



メモ: アプリケーションでは、QuickAction はアクションまたはパブリッシャーアクションと呼ばれます。

QuickAction.DescribeQuickActionDefaultValue クラスには次のインスタンスメソッドがあります。

メソッド	戻り値	説明
getDefaultValue	String	クイックアクションのデフォルト値を返します。
getField	String	アクションの項目名を返します。

ChatterAnswers.AccountCreator インターフェース

Chatter アンサーが使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Developer** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

ChatterAnswers.AccountCreator インターフェースは、Chatter アンサーユーザに関連付けられる取引先レコードを作成する新しいインターフェースです。ChatterAnswers.AccountCreator は、chatteranswers:registration Visualforce コンポーネントの registrationClassName 属性で指定されます。このインターフェースは Chatter アンサーによってコールされます。また、このインターフェースでは、ポータルユーザが使用する取引先レコードをカスタム作成できます。

ChatterAnswers.AccountCreator インターフェースには、基本的なユーザ情報を受け取り、取引先レコードを作成する 1 つのメソッド、createAccount があります。このメソッドの実装では、取引先 ID を返します。

これは、ChatterAnswers.AccountCreator インターフェースの実装例です。createAccount メソッドの実装では、ユーザ情報を受け取り、取引先レコードを作成します。メソッドは、取引先 ID の String 値を返します。

```
public class ChatterAnswersRegistration implements ChatterAnswers.AccountCreator {
    public String createAccount(String firstname, String lastname, Id siteAdminId) {
        Account a = new Account(name = firstname + ' ' + lastname, ownerId = siteAdminId);

        insert a;
        return a.Id;
    }
}
```

この例では、上記のコードをテストします。

```
@isTest
private class ChatterAnswersCreateAccountTest {
    static testMethod void validateAccountCreation() {
        User[] user = [SELECT Id, Firstname, Lastname from User];
        if (user.size() == 0) { return; }
        String firstName = user[0].FirstName;
        String lastName = user[0].LastName;
        String userId = user[0].Id;
        String accountId = new ChatterAnswersRegistration().createAccount(firstName, lastName,
        userId);
        Account acct = [SELECT name, ownerId from Account where Id =: accountId];
        System.assertEquals(firstName + ' ' + lastName, acct.name);
        System.assertEquals(userId, acct.ownerId);
    }
}
```

新しい BusinessHours メソッド

次の静的メソッドが BusinessHours クラスに追加されました。

名前	引数	戻り値	説明
isWithin	String <i>businessHoursId</i>	Boolean	指定された目標日が営業時間内にある場合、true を返します。休日は計算に含まれます。
	Datetime <i>targetDate</i>		<i>businessHoursId</i> 引数は、営業時間 ID です。 <i>targetDate</i> 引数は、検証する日付です。
nextStartDate	String <i>businessHoursId</i>	Datetime	指定された目標日以降の、次に営業時間が開始する日付を返します。指定された目標日が営業時間内にある場合、この目標日が返されます。
	Datetime <i>targetDate</i>		<i>businessHoursId</i> 引数は、営業時間 ID です。 <i>targetDate</i> 引数は、次の日付を取得するための開始日として使用される日付です。

例

次の例では、指定された時間がデフォルトの営業時間内にあるかどうかを調べています。

```
// Get the default business hours
BusinessHours bh = [SELECT Id FROM BusinessHours WHERE IsDefault=true];

// Create Datetime on May 28, 2013 at 1:06:08 AM in the local timezone.
Datetime targetTime = Datetime.newInstance(2013, 5, 28, 1, 6, 8);

// Find whether the time is within the default business hours
Boolean isWithin= BusinessHours.isWithin(bh.id, targetTime);
```

次の例では、目標日以降で、次に営業時間が再開する日付を調べています。目標日が所定の営業時間内にある場合、その目標日が返されます。返される時間は、ローカルタイムゾーンの時間になります。

```
// Get the default business hours
BusinessHours bh = [SELECT Id FROM BusinessHours WHERE IsDefault=true];

// Create Datetime on May 28, 2013 at 1:06:08 AM in the local timezone.
Datetime targetTime = Datetime.newInstance(2013, 5, 28, 1, 6, 8);
// Starting from the targetTime, find the next date when business hours reopens. Return the
target time.

// if it is within the business hours. The returned time will be in the local time zone
Datetime nextStart = BusinessHours.nextStartDate(bh.id, targetTime);
```

新しい QuickAction メソッド

次の静的メソッドが QuickAction クラスに追加されました。

名前	引数	戻り値	説明
describeAvailableQuickActions	String <i>parentType</i>	List<QuickAction. DescribeAvailable QuickActionResult>	指定された親オブジェクトで使用可能なクイックアクションのメタデータ情報を返します。 <i>parentType</i> 引数は、親オブジェクト種別です。オブジェクト種別名 (「Account」) または「Global」 (このメソッドはエントリレベルではなくグローバルレベルで呼び出される) を指定できます。
describeQuickActions	List<String> <i>sObjectName</i>	List<QuickAction. DescribeQuick ActionResult>	指定されたクイックアクションのメタデータ情報を返します。 <i>sObjectName</i> 引数はクイックアクションの名前です。クイックアクション名には、エントリレベル (「Account.QuickCreateContact」) の場合はエンティティ名、グローバルレベル (「Global.CreateNewContact」) でアクションを使用する場合は「Global」を含めることができます。

QuickAction.QuickActionRequest クラスの更新

Salesforce.com API バージョン 28.0 を使用して保存された Apex の場合、親 ID はコンテキスト ID ではなく QuickActionRequest に関連付けられます。バージョン 29.0 以降では、コンテキスト ID になります。

Chatter in Apex

Salesforce でカスタム Chatter を体験するには、Chatter in Apex を使用します。

ConnectApi 名前空間の Apex クラスでは多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の ConnectApi クラスが使用されます。ConnectApi 名前空間は、*Chatter in Apex* と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、ConnectApi クラスでは Chatter データがより単純な方法で公開されます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、多くのコールではなく 1 回のコールで行うことができます。



メモ: モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションを Chatter に統合するには、[Chatter REST API](#) を使用します。

Chatter in Apex の全般的な更新

新規および変更された [Chatter in Apex](#) クラス

新規および変更された **Chatter in Apex** 入力クラス

新規および変更された **Chatter in Apex** 出力クラス

新規および変更された **Chatter in Apex Enum**

Chatter in Apex の全般的な更新

フィード項目およびコメントの 5000 文字の制限

フィード項目とコメントの入力および出力の本文には、最大 5000 文字まで含めることができます。以前は 1000 文字に制限されていました。この変更は、すべての API バージョンに適用されます。

新規および変更された Chatter in Apex クラス

メンション提案の取得

2 つの新しい `ConnectApi.Mentions.getMentionCompletions` メソッドは、フィード項目本文またはコメント本文でメンションする可能性のあるユーザおよびグループの集合を表す

`ConnectApi.MentionCompletionPage` オブジェクトを返します。メンションは、ユーザ名またはグループ名の前にある「@」文字で示されます。ユーザまたはグループは、メンションされると通知を受け取ります。ユーザがフィード項目本文またはコメント本文に 2 文字以上入力すると選択可能になる提案メンションのリストを生成するには、これらのメソッドをコールします。

`contextId` 引数を指定すると、結果を絞り込んで有用な順に結果を表示することができます。コメントのメンション提案を取得するには、フィード項目 ID を指定して、スレッド内の他のユーザが結果の最初に表示されるようにします。グループへのフィード項目投稿のメンション提案を取得するには、グループ ID を指定してグループメンバーが結果の最初に表示されるようにします。

メンション提案の検証

新しい `ConnectApi.Mentions.getMentionValidations` メソッドは、指定されたメンション提案がコンテキストユーザにとって有効かどうかに関する情報を表す `ConnectApi.MentionValidations` オブジェクトを返します。提案をユーザに表示する前に、提案メンションのリストが有効であることを検証するには、このメソッドをコールします。

コミュニティのモデレート

新しい `ConnectApi.CommunityModeration` クラスは、コミュニティ内のコメントとフィード項目のモデレーションフラグに関する情報を提供します。コメントおよびフィード項目に対して 1 つ以上のフラグを追加および削除できます。このクラスには次のメソッドが含まれます。

- `ConnectApi.CommunityModeration.addFlagToComment` — コメントにモデレーションフラグを追加します。
- `ConnectApi.CommunityModeration.addFlagToFeedItem` — フィード項目にモデレーションフラグを追加します。
- `ConnectApi.CommunityModeration.getFlagsOnComment` — コメントに追加されたモデレーションフラグを取得します。
- `ConnectApi.CommunityModeration.getFlagsOnFeedItem` — フィード項目に追加されたモデレーションフラグを取得します。
- `ConnectApi.CommunityModeration.removeFlagsOnComment` — コメントからモデレーションフラグを削除します。
- `ConnectApi.CommunityModeration.removeFlagsOnFeedItem` — フィード項目からモデレーションフラグを削除します。

モデレーションフラグを表示するには、新しい Moderation Feed を使用します。新しい `ConnectApi.FeedType.Moderation Enum` 値を `ConnectApi.ChatterFeeds.getFeedItemsFromFeed` へのコールで渡します。

返されるコメント数の指定

次のメソッドの新規バリエーションは、1つのフィード項目ごとに返されるコメントの最大数を指定する `recentCommentCount` 引数を取ります。

- `ConnectApi.ChatterFavorites.getFeedItems`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.getFeedItemsFromFeed`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.getFeedItemsFromFilterFeed`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.searchFeedItems`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.searchFeedItemsInFeed`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.searchFeedItemsInFilterFeed`

各メソッドには、テスト用の疑似データの登録に使用するテストメソッドが付随します。

返されるフィードの密度の指定

データ型 `ConnectApi.FeedDensity` の新しい `density` 引数には、フィード項目で返す範囲を指定します。

- `AllUpdates` — ユーザがフォローする人とレコード、およびユーザがメンバーとなっているグループからのすべての投稿とコメントが表示されます。
- `FewerUpdates` — ユーザがフォローする人とレコード、およびユーザがメンバーとなっているグループからのすべての投稿とコメントが表示されますが、誰からもコメントされていないレコードからのシステム生成された投稿は非表示になります。

次のメソッドの新しいバリエーションは `density` 引数を取ります。

- `ConnectApi.ChatterFeeds.getFeedItemsFromFeed`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.getFeedItemsFromFilterFeed`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.searchFeedItemsInFeed`
- `ConnectApi.ChatterFeeds.searchFeedItemsInFilterFeed`

グループの作成

`ConnectApi.ChatterGroups.createGroup` は、Chatter グループを作成する新しいメソッドです。

グループの削除

`ConnectApi.ChatterGroups.deleteGroup` は、Chatter グループを削除する新しいメソッドです。

グループメンバーのロールの設定

`ConnectApi.ChatterGroups.addGroupMemberWithRole` は、ユーザを Chatter グループに追加し、メンバーに標準メンバーまたはグループマネージャとしてのロールを割り当てる新しいメソッドです。

グループメンバー種別の更新

`ConnectApi.ChatterGroups.updateGroupMember` は、ユーザのグループメンバー種別のロールを標準メンバーまたはグループマネージャに更新する新しいメソッドです。

アーカイブ状況に基づいたグループに関する情報の取得

データ型 `ConnectApi.GroupArchiveStatus` の新しい `archiveStatus` 引数には、アーカイブ状況に基づいてグループのセットを指定します。

- `All` — アーカイブ対象かどうかに関係なく、すべてのグループ。
- `Archived` — アーカイブ対象のグループのみ。

- `NotArchived` — アーカイブ対象外のグループのみ。

次のメソッドは `archiveStatus` 引数を取ります。

- `ConnectApi.ChatterGroups.getGroups`
- `ConnectApi.ChatterGroups.searchGroups`
- `ConnectApi.ChatterGroups.setTestSearchGroups`

よりの確な結果を得るグループの検索

`ConnectApi.ChatterGroups.searchGroups` メソッドが、グループ名項目のみを検索するようになりました。以前のバージョンでは、グループの説明項目など他の項目が検索に含まれていたため、検索結果に多くの不要項目が含まれていました。

写真のトリミング

2つの新しい `ConnectApi.ChatterGroups.setPhotoWithAttributes` メソッドでは、グループ写真の設定とトリミングができます。一方のメソッドは既存のファイルを設定し、もう一方はバイナリ入力をアップロードして設定します。

Chatter メッセージの送受信と検索

`ConnectApi.ChatterMessages` は、メッセージおよび会話データに関する情報が含まれる新しいクラスです。次の静的メソッドが含まれます。

- `ConnectApi.ChatterMessages.getConversation` は、コンテキストユーザがアクセスできる1つの会話を返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.getConversations` は、コンテキストユーザがアクセスできる複数の会話を返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.getMessage` は、コンテキストユーザがアクセスできる1つのメッセージを返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.getMessages` は、コンテキストユーザがアクセスできるメッセージのリストを返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.getUnreadCount` は、コンテキストユーザが未読とマークした会話の数を返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.markConversationRead` は、コンテキストユーザの会話を既読としてマークします。
- `ConnectApi.ChatterMessages.replyToMessage` は、指定されたテキストをコンテキストユーザがアクセスできる、先行するメッセージへの応答として追加します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.searchConversation` は、コンテキストユーザがアクセスできる会話のうち、指定された検索に一致するメッセージが含まれるページを返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.searchConversations` は、コンテキストユーザがアクセスできる会話のうち、会話内のメンバー名とメッセージが指定された検索条件と一致する会話のページを返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.searchMessages` は、コンテキストユーザがアクセスできるメッセージのうち、指定された条件に一致するメッセージのページを返します。
- `ConnectApi.ChatterMessages.sendMessage` は、指定されたテキストを指示された受信者に送信します。

トピック

`ConnectApi.Topics` は、トピックに関する情報が含まれる新しいクラスです。次の静的メソッドが含まれます。

- `ConnectApi.Topics.assignTopic` は、トピック ID を使用してトピックをフィード項目に割り当てます。
- `ConnectApi.Topics.assignTopicByName` は、トピック名を使用してトピックをフィード項目に割り当てます。
- `ConnectApi.Topics.deleteTopic` は、トピックを削除します。「トピックの削除」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみがトピックを削除できます。
- `ConnectApi.Topics.getGroupsRecentlyTalkingAboutTopic` は、最近トピックに投稿したグループを 5 つまで返します。
- `ConnectApi.Topics.getRecentlyTalkingAboutTopicsForGroup` は、最近グループで使用されたトピックを 5 つまで返します。
- `ConnectApi.Topics.getRecentlyTalkingAboutTopicsForUser` は、最近ユーザによって使用されたトピックを 5 つまで返します。
- `ConnectApi.Topics.getRelatedTopics` は、トピックへの関連性が最も強いトピックを 5 つまで返します。
- `ConnectApi.Topics.getTopic` は、トピックに関する情報を返します。
- 8 つの `ConnectApi.Topics.getTopics` メソッドが、次のトピック情報を返します。
 - ◇ フィード項目に割り当てられているトピックの最初のページを返します。
 - ◇ 組織のトピックの最初のページを返します。
 - ◇ 組織のトピックの最初のページを指定された順序で返します。
 - ◇ 指定されたページのトピックを返します。
 - ◇ 指定されたページのトピックを指定された順序で返します。
 - ◇ 指定された検索条件に一致するトピックを指定された順序で返します。
 - ◇ 指定されたページの指定された検索条件に一致するトピックを返します。
 - ◇ 指定されたページの指定された検索条件に一致するトピックを指定された順序で返します。
- フィード項目の推奨トピックを返す 2 つの `ConnectApi.Topics.getTopicSuggestions` メソッド。
- テキスト文字列の推奨トピックを返す 2 つの `ConnectApi.Topics.getTopicSuggestionsForText` メソッド。
- 組織のトピックのトレンドを上位 5 まで返す 2 つの `ConnectApi.Topics.getTrendingTopics` メソッド。
- `ConnectApi.Topics.unassignTopic` は、フィード項目からトピックを削除します。
- `ConnectApi.Topics.updateTopic` は、トピック名の説明またはスペースおよび大文字表記を更新します。

ユーザプロフィールに関する情報の取得

`ConnectApi.UserProfiles` は、ユーザプロフィールデータへのアクセスに使用される新しいクラスです。このクラスには、コンテキストユーザのユーザプロフィールを返す 1 つの静的メソッド `getUserProfile` が含まれます。

`ConnectApi.ChatterUsers.updateUser` は、指定されたユーザの [自己紹介] セクションを更新する新しいメソッドです。

Chatter アンサーのゾーンに関する情報の取得

`ConnectApi.Zones` は、ゾーン内の検索に関する情報が含まれる新しいクラスです。このクラスには次のメソッドが含まれます。

- `getZone` は、ゾーン ID に基づいて特定のゾーンを返します。
- `getZones` は、ゾーンのページ設定されたリストを返します。

- `getZones` は、指定されたページとページサイズでページ設定されたゾーンのリストを返します。
- `searchInZone` は、キーワードでゾーンを検索します。記事または質問を検索するかどうかを指定します。
- `searchInZone` は、キーワードでゾーンを検索します。記事または質問を検索するかどうかと、表示する情報のページとページサイズを指定します。

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

`ConnectApi.CanvasAttachmentInput`

この新しいクラスを使用して、キャンバスアプリケーションをフィード項目に添付します。これは `ConnectApi.FeedItemAttachmentInput` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `description` — キャンバスアプリケーションの説明。
- `developerName` — キャンバスアプリケーションの開発者名 (API 名)。
- `height` — キャンバスアプリケーションの高さ (ピクセル単位)。デフォルトの高さは 200 ピクセルです。
- `namespacePrefix` — キャンバスアプリケーションが作成された Developer Edition 組織の名前空間プレフィックス。
- `parameters` — キャンバスアプリケーションに渡される JSON 形式のパラメータ。
- `thumbnailUrl` — キャンバスアプリケーションのサムネイル画像の URL。最大サイズは 120x120 ピクセルです。
- `title` — キャンバスアプリケーションのコールに使用されるリンクのタイトル。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

`ConnectApi.ChatterGroupInput`

このクラスの新しいプロパティを使用して、グループのプロパティを設定します。

- `canHaveChatterGuests` — このグループで Chatter 顧客を許可している場合は `true`、それ以外の場合は `false`。このプロパティを `true` に設定した後で、`false` に設定することはできません。
- `description` — グループの [説明] セクション。
- `name` — グループの名前。
- `owner` — グループ所有者の ID。
- `isArchived` — グループがアーカイブ済みの場合は `true`、それ以外の場合は `false`。デフォルトは `false` です。
- `isAutoArchiveDisabled` — グループの自動アーカイブが無効の場合は `true`、それ以外の場合は `false`。デフォルトは `false` です。
- `visibility` — グループが非公開か公開のどちらであるかを指定します。
 - ◇ `PrivateAccess` — グループのメンバーのみが、このグループへの投稿を参照できます。
 - ◇ `PublicAccess` — 内部コミュニティのすべてのユーザが、このグループへの投稿を参照できます。

`ConnectApi.MentionSegmentInput`

投稿およびコメントで Chatter グループにメンションできるようになったため、`id` プロパティはユーザ ID またはグループ ID になります。

ConnectApi.PhotoInput

次の新しいプロパティを使用して、写真をトリミングする方法を指定します。

- `cropSize` — トリミングする四角形の任意の境界の長さ (ピクセル単位)。
- `cropX` — 画像の左端からトリミングする四角形の開始までの位置 X (ピクセル単位)。左上の位置は (0,0) です。
- `cropY` — 画像の上端からトリミングする四角形の開始までの位置 Y (ピクセル単位)。左上の位置は (0,0) です。

ConnectApi.TopicAssignmentInput

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `topicId` — 既存のトピックの ID。 `topicName` プロパティが使用されていない場合、既存のトピックに必要です。
- `topicName` — 新規または既存のトピックの名前。新規のトピック、および `topicId` プロパティが使用されていない場合の既存のトピックに必要です。

ConnectApi.TopicInput

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `description` — トピックの説明。
- `name` — トピックの名前。大文字表記だけでなく、トピック名のスペースを変更するには、このプロパティを引数として `ConnectApi.Topic.updateTopic` に渡します。

ConnectApi.UserInput

この新しい入力クラスには、1つのプロパティ `aboutMe` があります。このプロパティを引数として `ConnectApi.ChatterUsers.updateUser` メソッドに渡します。Chatter ユーザーインターフェースでは、このプロパティがユーザプロフィールの [自己紹介] セクションに入力されます。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

ConnectApi.AbstractRecordField

この新しい抽象出力クラスは、レコードオブジェクトの項目を表します。このクラスは、次の項目のスーパークラスです。

- `ConnectApi.BlankRecordField` — 項目のグリッドにプレースホルダとして表示されるレコード項目。
- `ConnectApi.LabeledRecordField` — 表示ラベルとテキスト値が含まれるレコード項目。このクラスは、次の項目のスーパークラスです。
 - ◇ `ConnectApi.CompoundRecordField` — サブ項目で構成されるレコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.CurrencyRecordField` — 通貨値を含むレコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.DateRecordField` — 日付を含むレコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.PercentRecordField` — パーセント値を含むレコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.PicklistRecordField` — 列挙値を含むレコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.RecordField` — 表示ラベルおよびテキスト値を含む汎用レコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.ReferenceRecordField` — 別のオブジェクトへの参照を含むレコード項目。
 - ◇ `ConnectApi.ReferenceWithDateRecordField` — 特定の時刻に動作した参照オブジェクトを含むレコード項目 (「作成者」など)。

ConnectApi.AbstractRecordView

この新しい抽象出力クラスは、カスタムオブジェクトのレコードを含む、レコードのビューを示します。これは `ConnectApi.ActorWithId` のサブクラスです。

次のクラスのスーパークラスです。

- `ConnectApi.RecordSummary` — API バージョン 29.0 以降では、このクラスはすべての API バージョン (以前のバージョンを含む) の `ConnectApi.AbstractRecordView` のサブクラスです (28.0 では、`ConnectApi.ActorWithId` のサブクラスでした)。
- `ConnectApi.RecordView` — カスタムオブジェクトのレコードを含む、任意のレコードのビューを示す新しいクラス。オブジェクトをすばやく簡単に表示するために設計されています。このオブジェクトは、特殊なオブジェクト (`UserSummary` や `ChatterGroup` など) をレコードタイプに使用できない場合に返されます。このクラスには `sections` プロパティがあります。このプロパティは、レコードビューの詳細の各セクションを構成する `ConnectApi.RecordViewSection` オブジェクトのリストです。

ConnectApi.CanvasTemplateAttachment

この新しい出力クラスには、種別 `CanvasPost` のフィード項目添付ファイルを示すプロパティが含まれます。これは `ConnectApi.FeedItemAttachment` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `description` — キャンバスアプリケーションの説明。
- `developerName` — キャンバスアプリケーションの開発者名 (API 名)。
- `height` — キャンバスアプリケーションの高さ (ピクセル単位)。デフォルトは 200 ピクセルです。
- `icon` — キャンバスアプリケーションのアイコン。
- `namespacePrefix` — キャンバスアプリケーションが作成された Developer Edition 組織の名前空間プレフィックス。
- `parameters` — キャンバスアプリケーションに渡される JSON 形式のパラメータ。
- `thumbnailUrl` — キャンバスアプリケーションのサムネイル画像の URL。最大サイズは 120x120 ピクセルです。
- `title` — キャンバスアプリケーションのコールに使用されるリンクのタイトル。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

ConnectApi.CaseComment

この出力クラスには、新しい `eventType` プロパティがあります。このプロパティは、ケースコメントの公開イベントタイプを記述する `ConnectApi.CaseCommentEventType Enum` です。

ConnectApi.ChatterConversation

この新しい出力クラスには、会話に関する次のプロパティが含まれます。

- `conversationId` — 会話の ID。
- `conversationUrl` — 会話を識別する Chatter REST API URL。
- `members` — 会話のユーザを識別する `ConnectApi.UserSummary` オブジェクトのリスト。
- `messages` — 会話の内容が含まれる `ConnectApi.ChatterMessagePage` オブジェクト。
- `read` — 会話が既読か (`true`)、否か (`false`) を示します。

ConnectApi.ChatterConversationPage

この新しい出力クラスには、会話のページに関するプロパティが含まれます。

- `conversations` — `ConnectApi.ChatterConversation` オブジェクトのリスト。
- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `nextPageToken` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別するトークン。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

`ConnectApi.ChatterConversationSummary`

この新しい出力クラスには、会話のサマリーに関する次のプロパティが含まれます。

- `id` — 会話のサマリーの ID。
- `latestMessage` — 会話の内容が含まれる `ConnectApi.ChatterMessage` オブジェクト。
- `members` — 会話のユーザを識別する `ConnectApi.UserSummary` オブジェクトのリスト。
- `read` — 会話が既読か (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `url` — 会話のサマリーへの Chatter REST API URL。

`ConnectApi.ChatterGroup`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `isArchived` — グループがアーカイブされているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `isAutoArchiveDisabled` — グループの自動アーカイブが無効になっているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

`ConnectApi.ChatterGroupDetails`

この出力クラスには、新しい `pendingRequests` プロパティが含まれます。このプロパティは、待機中状態のグループへの参加要求の数を示します。

`ConnectApi.ChatterGroupSummary`

この新しい出力クラスには、グループに関するプロパティが含まれます。これは、`ConnectApi.ChatterGroup` のサブクラスです。

`ConnectApi.ChatterGroupSummaryPage`

この新しい出力クラスには、`ConnectApi.ChatterGroupSummary` オブジェクトに関するページ設定された情報が含まれます。プロパティは次のとおりです。

- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `groups`
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。
- `previousPageUrl` — 前のページまたは `null` (前のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

`ConnectApi.ChatterMessage`

この新しい出力クラスには、メッセージに関するプロパティが含まれます。

- `body` — メッセージが含まれる `ConnectApi.MessageBody` クラス。
- `conversationId` — 会話の ID。
- `conversationUrl` — メッセージを識別する Chatter REST API URL。
- `id` — メッセージの ID。
- `recipients` — メッセージを受信するための `ConnectApi.UserSummary` オブジェクトのリスト。
- `sender` — メッセージの送信者を識別する `ConnectApi.UserSummary` オブジェクト。

- `sentDate` — メッセージの送信日。
- `url` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。

ConnectApi.ChatterMessagePage

この新しい出力クラスには、メッセージのページに関するプロパティが含まれます。

- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `messages` — 現在のページ上のメッセージを表す `ConnectApi.Message` オブジェクトのリスト。
- `nextPageToken` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別するトークン。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

ConnectApi.Comment

この出力クラスには、新しい `moderationFlags` プロパティがあります。このプロパティには、コメントの任意のモデレーションフラグに関する情報を格納する `ConnectApi.ModerationFlags` オブジェクトが含まれます。 `ConnectApi.Features.communityModeration` プロパティが `false` の場合、このプロパティは `null` になります。

ConnectApi.EmailAddress

この新しい出力クラスには、メールアドレスに関するプロパティが含まれます。

- `displayName` — メールアドレスの表示名。
- `emailAddress` — メールアドレス。

ConnectApi.EmailMessage

この新しい出力クラスには、ケースフィードのケースレコードから送信されたメールメッセージに関するプロパティが含まれます。このクラスは `ConnectApi.FeedItemAttachment` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `direction` — 次のいずれかの値を持つ `ConnectApi.EmailMessageDirection` Enum。
 - ◇ `Inbound` — インバウンドメッセージ (顧客が送信)。
 - ◇ `Outbound` — アウトバウンドメッセージ (サポートエージェントが顧客に送信)。
- `emailMessageId` — メールメッセージの ID。
- `subject` — メールメッセージの件名。
- `textBody` — メールメッセージの本文。
- `toAddress` — メッセージの送信先である `ConnectApi.EmailAddress` オブジェクトのリスト。

ConnectApi.Features

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `chatterAnswers` — Chatter アンサーが有効になっているかどうかを示します。
- `communityModeration` — コミュニティモデレーションが有効になっているかどうかを示します。
- `ideas` — アイデアが有効になっているかどうかを示します。

ConnectApi.FeedFavorite

この出力クラスには新しいプロパティ `target` があります。このプロパティは、該当する場合はトピックへの参照、該当しない場合は `null` になります。

ConnectApi.FeedItem

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `moderationFlags` — フィード項目のモデレーションフラグに関する情報。
`ConnectApi.Features.communityModeration` プロパティが `false` の場合、このプロパティは `null` になります。
- `topics` — フィード項目のトピック。

API バージョン 29.0 以降では、`ConnectApi.FeedItem.body.text` プロパティの値は `null` である可能性があります。これは、表示するテキストのデフォルトのケースとして使用できないという意味です。代わりに、`ConnectApi.FeedItem.preamble.text` プロパティをデフォルトのケースとして使用します。

ConnectApi.FeedItemTopicPage

この新しい出力クラスには、トピックをフィード項目に割り当てられるかどうかを示す `canAssignTopics` プロパティと、フィード項目のトピックをリストする `topics` プロパティが含まれます。

ConnectApi.FieldChangeValueSegment

この出力クラスには新しい `valueType` プロパティがあります。このプロパティは、メッセージセグメントに古い値と新しい値のどちらが含まれているかを指定します。

ConnectApi.FileSummary

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `publishStatus` — `ConnectApi.FilePublishStatus Enum`。
- `sharingRole` — `ConnectApi.FileSharingType Enum`。

ConnectApi.MentionCompletion

この新しい出力クラスには、ユーザまたはグループのメンションに使用できるレコードに関する情報が含まれます。次のプロパティがあります。

- `additionalLabel` — この補完で表されるレコードの追加の表示ラベル (存在する場合) (「(Customer)」や「(Acme Corporation)」など)。
- `description` — この補完で表されるレコードの説明。
- `name` — この補完で表されるレコードの名前。可能であれば、名前はローカライズされます。
- `photoUrl` — この補完で表されるレコードの写真またはアイコンの URL。
- `recordId` — この補完で表されるレコードの ID。

ConnectApi.MentionCompletionPage

この新しい出力クラスには、`ConnectApi.MentionCompletion` オブジェクトのページ設定されたリストが含まれます。

- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `mentionCompletions` — メンションの補完提案のリスト。これらの提案を使用して、フィード投稿の本文を作成します。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。
- `previousPageUrl` — 前のページまたは `null` (前のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

ConnectApi.MentionSegment

このクラスには新しい `record` プロパティがあります。このプロパティは、メンションされたユーザまたはグループを表す `ConnectApi.ActorWithId` オブジェクトです。

ユーザだけでなくグループにもメンションできるようになったため、`record` プロパティが追加されました。バージョン 29.0 以降では、使用できなくなった `user` プロパティの代わりに `record` プロパティを使用します。29.0 よりも前のバージョンでは、メンションがユーザではない場合、メンションは `ConnectApi.TextSegment` オブジェクト内にあります。

ConnectApi.MentionValidation

この新しい出力クラスは、特定の提案メンションについてメンションの検証情報を表します。次のプロパティがあります。

- `recordId` — メンションするレコードの ID。
- `validationStatus` — 提案メンションの検証エラーの種類を示します (存在する場合)。
 - ◇ `Disallowed` — 提案メンションは無効であり、コンテキストユーザが許可されていない対象にメンションしようとしているため却下されます。たとえば、非公開グループのメンバーでないユーザが非公開グループにメンションしようとしている場合などです。
 - ◇ `Inaccessible` — 提案メンションは許可されていますが、メンションされるユーザまたはレコードには議論されている親レコードへのアクセス権がないため、通知されません。
 - ◇ `Ok` — 提案メンションに検証エラーはありません。

ConnectApi.MentionValidations

この新しい出力クラスは、メンションの検証情報の集合を表します。

- `hasErrors` — 提案メンションのうち、少なくとも 1 つにエラーがあるか (`true`)、否か (`false`) を示します。たとえば、コンテキストユーザは自分が属していない非公開グループにメンションできません。そのようなグループがメンションの検証のリストに含まれていると、`hasErrors` は `true` になり、そのメンションの検証で `Disallowed` の `validationStatus` がグループに設定されます。
- `mentionValidations` — メンションの検証情報のリスト (指定されたレコード ID と同じ順序)。

ConnectApi.ModerationFlags

この新しい出力クラスは、モデレーションフラグを表します。次のプロパティがあります。

- `flagCount` — このフィード項目またはコメントのモデレーションフラグの数。ログインユーザがコミュニティモデレータでない場合、プロパティは `null` になります。
- `flaggedByMe` — コンテキストユーザがフィード項目またはコメントにモデレーションフラグを設定したのか (`true`)、否か (`false`) を示します。

ConnectApi.MoreChangesSegment

この新しいクラスには、新しい `moreChanges` プロパティがあり、追跡されたフィード項目の変更の完全なリストが含まれます。

ConnectApi.Motif

`ConnectApi.Motif` には、レコードタイプのベース色の 16 進値を含む新しい `color` プロパティが含まれます。この値は、motif アイコンの背後で使用します。

ConnectApi.RecordSnapshotAttachment

この新しい出力クラスは、`ConnectApi.FeedItemAttachment` のサブクラスです。レコードが作成された時点のレコードの項目を表します。このクラスには、1 つのプロパティ `recordView` があり、これは `ConnectApi.RecordView` オブジェクトです。

ConnectApi.RecordViewSection

この新しい出力クラスは、レコード詳細のレコード項目のセクションを表します。次のプロパティがあります。

- `columnCount` — レコードセクションに項目をレイアウトするために使用する列の数。
- `columnOrder` — レコードセクションに項目をレイアウトするために `fields` プロパティで使用する項目の順序。データ型は `ConnectApi.RecordColumnOrder Enum` です。
- `fields` — このセクションに含まれるレコードの項目と値。データ型は `ConnectApi.AbstractRecordField` オブジェクトのリストです。
- `heading` — この項目のセクションを表示するときに使用するローカライズされた表示ラベル。
- `isCollapsible` — このセクションを折りたたんだすべての項目を非表示にできるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

ConnectApi.Topic

この新しい出力クラスには、トピックに関するプロパティが含まれます。

- `createdAt` — ISO8601 の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)
- `description` — トピックの説明
- `id` — トピックの 18 文字の ID
- `name` —
- `talkingAbout` — トピックの追加やトピックに投稿されたコメントに基づく、過去 2 か月間にこのトピックについて言及した人数

ConnectApi.TopicPage

この新しい出力クラスには、`ConnectApi.Topic` オブジェクトのリストが含まれます。

ConnectApi.TopicSuggestion

この新しい出力クラスには、推奨されるトピックに関するプロパティが含まれます。

- `existingTopic` — すでに存在する `ConnectApi.Topic`、または新規トピックの場合は `null`。
- `name` — トピック名。

ConnectApi.TopicSuggestionPage

この新しい出力クラスには、`ConnectApi.TopicSuggestion` オブジェクトのリストが含まれます。

ConnectApi.TrackedChangeAttachment

この新しい出力クラスは、`ConnectApi.FeedItemAttachment` のサブクラスです。このクラスには、1 つのプロパティ `changes` があり、これは `ConnectApi.TrackedChangeItem` オブジェクトのリストです。

ConnectApi.TrackedChangeItem

この新しい出力クラスは、レコードの項目への変更を表します。次のプロパティがあります。

- `fieldName` — 更新された項目の名前。
- `newValue` — 項目の新しい値または `null` (項目の長さが長い場合、または空の場合)。
- `oldvalue` — 項目の古い値または `null` (項目の長さが長い場合、または空の場合)。

ConnectApi.UnreadConversationCount

この新しい出力クラスには、未読の会話に関する次のプロパティが含まれます。

- `hasMore` — 未読のメッセージがあるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `unreadCount` — 未読メッセージの数。

ConnectApi.UserCapabilities

この新しい出力クラスには、ユーザのプロファイルに関連付けられた機能に関する情報が含まれます。

- `canChat` — コンテキストユーザが件名ユーザと共に Chatter Messenger を使用できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canDirectMessage` — コンテキストユーザが件名ユーザに直接メッセージを送信できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canEdit` — コンテキストユーザが件名ユーザの取引先を編集できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canFollow` — コンテキストユーザが件名ユーザのフィードをフォローできるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canViewFeed` — コンテキストユーザが件名ユーザのフィードを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canViewFullProfile` — コンテキストユーザが件名ユーザの完全なプロファイルを表示できるのか (`true`)、または制限されたプロファイルのみを表示できるのか (`false`) を示します。
- `isModerator` — 件名ユーザが Chatter モデレータまたは管理者なのか (`true`)、否か (`false`) を示します。

ConnectApi.UserDetail

この出力クラスには新しい `thanksReceived` プロパティがあります。このプロパティには、ユーザが感謝された回数が含まれます。

ConnectApi.UserProfile

この新しい出力クラスには、ユーザのプロファイルを表示するために必要な情報が含まれます。

- `capabilities` — 件名ユーザのプロファイルに固有のコンテキストユーザの機能
- `id` — プロファイルに添付されるユーザの ID
- `tabs` — 件名ユーザのプロファイルに固有のコンテキストユーザに表示されるタブ
- `url` — ユーザのプロファイルの URL
- `userDetail` — プロファイルに添付されるユーザに関する詳細情報

ConnectApi.UserProfileTab

この新しい出力クラスには、ユーザプロファイルタブに関するプロパティが含まれます。

- `id` — タブの一意の識別子 (18 文字の ID)
- `isDefault` — ユーザプロファイルをクリックしたときにタブが最初に表示されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `tabType` — タブの種類を示します。
- `tabUrl` — 現在のタブのコンテンツ URL (組み込み以外のタブの種類の場合)

ConnectApi.UserSettings

この出力クラスには新しい `hasRestDataApiAccess` プロパティがあります。このプロパティは、ユーザに REST API へのアクセス権があるかどうかを示します。

ConnectApi.Zone

この新しい出力クラスには、ゾーンに関する情報が含まれます。

- `description` — ゾーンの説明。
- `id` — ゾーンの ID。
- `isActive` — ゾーンが有効かどうかを示します。

- `isChatterAnswers` — ゾーンが Chatter アンサーで使えるかどうかを示します。
- `name` — ゾーンの名前。
- `visibility` — ゾーンが表示。 `ConnectApi.ZoneShowIn` enum 値:
 - ◇ `Community` — コミュニティで使えます。
 - ◇ `Internal` — 内部でのみ使えます。
 - ◇ `Portal` — ポータルで使えます。
- `visibilityId` — ゾーンがポータルまたはコミュニティで使える場合、このプロパティにはそのポータルまたはコミュニティの ID が含まれます。ゾーンがすべてのポータルで使える場合、このプロパティには `All` の値が含まれます。

`ConnectApi.ZonePage`

この新しい出力クラスには、ゾーンのページに関する情報が含まれます。

- `zones` — `ConnectApi.Zone` オブジェクトのリスト。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

`ConnectApi.ZoneSearchPage`

この新しい出力クラスには、ゾーン内の検索結果に関する情報が含まれます。

- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `items` — `ConnectApi.ZoneSearchResult` オブジェクトのリスト。
- `nextPageToken` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別するトークン。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

`ConnectApi.ZoneSearchResult`

この新しい出力クラスには、ゾーン内の 1 つの検索結果に関する情報が含まれます。

- `hasBestAnswer` — 検索結果に最良の回答が含まれているかどうかを示します。
- `id` — 検索結果の ID。検索結果は、質問または記事になります。
- `title` — 検索結果のタイトル。
- `type` — 検索結果の種別。 `ConnectApi.ZoneSearchResultType` enum:
 - ◇ `Article` — 検索結果には記事のみが含まれます。
 - ◇ `Question` — 検索結果には質問のみが含まれます。
- `voteCount` — 検索結果の投票数。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

`ConnectApi.CaseCommentEventType`

この新しい Enum は、ケースコメントの公開イベントタイプを指定します。次の値があります。

- `NewInternal` — 新しく「社内のみ」とマークされたケースコメント。
- `NewPublished` — 新しく公開されたケースコメント。
- `NewPublishedByCustomer` — 新しく公開された、顧客によるケースコメント。
- `PublishExsiting` — 再公開された既存のケースコメント。



メモ: この値はスペルミスではありません。コードでこのスペルを使用してください。

- `PublishExistingByCustomer` — 再公開された、顧客による既存のケースコメント。
- `UnpublishExisting` — 非公開にされた既存のケースコメント。
- `UnpublishExistingByCustomer` — 非公開にされた、顧客による既存のケースコメント。

`ConnectApi.EmailMessageDirection`

この新しい Enum は、メールメッセージの方向を指定します。次の値があります。

- `Inbound` — インバウンドメッセージ (顧客が送信)。
- `Outbound` — アウトバウンドメッセージ (サポートエージェントが顧客に送信)。

`ConnectApi.FeedDensity`

この新しい Enum は、フィードに表示するコンテンツの量を指定します。次の値があります。

- `AllUpdates` — ユーザがフォローする人とレコード、およびユーザがメンバーとなっているグループからのすべての投稿とコメントが表示されます。
- `FewerUpdates` — ユーザがフォローする人とレコード、およびユーザがメンバーとなっているグループからのすべての投稿とコメントが表示されますが、誰からもコメントされていないレコードからのシステム生成された投稿は非表示になります。

`ConnectApi.FeedItemAttachmentInputType`

入力オブジェクトのフィード項目の添付ファイル種別を指定します。この Enum には 1 つの新しい値があります。

- `Canvas` — フィード項目に、キャンバスアプリケーションフィード項目を作成するためのメタデータが含まれることを示します。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

`ConnectApi.FeedItemAttachmentType`

出力オブジェクトのフィード項目の添付ファイル種別を指定します。次の値があります。

- `Canvas` — キャンバスアプリケーションへのリンクを表示するためのメタデータを含むフィード項目。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

- `EmailMessage` — ケースフィードのケースレコードに添付されるメール。
- `RecordSnapshot` — フィード項目添付ファイルには、単一の `ConnectApi.FeedItemType.CreateRecordEvent` のレコードのビューが含まれます。
- `TrackedChange` — 単一の `ConnectApi.FeedItemType.TrackedChange` イベントのレコードへのすべての変更。

`ConnectApi.FeedItemType`

フィード項目の種別を指定します。次の値があります。

- `CanvasPost` — パブリッシャーのキャンバスアプリケーションまたは Chatter REST API または Chatter in Apex によって生成されるフィード項目。投稿自体は、キャンバスアプリケーションへのリンクです。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

- `ReplyPost` — Chatter アンサーの返信によって生成されるフィード項目。
- `TrackedChange` — 単一の `ConnectApi.FeedItemType.TrackedChange` イベントのレコードへのすべての変更。

`ConnectApi.FeedType`

この Enum には新しい `Moderation` 値があります。Communities Moderation Feed には、コミュニティでモデレーション用にフラグ付けされたフィード項目とコメントが含まれます。このフィードは、「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つユーザのみが使用できます。

`ConnectApi.FieldChangeValueType`

この新しい Enum は、項目変更の値の型を指定します。次の値があります。

- `NewValue` — 新しい値
- `OldValue` — 古い値

`ConnectApi.FilePublishStatus`

この新しい Enum は、ファイルの公開状況を指定します。次の値があります。

- `PendingAccess` — ファイルは公開を待機中です。
- `PrivateAccess` — ファイルは非公開です。
- `PublicAccess` — ファイルは公開されています。

`ConnectApi.FileSharingType`

この新しい Enum は、ファイルの共有ロールを指定します。次の値があります。

- `Admin` — 所有者権限ですが、ファイルは所有していません。
- `Collaborator` — 閲覧者権限に加えて、権限の編集および変更を行ったり、新しいバージョンのファイルをアップロードしたりできます。
- `Owner` — コラボレータ権限に加えて、ファイルを非公開にしたり、ファイルを削除したりできます。
- `Viewer` — ファイルを表示、ダウンロード、共有できます。
- `WorkspaceManaged` — ライブラリで制御される権限。

`ConnectApi.GroupArchiveStatus`

この新しい Enum は、グループがアーカイブ対象かどうかに基づいてグループのセットを指定します。次の値があります。

- `All` — アーカイブ対象かどうかに関係なく、すべてのグループ。
- `Archived` — アーカイブ対象のグループのみ。
- `NotArchived` — アーカイブ対象外のグループのみ。

`ConnectApi.MentionCompletionType`

この新しい Enum は、メンションの補完の種類を指定します。次の値があります。

- `All` — メンションで参照するレコードタイプに無関係の、すべてのメンションの補完。

- Group — グループのメンションの補完。
- User — ユーザのメンションの補完。

ConnectApi.MentionValidationStatus

この新しい Enum は、提案メンションの検証エラーの種類を指定します (存在する場合)。次の値があります。

- Disallowed — 提案メンションは無効であり、コンテキストユーザが許可されていない対象にメンションしようとしているため却下されます。たとえば、非公開グループのメンバーでないユーザが非公開グループにメンションしようとしている場合などです。
- Inaccessible — 提案メンションは許可されていますが、メンションされるユーザまたはレコードには議論されている親レコードへのアクセス権がないため、通知されません。
- Ok — 提案メンションに検証エラーはありません。

ConnectApi.RecordColumnOrder

この新しい Enum は、レコード項目を表示する順序を指定します。次の値があります。

- LeftRight — 項目は左から右に表示されます。
- TopDown — 項目は上から下に表示されます。

ConnectApi.RecordFieldType

この新しい Enum は、レコード項目の種別を指定します。次の値があります。

- Address
- Blank
- Boolean
- Compound
- CreatedBy
- Date
- DateTime
- Email
- LastModifiedBy
- Location
- Name
- Number
- Percent
- Phone
- Picklist
- Reference
- Text
- Time

ConnectApi.SortOrder

この新しい Enum は、汎用の並び替えの方向を指定します。次の値があります。

- Ascending — 昇順 (A から Z)。
- Descending — 降順 (Z から A)。

ConnectApi.TopicSort

この新しい Enum は、トピックの並び替え順序を指定します。次の値があります。

- `popularDesc`: トピックを人気順に並び替えます。この値がデフォルトです。
- `alphaAsc`: トピックをアルファベット順に並び替えます。

`ConnectApi.UserProfileTabType`

この新しい Enum は、プロフィールタブの種類を指定します。次の値があります。

- `CustomVisualForce` — Visualforce ページからのデータを表示するタブ。
- `CustomWeb` — 外部の Web ベースのアプリケーションまたは Web ページからのデータを表示するタブ。
- `Feed` — Chatter フィードを表示するタブ。
- `Overview` — ユーザの詳細を表示するタブ。

`ConnectApi.ZoneSearchResultType`

この新しい Enum は、ゾーン内の検索結果の型を指定します。次の値があります。

- `Article` — 検索結果には記事のみが含まれます。
- `Question` — 検索結果には質問のみが含まれます。

`ConnectApi.ZoneShowIn`

この新しい Enum は、ゾーンを使用できる場所を指定します。次の値があります。

- `Community` — コミュニティで使用できます。
- `Internal` — 内部でのみ使用できます。
- `Portal` — ポータルで使用できます。

エラー時の動作の変更

Winter '14 では、Apex のエラー時の次の動作が変更されています。

[Email Messaging メソッドのエラーの更新](#)

[User オブジェクトの DML 例外から返される異なる状況コード](#)

Email Messaging メソッドのエラーの更新

Apex Messaging メソッド `reserveMassEmailCapacity` (一括メール送信) および `reserveSingleEmailCapacity` (単一メール送信) のエラーが変更されました。

このトランザクションで組織の 1 日あたりのメール送信量の制限を超える場合、これらのメソッドのいずれかを使用すると、処理される例外エラー (以前は制限の例外エラー) になります。このエラーは、`System.HandledException: The daily limit for the org would be exceeded by this request.` のように表示されます。

また、組織に API の送信または一括メール送信の権限がない場合、これらのいずれかのメソッドを使用すると、`System.NoAccessException: The organization is not permitted to send email.` というエラーが発生するようになりました。

User オブジェクトの DML 例外から返される異なる状況コード

User オブジェクトでは、同じレコードの同時更新に関する動作が改善されました。ただし、`getDmlType` から異なる状況コードが返される可能性があります。詳細は、「[ユーザオブジェクトの保存とエラーに関する変更](#)」(ページ 311) を参照してください。

開発者コンソールのためのコードカバー率情報

すべてのコードカバー率情報は、開発者コンソールのみで使えるようになりました。[設定] では、次の項目を使用できなくなりました。

- ・ [コードカバー率のクリア] ボタンは、[開発] > [Apex クラス] ページから削除されました。
- ・ [コードカバー率] 列は、[開発] > [Apex クラス] ページと [開発] > [Apex トリガ] ページのリストビューから削除されました。



メモ: [設定] からアクセスできるコードカバー率情報は、既存のテスト結果に基づくコードカバー率の推定値のみです。この推定値は、[開発] > [Apex クラス] ページから [Estimate your organization's code coverage (組織のコードカバー率を見積る)] をクリックして取得できます。

API

Salesforce を他のサービスと統合するアプリケーションを作成するには、API を使用します。

[新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト](#)

[SOQL](#)

[SOSL](#)

[REST API](#)

[SOAP API](#)

[ストリーミング API](#)

[Chatter REST API](#)

[メタデータ API](#)

[Bulk API](#)

[Tooling API](#)

[分析 API](#)

バージョン 29.0 の新機能として、分析 API を使用して、プログラムで Salesforce レポートデータをアプリケーションに統合できるようになりました。たとえば、REST ベースの API を使用して、レポート作成機能をサードパーティアプリケーションにビルドし、セッションで Dreamforce 参加者登録のランキング表を表示できます。API には、レポートメタデータを照会し、サマリーまたはレコード詳細レベルでレポート結果を動的に取得できるいくつかのリソースがあります。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

新規および変更された Chatter オブジェクトについての詳細は、「[Chatter オブジェクト](#)」を参照してください。

新しいオブジェクト

API バージョン 29.0 の新しいオブジェクトは、次のとおりです。

- AcceptedEventRelation オブジェクトは、特定の行動の状況が「参加」になっている招待者を表します。
- AccountCleanInfo オブジェクトには、取引先レコードのクリーンアップ状況を判断するために Data.com クリーンアップで使用するメタデータが保存されます。
- AllowedEmailDomain オブジェクトは、組織のユーザに許可されるメールドメインを表します。
- AppMenuItem オブジェクトはアプリケーションピッカー内の項目を表し、タブセットのメタデータ、サービスプロバイダ、接続アプリケーションを公開します。
- AttachedContentDocument オブジェクトには、オブジェクトに関連付けられたすべての ContentDocument オブジェクトが含まれています。
- AuthSession オブジェクトは、セッションデータを公開し、そのデータに対する参照操作と削除操作を可能にします。
- CombinedAttachment オブジェクトには、すべてのメモ、添付ファイル、Google ドキュメント、Salesforce CRM Content のライブラリにアップロードされたドキュメント、Chatter に追加され、オブジェクトに関連付けられているファイルが含まれます。
- ContactCleanInfo オブジェクトには、取引先責任者レコードのクリーンアップ状況を判断するために Data.com クリーンアップで使用するメタデータが保存されます。
- CronJobDetail オブジェクトは、対応する CronTrigger レコードで表されるスケジュール済みジョブの名前と種別を示します。
- DeclinedEventRelation オブジェクトは、特定の行動の状況が「不参加」になっている招待者を表します。
- EventWhoRelation オブジェクトは、行動とリードまたは取引先責任者との間の関係を表します。この派生オブジェクトは、EventRelation オブジェクトが絞り込まれたものです。
- FeedPoll Choice オブジェクトは、フィードに投稿されたアンケートの選択肢を表します。
- FeedPollVote オブジェクトは、アンケートの投票を表します。
- FieldHistoryArchive オブジェクトは、オブジェクトの変更された項目値に関するアーカイブ済みの履歴情報を表します。このオブジェクトは現在、パイロットプログラムで使用可能です。
- LeadCleanInfo オブジェクトには、リードレコードのクリーンアップ状況を判断するために Data.com クリーンアップで使用するメタデータが保存されます。
- LiveChatTranscriptOwnerSharingRule オブジェクトは、Live Agent チャットトランスクリプトレコードをレコード所有者以外のユーザと共有するためのルールを表します。
- PermissionSetLicense オブジェクトは、ユーザプロファイルの変更や再割り当てを行わずに、指定された権限をユーザが受け取れるようにするライセンスを表します。
- PermissionSetLicenseAssign オブジェクトは、ユーザと PermissionSetLicense との間の関連を表します。
- TaskWhoRelation オブジェクトは、ToDoとリードまたは取引先責任者との間の関係を表します。この派生オブジェクトは、TaskRelation オブジェクトが絞り込まれたものです。
- UndecidedEventRelation オブジェクトは、特定の行動の状況が「未決定」になっている招待者を表します。
- UserLogin オブジェクトは、ユーザの組織へのログイン機能に影響を及ぼす設定を表します。
- UserProfile オブジェクトは、Chatter ユーザプロファイルを表します。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトは、API バージョン 29.0 で変更され、以前の API バージョンに影響を与えます。

- User オブジェクトでは、同じレコードの同時更新に関する動作が改善されました。一部のエラー条件で、異なる `ExceptionCode` と `StatusCode` 値が返されるようになりました。「[ユーザオブジェクトの保存とエラーに関する変更](#)」(ページ 311)を参照してください。

次のオブジェクトは、API バージョン 29.0 で変更されました。

- Account オブジェクトの `CleanStatus` 項目で、`update()` コールがサポートされるようになりました。また、`CleanStatus` 項目には、新しい選択リスト値 `Skipped` が含まれます。
- CaseMilestone オブジェクトに `TimeSinceTargetInMins` 項目が追加されました。
- CollaborationGroup オブジェクトに `GroupEmail` 項目が追加されました。
- CollaborationGroupMember オブジェクトの `NotificationFrequency` 項目には投稿通知制限が含まれます。コミュニティでは、グループメンバーが 10,000 人を超えると[各投稿のメール]オプションが無効になります。このオプションを選択したすべてのメンバーは、自動的に[毎日のダイジェスト]に切り替えられます。
- Contact オブジェクトの `CleanStatus` 項目で、`update()` コールがサポートされるようになりました。また、`CleanStatus` 項目には、新しい選択リスト値 `Skipped` が含まれます。
- Contact オブジェクトに `IsEmailBounced` 項目が追加されました。
- CronTrigger オブジェクトに `CronJobDetailId` 項目が追加されました。
- ForecastingAdjustment オブジェクトに `ProductFamily` 項目が追加されました。
- ForecastingFact オブジェクトに `ForecastedObjectId` 項目が追加されました。
- ForecastingItem オブジェクトに `ProductFamily` 項目が追加されました。
- ForecastingQuota オブジェクトに `ProductFamily` 項目が追加されました。
- Group オブジェクトで、`search()` コールがサポートされるようになりました。
- Dashboard オブジェクトで、`search()` コールがサポートされるようになりました。
- IdeaComments オブジェクトに `UpVotes` 項目が追加されました。
- IdeaReputation オブジェクトに `CommentLikesReceivedCount` 項目が追加されました。
- Lead オブジェクトの `CleanStatus` 項目で、`update()` コールがサポートされるようになりました。また、`CleanStatus` 項目には、新しい選択リスト値 `Skipped` が含まれます。
- LiveAgentSession オブジェクトで、`create()`、`search()`、`undelete()`、`delete()` コールがサポートされるようになりました。また、次の項目では `create()` と `update()` もサポートされます。

- ◇ `AgentId`
- ◇ `ChatReqAssigned`
- ◇ `ChatReqDeclined`
- ◇ `ChatReqEngaged`
- ◇ `ChatReqTimedOut`
- ◇ `LoginTime`
- ◇ `LogoutTime`
- ◇ `OwnerId`
- ◇ `TimeAtCapacity`
- ◇ `TimeIdle`
- ◇ `TimeInAwayStatss`
- ◇ `TimeInChats`
- ◇ `TimeInOnlineStatus`

- LiveChatButton オブジェクトに次の項目が追加されました。

- ◇ AutoGreeting
- ◇ CustomAgentName

nillable() プロパティが SkillId 項目に追加されました。

- LiveChatDeployment オブジェクトに OptionsHasPrechatApi 項目が追加されました。
- LiveChatUserConfig オブジェクトに次の項目が追加されました。

- ◇ CriticalWaitTime
- ◇ CustomAgentName
- ◇ OptionsHasAgentSneakPeek
- ◇ OptionsHasChatMonitoring
- ◇ OptionsHasWhisperMessage
- ◇ SupervisorDefaultAgentStatus
- ◇ SupervisorDefaultButtonId
- ◇ SupervisorDefaultSkillId

- MilestoneType オブジェクトに RecurrenceType 項目が追加されました。
- Network オブジェクトに次の項目が追加されました。

- ◇ OptionsAllowMembersToFlag
- ◇ OptionsSiteAsContainerEnabled
- ◇ SelfRegProfileId

- NetworkMember オブジェクトに DisableItemFlaggedEmail 項目が追加されました。
- Organization オブジェクトに、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションへのアクセス権を制御する PreferencesS1BrowserEnabled 項目が追加されました。
- PermissionSet オブジェクトで、search() コールがサポートされるようになりました。
- Profile オブジェクトで search() コールがサポートされるようになり、次の項目が追加されました。

- ◇ LastReferencedDate
- ◇ LastViewedDate

- PushTopic オブジェクトに、ストリーミング API の削除イベントと復元イベントをサポートする 4 つの新しい項目が追加されました。「[削除イベントと復元イベントのサポート](#)」(ページ 319)を参照してください。
- SignupRequest オブジェクトに次の項目が追加されました。

- ◇ AuthCode
- ◇ CreatedOrgInstance
- ◇ SuppressSignupEmails

- User オブジェクトで describeLayout() コールがサポートされるようになり、次の項目が追加されました。

- ◇ UserPreferencesDisableCoachingEmail
- ◇ UserPreferencesDisableFeedbackEmail
- ◇ UserPreferencesDisableRewardEmail
- ◇ UserPreferencesDisableWorkEmail
- ◇ UserPreferencesHideChatterOnboardingSplash
- ◇ UserPreferencesHideSecondChatterOnboardingSplash

さらに、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションへのユーザリダイレクトを制御する `UserPreferencesHideS1BrowserUI` が追加されました。

- `UserRole` オブジェクトで、`search()` コールがサポートされるようになりました。
- `Report` オブジェクトに `Format` 項目が追加されました。これは、レポートの形式が [表形式]、[サマリー]、[マトリックス]、[結合形式] のどれであることを示します。
- `Description` 項目が次のオブジェクトに追加されました。
 - ◇ `AccountOwnerSharingRule`
 - ◇ `AccountTerritorySharingRule`
 - ◇ `CampaignOwnerSharingRule`
 - ◇ `CaseOwnerSharingRule`
 - ◇ `ContactOwnerSharingRule`
 - ◇ `LeadOwnerSharingRule`
 - ◇ `LiveAgentSessionOwnerSharingRule`
 - ◇ `OpportunityOwnerSharingRule`
 - ◇ `QuickTextOwnerSharingRule`
 - ◇ `ServiceContractOwnerSharingRule`
 - ◇ `UserMembershipSharingRule`
- 次のオブジェクトの `Type` 項目に、フィードでのキャンバスアプリケーション投稿を示す新しい `CanvasPost` オプションが追加されました。
 - ◇ `AccountFeed`
 - ◇ `AssetFeed`
 - ◇ `CampaignFeed`
 - ◇ `CaseFeed`
 - ◇ `CollaborationGroupFeed`
 - ◇ `ContactFeed`
 - ◇ `ContentDocumentFeed`
 - ◇ `ContractFeed`
 - ◇ `DashboardComponentFeed`
 - ◇ `DashboardFeed`
 - ◇ `EntitlementFeed`
 - ◇ `EventFeed`
 - ◇ `FeedItem`
 - ◇ `LeadFeed`
 - ◇ `OpportunityFeed`
 - ◇ `Product2Feed`
 - ◇ `ReportFeed`
 - ◇ `ServiceContractFeed`
 - ◇ `SolutionFeed`
 - ◇ `UserFeed`

新しい Chatter オブジェクトと変更された Chatter オブジェクト

新しいオブジェクト

API バージョン 29.0 の新しいオブジェクトは、次のとおりです。

- TopicFeed オブジェクトは、トピックの単一フィード追跡変更を表します。

変更されたオブジェクト

API バージョン 29.0 の変更されたオブジェクトは、次のとおりです。

- CollaborationGroup オブジェクトでは次のようになります。

◇ IsArchived、IsAutoArchiveDisabled、および GroupEmail (パイロット) 項目が追加されました。



メモ: 現在、メールによる Chatter グループへの投稿は、パイロットプログラムで使用可能です。組織でのこの機能の有効化については、salesforce.com にお問い合わせください。

◇ FullPhotoUrl 項目と SmallPhotoUrl 項目のデータ型が url になりました (以前は string)。

- EntitySubscription オブジェクトの ParentId 項目をトピック ID にすることができるようになりました。
- Topic オブジェクトで、create()、update()、upsert() コールがサポートされるようになりました。Description 項目と Name 項目で、create プロパティと update プロパティがサポートされるようになりました。NetworkId 項目で、create プロパティがサポートされるようになりました。TalkingAbout 項目で、nillable プロパティがサポートされなくなりました。
- TopicAssignment オブジェクトで、create() コールがサポートされるようになりました。EntityId、NetworkId、TopicId 項目で、create プロパティがサポートされるようになりました。
- TopicAssignment オブジェクトに、次の SOQL 制限が追加されました。

ログインしたユーザに「すべてのデータの参照」権限がある場合、SOQL の制限はありません。そうでない場合は、次のいずれかの操作を実行します。

◇ LIMIT 句に 1,100 件以下のレコードを指定する。

◇ 「=」を指定した WHERE 句を使用する場合に、Id または Entity を絞り込む。

ユーザオブジェクトの保存とエラーに関する変更

複数のユーザ、クライアント、またはプロセスによって同時に変更されたユーザレコードの保存に関する動作が改善されました。動作の変更の一環として、ユーザレコードの保存時に発生する一部のエラー条件で、異なる ExceptionCode と StatusCode 値が返されるようになりました。返される ExceptionCode および StatusCode の特定の値にクライアントが依存している場合は、コードをテストし適宜変更することを強くお勧めします。

次の表に、API バージョン 29.0 で有効になる変更を示します。ただし、API バージョン 28.0 以前を使用して実装している場合でも、影響を受ける可能性があります。

以前のバージョンで返される値	API バージョン 29.0 で返される値
INVALID_ID_FIELD	INVALID_CROSS_REFERENCE_KEY
INVALID_FIELD_FOR_INSERT_UPDATE	INSUFFICIENT_ACCESS_ON_CROSS_REFERENCE_ENTITY

次の表に、API バージョン 28.0 以前に影響を及ぼす変更を示します。

API バージョン 28.0 以前で返される古い値	API バージョン 28.0 以前で返される新しい値
INSUFFICIENT_ACCESS_ON_CROSS_REFERENCE_ENTITY	INVALID_FIELD_FOR_INSERT_UPDATE

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) を使用すると、Salesforce API で使用されるクエリ文字列を作成できます。SOQL クエリの構文の詳細は、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』を参照してください。

サブクエリでの OFFSET の使用 - パイロット



メモ: サブクエリでの OFFSET の使用は、今後のリリースで変更される可能性のあるパイロット機能で、本番設定で使用することを想定していません。このパイロット機能に関連するサポートはありません。詳細は、salesforce.com, inc. にお問い合わせください。

クエリによって返される結果セットへの開始行オフセットを指定するには、SOQL OFFSET 句を使用します。OFFSET をサブクエリで使用できるようになりました。これは、親クエリに LIMIT 1 句があるリレーションクエリの一部としてのみ使用できます。次に、サブクエリでの OFFSET の有効な使用を示します。

```
SELECT Name, Id
(
    SELECT Name FROM Opportunities LIMIT 10 OFFSET 2
)
FROM Account
ORDER BY Name
LIMIT 1
```

リレーション項目数の増加

SOQL クエリに最大 35 個の子-親リレーションを含めることができるようになりました。以前の制限は 25 個でした。

オブジェクトには、最大で 25 個のカスタムリレーションを設定できます。標準オブジェクトには標準リレーションも設定できるため、この増加により、1 つの SOQL クエリに標準オブジェクトのすべての子-親リレーションを簡単に含めることができます。

SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) は、Salesforce API を使用してテキスト検索を実行するために使用します。

複数のコミュニティをサポートする WITH NETWORK

WITH NETWORK NetworkIdSpec 句で、新しい構文 WITH NETWORK IN ('NetworkId1', 'NetworkId2', ...) を使用して、複数のコミュニティでユーザおよびフィード検索結果を絞り込むことができるようになりました。引き続き WITH NETWORK = 'NetworkId' を使用して、1 つのコミュニティだけで検索結果を絞り込むこともできます。

REST API

AppMenu リソース

Salesforce アプリケーションドロップダウンメニューまたは Salesforce1 ナビゲーションメニューの項目のリストを返します。Salesforce アプリケーションドロップダウンメニュー項目のリストを返すには、URI に `/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/` を使用します。Salesforce1 ナビゲーションメニュー項目のリストを返すには、URI に `/vXX.X/appMenu/Salesforce1/` を使用します。

CompactLayouts リソース

特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトのリストを返します。リソースでは、`/vXX.X/objects/Object/describe/compactLayouts/` 形式の URI が使用されます。

FlexiPage リソース

FlexiPage リソースは、フレキシブルページとその詳細のリストを返します。返される情報には、フレキシブルページの範囲、各範囲内のコンポーネント、各コンポーネントのプロパティ、および関連付けられた QuickActions (パブリッシャーアクション) が含まれます。リソースでは、`/vXX.X/flexiPage/` フレキシブルページの ID 形式の URI が使用されます。

Get Deleted Objects リソース

SObject Get Deleted リソースでは、特定の期間内に削除されたレコードのリストを取得します。リソースでは、`services/data/v29.0/objects/SObjectName/deleted/?start=StartDateAndTime&end=EndDateAndTime` 形式の URI が使用されます。*StartDateAndTime* および *EndDateAndTime* は、ISO 8601 形式で指定する必要があります。次に、2013 年 5 月 5 日～2013 年 5 月 10 日に削除された Merchandise__c レコードのリストを取得する例を示します。

```
/services/data/v29.0/objects/Merchandise__c/deleted/  
?start=2013-05-05T00:00:00+00:00&end=2013-05-10T00:00:00+00:00
```

Get Updated Objects リソース

SObject Get Updated リソースでは、特定の期間内に更新 (変更または追加) されたレコードのリストを取得します。リソースでは、`services/data/v29.0/objects/SObjectName/updated/?start=StartDateAndTime&end=EndDateAndTime` 形式の URI が使用されます。*StartDateAndTime* および *EndDateAndTime* は、ISO 8601 形式で指定する必要があります。次に、2013 年 5 月 6 日～2013 年 5 月 10 日に更新された Merchandise__c レコードのリストを取得する例を示します。

```
/services/data/v29.0/objects/Merchandise__c/updated/  
?start=2013-05-06T00:00:00+00:00&end=2013-05-10T00:00:00+00:00
```

Limit Info ヘッダー

Limit Info ヘッダーは、REST API への各コールで返される応答ヘッダーです。このヘッダーは、組織の制限情報を返します。このヘッダーを使用して、組織にコールを行うときの API 制限を監視します。

項目名

Sforce-Limit-Info

項目値

- `api-usage` — コールが行われた組織の API 使用状況を `nn/nnnn` 形式で指定します。最初の数値は使用された API コール数で、2 番目の数値は組織の API 制限数です。

例

`Sforce-Limit-Info: api-usage=14/5000`

次に、Merchandise レコードの REST 要求に対する応答の例を示します。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Mon, 20 May 2013 22:21:46 GMT
Sforce-Limit-Info: api-usage=14/5000
Last-Modified: Mon, 20 May 2013 20:49:32 GMT
Content-Type: application/json; charset=UTF-8
Transfer-Encoding: chunked

{
  "attributes" : {
    "type" : "Merchandise__c",
    "url" : "/services/data/v29.0/subjects/Merchandise__c/a00D00000008pQSNIA2"
  },
  "Id" : "a00D00000008pQSNIA2",
  "OwnerId" : "005D00000001QX8WIAW",
  "IsDeleted" : false,
  "Name" : "Phone Case - iPhone 4/4S",
  "CreatedDate" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
  "CreatedById" : "005D00000001QX8WIAW",
  "LastModifiedDate" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
  "LastModifiedById" : "005D00000001QX8WIAW",
  "SystemModstamp" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
  "LastActivityDate" : null,
  "LastViewedDate" : "2013-05-20T22:19:56.000+0000",
  "LastReferencedDate" : "2013-05-20T22:19:56.000+0000",
  "Description__c" : "Phone Case for iPhone 4/4S",
  "Price__c" : 16.99,
  "Stock_Price__c" : 12.99,
  "Total_Inventory__c" : 108.0
}
```

QueryAll リソース

QueryAll リソースでは、指定された SOQL クエリが実行されます。このリソースで返される結果には、通常のクエリ要求から除外される削除レコードが含まれますが、それ以外はクエリリソースとまったく同じように動作します。次に、削除された Merchandise__c レコードを取得する例を示します。

```
/services/data/v29.0/queryAll/?q=SELECT+Name+from+Merchandise__c+WHERE+isDeleted+=+TRUE
```

SObject Describe リソースによる If-Modified-Since ヘッダーのサポート

SObject Describe リソースで、If-Modified-Since HTTP ヘッダーがサポートされるようになりました。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降にオブジェクトメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。これは、2013 年 7 月 3 日以降のオブジェクトメタデータの変更を要求するために使用できる If-Modified-Since ヘッダーの例です。

```
If-Modified-Since: Wed, 3 Jul 2013 19:43:31 GMT
```

SObject Quick Actions リソース

API バージョン 29.0 では、SObject Quick Actions リソースにアクションのデフォルト値を評価するための新しい URI があります。リソースでは、`vXX.X/subjects/object/quickActions/{action name}/defaultValues/{context id}` 形式の URI が使用されます。API バージョン 28.0 を使用する場合は、`vXX.X/subjects/object/quickActions/{action name}/defaultValues/{parent id}` を引き続き使用します。

Themes リソース

Themes リソースは、Salesforce UI のテーマで使用されるアイコンおよび色に関する情報を返します。次に、組織のオブジェクトに使用されるテーマのアイコンおよび色を取得する GET 要求の例を示します。

```
/services/data/v29.0/theme
```

SOAP API

新しいコールと更新されたコール

新しいコール

次のコールは、API バージョン 29.0 で新しく追加されました。

- `describeAppMenu()`: Salesforce1 ナビゲーションメニューまたは Salesforce ドロップダウンアプリケーションメニューの項目に関するメタデータを取得します。この情報は、`DescribeAppMenuResult` を介して返されます。
- `describeCompactLayouts()`: 指定されたオブジェクト種別のコンパクトレイアウトに関するメタデータの詳細を取得します。この情報は、`DescribeCompactLayoutsResult` を介して返されます。
- `describeFlexiPages()`: フレキシブルページのセットに関するメタデータの詳細を取得します。フレキシブルページは、Salesforce1 ナビゲーションメニューのメニュー項目として表示されるモバイルアプリケーションのホームページです。この情報は、`DescribeFlexiPageResult` を介して返されます。
- `describeGlobalTheme()`: 現在のログインユーザが使用できるオブジェクトとテーマの両方の情報を返します。情報は、`DescribeGlobalResult` と `DescribeThemeResult` を含む `DescribeGlobalTheme` から返されます。
- `describeTheme()`: 現在のログインユーザが使用できるテーマの情報を返します。情報は、`DescribeThemeResult` から返されます。

更新されたコール

次のコールは、API バージョン 29.0 で更新されました。

- `describeAvailableQuickActions()`: `contextType` は、API バージョン 29.0 以降で使用される新しい項目で、`parentType` に置き換わるものです。API バージョン 28.0 を使用する場合は、`parentType` を引き続き使用します。作業は不要です。
- `describeAvailableQuickActions()`: `DescribeAvailableQuickActionResult` が更新されました。API バージョン 29.0 以降の各 `DescribeAvailableQuickActionResult` オブジェクトは、指定されたコンテキストで使用できるパブリッシャーアクションの詳細を表します。API バージョン 28.0 のオブジェクトは、指定された親の詳細を表します。API バージョン 28.0 を使用する場合は、`parentType` を引き続き使用します。作業は不要です。

また、`type` 項目は次の追加の種別をサポートします。

- ◇ LogACall
 - ◇ SocialPost
 - ◇ Canvas
 - ◇ Create
 - ◇ Update
- `describeLayout():relatedContent` は、ページレイアウトの新しい [関連コンテンツ] セクションを表す新しい項目です。
 - `describeLayout():ExpandedLookup` が `LayoutComponentType` の新しい値として追加されました。
 - `describeLayout():` 返された `DescribeLayoutResult` メタデータの一部として、[強調表示パネル] セクションの詳細が提供されます。
 - `describeLayout():` 返された `DescribeLayoutResult` メタデータの一部として、[関連コンテンツ] セクションの詳細が次の 2 つの新しい種別として提供されます。
 - ◇ `RelatedContent` — ページレイアウトの [関連コンテンツ] セクションを表します。項目の配列が含まれます。
 - ◇ `DescribeRelatedContentItem` — `DescribeRelatedContentItem` リスト内の個別の項目を表します。
 - `describeLayout():DescribeLayoutButton` に、ボタンに使用するテーマアイコンの情報が含まれるようになりました。
 - `describeLayout():DescribeQuickActionListItemResult` に、クイックアクションに使用するテーマアイコンと色の情報が含まれるようになりました。
 - `describeQuickActions():` API バージョン 29.0 以降では、`describeQuickActions()` はアクション名を `ContextEntity.ActionName` 形式で取り込みます。API バージョン 28.0 では、`ParentEntity.ActionName` が使用されます。API バージョン 28.0 を使用する場合は、`parentType` を引き続き使用します。作業は不要です。
 - `describeQuickActions():DescribeQuickActionResult` に、Force.com Canvas アプリケーションを特定する項目だけでなく、クイックアクションに使用するテーマアイコンと色の情報が含まれるようになりました。
 - `DescribeQuickActionResult` には、`DescribeQuickActionDefaultValue` に含まれるデフォルト値の情報も含まれています。
 - `DescribeQuickActionResult` の `type` 項目は次の追加の種別をサポートします。
 - ◇ LogACall
 - ◇ SocialPost
 - ◇ Canvas
 - ◇ Create
 - ◇ Update
 - `describeTabs():DescribeTab` に、タブに使用するテーマの色とテーマアイコンの情報が含まれるようになりました。
 - `performQuickActions():contextId` は、API バージョン 29.0 以降で使用される新しい項目で、`parentId` に置き換わるものです。API バージョン 28.0 を使用する場合は、`parentType` を引き続き使用します。作業は不要です。
 - `describeSObjects():` 返された `DescribeSObjectResult` メタデータの一部である `compactLayoutable` は、オブジェクトを `describeCompactLayouts()` で使用できるかどうかを示す新しいプロパティです。

LimitInfoHeader

この新しい SOAP API 応答ヘッダーは、組織の制限情報を返します。このヘッダーを使用して、組織にコールを行うときの API 制限を監視します。

要素名	データ型	説明
current	string	組織ですでに使用中の指定された制限種別に対するコール数。
limit	string	指定された制限種別の組織の制限。
type	string	ヘッダーで指定された制限情報の種別。 <ul style="list-style-type: none"> API REQUESTS — 組織の API コールに関する制限情報が含まれます。

次に、Merchandise レコードの SOAP 要求に対する応答の例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
  xmlns="urn:partner.soap.sforce.com" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xmlns:sf="urn:soobject.partner.soap.sforce.com">
  <soapenv:Header>
    <LimitInfoHeader>
      <limitInfo>
        <current>5</current>
        <limit>5000</limit>
        <type>API REQUESTS</type>
      </limitInfo>
    </LimitInfoHeader>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <queryResponse>
      <result xsi:type="QueryResult">
        <done>true</done>
        <queryLocator xsi:nil="true"/>
        <records xsi:type="sf:sObject">
          <sf:type>dev_ns__Merchandise__c</sf:type>
          <sf:Id>a00D0000008pQSNIA2</sf:Id>
          <sf:dev_ns__Description__c>Phone Case for iPhone
            4/4S</sf:dev_ns__Description__c>
          <sf:dev_ns__Price__c>16.99</sf:dev_ns__Price__c>
          <sf:dev_ns__Stock_Price__c>12.99</sf:dev_ns__Stock_Price__c>
          <sf:dev_ns__Total_Inventory__c>108.0</sf:dev_ns__Total_Inventory__c>
          <sf:Id>a00D0000008pQSNIA2</sf:Id>
        </records>
        <size>1</size>
      </result>
    </queryResponse>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

ストリーミング API

ストリーミング API のパフォーマンスと機能が改善されました。

Performance、Unlimited、および Enterprise Edition 組織の制限の緩和

登録の際の絞り込み条件の設定

削除イベントと復元イベントのサポート

汎用ストリーミングパイロット

PushTopic クエリで新しくサポートされるオブジェクトパイロット

Performance、Unlimited、および Enterprise Edition 組織の制限の緩和

ストリーミング API によって、Performance Edition、Unlimited Edition および Enterprise Edition 組織の制限が緩和されました。新しい制限は次のとおりです。

- 1日あたりの最大行動数が、Performance Edition および Unlimited Edition 組織の場合は 1,000,000 (以前は 100,000)、Enterprise Edition 組織の場合は 200,000 (以前は 20,000) に増えました。
- 全トピックの最大同時クライアント数が、Performance Edition および Unlimited Edition 組織の場合は 1000 (以前は 100)、Enterprise Edition 組織の場合は 500 (以前は 20) に増えました。
- 最大トピック数が、Performance Edition および Unlimited Edition 組織の場合は 50 (以前は 20)、Enterprise Edition 組織の場合は 25 (以前は 20) に増えました。

登録の際の絞り込み条件の設定

チャンネルに登録すると、論理 AND または OR 演算子を含む式を登録 URL に追加して、イベント通知の数を絞ることができます。

登録 URL で次の構文を使用します。

```
/topic/myChannel?<expression>
```

myChannel はチャンネルで、<expression> は論理 AND または OR 演算子を含む式です。

式エンジンは MVEL という式言語を使用します。式文法についての詳細は、[「MVEL Operators」](#) を参照してください。現在は、論理 AND 演算子 (&&) と論理 OR 演算子 (||) しかサポートされていません。



メモ: 検索条件に ID を使用する場合は、18 文字の ID 形式を使用する必要があります。15 文字の ID はサポートされていません。

論理 AND 演算子の例

次の論理 AND 式は、Company=='Acme' と City=='Timbuktu' のあるイベントを条件検索します。

```
Company=='Acme'&&City=='Timbuktu'
```

チャンネルの PushTopic にある SOQL クエリの SELECT 句には、比較演算子の左側のオペランドで使用する項目を含める必要があります。この例では、SELECT 句に、Company 項目と City 項目を含める必要があります。

論理 OR 演算子の例

次の論理 OR 式は、UnitPrice > 50 または Amount >= 10 のあるイベントを条件検索します。

```
UnitPrice>50||Amount>=10
```

削除イベントと復元イベントのサポート

ストリーミング API で、削除および復元されたレコードの通知がサポートされるようになりました。PushTopic オブジェクトは、新しい NotifyForOperationCreate、NotifyForOperationUpdate、NotifyForOperationDelete、NotifyForOperationUndelete Boolean 項目を使用して、どのイベントで通知が生成されるのかを判断します。次の Apex コード例では、Invoice_Statement レコードが削除または復元されたときに通知を生成する PushTopic を作成します。

```
PushTopic pushTopic = new PushTopic();
pushTopic.Name = 'InvoiceStatementUpdates';
pushTopic.Query = 'SELECT Id, Name, Status__c, Description__c FROM Invoice_Statement__c';
pushTopic.ApiVersion = 29.0;
pushTopic.NotifyForOperationCreate = false;
pushTopic.NotifyForOperationUpdate = false;
pushTopic.NotifyForOperationUndelete = true;
pushTopic.NotifyForOperationDelete = true;
pushTopic.NotifyForFields = 'Referenced';
insert pushTopic;
```

削除および復元イベント通知を取得するには、クライアントは cometd/29.0 ストリーミング API エンドポイントを使用して接続する必要があります。作成または更新通知が有効でない場合に設定される新しい Extended 値が NotifyForOperations に追加されました。

汎用ストリーミングパイロット

Salesforce データの変更に関連付けられていないカスタムイベント通知をストリーミング API を使用して送信できるようになりました。汎用ストリーミングを使用するには、以下が必要です。

- チャンネルを定義する StreamingChannel。これは、Salesforce UI または任意のデータ API を使用して作成できます。
- Bayeux でチャンネルに登録された 1 つ以上のクライアント。
- Streaming Channel Push REST API リソース。この新しいリソースでは、チャンネルを監視してチャンネルのイベント通知をクライアントに転送できます。

汎用ストリーミングは現在、パイロットプログラムで利用可能です。組織での汎用ストリーミングの有効化については、salesforce.com, inc. にお問い合わせください。

PushTopic クエリで新しくサポートされるオブジェクトパイロット

PushTopic クエリで、標準オブジェクト ContractLineItem、Entitlement、LiveChatTranscript、Quote、QuoteLineItem、および ServiceContract がサポートされるようになりました。

これらのオブジェクトのサポートは、現在、パイロットプログラムで使用可能です。詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

Chatter REST API

モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションを Chatter に統合するには、Chatter REST API を使用します。



メモ: Salesforce でカスタム Chatter を体験するには、[Chatter in Apex](#) を使用します。

全般的な更新

新しいリソースと変更されたリソース

新しいリクエストボディと変更されたリクエストボディ

新しいレスポンスボディと変更されたレスポンスボディ

全般的な更新

応答サイズの指定

要求 URL またはリクエストボディ内の `filterGroup` パラメータを使用して、返されるプロパティのグループサイズ (Small、Medium、Big) を指定します。各レスポンスボディのすべてのプロパティにグループサイズのタグが付けられます。

- Big — デフォルトのサイズです。レスポンスボディのすべてのプロパティ (Big、Medium、および Small のマークが付けられたプロパティ) が含まれます。
- Medium — Medium および Small のマークが付けられたプロパティが含まれます。
- Small — 最小の応答サイズです。Small のマークが付けられたプロパティのみが含まれます。

要求 URL に `filterGroup` クエリパラメータが含まれている場合、指定のサイズのプロパティのみがクライアントに返されます。条件グループについて、次の事項を把握している必要があります。

- デフォルトの `filterGroup` サイズは Big です。
- プロパティに割り当てられる各条件グループサイズには、API バージョンがあります。今後、API バージョンのプロパティは、別の条件グループに移動する可能性があります。
- 条件グループは、DELETE を除くすべての HTTP 動詞に影響します。
- 特に指定のない限り、バッチリクエストボディのサブ要求を含むすべての要求 URL で `filterGroup` パラメータを使用できます。
- `filterGroup` パラメータを `include` または `exclude` 条件パラメータと組み合わせて使用し、返されるプロパティのセットを変更できます。結果セットは、2 つのセットの結合です。

拡張ベアラートークンのサポート

要求ヘッダー `X-Connect-Bearer-Urls: true` を渡す場合、次のレスポンスボディのプロパティにベアラートークン URL が含まれるようになりました。

- File Detail — `renditionUrl240By180`、`renditionUrl1720By480`
- File Summary — `renditionUrl240By180`、`renditionUrl1720By480`
- File Summary Page — `currentPageUrl`
- Icon — `url`
- Mention Completion — `photoUrl`

Salesforce.com でホストされていない HTML ページに画像を表示するには、ベアラートークン URL を要求します。

フィード項目およびコメントの 5000 文字の制限

フィード項目およびコメントの要求およびレスポンスボディには、5000 文字を含めることができます。以前は 1000 文字に制限されていました。この変更は、すべての API バージョンに適用されます。唯一の例外は、API バージョン 23.0 および 24.0 の User Profile Feed Items リソース

(/chatter/feeds/user-profile/**userId**/feed-items)への投稿です。これらのバージョンでは、このリソースへの投稿でフィード項目ではなくユーザ状況更新が作成されるため、1000 文字の制限が引き続き適用されます。

Accept-Language HTTP ヘッダーのサポート

Chatter REST API で Accept-Language HTTP ヘッダーがサポートされるようになりました。Chatter REST API は、名前をユーザのロケール設定にローカライズします。ユーザがロケールを設定していない場合、Chatter REST API は組織のデフォルトのロケールを使用します。ただし、個々のクライアントはこのロケールを上書きすることが必要な場合があります。クライアントは、組織で利用できる任意のロケールを使用して、ロケールを上書きできます。Accept-Language HTTP ヘッダーを使用して、任意の API 要求のロケールを上書きします。

X-Connect-Theme HTTP ヘッダーのサポート

クライアントは、X-Connect-Theme HTTP ヘッダーを使用して API 要求の UI テーマを指定できます。2 つのテーマがあり、各テーマには独自の motif アイコンのセット、Classic と Salesforce1 があります。

大きなコミュニティグループ用の投稿通知はない

コミュニティでは、グループメンバーが 10,000 人を超えると [各投稿のメール] オプションが無効になります。このオプションを選択したすべてのメンバーは、自動的に [毎日のダイジェスト] に切り替わります。

新しいリソースと変更されたリソース

メンション提案の取得

Mentions Completions は、フィード項目またはコメントの本文でメンション可能なユーザおよびグループの集まりを表す新しいリソース (/chatter/mentions/completions) です。メンションは、ユーザ名またはグループ名の前にある「@」文字で示されます。ユーザまたはグループは、メンションされると通知を受け取ります。このリソースを使用して、フィード項目またはコメントの本文にユーザが 2 文字以上入力すると選択可能になる、提案メンションのリストを生成します。Mention Completions リソースには、次のパラメータがあります。

- contextId — 検索結果を絞り込むフィード項目 ID (コメント内のメンションの場合) またはフィード件名 ID (フィード項目内のメンションの場合) であり、最も的確な結果が最初に表示されます。
- page — 返すページの数。番号付けは 0 から開始します。デフォルト値は 0 です。
- pageSize — ページあたりの項目数。有効な値は 1 ~ 100 です。デフォルトサイズは 25 です。500 件を超える結果を取得しようとする、HTTP 400 状況コードが返されます。
- q — 検索語。一致するユーザおよびグループの名前を検索します。ユーザを検索する場合、1 文字以上を指定する必要があります。グループを検索する場合、2 文字以上を指定する必要があります。このパラメータではワイルドカードは使用できません。
- type — メンションの補完の種類。
 - ◇ All — メンションで参照するレコードタイプに無関係の、すべてのメンションの補完。
 - ◇ Group — グループのメンションの補完。
 - ◇ User — ユーザのメンションの補完。

メンション提案の検証

Mentions Validations は、指定されたメンション提案がコンテキストユーザにとって有効かどうかに関する情報を表す新しいリソース (/chatter/mentions/validations) です。このリソースを使用して、提案をユー

ザに表示する前に、提案メンションのリストが有効であることを検証します。Mention Validations リソースには、次のパラメータがあります。

- `parentId` — フィード項目の親 ID (新しいフィード項目の場合) またはフィード項目 ID (コメントの場合)。
- `recordIds` — メンションする ID のカンマ区切りのリスト。最大値は、25 です。
- `visibility` — フィード項目を表示できるユーザの種別を指定します。
 - ◇ `AllUsers` — 表示は内部ユーザに限定されません。
 - ◇ `InternalUsers` — 表示は内部ユーザに限定されます。

コミュニティのモデレート

Community Moderation に、次の新しいリソースが導入されました。

- **Moderate Flags on Feed Items**
(`/connect/communities/communityId/chatter/feed-items/feedItemId/moderation-flags/`) — コミュニティ内の投稿を不適切としてフラグ付けします。モデレータ以外のコミュニティメンバーも、このリソースを使用して、以前に設定したフラグを削除できます。コミュニティモデレータは、投稿のフラグ数を表示でき、必要に応じてすべてのフラグを削除できます。
- **Moderate Flags on Comments**
(`/connect/communities/communityId/chatter/comments/commentId/moderation-flags/`) — コミュニティ内のコメントを不適切としてフラグ付けします。モデレータ以外のコミュニティメンバーも、このリソースを使用して、以前に設定したフラグを削除できます。コミュニティモデレータは、コメントのフラグ数を表示でき、必要に応じてすべてのフラグを削除できます。
- **Communities Moderation Feed**
(`/connect/communities/communityId/chatter/feeds/moderation/feed-items/`) — フラグ付けされたすべての投稿およびコメントを含むフィード。「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つユーザは、このフィードを使用して、フラグ付けされた投稿およびコメントを表示したり、対応策を実行したりできます。

返されるコメント数の指定

次のリソースには、フィード項目ごとに返される最大コメント数 (デフォルト値は 3) を指定する新しい `recentCommentCount` パラメータが GET 要求に追加されました。

- **Feed Items Query** リソース (`/chatter/feed-items/`)
- **Bookmarks Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/bookmarks/userId/feed-items/`)
- **Favorites Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/favorites/userId/favoriteId/feed-items/`)
- **Files Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/files/userId/feed-items/`)
- **Filter Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/filter/userId/keyPrefix/feed-items/`)
- **Groups Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/groups/userId/feed-items/`)
- **News Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/news/userId/feed-items/`)
- **People Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/people/userId/feed-items/`)
- **Records Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/records/recordId/feed-items/`)
- **To Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/to/userId/feed-items/`)
- **Topics Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/topics/topicId/feed-items/`)
- **User Profile Feed Items** リソース (`/chatter/feeds/user-profile/userId/feed-items/`)

返されるフィードの密度の指定

GET 要求の新しい `density` パラメータは、フィードに含まれるフィード項目の密度を指定します。値は次のとおりです。

- `AllUpdates` — ユーザがフォローする人とレコード、およびユーザがメンバーとなっているグループからのすべての投稿とコメントが表示されます。
- `FewerUpdates` — ユーザがフォローする人とレコード、およびユーザがメンバーとなっているグループからのすべての投稿とコメントが表示されますが、誰からもコメントされていないレコードからのシステム生成された投稿は非表示になります。

次のリソースは、`density` パラメータを受け付けます。

- Bookmarks Feed Items リソース (`/chatter/feeds/bookmarks/userId/feed-items/`)
- Files Feed Items リソース (`/chatter/feeds/files/userId/feed-items/`)
- Filter Feed Items リソース (`/chatter/feeds/filter/userId/keyPrefix/feed-items/`)
- Groups Feed Items リソース (`/chatter/feeds/groups/userId/feed-items/`)
- News Feed Items リソース (`/chatter/feeds/news/userId/feed-items/`)
- People Feed Items リソース (`/chatter/feeds/people/userId/feed-items/`)
- Records Feed Items リソース (`/chatter/feeds/records/recordId/feed-items/`)
- To Feed Items リソース (`/chatter/feeds/to/userId/feed-items/`)
- Topics Feed Items リソース (`/chatter/feeds/topics/topicId/feed-items/`)
- User Profile Feed Items リソース (`/chatter/feeds/user-profile/userId/feed-items/`)

複数のフィード項目に関する情報の取得

新しい Feed Items Batch リソース (`/chatter/feed-items/batch/feedItemIds`) は、フィード項目のバッチを表します。フィード項目 ID のカンマ区切り文字列を指定して、1つの要求の複数のフィード項目に関する情報を取得します。

グループの作成

Groups リソース (`/chatter/groups`) は、グループの作成に使用できるようになりました。POST 要求を行い、要求パラメータを渡します。

グループの削除

Groups Information リソースは、グループの削除に使用できるようになりました。/`chatter/groups/groupId` に対して DELETE 要求を行います。

グループメンバーのロールの設定

Groups Members リソース (`/chatter/groups/groupId/members`) には、POST 要求用の新しい `role` パラメータがあります。有効な値は、`GroupManager` または `StandardMember` です。

グループメンバー種別の更新

Groups Memberships リソース (`/chatter/group-memberships/membershipId`) で PATCH 要求がサポートされるようになりました。グループメンバーのロールを更新するには、PATCH 要求を行い、新しい `role` パラメータを渡すか、新しい `role` プロパティが含まれる Group Member Input リクエストボディを渡します。

アーカイブ状況に基づいたグループに関する情報の取得

List of Groups リソース (/chatter/groups) には、GET 要求用の新しい `archiveStatus` パラメータがあります。アーカイブ済みグループ、有効なグループ、またはすべてのグループ (有効なものとアーカイブ済みの両方) のリストを取得するために使用します。

よりの確な結果を得るグループの検索

List of Groups リソース (/chatter/groups?q=someGroupName) を使用して検索する場合、グループの名前項目のみが検索されます。以前のバージョンでは、グループの説明項目など他の項目が検索に含まれていたため、検索結果に多くの不要項目が含まれていました。

写真のトリミング

Groups Photo リソース (/chatter/groups/**groupId**/photo) と Users Photo リソース (/chatter/users/**userId**/photo) には、写真をトリミングできる新しいパラメータがあります。

- `cropSize` — トリミングする四角形の任意の境界の長さ (ピクセル単位)。
- `cropX` — 画像の左端からトリミングする四角形の開始までの位置 X (ピクセル単位)。左上の位置は (0,0) です。
- `cropY` — 画像の上端からトリミングする四角形の開始までの位置 Y (ピクセル単位)。左上の位置は (0,0) です。

トピック URI の変更

すべての Topics リソースの URI が、/chatter ではなく /connect で開始するようになりました。

- /connect/topics
- /connect/topics/**topicId**
- /connect/topics/**topicId**/files
- /connect/topics/**topicId**/groups
- /connect/topics/**topicId**/related-topics
- /connect/topics/**topicId**/suggestions
- /connect/topics/**topicId**/trending

Related Topics リソースは、related と topics の間にハイフンが含まれる /connect/topics/**topicId**/related-topics になりました。

トピック名の変更

大文字表記に加えトピック名のスペースを変更するには、Topic リソース (/connect/topics/**topicId**) に対して PATCH 要求を行い、`name` パラメータを渡します。

トピックのフォローとフォロー解除

Following リソースは、トピックのフォローに使用できるようになりました。リソースは /chatter/users/**userId**/following です。

トピックをフォロー解除するには、Subscriptions リソースを使用します。リソースは /chatter/subscriptions/**subscriptionId** です。

トピックに関する情報の取得

Records リソースから、フォローされている人を含めたトピックに関する情報が返されるようになりました。リソースは /chatter/records/**recordId** と /chatter/records/**recordId**/followers です。

ユーザプロフィールに関する情報の取得

新しい User Profiles リソース (/chatter/user-profiles/**userId**) は、ユーザのプロファイルを表します。これには、ユーザ情報、一連の機能(権限)、特定ユーザの設定済みプロフィールサブタブアプリケーションのセットが含まれます。

新しい aboutMe プロパティを更新するには、User Profile Information リソース (/chatter/users/**userId**) に対して PATCH 要求を行います。Chatter ユーザインターフェースでは、このプロパティがユーザプロフィールの [自己紹介] セクションに入力されます。

Chatter アンサーのゾーンに関する情報の取得

新しい Zones リソースには、Chatter アンサーの質問を含めたゾーンに関する情報が含まれます。次のリソースがあります。

- /connect/zones — コンテキストユーザが使用できるゾーンに関する情報を取得します。
- /connect/zones/**zoneId** — 指定された Chatter アンサーのゾーンに関する情報を取得します。
- /connect/zones/**zoneId**/search-results — Chatter アンサーのゾーンを検索します。

フィードへのキャンバスアプリケーションの投稿

キャンバスアプリケーションの添付ファイルを含むフィード項目を、ニュースフィード、レコードフィード、ユーザプロフィールフィードに投稿できるようになりました。次の新しい POST パラメータを使用します。

- attachmentType — 添付ファイルの種別。値 Canvas を含める必要があります。
- description — キャンバスアプリケーションの説明。
- developerName — キャンバスアプリケーションの開発者名 (API 名) を指定します。
- height — キャンバスアプリケーションの高さ(ピクセル単位)。デフォルトの高さは200ピクセルです。
- namespacePrefix — キャンバスアプリケーションが作成された Developer Edition 組織の名前空間プレフィックス。
- parameters — キャンバスアプリケーションに渡される JSON 形式のパラメータ。JSON は URL でエンコードされている必要があります。
- thumbnailUrl — キャンバスアプリケーションのサムネイル画像の URL。最大サイズは 120x120 ピクセルです。
- title — キャンバスアプリケーションへのリンクのタイトル。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

ファイルのリストの削除

ファイルのリストを削除するには、File Information, Batch リソース (/chatter/files/batch/**fileIds**) への DELETE 要求を行います。DELETE メソッドは API バージョン 26.0 から使用可能になっていますが、ドキュメントには記載されていませんでした。

新しいリクエストボディと変更されたリクエストボディ

Attachment Input: Canvas App

この新しいリクエストボディは、キャンバスアプリケーションを記述します。フィード項目にキャンバスアプリケーションを添付するために使用します。次のプロパティがあります。

- attachmentType — 添付ファイルの種別。値 Canvas を含める必要があります。

- `description` — キャンバスアプリケーションの説明。
- `developerName` — キャンバスアプリケーションの開発者名 (API 名)。
- `height` — キャンバスアプリケーションの高さ (ピクセル単位)。デフォルトの高さは 200 ピクセルです。
- `namespacePrefix` — キャンバスアプリケーションが作成された Developer Edition 組織の名前空間プレフィックス。
- `parameters` — キャンバスアプリケーションに渡される JSON 形式のパラメータ。
- `thumbnailUrl` — キャンバスアプリケーションのサムネイル画像の URL。最大サイズは 120x120 ピクセルです。
- `title` — キャンバスアプリケーションのコールに使用されるリンクのタイトル。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

Feed Item Input

`attachment` プロパティの値に、Attachment Input: Canvas App を保持できるようになりました。この値を使用して、フィード項目にキャンバスアプリケーションを添付します。

Feed Item Topics Input

この新しいリクエストボディは、トピックを記述します。/`chatter/feed-items/feedItemId/topics` への POST 要求で使用して、指定されたフィード項目に新規または既存のトピックを関連付けます。次のプロパティがあります。

- `topicId` — 既存のトピックの ID
- `topicName` — 新規または既存のトピックの名前 (最大 150 文字)

Following Input

`subjectId` プロパティをトピック ID にすることができるようになりました。このリクエストボディは、/`chatter/users/userId/following` リソースで使用します。

Group Input

このリクエストボディには、グループを更新するために /`chatter/groups/groupId` への PATCH 要求で使用する新しいプロパティがあります。プロパティは次のとおりです。

- `canHaveChatterGuests` — このグループで Chatter 顧客を許可している場合は `true`、それ以外の場合は `false`。このプロパティを `true` に設定した後で、`false` に設定することはできません。
- `description` — グループの [説明] セクション。
- `name` — グループの名前。
- `owner` — グループ所有者の ID。
- `isArchived` — グループがアーカイブ済みの場合は `true`、それ以外の場合は `false`。デフォルトは `false` です。
- `isAutoArchiveDisabled` — グループの自動アーカイブが無効の場合は `true`、それ以外の場合は `false`。デフォルトは `false` です。
- `visibility` — グループが非公開か公開のどちらであるかを指定します。
 - ◊ `PrivateAccess` — グループのメンバーのみが、このグループへの投稿を参照できます。
 - ◊ `PublicAccess` — 内部コミュニティのすべてのユーザが、このグループへの投稿を参照できます。

Group Member Input

このリクエストボディには、次のいずれかの値を持つ新しい `role` プロパティがあります。

- `GroupManager` — ユーザはグループのマネージャです。
- `StandardMember` — ユーザはグループの標準メンバーです。

既存のグループメンバーに対してこのプロパティを更新するに

は、`/chatter/group-memberships/membershipId`への PATCH 要求でプロパティを渡します。メンバーをグループに追加したときにこのプロパティを設定するには、`/chatter/groups/groupId/members` への POST 要求でプロパティを渡します。

Message Segment Input: Mention

このリクエストボディでは、`id` プロパティにグループ ID を指定できるようになりました。グループ ID を使用して、フィード項目またはコメントのグループにメンションします。

Photo Input

このリクエストボディには、写真のトリミング方法を指定する新しいプロパティがあります。

- `cropSize` — トリミングする四角形の任意の境界の長さ (ピクセル単位)。
- `cropX` — 画像の左端からトリミングする四角形の開始までの位置 X (ピクセル単位)。左上の位置は (0,0) です。
- `cropY` — 画像の上端からトリミングする四角形の開始までの位置 Y (ピクセル単位)。左上の位置は (0,0) です。

ユーザの写真を更新するには、リクエストボディを `/chatter/users/userId/photo` に渡します。グループの写真を更新するには、リクエストボディを `/chatter/groups/groupId/photo` に渡します。

Topic Input

このリクエストボディには、大文字表記に加えトピック名のスペースを変更できる新しい `name` プロパティがあります。このリクエストボディは、`/connect/topics/topicId` リソースで使われます。

User Input

この新しいリクエストボディには、1つのプロパティ `aboutMe` があります。`/chatter/users/userId` への PATCH 要求で使われます。Chatter ユーザーインターフェースでは、このプロパティがユーザプロフィールの [自己紹介] セクションに入力されます。

新しいレスポンスボディと変更されたレスポンスボディ

Comment

このレスポンスボディには、新しい `moderationFlags` プロパティが含まれます。このプロパティには、コメントの任意のモデレーションフラグに関する情報を格納する Moderation Flags レスポンスボディが含まれます。Features レスポンスボディの `communityModeration` プロパティが `false` の場合、このプロパティは `null` になります。

Email Address

この新しいレスポンスボディは、メールメッセージのメールアドレスを表します。次のプロパティがあります。

- `displayName` — メールアドレスの表示名。
- `emailAddress` — メールアドレス。

Features

Features レスポンスボディには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `chatterAnswers` — Chatter アンサーが有効になっているかどうかを示します。
- `communityModeration` — コミュニティモデレーションが有効になっているかどうかを示します。
- `ideas` — アイデアが有効になっているかどうかを示します。

Feed Body

API バージョン 29.0 以降では、Feed Body レスポンスボディの `text` プロパティは `null` になる可能性があります。これは、テキストを表示するためのデフォルトのケースとしてこのプロパティを使用できないことを意味します。代わりに、`null` にならない Feed Item Preamble Message Body レスポンスボディの `text` プロパティを使用します。

Feed Item

Feed Item attachment プロパティには、次の新しい値が含まれます。

- `Canvas` — キャンバスアプリケーションへのリンクを表示するためのメタデータを含むフィード項目。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

- `EmailMessage` — ケースフィードのケースレコードに添付されるメール。
- `RecordSnapshot` — フィード項目添付ファイルには、単一の `ConnectApi.FeedItemType.CreateRecordEvent` のレコードのビューが含まれます。
- `TrackedChange` — 単一の `ConnectApi.FeedItemType.TrackedChange` イベントのレコードへのすべての変更。

フィード項目には新しい `moderationFlags` プロパティが含まれます。このプロパティには、フィード項目の任意のモデレーションフラグに関する情報を格納する Moderation Flags レスポンスボディが含まれます。Features レスポンスボディの `communityModeration` プロパティが `false` の場合、このプロパティは `null` になります。

Feed Item type プロパティには、次の新しい値が含まれます。

- `CanvasPost` — パブリッシャーのキャンバスアプリケーションまたは Chatter REST API または Chatter in Apex によって生成されるフィード項目。投稿自体は、キャンバスアプリケーションへのリンクです。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

- `ReplyPost` — Chatter アンサーの返信によって生成されるフィード項目。
- `TrackedChange` — 単一の `ConnectApi.FeedItemType.TrackedChange` イベントのレコードへのすべての変更。

Feed Item Attachment: Canvas Template

Feed Item Attachment: Canvas Template は、フィード項目に添付されるキャンバスアプリケーションを表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `description` — キャンバスアプリケーションの説明。
- `developerName` — キャンバスアプリケーションの開発者名 (API 名)。
- `height` — キャンバスアプリケーションの高さ (ピクセル単位)。デフォルトは 200 ピクセルです。

- `icon` — キャンバスアプリケーションのアイコン。
- `namespacePrefix` — キャンバスアプリケーションが作成された Developer Edition 組織の名前空間プレフィックス。
- `parameters` — キャンバスアプリケーションに渡される JSON 形式のパラメータ。
- `thumbnailUrl` — キャンバスアプリケーションのサムネイル画像の URL。最大サイズは 120x120 ピクセルです。
- `title` — キャンバスアプリケーションのコールに使用されるリンクのタイトル。



メモ: パブリッシャーおよび Chatter フィードでの Force.com Canvas アプリケーションのサポートは現在、パイロットプログラムおよび新しいすべての Development Edition 組織で使用可能です。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、salesforce.com にお問い合わせください。

Feed Item Attachment: Case Comment

Feed Item Attachment: Case Comment レスポンスボディには、ケースコメントのイベントタイプを指定する新しい `eventType` プロパティが追加されました。次の値があります。

- `NewInternal` — 新しく「社内のみ」とマークされたケースコメント。
- `NewPublished` — 新しく公開されたケースコメント。
- `NewPublishedByCustomer` — 新しく公開された、顧客によるケースコメント。
- `PublishExisting` — 再公開された既存のケースコメント。



メモ: この値はスペルミスではありません。コードでこのスペルを使用してください。

- `PublishExistingByCustomer` — 再公開された、顧客による既存のケースコメント。
- `UnpublishExisting` — 非公開にされた既存のケースコメント。
- `UnpublishExistingByCustomer` — 非公開にされた、顧客による既存のケースコメント。

Feed Item Attachment: Email Message

この新しいレスポンスボディは、ケースフィードのケースレコードから送信されたメールメッセージを表します。次のプロパティがあります。

- `direction` — 次のいずれかの値を持つ `ConnectApi.EmailMessageDirection Enum`。
 - ◇ `Inbound` — インバウンドメッセージ (顧客が送信)。
 - ◇ `Outbound` — アウトバウンドメッセージ (サポートエージェントが顧客に送信)。
- `emailMessageId` — メールメッセージの ID。
- `subject` — メールメッセージの件名。
- `textBody` — メールメッセージの本文。
- `toAddress` — メッセージの送信先である `ConnectApi.EmailAddress` オブジェクトのリスト。

Feed Item Attachment: Record Snapshot

Feed Item Attachment: Record Snapshot は、作成時のレコードのビューを表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `recordView` — 作成時のレコードのビュー。
- `type` — `RecordSnapshot`。

Feed Item Attachment: Tracked Change

Feed Item Attachment: Tracked Change は、フィード項目に添付される項目に対して行われた変更を表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `changes` — Feed Tracked Change レスポンスボディの集まり。
- `type` — String TrackedChange。

Feed Tracked Change

Feed Tracked Change は、レコードの項目への変更を表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `fieldName` — 更新された項目の名前。
- `newValue` — 項目の新しい値または `null` (項目の長さが長い場合、または空の場合)。
- `oldvalue` — 項目の古い値または `null` (項目の長さが長い場合、または空の場合)。

File

File レスポンスボディには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `publishStatus` — ファイルの公開状況。次のいずれかの値にします。
 - ◇ `PendingAccess` — ファイルは公開を待機中です。
 - ◇ `PrivateAccess` — ファイルは非公開です。
 - ◇ `PublicAccess` — ファイルは公開されています。
- `sharingRole` — ファイルの共有ロール。次のいずれかの値にします。
 - ◇ `Admin` — 所有者権限ですが、ファイルは所有していません。
 - ◇ `Collaborator` — 閲覧者権限に加えて、権限の編集および変更を行ったり、新しいバージョンのファイルをアップロードしたりできます。
 - ◇ `Owner` — コラボレータ権限に加えて、ファイルを非公開にしたり、ファイルを削除したりできます。
 - ◇ `Viewer` — ファイルを表示、ダウンロード、共有できます。
 - ◇ `WorkspaceManaged` — ライブラリで制御される権限。

Following Count

Following Count レスポンスボディの `records` プロパティに、ユーザがフォローしているトピック数が含まれるようになりました。

Group

Group レスポンスボディには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `isArchived` — グループがアーカイブされているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `isAutoArchiveDisabled` — グループの自動アーカイブが無効になっているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

Group Details

Group Details レスポンスボディには、新しい `pendingRequests` プロパティが含まれます。この値は、非公開グループへの待機中の要求数を示す整数です。

Mention Completion

Mention Completion は、メンションとして使用されるレコードを表すプロパティを含む新しいレスポンスボディです。メンションは、ユーザ名またはグループ名の前にある「@」文字で示されます。次のプロパティがあります。

- `additionalLabel` — この補完で表されるレコードの追加の表示ラベル (存在する場合) (「(Customer)」や「(Acme Corporation)」など)。
- `description` — この補完で表されるレコードの説明。
- `name` — この補完で表されるレコードの名前。可能であれば、名前はローカライズされます。
- `photoUrl` — この補完で表されるレコードの写真またはアイコンの URL。
- `recordId` — この補完で表されるレコードの ID。

Mention Completion Page

Mention Completion Page は、Mention Completion レスポンスボディのページ設定されたリストを含む新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `mentionCompletions` — メンションの補完提案のリスト。これらの提案を使用して、フィード投稿の本文を作成します。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。
- `previousPageUrl` — 前のページまたは `null` (前のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

Mention Validation

Mention Validation は、提案メンションの検証情報を表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `recordId` — メンションするレコードの ID。
- `validationStatus` — 提案メンションの検証エラーの種類を示します (存在する場合)。
 - ◇ `Disallowed` — 提案メンションは無効であり、コンテキストユーザが許可されていない対象にメンションしようとしているため却下されます。たとえば、非公開グループのメンバーでないユーザが非公開グループにメンションしようとしている場合などです。
 - ◇ `Inaccessible` — 提案メンションは許可されていますが、メンションされるユーザまたはレコードには議論されている親レコードへのアクセス権がないため、通知されません。
 - ◇ `Ok` — 提案メンションに検証エラーはありません。

Mention Validations

Mention Validations は、メンションの検証情報の集合を表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `hasErrors` — 提案メンションのうち、少なくとも 1 つにエラーがあるか (`true`)、否か (`false`) を示します。たとえば、コンテキストユーザは自分が属していない非公開グループにメンションできません。そのようなグループがメンションの検証のリストに含まれていると、`hasErrors` は `true` になり、そのメンションの検証で `Disallowed` の `validationStatus` がグループに設定されます。
- `mentionValidations` — メンションの検証情報のリスト (指定されたレコード ID と同じ順序)。

Message Segment: Field Change Value

Message Segment: Field Change Value レスポンスボディには、メッセージセグメントに `NewValue` と `OldValue` のどちらが含まれているかを示す新しい `valueType` プロパティが含まれます。

Message Segment: Mention

Message Segment: Mention レスポンスボディには、Group レスポンスボディまたは User Summary レスポンスボディのいずれかになる新しい `record` プロパティが含まれます。

ユーザだけでなくグループにもメンションできるようになったため、`record` プロパティが追加されました。バージョン 29.0 以降では、使用できなくなった `user` プロパティの代わりに `record` プロパティを使用します。29.0 より前のバージョンでは、メンションがユーザでない場合、メンションは Message Segment: Text レスポンスボディに含まれます。

Message Segment: More Changes

Message Segment: More Changes レスポンスボディには、追跡されたフィード項目の変更の完全なコレクションを含む新しい `moreChanges` プロパティが含まれます。

Moderation Flags

Moderation Flags は、モデレーションフラグに関する情報を表す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `flagCount` — このフィード項目またはコメントのモデレーションフラグの数。ログインユーザがコミュニティモデレータでない場合、プロパティは `null` になります。
- `flaggedByMe` — コンテキストユーザがフィード項目またはコメントにモデレーションフラグを設定したのか (`true`)、否か (`false`) を示します。

Motif

Motif レスポンスボディには、レコードタイプのベース色の 16 進値を含む新しい `color` プロパティが含まれます。この値は、motif アイコンの背後で使われます。

Record Field

次の新しいレスポンスボディは、レコードオブジェクトの項目を表します。

- `Record Field` — 表示ラベルおよびテキスト値を含む汎用レコード項目。
- `Record Field: Blank` — 項目のグリッドにプレースホルダとして表示されるレコード項目。
- `Record Field: Compound` — サブ項目で構成されるレコード項目。
- `Record Field: Currency` — 通貨値を含むレコード項目。
- `Record Field: Date` — 日付を含むレコード項目。
- `Record Field: Percent` — パーセント値を含むレコード項目。
- `Record Field: Picklist` — 列举値を含むレコード項目。
- `Record Field: Reference` — 別のオブジェクトへの参照を含むレコード項目。
- `Record Field: Reference with Date` — 特定の時間に動作した参照オブジェクトを含むレコード項目（「作成者」など）。

Record View

次の新しいレスポンスボディは、レコードオブジェクトのビューを表します。

- `Record View` — カスタムオブジェクトのレコードを含む、組織の任意のレコードのビュー。このオブジェクトは、レコードタイプで特殊なオブジェクト (`User` や `ChatterGroup` など) を使用できない場合に使用されます。オブジェクトをすばやく簡単に表示するために設計されています。
- `Record View Section` — レコード詳細のレコード項目のセクション。

Related List

次の新しいレスポンスボディは、レコードオブジェクトの関連リストのビューを表します。

- `Related List` — レコードビューの関連リスト構造を定義します。リストにデータはありません。

- Related List Column — レコードの関連リストのテーブルの単一行。データの形状のみを示します。
- Related List Object — 関連リストの行に表示されるオブジェクト種別を定義します。
- Related List Sort — 関連リストの並び替え順の序数を定義します。

Subscription

Subscription レスポンスボディの `subject` プロパティに、Topic レスポンスボディを含めることができます。

Topic

Topic レスポンスボディには、トピック詳細ページを指し示す新しい `url` プロパティが含まれます。

Topic Collection

Topic Collection レスポンスボディには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `currentPageUrl` — トピックの現在のページを返します。
- `nextPageUrl` — トピックの次のページを返します。

Tracked Change Item

Topic レスポンスボディには、トピック詳細ページを指し示す新しい `url` プロパティが含まれます。

User Capabilities

UserCapabilities は、コンテキストユーザが件名ユーザと共に使用できる機能を示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `canChat` — コンテキストユーザが件名ユーザと共に Chatter Messenger を使用できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canDirectMessage` — コンテキストユーザが件名ユーザに直接メッセージを送信できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canEdit` — コンテキストユーザが件名ユーザの取引先を編集できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canFollow` — コンテキストユーザが件名ユーザのフィードをフォローできるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canViewFeed` — コンテキストユーザが件名ユーザのフィードを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `canViewFullProfile` — コンテキストユーザが件名ユーザの完全なプロフィールを表示できるのか (`true`)、または制限されたプロフィールのみを表示できるのか (`false`) を示します。
- `isModerator` — 件名ユーザが Chatter モデレータまたは管理者なのか (`true`)、否か (`false`) を示します。

User Detail

User Detail レスポンスボディには、ユーザが感謝された回数を含む新しい `thanksReceived` プロパティが含まれます。

User Profile

UserProfile は、ユーザプロフィールのビューを表示するのに必要な詳細情報を示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `capabilities` — 件名ユーザのプロフィールに固有のコンテキストユーザの機能
- `id` — プロフィールに添付されるユーザの ID
- `tabs` — 件名ユーザのプロフィールに固有のコンテキストユーザに表示されるタブ

- `url` — ユーザのプロファイルの URL
- `userDetail` — プロファイルに添付されるユーザに関する詳細情報

User Profile Tab

UserProfileTab は、[プロファイル] タブに関する情報を示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `id` — タブの一意の識別子 (18 文字の ID)
- `isDefault` — ユーザプロファイルをクリックしたときにタブが最初に表示されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `tabType` — タブの種類を示します。
- `tabUrl` — 現在のタブのコンテンツ URL (組み込み以外のタブの種類の場合)

User Settings

UserSettings には、ユーザに REST API へのアクセス権があるかどうかを示す新しい `hasRestDataApiAccess` プロパティが含まれます。

Zone

Zone は、Chatter アンサーゾーンを示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `description` — ゾーンの説明。
- `id` — ゾーンの ID。
- `isActive` — ゾーンが有効かどうかを示します。
- `isChatterAnswers` — ゾーンが Chatter アンサーで利用できるかどうかを示します。
- `name` — ゾーンの名前。
- `visibility` — ゾーンの見え方。ConnectApi.ZoneShowIn enum 値:
 - ◇ `Community` — コミュニティで使えます。
 - ◇ `Internal` — 内部でのみ使えます。
 - ◇ `Portal` — ポータルで使えます。
- `visibilityId` — ゾーンがポータルまたはコミュニティで使える場合、このプロパティにはそのポータルまたはコミュニティの ID が含まれます。ゾーンがすべてのポータルで使える場合、このプロパティには `All` の値が含まれます。

Zone Page

Zone Page は、Zone レスポンスボディのページを示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `zones` — ConnectApi.Zone オブジェクトのリスト。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

Zone Search Page

Zones Search Page は、Zone Search Result レスポンスボディのページを示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- `items` — ConnectApi.ZoneSearchResult オブジェクトのリスト。

- `nextPageToken` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別するトークン。
- `nextPageUrl` — 次のページまたは `null` (次のページがない場合) を識別する Chatter REST API URL。

Zone Search Result

Zone Search Result は、ゾーン内の検索結果を示す新しいレスポンスボディです。次のプロパティがあります。

- `hasBestAnswer` — 検索結果に最良の回答が含まれているかどうかを示します。
- `id` — 検索結果の ID。検索結果は、質問または記事になります。
- `title` — 検索結果のタイトル。
- `type` — 検索結果の種別。 `ConnectApi.ZoneSearchResultType` enum:
 - ◊ `Article` — 検索結果には記事のみが含まれます。
 - ◊ `Question` — 検索結果には質問のみが含まれます。
- `voteCount` — 検索結果の投票数。

メタデータ API

メタデータのリリースの変更

このリリースでは、リリースプロセスに次の変更が加えられました。

改善されたワークフローと状況メッセージ

Java を使用してコンポーネントをリリースする場合の処理手順が 2 ステップに削減されました。

1. `deploy()` コールを発行して、非同期リリースを開始すると、`AsyncResult` オブジェクトが返されます。
`id` 項目の値を確認し、次のステップで使します。
2. 最初のステップの `AsyncResult` オブジェクトで返された `id` 値を使用して `checkDeployStatus()` コールを発行し、`deploy()` コールの結果を含む `DeployResult` オブジェクトを取得します。

`DeployResult` オブジェクトには、エラーメッセージ、テストの失敗およびリリース状況の詳細をリアルタイムで示す新しい項目が追加されました。

管理パッケージのインストール済みコンポーネントのプロファイル設定

プロファイルと権限セットで、次の管理コンポーネントのアクセス設定を取得およびリリースできるようになりました。

- Apex クラス
- カスタムアプリケーション
- カスタム項目権限
- カスタムオブジェクト権限
- カスタムタブの設定
- 外部データソース
- レコードタイプ
- Visualforce ページ

たとえば、`MyNamespace` という名前空間と `JobRequest__c` というカスタムオブジェクトを使用して、管理パッケージをインストールするとします。パッケージの `JobRequest__c` のオブジェクト権限を、カスタムプロファイルまたは権限セットに対して設定できるようになりました。

リリースプロセスの監視に加えられた変更については、「[リリースの監視の改善](#)」を参照してください。

新しいメタデータ型

API バージョン 29.0 の新しいメタデータ型は、次のとおりです。

AccountSettings

取引先チーム、取引先所有者レポート、[階層の表示] リンクの組織の取引先設定を表します。

BusinessHoursSettings

エンタイトルメント、エンタイトルメントテンプレート、キャンペーン、ケースの営業時間および休日の設定管理に使用するメタデータを表します。

CompactLayout

コンパクトレイアウトに関連付けられたメタデータを表します。

ConnectedApp

接続アプリケーションを表します。接続アプリケーションとは、API を使用して salesforce.com と統合するアプリケーションです。接続アプリケーションでは、標準の SAML および OAuth プロトコルを使用して認証して、シングルサインオンを提供し、Salesforce API を使用してトークンを提供します。標準の OAuth 機能に加え、接続アプリケーションでは、システム管理者はさまざまなセキュリティポリシーを設定したり、アプリケーションを使用できるユーザを明示的に制御したりできます。

FlexiPage

フレキシブルページに関連付けられたメタデータを表します。フレキシブルページは、Salesforce1 ナビゲーションメニューのメニュー項目として表示されるモバイルアプリケーションのホームページです。

PostTemplate

[Chatter での承認] の承認投稿テンプレートに関連付けられたメタデータを表します。承認投稿テンプレートでは、Chatter フィードに表示される承認申請投稿に含まれる情報をカスタマイズできます。

UserSharingRules

ユーザの共有ルールを表します。ユーザの共有ルールでは、グループのメンバーを別のグループのメンバーと共有できます。

更新されたコール

バージョン 29.0 の次の API コールでは、新しい引数をサポートしています。

checkDeployStatus()

boolean 型の引数 `includeDetails` は、「詳細」項目にリリースに関する情報を入力するように [DeployResult](#) オブジェクトを設定します。

更新されたメタデータ型とメタデータ項目

API バージョン 29.0 では、次のメタデータ項目が追加または変更されました。

ApprovalProcess

Salesforce ナレッジの記事の承認時のアクションおよびワークフロールールが、リリース済みの記事タイプのメタデータ API でサポートされるようになりました。承認プロセスの記事バージョン (`_kav`) の場合、サポートされるアクションの種類は次のとおりです。

- ナレッジアクション

- メールアラート
- 項目自動更新
- アウトバウンドメッセージ

ArticleType CustomField

次の項目が追加されました。

defaultValue

指定されている場合、項目のデフォルト値を表します。

deleteConstraint

参照関係の削除オプションを提供します。有効な値は、次のとおりです。

SetNull

これはデフォルトです。参照レコードが削除されると、参照項目は消去されます。

Restrict

レコードが参照関係にある場合に、そのレコードが削除されないように防止します。

Cascade

参照レコードも関連付けられた参照項目も削除します。

formula

指定されている場合、項目の数式を表します。

formulaTreatBlankAs

数式内の空白の処理方法を示します。有効な値は、BlankAsBlank および BlankAsZero です。

referenceTo

指定されている場合、この項目に含まれる別のオブジェクトへの参照を示します。

relationshipLabel

指定されている場合、この項目に含まれる別のオブジェクトへの参照を示します。

relationshipName

指定されている場合、一対多のリレーションの値を示します。たとえば、YourObject へのリレーションを持っていた MyObject オブジェクトでは、そのリレーション名は YourObjects となります。

次の項目が更新されました。

type

次のデータ型が追加されました。

- Currency
- ArticleCurrency
- Email
- Formula
- Lookup
- Number
- Percent
- Phone
- DependentPicklist

- URL

AuthProvider

次の項目が追加されました。

authorizeUrl

OAuth 認証エンドポイント URL。OpenID Connect 認証プロバイダでのみ使用されます。

defaultScopes

フローの開始時に指定されていない場合に、認証要求で送信される範囲。OpenID Connect 認証プロバイダでのみ使用されます。

tokenUrl

OAuth トークンエンドポイント URL。OpenID Connect 認証プロバイダでのみ使用されます。

userInfoUrl

OpenID Connect エンドポイント URL。OpenID Connect 認証プロバイダでのみ使用されます。

AsyncResult

リリースの状況レポートの改善の一環として、多くの項目が [DeployResult](#) オブジェクトに移動されました。AsyncResult オブジェクトに、次の内容が含まれるようになりました。

done

コールが完了したか (true)、否か (false) を示します。

id

作成、更新、削除、リリース、または取得されるコンポーネントの ID。

message

返された `statusCode` 項目がある場合は、それに対応するメッセージ。

state

次の 4 つの値のいずれか 1 つ。

- `Queued`: このコールは開始していません。キューで待機しています。
- `InProgress`: このコールは開始していますが、まだ完了していません。
- `Completed`: このコールは完了しました。
- `Error`:

statusCode

エラーが発生した場合は、状況コードと、それに対応する状況メッセージが `message` 項目に提供されます。

ChatterAnswersSettings

次の項目が追加されました。

enableAnswerViaEmail

メール通知に返信することで、ユーザが回答を投稿できるか (true)、否か (false) を示します。

次の項目名が変更されています。

`enableOptimizeQuestionFlow` は `enableInlinePublisher` という名前に変更されました。

CriteriaBasedSharingRule

すべての子コンポーネントで、次の項目が追加されました。

`description`

条件に基づく共有ルールの説明を表します。

CustomField

次の項目が追加されました。

`trackTrending`

少なくとも 1 つの項目でこの属性が `true` であると、オブジェクトが履歴トレンド用に有効化されます。履歴トレンドでは、項目に加えられた変更を取得して分析できます。

CustomFieldTranslation

標準項目の名前変更で言語サポートを提供するため、次の項目が追加されました。

`caseValues`

冠詞、複数形、所有格、大文字/小文字に関するカスタムオブジェクトのさまざまな組み合わせ。詳細は、Object Name Case Value のドキュメントを参照してください。

`gender`

名詞の性別を示します。これは、語の性別に基づいて、異なる処理が必要となる言語に使用されます。有効な値は、次のとおりです。

- `Masculine`
- `Feminine`
- `Neuter`
- `Euter` (スウェーデン語)
- `Common` (オランダ語)

`startsWith`

名詞が母音、子音、または特殊文字で開始されているかを示します。これは、語の最初の文字に基づいて、異なる処理が必要となる言語に使用されます。有効な値は、次のとおりです。

- `Consonant`
- `Vowel`
- `Special` (z または s と子音で始まる名詞に対して)

CustomObject

次の項目が追加されました。

`compactLayouts`

オブジェクトに関連付けられたコンパクトレイアウトのリスト。

`compactLayoutAssignment`

このカスタムオブジェクトに割り当てられたコンパクトレイアウト。

次の項目が更新されました。

enableHistory

`enableHistory` 項目は、標準オブジェクトでサポートされます (以前はカスタムオブジェクトのみ)。

CustomObjectTranslation

次の項目が追加されました。

quickActions

パブリッシャーアクションの翻訳のリスト。

CustomTab

次の項目が追加されました。

flexipage

このタブに表示する フレキシブルページの名前。

DeployResult

リリースの状況レポートの改善の一環として、多くの項目が追加されました。DeployResult オブジェクトに、次の内容が含まれるようになりました。

checkOnly

組織で一切の変更を行わず、リリースされたファイルの有効性を確認するためにこのリリースが使用されているか (`true`)、否か (`false`) を示します。確認のみのリリースでは、いずれのコンポーネントもリリースせず、組織の変更も一切行いません。

completedDate

リリースプロセスの終了時期を示すタイムスタンプ。

createdDate

`deploy()` コールの受信時期を示すタイムスタンプ。

details

`checkDeployStatus()` コールの `includeDetails` パラメータが `true` に設定されている場合は、進行中または終了済みのリリースの詳細を示します。

done

指定された `id` に対する `deploy()` コールの処理がサーバで完了したかどうかを示します。

errorMessage

`errorStatusCode` 項目に値がある場合は、それに対応するメッセージ。

errorStatusCode

`deploy()` コール中にエラーが発生した場合、状況コードが返され、その状況コードに対応するメッセージが `errorMessage` 項目に返されます。

ignoreWarnings

省略可能。デフォルトは `false` です。リリース中に警告が発生しても処理を続行するかどうかを指定します。本番組織へのリリースでは、この引数を `true` に設定することはできません。

lastModifiedDate

リリースプロセスの最後の更新時期を示すタイムスタンプ。

numberComponentErrors

このリリース中にエラーを生成したコンポーネントの数。

numberComponentsDeployed

リリースプロセスでリリースされたコンポーネントの数。リリースの進行状況を見積もるには、この値を `numberComponentsTotal` 値で使します。

numberComponentsTotal

リリースのコンポーネントの合計数。リリースの進行状況を見積もるには、この値を `numberComponentsDeployed` 値で使します。

numberTestErrors

このリリース中にエラーを生成した Apex テストの数。

numberTestsCompleted

このリリースで完了した Apex テストの数。リリースのテストの進行状況を見積もるには、この値を `numberTestsTotal` 値で使します。

numberTestsTotal

このリリースの Apex テストの合計数。リリースのテストの進行状況を見積もるには、この値を `numberTestsCompleted` 値で使します。

rollbackOnError

省略可能。デフォルトは `true` です。エラーが発生した場合、ロールバックを完了するか (`true`)、否か (`false`) を示します。 `false` の場合、エラーなしで実行できるアクションのセットはすべて実行され、残りのアクションではエラーが返されます。本番組織にリリースする場合は、このパラメータは `true` に設定されている必要があります。

startDate

リリースプロセスの開始時期を示すタイムスタンプ。

status

リリースの現在の状況を示します。

success

リリースが正常に行われたか (`true`)、否か (`false`) を示します。

FolderShare

`FolderSharedToType` に次の項目が追加されました。

managers

直属および非直属のマネージャに共有アクセス権が付与されるユーザのリスト。この項目は、組織に [マネージャグループ](#) がある場合にのみ使用できます。

managerSubordinates

直属および非直属の部下に共有アクセス権が付与されるユーザのリスト。この項目は、組織に [マネージャグループ](#) がある場合にのみ使用できます。

IdeasSettings

次の項目が追加されました。

enableChatterProfile

アイデアユーザプロファイルに Chatter ユーザプロファイルが使用されることを示します。

ideasProfilePage

`enableChatterProfile` が `false` の場合に、カスタムアイデアユーザプロファイルに使用する Visualforce ページの名前。

Layout

次の項目が追加されました。

relatedContent

ページレイアウトの [関連コンテンツ] セクションを表します。

LayoutItem に次の項目が追加されました。

reportChartComponent

標準またはカスタムオブジェクトページに追加できるレポートグラフを参照します。

LiveChatAgentConfig

次の項目が追加されました。

criticalWaitTime

チャットタブが点滅して、参加しているチャットに回答するように注意が促されるまでに、エージェントが回答するまでに待機できる秒数を指定します。

enableAgentSneakPeek

顧客がメッセージを送信する前にエージェントがその内容を表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

supervisorDefaultAgentStatusFilter

スーパーバイザパネルの [エージェント状況] リストを絞り込むための Live Agent の状況を指定します。

supervisorDefaultButtonFilter

スーパーバイザパネルの [エージェント状況] リストを絞り込むためのデフォルトのボタンを指定します。

supervisorDefaultSkillFilter

スーパーバイザパネルの [エージェント状況] リストを絞り込むためのデフォルトのスキルを指定します。

supervisorSkills

割り当て済みの Live Agent 設定で指定されたとおりに、スーパーバイザに割り当てられるエージェントスキルを指定します。

LiveChatDeployment

次の項目が追加されました。

enablePrechatApi

リリースのチャット前 API が有効になっているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

MilestoneType

次の項目が追加されました。

RecurrenceType

マイルストンの繰り返しのタイプ。

Network

次の項目が追加されました。

allowMembersToFlag

コミュニティのユーザが投稿またはコメントを不適切としてフラグ付けできるかどうかを決定します。フラグが付けられた項目は、レビューのためにコミュニティモデレータに送信されます。

selfRegProfile

セルフ登録するユーザに割り当てられるプロフィール。この値は、コミュニティで selfRegistration が有効になっている場合にのみ使用されます。

OwnerSharingRule

すべての子コンポーネントで、次の項目が追加されました。

description

条件に基づく共有ルールの説明を表します。

PermissionSet

次の項目が追加されました。

applicationVisibilities

権限セットに割り当てられているユーザに表示されるカスタムアプリケーションを示します。

recordTypeVisibilities

権限セットに割り当てられているユーザに表示されるレコードタイプを示します。無効なレコードタイプの場合、この項目は取得またはリリースされません。

次の項目が変更されました。

userPermissions

API バージョン 28.0 以前では、有効であるか無効であるかに関係なく、この項目ですべてのユーザ権限が取得されます。API バージョン 29.0 以降では、有効なユーザ権限のみが取得されます。たとえば、「設定・定義を参照する」権限が有効で、他のすべてのユーザ権限が無効になっている権限セットがある場合、API バージョン 29.0 以降では、取得される .permissionset ファイルに ViewSetup のエントリのみが含まれます。

```
<userPermissions>
  <enabled>true</enabled>
  <name>ViewSetup</name>
</userPermissions>
```

objectPermissions

ドキュメントと価格表のオブジェクト権限を取得およびリリースできるようになりました。

プロフィール

次の項目が追加されました。

userPermissions

ユーザ権限(「APIの有効化」など)を指定します。また、このプロファイルでその権限が有効化されているかどうかも指定します。

次の項目が変更されました。

objectPermissions

ドキュメントと価格表のオブジェクト権限を取得およびリリースできるようになりました。

recordTypeVisibilities

無効なレコードタイプの場合、この項目は取得またはリリースされなくなりました。

QuickAction

次の項目が追加されました。

canvas

キャンバスアプリケーションを使用してカスタムアクションを作成する場合に、アプリケーションを特定します。クイックアクション種別が `Canvas` の場合はキャンバスアプリケーションの完全修飾名を `<namespace>__<dev_name>` 形式で返し、そうでない場合は `null` を返します。

standardLabel

アクションに使用する標準表示ラベルを指定します。有効な値は、次のとおりです。

- `LogACall`
- `LogANote`
- `New`
- `NewRecordType` (表示ラベルが「新しいアイデア」などのような場合)
- `Update`
- `UpdateRecordType`
- `NewChild`
- `NewChildRecordType`
- `CreateNew`
- `CreateNewRecordType` (表示ラベルが「新しいアイデアを作成」などのような場合)
- `QuickRecordType`
- `Quick` (クイックレコード)

次の項目には新しい値が含まれます。

type

`LogACall`
`SocialPost`
`Canvas`
`Create`
`Update`

RecordType

次の項目が追加されました。

compactLayoutAssignment

レコードタイプに割り当てられているコンパクトレイアウトを表します。

Report

次の項目が追加されました。

historicalSelector

履歴トレンドレポートデータをキャプチャする日付範囲を定義します。デフォルトは「任意の履歴日付」です。

showCurrentDate

マトリックス形式の履歴トレンドレポートの場合、`true` に設定できます。

ReportColumn に次の項目が追加されました。

reverseColors

履歴トレンドレポートの日付値と金額値が増加している場合、デフォルトの色をそれぞれ緑と赤に置き換えて表示します。

showChanges

履歴トレンドレポートに、現在と履歴の日付値と金額値の差を表示する列を追加します。

ReportFilterItem に次の項目が追加されました。

columnToColumn

項目に履歴スナップショットからのデータが含まれることを示します。

snapshot

相対 (`N_DAYS_AGO:2` 形式) または絶対 (`YYYY-MM-dd` 形式) 日付値を表します。

ReportType

次の項目が追加されました。

autogenerated

エンティティで履歴トレンドが有効になった場合にレポートタイプが自動的に生成されることを示します。

Translations

次の項目が追加されました。

quickActions

グローバル (オブジェクト固有ではない) クイックアクションのリスト。

Bulk API

24 時間内に送信可能なバッチ数が最大で 3,000 件になりました。以前は 2,000 件に制限されていました。

Tooling API

Tooling API バージョン 29.0 に含まれる内容は、次のとおりです。

- 匿名 Apex の実行のサポート。
- クエリ機能の拡張。
- コードカバレッジ結果へのアクセス。

- 新しい StaticResource オブジェクト。さらに、静的リソースのリリースもサポートします。
- 項目の履歴データの保持期間を指定できる新しい FieldHistoryRetentionJob オブジェクト。このオブジェクトは現在、パイロットプログラムで使用可能です。

詳細は、『[Force.com Tooling API Developer's Guide](#)』を参照してください。

分析 API

バージョン 29.0 の新機能として、分析 API を使用して、プログラムで Salesforce レポートデータをアプリケーションに統合できるようになりました。たとえば、REST ベースの API を使用して、レポート作成機能をサードパーティアプリケーションにビルドし、セッションで Dreamforce 参加者登録のランキング表を表示できます。API には、レポートメタデータを照会し、サマリーまたはレコード詳細レベルでレポート結果を動的に取得できるいくつかのリソースがあります。

使用可能なエディション: Database.com を除く、API が有効なすべてのエディション

詳細は、リリースノートの「分析」のセクションで「[分析 API](#)」を参照してください。

ISVforce

Winter '14 には、パートナーが簡単にアプリケーションを開発および配布できるようにするいくつかの機能が含まれています。

環境ハブ

[サインアップ API の機能強化](#)

[パッケージで使用可能なコンパクトレイアウト](#)

[パッケージで使用可能なフレキシブルページ](#)

環境ハブ

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブを設定および構成する	「環境ハブの管理」
環境ハブに組織を接続する	「環境ハブへの組織の追加」

環境ハブを使用すると、1つの場所から複数の Salesforce 組織の参照、接続、作成、ログインを行えます。これは、業務、開発、テストに多数の組織を使用する場合は特に便利です。

環境ハブ (ハブ組織) として 1つの組織を選択する必要があります。その後、他のすべての組織 (またはメンバー組織) をそのハブ組織に接続できます。ハブ組織とメンバー組織の間にシングルサインオンを設定すると、ユーザはログイン情報を提供せずに、組織間をシームレスに切り替えることができますようになります。

ある組織をハブに接続すると、それに関連する組織が自動的に検出されるため、手動でそれらを接続する必要はありません。次のタイプの関連組織が自動検出されます。

- 任意の組織から作成されたすべての Sandbox 組織。
- リリース組織の場合、それに関連するすべてのパッチ組織。
- Trialforce 管理組織の場合、その組織から作成されたすべての Trialforce ソース組織。
- ライセンス管理組織(LMO)、つまりライセンス管理アプリケーションがインストールされている組織の場合、LMO に登録されている管理パッケージを持つすべてのリリース組織 (およびそれに関連するすべてのパッチ組織)。

環境ハブにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Force.com アプリケーション メニューで、[環境ハブ] をクリックします。
2. [環境ハブ] タブをクリックします。



メモ: メンバー組織のハブ組織を見つけるには、[設定] から [組織プロファイル] > [組織情報] をクリックします。ハブ組織の組織 ID が、[組織の詳細] セクションに一覧表示されます。

環境ハブのメインページに、ハブに接続されているすべてのメンバー組織のリストが表示されます。組織ごとに、その名前、説明、エディション、組織ID、シングルサインオンの状況、その他の詳細情報が表示されます。[環境ハブ] タブから、次の操作を行えます。

- [組織を接続] をクリックして、別の組織を追加する
- [組織を作成] をクリックして、新しい組織を作成する
- 組織の名前をクリックして、その組織に関連する他の組織など、組織に関する詳細を表示する
- 組織の横にある [編集] をクリックして、その詳細を更新する
- 組織の横にある [削除] をクリックして、環境ハブからその組織を削除する
- 組織の横にある [ログイン] をクリックして、組織にログインする。その組織に対してシングルサインオンを以前に有効化した場合は、ログイン情報を指定せずにログインできます。

環境ハブに多数の組織を追加した場合は、開発組織や特定の日付以降に作成された組織など、特定のタイプの組織に焦点を絞ることができます。カスタムビューを作成するには、ページ上部にある [新規ビューの作成] をクリックします。エディション、作成日、インスタンス、発生元、SSO 状況などの複数の条件に基づいて組織を絞り込むことができます。

各メンバー組織は、EnvironmentHubMember オブジェクトに対応します。これは、取引先や取引先責任者と類似している標準オブジェクトです。したがって、Force.com プラットフォームのフル機能を使用して、ユーザーインターフェースや API 経由で環境ハブを拡張または変更できます。たとえば、任意のメンバー組織に対して API を使用して、カスタム項目の作成、ワークフロールールの設定、ユーザの対応付け、シングルサインオンの有効化を行うことができます。

環境ハブの設定

環境ハブの[私のドメイン]の設定

環境ハブのベストプラクティス

環境ハブへの組織の接続

環境ハブのメンバー詳細の表示

環境ハブのメンバー詳細の編集

環境ハブからの新しい組織の作成

環境ハブでのシングルサインオンの有効化

環境ハブでのシングルサインオンの無効化

環境ハブでのシングルサインオン用のユーザの対応付け

環境ハブの設定

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブを設定および構成する	「環境ハブの管理」

環境ハブを初めて設定する手順は、次のとおりです。

1. ハブ組織として使用する組織を選択します。これは、大部分の従業員が定期的にログインする組織である必要があります。
2. ハブ組織の [\[私のドメイン\] を設定およびリリース](#) します。これは、環境ハブを有効にするための要件です。
3. ハブ組織で環境ハブを有効にする場合は、salesforce.com サポートにお問い合わせください。
4. この機能が有効になったら、新しい [\[私のドメイン\]](#) の URL を使用してハブ組織にログインします。
5. プロファイルまたは権限セットを編集して、環境ハブの特定の機能へのアクセス権をユーザに割り当てます。
 - a. [\[設定\]](#) から、[\[ユーザの管理\]](#) > [\[プロファイル\]](#) をクリックします。
 - b. 適切なプロファイルの横にある [\[編集\]](#) をクリックします。
 - c. プロファイルの編集ページで、有効にする設定を選択します。
 - d. [\[保存\]](#) をクリックします。

プロファイルの編集ページにある環境ハブの設定の概要を次の表に示します。

プロファイルのセクション	環境ハブの設定
カスタムアプリケーション設定	[Force.com アプリケーション] メニューでできるように、環境ハブのカスタムアプリケーションを有効にします。
接続アプリケーションへのアクセス	環境ハブの接続アプリケーションは、内部的にのみ使用されるため、どのプロファイルでも有効にする必要はありません。
サービスプロバイダのアクセス権	メンバー組織でシングルサインオンが有効になっている場合、新しいエントリは自動的にここに表示されます。サービスプロバイダへのアクセスを有効にすると、対応するメンバー組織にシングルサインオンでログインアクセスできます。サービスプロバイダは、「[OrganizationID] サービスプロバイダ」という名前になります。ここで、[OrganizationID] は、メンバー組織の組織 ID です。サービスプロバイダへのアクセス権を持たないユーザがシングルサインオンを使用してログインしようすると、「ユーザ [UserID] にサービスプロバイダ

プロファイルのセクション	環境ハブの設定
	[ServiceProviderID] へのアクセス権がありません」というメッセージが表示されることがあります。
システム管理者権限	「環境ハブの管理」権限を使用して、メンバー組織のシングルサインオン設定を有効化、作成、および編集できるプロファイルを制御します。また、ハブから([組織を作成] ボタンを使用して)新しい組織を作成できるプロファイルも制御します。
一般ユーザ権限	「環境ハブへの組織の追加」権限を使用して、既存の組織を環境ハブに追加できるプロファイルを制御します。
標準オブジェクト権限	<p>[ハブメンバー] 設定を使用して、環境ハブメンバーのエンティティへの次のようなアクセス権を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照: 既存のハブメンバーレコードを表示する機能。 作成: この設定は、ハブメンバーレコードを作成する機能には影響しません。これは、レコードの作成は、既存の組織に接続するか、環境ハブから新しい組織を作成することで処理されるためです。 編集: 既存のハブメンバーレコードの各種項目(組織や説明など)を編集する機能。大部分は内部的に管理されていますが、すべての項目を編集できるわけではありません。 削除: ハブから組織を「接続解除」し、それに対応する環境ハブメンバーレコードおよびサービスプロバイダレコードを削除する機能(メンバーの SSO が有効になっている場合)。 すべて表示: 作成者に関係なく、すべてのハブメンバーレコードを参照する管理機能。 すべて変更: 作成者に関係なく、すべてのハブメンバーレコードを参照、編集および削除する管理機能。 <p>[ハブの招待] 設定を使用して、環境ハブへの組織の接続を管理することもできます。「環境ハブへの組織の追加」権限を有効にするときは、「ハブの招待」オブジェクトの作成、参照、更新、削除も有効にする必要があります。それ以外の場合は、無効にしても問題ありません。</p>

6. ユーザの対応付けを定義して、特定のメンバー組織へのシングルサインオンアクセス権を付与するユーザを設定します。詳細は、「[環境ハブでのシングルサインオンの有効化](#)」および「[SSO ユーザの対応付けの定義](#)」を参照してください。

上記の手順が完了したら、適切なプロファイルを持つユーザは、[アプリケーション] メニューの[環境ハブ] をクリックして、環境ハブにアクセスできます。環境ハブでユーザが実行できるアクションの種類は、そのユーザのプロファイルの設定によって異なります。

環境ハブの[私のドメイン]の設定

必要なユーザ権限	
ドメイン名を設定する	「アプリケーションのカスタマイズ」

環境ハブを有効にするには、[私のドメイン] が組織で完全に機能している必要があります。[私のドメイン] を設定してリリースする手順は、次のとおりです。

1. 使用可能なドメイン名を見つけてサインアップします。

- a. [設定] から [ドメイン管理] > [私のドメイン] をクリックします。
- b. サンプル URL で使用するサブドメイン名を入力します。40 文字まで使用できます。
- c. [使用可能か調べる] をクリックします。名前がすでに使用されている場合、別の名前を選択します。
- d. [契約条件] をクリックして契約を確認し、チェックボックスをオンにします。
- e. [ドメインの登録] をクリックします。

ドメイン名がテストの準備ができたという、メールが送信されます 10 分～24 時間かかります。

2. ドメイン名をテストして組織全体にリリースします。

- a. [設定] から、[ドメイン管理] > [私のドメイン] をクリックして、[こちらをクリックしてログインしてください] をクリックするか、確認メール内の URL をクリックし、新しいドメイン名を使用して Salesforce にログインします。
- b. アプリケーション内のタブとリンクをクリックして、新しいドメイン名をテストします。すべてのページに新しいドメイン名が表示されていることがわかります。カスタムボタンや Visualforce ページなどの機能によって Salesforce UI をカスタマイズした場合、カスタム要素を徹底的にテストしてから新しいドメイン名をリリースしてください。カスタマイズでは、インスタンスベースの URL を使用することはできません。
- c. 新しいドメイン名を組織にロールアウトするには、[設定] から [ドメイン管理] > [私のドメイン] をクリックし、[ユーザにリリース] をクリックします。

ドメインはすぐに有効になり、新しいドメインアドレスのページにすべてのユーザがリダイレクトされます。

3. ユーザがページにアクセスするときのドメインのログインポリシーを設定します。

- a. [設定] から [ドメイン管理] > [私のドメイン] をクリックします。
- b. [私のドメインの設定] で、[編集] をクリックします。
- c. ドメイン固有のログインページを使用しないユーザの認証をオフにするには、ログインポリシーを選択します。これにより、たとえば、一般的な <https://<instance>.salesforce.com/> ログインページでユーザがログインしたり、ログイン後にページにリダイレクトされることを回避できます。このオプションを使用すると、ドメイン名を知らないユーザによるログイン試行を回避できるため、セキュリティが向上します。
- d. 目的のセキュリティレベルに基づいて、リダイレクトポリシーを選択します。セキュリティを強化するオプションは次の 3 つです。
 - ・ ユーザをドメイン内の同じページにリダイレクトする。
 - ・ 警告を表示してユーザをリダイレクトする。
 - ・ 新しいドメイン名の入力をユーザに要求するために、リダイレクトを防止する。

4. 必要に応じて、ログインページをカスタマイズし、ログインページで利用できる ID プロバイダを追加または変更します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプを参照してください。

環境ハブのベストプラクティス

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

次のガイドラインは、環境ハブを効率的に使用するのに役立ちます。

- 大部分の従業員が定期的にログインする組織をハブ組織として選択します。
- ハブ組織は1つのみにする必要があります。
- ハブ組織に加えて、各メンバー組織に[私のドメイン]を設定します。
- プロファイルまたは権限セットを編集して、環境ハブの特定の機能へのアクセス権をユーザに割り当てます。重要な設定の一部を次に示します。
 - ◇ 環境ハブのカスタムアプリケーションを [Force.com アプリケーション] メニューに表示するには、カスタムアプリケーションを有効にする必要があります。
 - ◇ 新しい組織を作成したり、シングルサインオンのアクセス権を設定したりするには、「環境ハブの管理」が必要です。これは、強力な機能であるため、管理ユーザにのみ割り当てるようにしてください。
 - ◇ 新しいメンバー組織をハブに追加するには、「環境ハブへの組織の追加」が必要です。
 - ◇ シングルサインオンアクセスを許可するメンバー組織ごとに、[サービスプロバイダのアクセス権] を有効にする必要があります。

すべてのプロファイル設定の詳細は、「[環境ハブの設定](#)」を参照してください。

- 組織のセキュリティ要件に基づいて、シングルサインオンアクセスを有効にする方法を決定します。その後、特定のニーズに合わせて、3つの SSO メソッド (明示的な対応付け、統合 ID、またはカスタム数式) をどのように組み合わせて使用するかを選択できます。詳細は、「[環境ハブでのシングルサインオンの有効化](#)」を参照してください。
- 各メンバー組織は標準オブジェクト (型は EnvironmentHubMember) であるため、プログラムでメンバー組織の動作を変更したり、メンバー組織にアクセスしたりできます。たとえば、任意のメンバー組織に対して API を使用して、カスタム項目の作成、ワークフローの設定、ユーザの対応付け、シングルサインオンの有効化を行うことができます。
- 新しく追加されたユーザや、Sandbox 組織で定義された SSO ユーザ対応付けの場合、シングルサインオンは機能しません。ユーザの追加、ユーザ情報の編集、または SSO ユーザ対応付けの定義は、Sandbox の親組織でのみ行う必要があります。

環境ハブへの組織の接続

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブに組織を接続する	「環境ハブへの組織の追加」

ハブに組織を接続する手順は、次のとおりです。

1. [環境ハブ] メインページで、[組織を接続] をクリックします。
2. メンバー組織 (ハブに接続する組織) の管理ユーザ名を入力します。
3. [組織を接続] をクリックします。
4. メンバー組織の管理ユーザ名とパスワードをポップアップウィンドウに入力します。
5. [Salesforce へのログイン] をクリックします。
6. 次のポップアップウィンドウで [許可] をクリックします。

これで、組織はハブに接続され、環境ハブのメンバー組織のリストに表示されます。

環境ハブのメンバー詳細の表示

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

組織の名前、説明、組織 ID、関連組織、リンクユーザなど、組織に関する詳細情報を表示するには、環境ハブで組織名をクリックします。

詳細ページには、次のセクションがあります。

- [ハブメンバーの詳細](#)
- [親組織](#)
- [子組織](#)
- [シングルサインオンユーザマッピング](#)

[ハブメンバーの詳細] ページから、次の作業を実行できます。

- [編集] をクリックして、この組織に関する情報を編集する。
- [削除] をクリックして、環境ハブからこの組織を削除する。
- [SSO を有効化] をクリックして、この組織のシングルサインオンを有効にする。これにより、[環境ハブ] からリンクしたユーザは、認証情報を入力することなくこの組織にログインできます。
- [組織にログイン] をクリックしてログインする。組織に対して SSO を有効にしている場合、ログイン情報を入力しなくても、ログインできます。
- [新規 SSO ユーザマッピング] をクリックして、メンバー組織でのユーザ名とハブ組織でのユーザ名を関連付け、シングルサインオンでアクセスできるようにする。

ハブメンバーの詳細

このセクションには、次の属性がアルファベット順に表示されます。

属性	説明
説明	この組織の簡単な説明。
エディション	DE または EE など、組織のエディション。
発生源	この組織が環境ハブに追加された方法。値には、「自動検出」と「追加したユーザ」があります。

属性	説明
組織	この組織の名前。
組織 ID	この組織の組織 ID。
Sandbox	この組織が Sandbox 組織である場合。
サービスプロバイダ	ここにある [詳細] リンクは、salesforce.com サポートによって組織の環境ハブのシングルサインオンが有効化されていることを示します。この組織のサービスプロバイダのアクセス権は、シングルサインオンでこのアクセス権を使用するすべてのプロファイルで有効にする必要があります。
状況	この組織のライセンスまたは作成の状況。[トライアル]、[無料]、[有効]、[サスペンド]、[削除]などの値を使用できます。
SSO	この組織のシングルサインオンが有効になっている場合。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> On — シングルサインオンが有効。 Off — シングルサインオンが無効。 Pending — シングルサインオンの有効化の処理中。 Failed — シングルサインオンの有効化に失敗。 salesforce.com カスタマーサポートまでお問い合わせください。
SSO メソッド 1 — ユーザの対応付け	この組織と環境ハブの間に定義された SSO ユーザ対応付けの数。
SSO メソッド 2 — 統合 ID	統合IDの一致に基づいて、シングルサインオンが有効化された場合。
SSO 手法 3 — 従来のユーザ名	カスタム数式を使用してユーザ名を一致させることで、シングルサインオンが有効化された場合。

親組織と子組織

組織を環境ハブに接続すると、次のタイプの関連組織が自動的に検出され、接続されます。

- 任意の組織から作成されたすべての Sandbox 組織。
- リリース組織の場合、それに関連するすべてのパッチ組織。
- Trialforce 管理組織の場合、その組織から作成されたすべての Trialforce ソース組織。
- ライセンス管理組織(LMO)、つまりライセンス管理アプリケーションがインストールされている組織の場合、LMO に登録されている管理パッケージを持つすべてのリリース組織 (およびそれに関連するすべてのパッチ組織)。

これらのセクションには、この組織に関連する組織のリストが表示されます。リスト内の組織ごとに、組織の名前と、この組織に対するリレーションが表示されます。

シングルサインオンユーザマッピング

このセクションには、対応付けされたユーザ、つまり、メンバー組織内の対応するユーザに関連付けられているハブ組織のユーザのリストが表示されます。メンバー組織に対してシングルサインオンが有効になっている場合、対応付けされたすべてのユーザは、ログイン情報を入力しなくても、環境ハブからログインできるようになります。

このセクションから、次の操作を実行できます。

- [新規 SSO ユーザマッピング] をクリックして、新しいユーザの対応付けを定義する。
- ユーザの横にある [削除] をクリックして、シングルサインオンのアクセス権を無効にする。

ユーザの対応付けは、一対多ではなく、多対一で行うことができます。つまり、ハブ組織内の複数のユーザを、メンバー組織内の同一のユーザに関連付けることができます。これは、複数のユーザから成る 1 つのグループが同じユーザとしてテスト組織にログインし、正確に同じ設定を使用する必要がある場合などに便利です。



メモ:

- ユーザの対応付けが定義されているのに、そのユーザがシングルサインオンを使用できない場合、ユーザのプロファイルで適切な権限が有効になっていることを確認します。詳細は、「[環境ハブの設定](#)」を参照してください。
- 新しく追加されたユーザや、Sandbox 組織で定義された SSO ユーザ対応付けの場合、シングルサインオンは機能しません。ユーザの追加、ユーザ情報の編集、または SSO ユーザ対応付けの定義は、Sandbox の親組織でのみ行う必要があります。

環境ハブのメンバー詳細の編集

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

環境ハブのメンバー組織の詳細を編集する手順は、次のとおりです。

1. 環境ハブのメインページまたは詳細ページで、該当する組織名の横にある [編集] をクリックします。
2. 表示されるページで、組織の名前と説明を編集します。意味のある名前と説明を指定しておくとう便利です。これにより、環境ハブのメンバーリストで組織を簡単に見つけることができます。
3. 必要に応じて、1 つ以上のシングルサインオンメソッドを指定します (詳細は以下を参照)。
4. [保存] をクリックします。

シングルサインオン用にメンバー内のユーザとハブ組織のユーザを一致させるために、次の 3 つのメソッドのいずれかを使用できます。

SSO メソッド	説明
ユーザの対応付け	メンバー組織のユーザに対してハブ組織のユーザを手動で照合します。このメソッドは、メンバー詳細ページで何らかの SSO ユーザ対応付けを定義している場合、デフォルトでオンになっています。詳細は、「 環境ハブでのシングルサインオン用のユーザの対応付け 」を参照してください。
統合 ID	両方の組織で同じ統合 ID を持っているユーザを照合します。このメソッドを有効にするには、その横にあるチェックボックスをオンにします。

SSO メソッド	説明
ユーザ名数式	<p>ハブ組織のユーザとメンバー組織のユーザを照合するカスタム数式を定義します。このメソッドは最も柔軟性が高くなります。このメソッドを有効にするには、表示されているテキストボックスにカスタム数式を入力します。たとえば、次の数式ではユーザ名の最初の部分 (「@」マークよりも前の部分) が明示的なドメイン名と照合されます。</p> <pre>LEFT(\$User.Username, FIND("@", \$User.Username)) & ("mydev.org")</pre>

複数のシングルサインオンメソッドを指定する場合、ユーザがログインを試行するときに、上記の優先順位でそれらのメソッドが評価されます。結果が一致になる最初のメソッドがユーザのログインに使用され、他のメソッドは無視されます。一致するユーザが見つからなかった場合、標準 salesforce.com ログインページに転送されます。

環境ハブからの新しい組織の作成

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブを設定および構成する	「環境ハブの管理」

環境ハブで新しい組織を作成する手順は、次のとおりです。

1. 環境ハブで、[組織を作成] をクリックします。
2. プルダウンメニューから、作成する組織の種別を選択します。[開発]、[テスト]、および [リリース] から選択できます。
3. 表示されるページで、組織の名前と[私のドメイン]に入力し、さらに管理ユーザの名前、ユーザ名、およびメールアドレスを入力します。テスト組織を作成する場合は、そのエディションまたは Trialforce テンプレート ID のいずれかを指定する必要もあります。
4. [作成] をクリックします。

開発で使用する各種組織の比較を次に示します。

- 開発組織 — 標準 Developer Edition (DE) 組織。
- リリース組織 — 管理パッケージを作成およびアップロードするために使用される DE 組織。
- テスト組織 — テストやデモのために作成されるトライアル組織。 www.salesforce.com/trial で作成される組織と類似しています。パートナーは、トライアル組織を作成するための Trialforce テンプレートを指定できます。これにより、見込み客がトライアルをどのように体験するのかを正確に設定してテストできます。

環境ハブでのシングルサインオンの有効化

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブを設定および構成する	「環境ハブの管理」

組織のシングルサインオンを有効にする手順は、次のとおりです。

1. 環境ハブのメインページで、組織名をクリックします。
2. 組織の詳細ページで [SSO を有効化] をクリックします。
3. 表示されるページで、[SSO を有効化] をクリックします。

組織の詳細ページが表示されます。組織のシングルサインオン状況は、ページの上部と、[ハブメンバーの詳細] セクションの SSO 項目の横に表示されます。

シングルサインオン用にメンバー内のユーザとハブ組織のユーザを一致させるために、次の3つの方法のいずれかを使用できます。

SSO メソッド	説明
ユーザの対応付け	メンバー組織のユーザに対してハブ組織のユーザを手動で照合します。このメソッドは、メンバー詳細ページで何らかの SSO ユーザ対応付けを定義している場合、デフォルトでオンになっています。詳細は、「 環境ハブでのシングルサインオン用のユーザの対応付け 」を参照してください。
統合 ID	両方の組織で同じ統合 ID を持っているユーザを照合します。このメソッドを有効にするには、その横にあるチェックボックスをオンにします。
ユーザ名数式	<p>ハブ組織のユーザとメンバー組織のユーザを照合するカスタム数式を定義します。このメソッドは最も柔軟性が高くなります。このメソッドを有効にするには、表示されているテキストボックスにカスタム数式を入力します。たとえば、次の数式ではユーザ名の最初の部分 (「@」マークよりも前の部分) が明示的なドメイン名と照合されます。</p> <pre>LEFT(\$User.Username, FIND("@", \$User.Username)) & ("mydev.org")</pre>

複数のシングルサインオンメソッドを指定する場合、ユーザがログインを試行するときに、上記の優先順位でそれらのメソッドが評価されます。結果が一致になる最初のメソッドがユーザのログインに使用され、他のメソッドは無視されます。一致するユーザが見つからなかった場合、標準 salesforce.com ログインページに転送されます。



メモ:

- ユーザの対応付けが定義されているのに、そのユーザがシングルサインオンを使用できない場合、ユーザのプロファイルで適切な権限が有効になっていることを確認します。詳細は、「[環境ハブの設定](#)」を参照してください。
- 新しく追加されたユーザや、Sandbox 組織で定義された SSO ユーザ対応付けの場合、シングルサインオンは機能しません。ユーザの追加、ユーザ情報の編集、または SSO ユーザ対応付けの定義は、Sandbox の親組織でのみ行う必要があります。

環境ハブでのシングルサインオンの無効化

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブを設定および構成する	「環境ハブの管理」

組織のシングルサインオンを無効にする手順は、次のとおりです。

1. 環境ハブのメインページで、組織名をクリックします。
2. 組織の詳細ページで [SSO を無効化] をクリックします。
3. 表示されるページで、[SSO を無効化] をクリックします。

組織の詳細ページが表示されます。組織のシングルサインオン状況は、ページの上部と、[ハブメンバーの詳細] セクションの SSO 項目の横に表示されます。

環境ハブでのシングルサインオン用のユーザの対応付け

使用可能なエディション: Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

必要なユーザ権限	
環境ハブを設定および構成する	「環境ハブの管理」

ハブ組織のユーザとメンバー組織の 1 人以上のユーザ間の対応付けを定義できます。メンバー組織に対してシングルサインオンが有効になっている場合、対応付けされたすべてのユーザは、ログイン情報を入力しなくても、環境ハブからログインできるようになります。

ユーザの対応付けは、一対多ではなく、多対一で行うことができます。つまり、ハブ組織内の複数のユーザを、メンバー組織内の同一のユーザに関連付けることができます。これは、複数のユーザから成る 1 つのグループが同じユーザとしてテスト組織にログインし、正確に同じ設定を使用する必要がある場合などに便利です。

環境ハブで、新しいシングルサインオンユーザの対応付けを定義する手順は、次のとおりです。

1. 環境ハブのメインページで、組織名をクリックします。
2. ハブメンバーの詳細ページで、[新規 SSO ユーザの対応付け] をクリックします。
3. 表示されるページで、メンバー組織のユーザ名を入力し、参照項目を使用してハブ組織の対応するユーザを指定します。
4. [保存] をクリックします (または [保存 & 新規] をクリックして、新たに対応付けされたユーザを保存および追加します)。



メモ:

- ・ ユーザの対応付けが定義されているのに、そのユーザがシングルサインオンを使用できない場合、ユーザのプロファイルで適切な権限が有効になっていることを確認します。詳細は、「[環境ハブの設定](#)」を参照してください。
- ・ 新しく追加されたユーザや、Sandbox 組織で定義された SSO ユーザ対応付けの場合、シングルサインオンは機能しません。ユーザの追加、ユーザ情報の編集、または SSO ユーザ対応付けの定義は、Sandbox の親組織でのみ行う必要があります。

サインアップ API の機能強化

使用可能なエディション: **Developer Edition**

Winter '14 では、次の項目が SignupRequest オブジェクトに追加されました。それらによって、API を使用した新しいトライアル組織のサインアップに関するオプションが拡張されます。

項目名	詳細
AuthCode	<p>型</p> <p>string</p> <p>プロパティ</p> <p>Create、Filter、Group、Sort</p> <p>説明</p> <p>標準 Salesforce API を使用した OAuth アクセストークンと更新トークンと交換できるワンタイム認証コード。これは、指定された接続アプリケーションが X.509 証明書で設定されていない場合に、ConnectedAppCallbackUrl および ConnectedAppConsumerKey と共に使用されます。これは、サインアップ要求が処理されたときにシステムによって提供される参照のみの項目です。この項目は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。</p>
CreatedOrgInstance	<p>型</p> <p>string</p> <p>プロパティ</p> <p>Filter、Group、Nillable、Sort</p>

項目名	詳細
	<p>説明</p> <p>新しいトライアル組織のサーバインスタンス。たとえば、「na8」など。この項目は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。</p>
SuppressSignupEmails	<p>型</p> <p>boolean</p> <p>プロパティ</p> <p>Filter、Group、Nillable、Sort</p> <p>説明</p> <p>true に設定されている場合、トライアル組織が作成されるときに、サインアップメールは送信されません。この項目はプロキシサインアップ機能に使用され、API バージョン 29.0 以降で使用できます。</p>

パッケージで使用可能なコンパクトレイアウト

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

Salesforce1 のモバイルに最適化された新しいレコードレイアウトであるコンパクトレイアウトは、管理パッケージと未管理パッケージの両方でサポートされます。

パッケージで使用可能なフレキシブルページ

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

Salesforce1 の新しいモバイルアプリケーションホームページであるフレキシブルページを管理パッケージと未管理パッケージで使用できます。

その他の salesforce.com 製品

Desk.com

Desk.com は、小規模ビジネスや成長中のチーム向けの、オールインワンカスタマーサポートアプリケーションです。

新機能についての詳細は、「[Desk.com Product Updates Blog](#)」を参照してください。

Do.com

Do.com は、プロジェクトベースのタスクを編成、追跡、および作成するための、ソーシャル生産性プラットフォームです。

新機能についての詳細は、[do.com 新機能のヘルプページ](#)を参照してください。

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「[Heroku Changelog](#)」を参照してください。

Salesforce Marketing Cloud

Salesforce Marketing Cloud は統合されたソーシャルマーケティングスイートであり、これを使用して、企業は顧客と対話して関係を構築し、コンテンツを公開して、広告を最大限に活用し、キャンペーンの成果を測定して、ソーシャルインサイトと顧客データを統合することができます。

新機能についての詳細は、[Salesforce Marketing Cloud Facebook ページ](#)を参照してください。

Work.com

Work.com は、管理者やチームがより短期間でスキルを習得し、よりよいパフォーマンスを実現するために役立つ、ソーシャルパフォーマンス管理ツールです。

新機能についての詳細は、『[Work.com Release Notes](#)』を参照してください。

ヘルプ & トレーニング

リリースノート

[Salesforce.com リリースノート](#)は、HTML 形式で利用できるようになりました。「[HTML 版のリリースノート — ベータ](#)」(ページ 1)を参照してください。

ヒント集と実装ガイド

- 「[数式での日付および日付/時間の使用](#)」ヒント集には、日付および日付/時間の数式の無数の例と、その動作方法の概要が記載されています。
- 「[Chatter プロファイルページのカスタマイズ](#)」ヒント集には、Chatter プロファイルでのカスタムコンテンツのリリースに関する情報が記載されています。

開発者ガイド

- 『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』([PDF](#) | [HTML](#)) が再構築されました。このガイドのトピックは再編成されました。トピックは論理的な各パートに分類され、一部のトピックの順序が変更されました。たとえば、DML、SOQL、および動的 Apex を含む、Apex のデータに関するすべてを学習する場合は、「[Apex でのデータの使用](#)」の章を参照します。最初に基本概念、次にその基本概念の上に構築される複雑な概念の順に記載されているため、Apex 言語をより簡単に学習できます。Apex のガバナ制限およびトランザクションに関するドキュメントが改善されました。名前空間別にクラスがリストされるように参照セクションが再編成され、メソッドのドキュメントの書式が再設定されました。Apex ドキュメントは、これまで以上にすばやく検索でき、簡単に使用できるようになっています。
- 『[SOAP API 開発者ガイド](#)』では、API にすでにある要素に合わせて、次の変更が DescribeLayoutResult のドキュメントに加えられました。
 - ◇ DescribeButtonSection が DescribeLayoutButtonSection に更新され、その項目 detailButtons に関する情報が追加されました。
 - ◇ DescribeLayoutButton の説明と、その 3 つの項目 custom、label、および name が追加されました。
- 『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』では、Apex の一括処理の start メソッド (5 個のクエリカーソル) を除き、すべての Apex 機能および Visualforce でクエリカーソル制限がユーザごとに 50 個のクエリカーソルであると誤って記載されていました。Winter'14 ドキュメントでは、正しいユーザごとのクエリカーソル制限 (Apex の場合は 50 個 (例外として、Apex の一括処理の start メソッドは 15 個、Apex の一括処理の execute および finish メソッドではそれぞれ 5 個) で、Visualforce の場合は 5 個) になるように更新されました。